

国立国語研究所学術情報リポジトリ

共通語化の過程：北海道における親子三代のことば

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-06-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 国立国語研究所, The National Language Research Institute メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00001238

国立国語研究所報告 27

共通語化の過程

—北海道における親子三代のことば—

国立国語研究所

1965

国立国語研究所報告 27

共通語化の過程

—北海道における親子三代のことば—

国立国語研究所

1965

刊 行 の こ と ば

いろいろ違った言葉を使っている人たちが集まって生活をした場合、恐らく共通する言葉が必要とされるだろうが、その共通する言葉はどのようにして生まれて来るのか、さらに共通する言葉が多くの人々の間に広がって行くのにはどのような過程をたどるのか、また、広がるための条件としてはどのようなことが考えられるのか、そういう問題を解明したいと常々考えていた。

この問題を研究して行くには、北海道が最もふさわしい。大部分が明治以後開拓された所であるし、入植の歴史も今なら明らかにしうる。そこで、現に北海道において行なわれていると言われる「共通語」がどんなものであるか、その「共通語」が出来上るまでにどのような過程と条件とが必要であったかを調べたのが本書である。もちろん共通語化の過程や条件については、北海道で見られたことが、どこでも、またいつの時代でもあてはまるとは言えないだろう。しかし、今後共通語化を考えて行く上には、またとない参考になると信ずる。

調査に当たったのは、国語研究所の所員のほかに、五十嵐三郎(北大助教授)、石垣福雄(札幌市立東栄中学校長)、佐藤誠(北海道学芸大教授)、長谷川清喜(北海道学芸大助教授)の四人である。この調査には文部省の科学研究費を受けた。

調査の結果をまとめるには、研究所の野元菊雄が主として当たった。また、原稿執筆、付表の作成も野元が担当した。ただし第1章は柴田武が執筆した。

野元は、ロンドン大学で講義するために渡欧したので、原稿を十分に練り上げる暇がなかった。そこで、柴田武、上村幸雄、徳川宗賢が原稿を通読して、一部分手を加えた。

なお、研究補助員白沢宏枝が、集計や校正に参加した。

この北海道調査に関しては、北海道在住の各方面の方々の御協力や御援助を賜わった。ここに厚くお礼を申し上げる。

昭和三十九年十二月

国立国語研究所長 岩 淵 悦 太 郎

目 次

刊行のことば

1. 調査の概要	1
2. 第1世から第3世への変化	
— 調査Ⅰ(1世・2世・3世調査)	9
§ 1 目 的	9
§ 2 実 施	9
§ 3 結 果	10
1 語彙について	10
a 「日本語地図作成のための調査」の語彙について	10
b 北海道共通語について	13
c 福井県の方言語彙について	15
2 文法について	16
3 音声について	19
4 アクセントについて	22
3. 北海道共通語の成立	
— 調査Ⅱ(3世調査)	25
§ 1 目 的	25
§ 2 実 施	25
§ 3 結 果	26
1 語彙について	26
2 文法について	32
3 音声について	35
4 アクセントについて	38
§ 4 まとめ	42
4. 世代の違いと年齢の違い	
— 調査Ⅲ(富良野調査)	43

§ 1	目 的	43
§ 2	実 施	43
§ 3	結 果	45
1	社会調査の結果	45
2	言語調査の結果	48
1)	語彙について	48
2)	文法について	56
3)	音声について	60
4)	アクセントについて	64
§ 4	まとめ	64
5.	集団移住地の特色	
	一調査Ⅳ(吉野・浦臼・豊頃調査)	65
§ 1	目 的	65
§ 2	実 施	65
1	富良野町	65
2	新十津川町(空知支庁)	67
3	豊頃村(十勝支庁)	67
4	浦臼村(空知支庁)	67
§ 3	結 果	68
1	語彙について	68
2	文法について	73
3	音声について	76
4	アクセントについて	78
a 4	モーラ名詞	78
b 3	モーラ名詞	82
c 2	モーラ名詞	85
d 1	モーラ名詞	92
e	アクセント全体を通観して	94
§ 4	結 論	95

6. 北海道内部の地域差

— 調査Ⅴ（高校調査）	97
§ 1 目 的	97
§ 2 実 施	97
§ 3 結 果	100
1 語彙について	100
2 文法について	111
3 音声について	119
4 アクセントについて	121
a 4 モーラ名詞	122
b 3 モーラ名詞	124
c 2 モーラ名詞	127
d 1 モーラ名詞	129
§ 4 ま と め	130

7. 調査結果の吟味

— 調査Ⅵ（吟味調査）	132
§ 1 目 的	132
§ 2 実 施	132
§ 3 結 果	133
§ 4 結 論	141

付表1 1世・2世・3世の言語の対照表

1 美唄市・橋本家	143
(1) 語 彙	143
(2) 文 法	154
(3) アクセント	165
2 池田町・小野田家	175
(1) 語 彙	175
(2) 文 法	186
(3) アクセント	195

(4) 音 声	203
3 倶知安町・上野家	207
(1) 語 彙	207
(2) 文 法	218
(3) アクセント	226
4 永山町・近藤家・福島家	236
(1) 語 彙	236
(2) アクセント	244
付表2 富良野町の社会調査の集計表	253
1.1 年齢・性別構成	253
1.2 町村別年齢・性別構成	253
2.1 本人の出生地構成	254
2.2 本人の出身県別構成	256
2.3 父親・母親の出身地（本人が北海道生まれの場合だけ）	259
2.4 父方の祖父の出身地（本人と父親が北海道生まれの場合だけ）	261
2.5 北海道第何世か	261
3.1 居住経歴	263
3.2 父親の居住状況	265
3.3 父方の祖父の居住状況	266
4.1 複雑な相関表 (1) 一年齢層×町村×性×学歴×本人の出生地	267
4.2 複雑な相関表 (2) 一年齢層×町村×性×職業×本人の出生地	274
付表3 各地のアクセント対照表	283
付表4 地域差一覧表	292
1 語 彙	292
2 文 法	294
3 音 声	296
4 アクセント	296

1. 調査の概要

俗に北海道のことばは「標準語」に近いと言われているが、はたしてそうなのかどうか、北海道でも、道南部についてはすでに報告があったが、内陸部については詳しい情報がない。だから、内陸部について北海道の言語の実態を知りたいと思った。⁽¹⁾
⁽²⁾

北海道の内陸部に日本人が住みついたのは明治30年のころからで、その歴史は新しい。北海道へ移って来た人は、東北地方の人が目立って多いが、ほかに北陸地方、さらに四国（特に香川・徳島）の人も少なくない。そのほか、県単位を見ると、日本のすべての県から北海道へ新天地を求めて入植している。その最初に北海道へ来た人は当然その出身地の方言を使ったであろう。それが次の代、その次の代となるにつれて、その使用言語はどう変わって行ったのだろうか。2代目、3代目にも1代目の方言が残っているものだろうか。あるいは、1代目の方言色はなくなって、すべて「標準語」に近いことばになっているのだろうか。

その変化の過程について具体的に追うことが今ならばできる。まだ、ある家族で1代目、つまり第1世から第3世までそろって健在なケースがあるからである。いま、「標準語」に近いことばになることを「共通語化」と呼ぶならば、北海道の内陸部は、「共通語化の過程」について明らかにする絶好な場所といえることができる。

われわれは、この二つのこと——①北海道の言語の実態、②共通語化の過程——を研究するために、昭和33年度の文部省科学研究費交付金（総合研究）を受けた。その研究の題目は「北海道の言語の実態と共通語化の実態」で、研究の目的としてかかげたことは次のことであった。

東京語に近いといわれる「北海道共通語」がどのようにして成立しつつあるかを明らかにして、日本全国の共通語化の方策と共通語教育の方法をたてるのに有効な知識を得ることにある。

この研究は昭和34年度、35年度と3か年続けて科学研究費交付金を受けて行なわれた。ここに報告するのはこの3か年の調査研究の成果である。なお、研究の組織は次の通り。佐藤は第1年度だけ研究協力者であったが、第2年度からは分担者のひとりとなった。

代表者 岩淵悦太郎（国立国語研究所第1研究部長・現同所長）
分担者 柴田 武（国立国語研究所方言語研究室長・現東京外国語大学教授）
野元 菊雄（国立国語研究所方言語研究室員）
上村 幸雄（ " ）
徳川 宗賢（ " ）
五十嵐三郎（北海道大学文学部助教授）
長谷川清喜（北海道学芸大学札幌分校助教授）
石垣 福雄（北海道立札幌北高等学校教諭・現札幌市立東栄中学校校長）
佐藤 誠（北海道学芸大学函館分校教授）

さて、第1年度の調査でわかったことは、第1に次のことである。第2世ではまだ第1世の方言（第1世の出身地の方言）の影響が残っているが、第3世になると、その影響はほとんどなくなり、しかも、どこの第3世も同じようなことばを話している。このような、北海道3世に共通なことばは、「北海道共通語」と呼んでもいいようなものと思われる。この第1年度の第1回の調査を、以下、調査Ⅰと略称する。

調査Ⅰでわかったことは、美唄・池田・永山・倶知安という、それぞれ特定の土地で、しかも1家族または2家族のケース・スタディから得たことである。これが、はたして他の土地でも当てはまることかどうか。調査Ⅰの結果を検証する目的で行なったのが次の調査Ⅱである。

調査Ⅱは第1年度の第2回の調査である。この調査でわかったことは、同じ北海道第3世も、札幌と帯広と釧路とでは、もちろん共通するところも多いが、完全には一致せず、その間に明らかに地域差が認められる、ということであった。

ところで、調査Ⅰによって、北海道第3世の間には共通度の高いことばが行なわれていることがわかったが、北海道第3世といっても、10代の3世と30代の3世とではことばが違うのではないか。もし違おうとすれば、はたしてそれは世代の差なのか年齢の差なのか。第2年度には、まず、このことについて追究

することにして、富良野町で200人のサンプルについて調査した。その結果は、世代がきくか年齢がきくかは項目によって違っていて、一般的な回答は出せない、ということであった。また、この調査でも、日本の他の地方におけると同じように、世代が下がるにつれ、年齢が若くなるにつれて、全国共通語へ近づこうとしていることが確かめられた。もちろん、項目によって、北海道的なものが世代・年齢につれて強まっていくものもあるが、全般的には全国共通語へ近づきつつあることがわかった。この富良野での調査を調査Ⅲと略称する。

以上、調査Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで調査の土地として選ばれたところは、すべて、いわゆる混住地である。全国各地の人が移住して来た土地である。では、ある村からその村の人だけが移住して作ったような集団移住地でも、いままでに得た結果が当てはまるかどうか。それを明らかにするために、富良野町の御料地区・樺戸郡新十津川町・中川郡豊頃村二宮・樺戸郡浦臼村の4か所で調査した。それによれば、こういう集団移住地では、第3世にも第1世の方言がそのまま引き継がれていることが少なくない。そういうところでは、第1世の方言がたまたま全国共通語と一致するのに、それが「方言」であるために、札幌などの北海道共通語——この場合は全国共通語と一致しない——にならおうとしていることがある。すなわち、ここでは、全国共通語よりも「地方共通語」の方が勢力が強い。なお、この調査を調査Ⅳと略称する。

調査Ⅳによって、調査Ⅰの結果はかなり限定して考えておく必要があることがわかった。また、同じ集団移住地でも、土地によって差のあることも明らかになった。

以上の、特に調査Ⅱ、Ⅳによって、一口に北海道第3世と言っても、地域によって差がかなりあることがわかった。そこで、第3年度は、北海道全域にわたって地域差を調べることから始めた。北海道の40の高等学校で高校生を対象⁽¹⁾にして調査した結果、すでに石垣福雄氏の研究などに指摘されているように、半島部・海岸部の「浜ことば」と、そのほかの内陸部の方言とが対立することがきわめてはっきりした。ただ、「浜ことば」には内陸部の一部の炭坑地帯が加わることが新しくわかった。なお、「浜ことば」は東北方言と強いつながり

があることは言うまでもないが、特に秋田県の方言と密接な関係がある。これは、同時に青森・岩手・秋田の3県でも同じ調査を行なった結果から明らかになったことである。

北海道第3世に当たる高校生たちのことばは、全体として全国共通語の方へ向かいつつあるけれども、なかには、それから離れて進もうとする部分もある。そのうちで最も目立つのは、アクセントのなくなる傾向、無アクセント化である。この、高校生を対象にした調査を調査Ⅴと略称する。

われわれの調査は共同調査だったので、同じことがらを別の人が調べるということがいつもあった。だから、こうして得た結果に個人的なかたよりがあるものかどうか確かめておく必要がある。第3年度の最後にあたって、札幌市の一般市民22人を対象に調査員の個人差を吟味する調査を行なった。その結果、調査員の間に確かに個人差はあるけれども、それは結果をひどくゆがめるようなものではないと判断された。この吟味調査を調査Ⅵと略称する。

言語は遺伝するものでもないが、親から子へ、子から孫へと家の中で伝承されることもあまりないものようである。北海道第1世の言語がどこの方言であろうと、第3世の言語はそれとほとんど無関係である。

言語は地域と無縁ではありえないものである。北海道第3世の言語にもすでに方言が生まれている。

全国共通語に近い北海道の若い層の言語でさえ、全国共通語へ直接、しかも、それへだけ向かって進んでいるのではない。全国共通語へ向かう前に、まず、「地方共通語」へ向かおうとする傾向がある。

今後、観察を続けるべきことの一つは、無アクセント化である。無アクセント化を押し進める要因が何か、それをつきとめるのに北海道は格好な場所だと思われる。

注

- (1) まず、われわれが調査を始めるときに参考にすることのできたものに次のようなものがある。

柳田国男の論文は、正にわれわれの調査を求めているようなものだと思う。「やゝ時

遅れるまで逸して居た」が、われわれの調査は最後の機会をつかんだことになる。健在な第1世を得ることは一日と困難になりつつあるからである。

研究報告は、平山輝男氏を除いて、主として道南地方の方言しか扱っていない。また、特に第1世・第2世・第3世の間の変遷を扱ったものは見当たらない。

淡斎如水『松前方言考』嘉永1。(白山友正校訂本が短歌紀元叢書第5編として昭14に出ている。)——北海道方言集としてもっとも古いもの。鱗介・雑事・草木・藻介・鳥蟲・言語に分けて解説した分類方言集。

松村松韻「北海道方言」『風俗画報148』明30。

寒川庵白羊子「北海道江差の言語」『風俗画報245』明35。

松岡 清「稚内町中心に見た北海道の方言」『方言2-5』昭7。——自分の言語である稚内方言を中心に北海道方言について概説したもの。

柳田国男「北海道の方言」『方言3-10』昭8。——北海道方言の研究が必要なことを説いたもの。「北海道の現住者は村でも市街地でも、決して所謂標準語は話して居ない。」「滅多に言語学の方面では獲られない機会、即ち最も「実験」とよく似た「精確なる観察」を、やゝ遅れるまで逸して居た。」「北海道で生れた移住民の子や孫の、語音がどうなるかといふことも私には有益な実験だと思へる。調査の結果は勿論容易に豫言し得るもので無いが、少なくとも隣同士、永くちがつた音韻を守つて、附合つて行けるもので無からうと私は想像する。」「われわれが調査を始めた動機も一部はこれと同じ考えから出ている。なお、北海道方言についての観察も今に通用するほど正しく、見通しもまちがっていない。

永田吉太郎「函館市外の方言」『土の香44』昭8。——亀田郡大野村尋常高等小学校の文集「村の子供」を材料にして整理したもので、「通覧したところ北秋田及び青森の方言と全く共通してゐるやうである」と述べている。

橋 正一「北海道方言雑考」『蝦夷往来』昭9。——遊女・乞食・猫の里言について、全国方言とも関係させて解説する。なお、北海道方言の研究価値を強調して、「思ふに、北海道は、標準語の世界で、方言は殆んど有るまいといふ豫想、よし方言があつたにしても、どうせ、内地から運ばれたものだから、あまり価値はあるまいといふ考、この二つが北海道方言の調査を拒む心理的理由だらうと思ひます。」と述べている。

小笠原文次郎『函館語の方言学的研究』謄写印刷・自家版。昭11。——函館方言を音韻・語法・単語に分けて分析したもの。

小笠原文次郎『函館語の方言学的研究(一)』『聲音教育Ⅲ・11』昭11。——函館方言の音韻についての解説。

小笠原文次郎「蝦夷方言資料——天明・寛政の頃」『方言7-10』昭12。——「東遊記」「蝦夷草紙」などに見える道南方言を扱う。

小笠原文次郎『南方北海道方言の概観』謄写印刷・自家版。昭12。——東北系方言について道南地方各地で調べたもの。音韻・文法・単語に分けて分析する。

小樽市奥沢尋常小学校『北海道西海岸地方方言』謄写印刷・自家版。昭12。——方言矯正を目的とした方言研究で、文法と発音から概説したもの。

小笠原文次郎「北海道漁業方言考」『方言Ⅷ・5』昭12。——北海道噴火湾沿岸の漁業用語を調べたもの。

平山輝男「全日本アクセント概説(二)(三)(四)——北海道篇(1)(2)(3)」『コトバⅣ—2・3・6』昭17。——利尻島杓形村・函館市・福山町・江差町・小樽市・室蘭市・浦河町・札幌市・留萌町・稚内町・釧路市・根室町のアクセントの記述、それらと奥羽アクセントとの交渉・東京アクセントとの関係、先住民族の発音とその観察の3つの部分から成る。北海道方言については次のような説明がある。「その方言も一見複雑ではあるが、それ等移住者は奥羽・北陸方面からが優勢であつて本島第二世以後の人々はもはや大きな方言的特徴や発音は概して共通になつてゐるものが多く、義務教育の普及した今日では(少くとも小学校を経た青年達には)全島として「北海道方言」なるものを認めることが出来るやうである。」そして、アクセントについては、「アクセントは他の諸現象よりもつと統一적である。そして南北東西を問はず又海岸たると中央たるとを問はず同じ型に同一語例が多く属してゐる(厳密には海岸と中央都会とは割合出入があるが)。」アクセントがなくなる傾向(無アクセント化)については触れていない。

土居重俊「北海道方言素描」『方言研究Ⅴ』昭17。——札幌方言の語を集めたもの。「北海道は真の意味の新興地域であつて、その言語も内地方言の移入であり、北海道独特の方言といふものは未だ十分発生してゐないやうである。北海道方言は著しく東北的であると言はれてゐるが、やはりこれは無條件に肯定し度い。」と述べている。

石垣福雄『北海道南部地区における言語地理学的研究』謄写印刷・自家版。昭25。——単語について調べた結果、道南地区は「標準語化」が青森県よりもはるかに進んでいること、道南地区は方言の点から、津軽方言の勢力が強い地域、南部方言の勢力が強い地域、標準語の勢力の強い地域に分かれると説いている。

平山輝男「北海道方言の音調」『音声学会会報77』昭26。——札幌・旭川を中心とする「中央都市」のアクセントについての調査報告。

石垣福雄『濁音化現象——北海道南部における』謄写印刷・自家版。昭27。——「濁音化」の傾向が語によってどう違うか、地域によってどう違うかを調査した結果の報告。さらに、濁音化が都市から徐々に弱まりつつあることにも触れている。

石垣福雄『北海道南部における動詞の命令法について』謄写印刷・自家版。昭28。——道南で「見レ」「受ケレ」が強い勢力を持っていることについて説明する。

平山輝男「北海道方言の性格とその研究の意義」『金田一博士古稀記念言語民俗論叢』昭28。——北海道移民の状況と、アクセントを主体とした北海道方言の概観がおもな内容。北海道方言の研究価値について6項指摘しているうちの一つに次のようなものがある。「北海道は言語の実験室であり、ある場合には化学反応を見る試験管の例

きをしてくれる。即ち、いろいろの方言がまざっているから、その統合あるいは分化の変遷考察に役立つ。」

渡辺 茂『北海道方言集』昭30。檢書房。——北海道方言の語彙集として『松前方言考』以後もっともよくまとまったもの。五十音順。著者は北海道方言を①府県の方言が北海道方言化したもの、②アイヌ語から北海道方言化したもの、③北海道特有の方言として生まれたものの3種に分類する。

NHK札幌中央放送局放送部『北海道の方言』謄写印刷・自家版。昭31。——「北海道海岸方言」について、音韻と文法の構造的特色について述べている。執筆は石垣福雄。

石垣福雄「北海道」『方言の旅』日本放送協会編・宝文館。昭31。——NHKラジオ放送「国語講座」で話したもの。函館市・松前町・江差町・余市町といった海岸部の方言について解説する。

- (2) われわれが調査を始めるとともに、ようやく内陸部の方言についての報告もあらわれるようになった。また、第1世・第2世・第3世の間の変遷を求めようとする研究も出て来た。

佐藤 誠「団体移住部落と其の言語の実態調査(1)——北海道虻田郡洞爺村香川部落の場合——」『人文論究18』北海道学芸大学函館分校函館人文学会。昭33。——香川県ばかりから移住した部落に香川方言がどのように残っているか。その方言がいろいろな社会的条件によってどのように違っているかについて調査したもの。

城野光一「北海道第一世・二世・三世のことば」『言語生活92』昭34。——中川郡常盤村の岐阜県から移住したある家の3代の言語を調査したもの。そのねらいは、われわれの調査とまったく同じである。ただ、ここでは、対象を単語に限り、どういう種類の単語は早く変わり、どういう種類の単語はなかなか変化しないかを明らかにしようとした。

柴田 武「北海道に生まれた共通語」『言語生活90』昭34。——われわれの調査の第1年度が終わったところで、調査結果の概要について解説したもの。国立国語研究所で出した共通語化に関する一連の調査報告（『八丈島の言語調査』『言語生活の実態』『地域社会の言語生活』）と並べて考察した。

石垣福雄「北海道檜山郡江差町」『日本方言の記述的研究』国立国語研究所報告16・明治書院。昭34。——江差町の方言を、音韻と文法の面から記述している。

柴田 武「北海道の巻」『方言の旅』柴田武編・筑摩書房。昭35。——NHKラジオ放送「国語講座」で話したもの。松前町・札幌部広島村・札幌市・釧路市の方言を描写している。

野元菊雄「北海道語彙」『言語生活106』昭35。——われわれの調査の第2年度の結果を解説したもの。

野元菊雄「北海道方言のアクセント」『計量国語学15』昭35。——われわれの調査結果のうち、アクセントがなくなる傾向について統計的に追究したもの。

佐藤喜代治「東部方言の語彙・北海道東北」『方言学講座第2巻』東京堂。昭36。
——東北方言が主体で、東北方言とともに北海道方言についても触れている。風土・生活に関する語彙、共通語と語形の異なる語彙、共通語と語義の異なる語彙、古語の残っているもの、外来語、語彙の分布と方言区画に分けて説き、「古語の残っているもの」の部分が最も詳しい。

芳賀 綏「方言の実態と共通語化の問題点・北海道」『方言学講座第2巻』東京堂。昭36。——札幌方言を音韻と文法の面から記述し、共通語化について問題点を指摘している。

五十嵐三郎「学校における方言と共通語教育・北海道」『方言学講座第2巻』東京堂。昭36。——国語教育の現場でおこった方言の問題を全道にわたって集め、その指導法についてサジェストしている。

佐藤 誠「集団移住部落とその言語の世代的変容——北海道における方言の共通語化の過程としての一考察」『人類科学14』新生社。昭37。——空知郡栗沢町砺波部落において、第1世の方言がどのように共通語化するかを調査したもの。第1世と第3世との間に著しい対比が認められること、最も早く交替するのが語彙で、ついで語法、最も根強いのが音韻であることを明らかにしている。これは、筆者を含めたわれわれの調査で得た結果と一致する。最後に、次のようなことばで結ぶ。「もしも内陸部地域がアメリカにおいてみられたような意味での“るつぽ”であり、辺境であったなら、いわゆるフロンティア精神なるものが、日本本土から将来された諸方言相互の間の接触の過程を通してもっと、北海道独特の方言を形成させたのではなかろうか。」

佐藤 誠「北海道の方言の実態と共通語化の過程に就いての覚え書（1）——特に同郷集団移住部落の言語の世代的交替を通して——」『函館英文学第3号』昭39。——同じ佐藤の「集団移住部落とその言語の世代的変容」の補訂・補足で、第1世の本土方言がどのように変わるか、そして、その変化をもたらす要因は何かを調査したものの。空知郡栗沢町砺波のほか、函館市亀尾、瀬棚郡北檜山町丹羽で調査した結果も加えて、次のような結論を出している。それは、「地域的特徴形」の力が弱わまって共通語化が進みつつあること、その改新は内陸部のほうが早く、道南部では「浜ことば」が共通語化に抵抗していること、さらに、世代的変容は語彙に早く、ついで語法・音韻の順に認められること、個々の項目で変容の速さが違うが、第1世と第3世の間には著しい差があること、第3世の言語にはそれを特色づけるような特徴は認められないが、「浜ことば」的な特徴はあることなどである。

2. 第1世から第3世への変化

—調査Ⅰ（1世・2世・3世調査）

§1 目的

北海道をよく代表する数地点で、第1世・第2世・第3世（内地から、言語形成期を過ぎたのち移住してきたものを「第1世」という。以下、その子・孫を「第2世」「第3世」とする）の、原則として男がそろい、かつ第3世が15歳以上であるような家族を探し、世代による変化を言語の各面から記述する。そして、三つの世代の間で、言語のどの面が変わりやすく、どの面が変わりにくいか、変わるとすればどの世代とどの世代との間か、などを明らかにし、同時に、いわゆる「北海道共通語」がどのようにして形成されつつあるかを調べる。なお、できる限り、第1世の故郷が西日本である家族を調査の対象とするように努めた。少なくとも、第2世・第3世には、東北方言・東京語の影響があると考えられるので、その影響が第1世からのものでないようにしたわけである。

§2 実施

調査者2人ずつで一つの班を作り、次の5地点を調査した。

班 別	担当者	調 査 地 点	地点の最初 の入植方法	調査期日
第1班	柴田・石垣	^{ビバイ} 美 ^{ソラチ} 唄市(旧空知支庁), 空知郡 ^ナ 奈 ^{イニチホー} 井江町	屯 田 兵	8月6日—14日
第2班	野元・長谷川	^{ナカガワジンイゲダマナトカチ} 中川郡池田町(十勝支庁)	集 団 移 民	8月16日—24日
第3班	徳川・佐藤	^{アバダグンクワチヤンヤヨー} ^{シリベシ} 虻田郡倶知安町(後志支庁)	自 由 移 民	8月16日—25日
第4班	上村・五十嵐	^{カミカワダンナガヤママナ} ^{カミカワ} 上川郡永山町(上川支庁)	屯 田 兵	8月23日—31日

この調査地点は、すべて、北海道の内陸部にある。われわれは、内陸部の方言を「北海道をよく代表することば」と認めた。そうしたのは、入植の歴史から見て、そのほうが適当だと考えたからである。

函館市や松前町のような海岸部、特に半島部は、植民の歴史も相当古く、その言語は本質的には、東北方言に属するといっていいい。だから、その地方へは

いつてきた第1世は、東北地方に移住したのと変わらないといってもいい。われわれの調査目的から言えば、だれひとり人間のいないところへ各地から入植して、その結果、どういう言語ができていくか、それを調べるほうが有利である。内陸部は、明治の中ごろから入植の始まった地域である。

さて、実際に調査した家族の第1世・第2世・第3世の氏名と、その出身地は次の通りである。1地点で2家族以上あげたものは、一番上にあげた家族がおもな調査対象である。()内は調査当時の満年齢。

- 第1班 橋本伊三郎(86)一伝(58)一貞信(33) 高知県長岡郡後免町^{ナガオカゲンゴメンマチ}
 常盤 房次(89)一茂(44)一淳(17) 福島県田村郡御館村^{タムラデンミヤタムラ}
 稲垣 文七(85)一茂(53)一英男(23) 和歌山県西牟婁郡岩田村^{ニシムロダニイワダムラ}
 第2班 小野田弥作(77)一勝太郎(46)一博信(21) 福井県吉田郡河合村^{ヨシダゲンカワイムラ}
 吉田 磯吉(77)一岩松(53)一武夫(29) 福井県坂井郡大石村^{サカイゲンオーイシムラ}
 松浦数之助(80)一繁松(45)一正治(19) //
- 第3班 上野万平(75)一元年(46)一春満(15) 徳島県名西郡下分上山村^{ミヨウザイダシシモブンカミヤマムラ}
 一(由一)一満(15)
- 第4班 近藤 伊平(82)一儀一(58)一陽子(31) 徳島県板野郡板東町^{イタノゲンバンドーチロー}
 福島喜代太郎(65)一勇(45)一堅一(17) 徳島県美馬郡郡里町^{ミマダンコーサトチロー}

第3班の上野由一は調査しなかった。第4班の近藤陽子は女性で、われわれの条件には合わない。なお、全般に、われわれの条件にかなった家族を探し出すのは容易ではなかった。

§3 結果

1. 語彙について

(1)

a. 「日本言語地図作成のための調査」の語彙について

「日本言語地図作成のための調査」に使っている230語について、第1世・第2世・第3世のどの世代で変化がおこるかを調べて、その数を合計すると次のようになる。なお、()内は%。1≠2=3とあれば、第1世と第2世とが違う語形、第2世と第3世とが同じ語形をもって反応したことを示す。以下これに準ずる。

なお、この表では、3世代を通じて変わっていないもの(1=2=3)は省

調査地点 家 族	美唄 橋本家	池田 小野田家	俱知安 上 野 家	永山 近藤家
1 ⇐ 2 = 3	53(23.0)	50(21.7)	47(20.4)	80(34.8)
1 = 2 ⇐ 3	3(1.3)	7(3.0)	14(6.1)	4(1.7)
1 = 3, 1 ⇐ 2	1(0.4)	6(2.6)	12(5.2)	0(0.0)
そ の 他	7(3.0)	6(2.6)	14(6.1)	8(3.5)
計	64(27.8)	69(30.0)	87(37.8)	92(40.0)

いてある。

1 ⇐ 2 = 3, すなわち, 第 1 世と第 2 世との間で変化することが多いことがわかる。その例を各地から少しずつ拾ってみよう。

	第 1 世	第 2 世	第 3 世
美唄一橋本家			
○「なおす」を片附けるの意味に	使う	使わない	使わない
○こげくさい	çinaku ⁷ sai	キナクサイ	çinakusaï
○鱗	u ⁷ roko	ウロコ	uro ⁷ ko
○片足跳び	ji ⁷ ūjin	keçken	keçken
○「すてる」を紛失するの意味に	使う	使わない	使わない
池田一小野田家			
○片足跳びをする	şe ⁷ ggur ⁷ ri ⁷ ka ⁷ kku	ケンケンスル	ケンケンスル
○小指	ko ⁷ itji ⁷ bi	コユビ	コユビ
○とかげ	-tokjakku	トカゲ	トカゲ
○昨晚	-jombe	ユーベ	ユーベ
○「はそんなする」を修繕するの意味に	使う	使わない	使わない
俱知安一上野家			
○こげくさい	sokokusai	ko-gekusai	ko-gekusai
○あざ	totojake	aza	aza
○飯用の米	kitjigome	urumai	urumai
○つくし	ho:jiko	tsurukwji	tsurukutsurbo:ji
○「こわい」を疲れたの意味に	使わない	使う	使う
永山一近藤家			
○蛙	go:ta	kaeru	kaeru
○「あかい」を明るいの意味に	使う	使わない	使わない
○すっぱい	sui	şyppai	suppai
○お手玉	ozami	aja	aja
○カッテキタの意味	借ってきた	買ってきた	買ってきた

表記は, 各担当者が記録したものに従った。だから, 表記法に多少の個人差がある。

1 = 2 ⇌ 3, すなわち, 第3世だけが違っているものも多少はある。しかし, これは, 変化の主流ではない。この例をやはり少しあげよう。

	第1世	第2世	第3世
美俱一橋本家			
○「あずける」を与えるの意味に	使わない	使わない	使う
○明々後日	-fiasatte	シアサッテ	ja「noasat」te
池田一小野田家			
○明々々後日	go「jasat」te	ゴアサッテ	ヤノアサッテ
○昨日	k_i「nno:	キンノ	キノー
俱知安一上野家			
○匂い	kaza	kaza	pioi
○正坐する	kajikomaruu	kajikomaruu	suwaruu
永山一近藤家			
○明々々後日	(NR)	goasatte	janoasatte
○案山子	kagaji	kagaji	kakaji

この型の変化は数が少ないにもかかわらず, 各家族とも(上に例はあげなかったが, 上野家にもあった)「日の名まえ」が関係しているのは偶然であろうか。

1 = 3, 1 ⇌ 2は, 第1世と第3世とが同じ場合である。数は上の表に見るように少ないが, ここで関係があると思われるのは, 第3世の年齢である。美俱・永山の第3世はともに30代, 池田のそれは20代, 俱知安のそれは10代である。家庭にあって, いつも祖父(母)と顔を合わせることが比較的多いのは若いころであって, 学校を終わって社会に出れば, 祖父の影響はだんだん消えていくものであろうか。もちろんこれは, この調査だけで確言することはできないが, ありうることである。この型の例をあげよう。

	第1世	第2世	第3世
池田一小野田家			
○「にわ」を家の前の仕事場の意味に	使わない	使う	使わない
○つば	tsu「ba, -tsuubaki<少>	ツバキ	ツバ
俱知安一上野家			
○一昨日	ototsui, ototoi	ottoi<多>, ototoi	ototsui
○「にわ」を家の前の仕事場の意味に	使う	使わない	使う
○こめびつ	tobitsui	komebitsui	tobitsui

なお, 俱知安一上野家の傍系第3世の満が, 第1世とだけ同じ答をしている

語が、具体的な語は違うけれども、数はたまたま同じである。

上の表で「その他」というのは、変化が漸進的なものである。すなわち、第2世が、第1世と第3世との両方の形をあげ、しかも、第1世と第3世とで形が違うものである。例をあげよう。この型も案外少ない。

	第1世	第2世	第3世
美唄一橋本家			
○つむじ	-maïmaï <多>, girigiri	girigiri, maimai	girigiri
○昨日	「kïnjɔ」:	キノオ, キニヨオ	ki 「no」:
池田一小野田家			
○蜘蛛	kur「bo	クモ, クボ<少>	クモ
○カッテクルの意味	借ってくる	両方	買ってくる
俱知安一上野家			
○「おどろく」を目が 覚めるの意味に	使う	まれに使う	使わない
○胡坐する	giza kumuu	agutara kakur, gizao kumuu<希>	aguirao kakur
永山一近藤家			
○かたつむり	dendemmurji	dendemmurji<幼時>, katatsûmûiri	katatsûmûiri
○塩の味	karai	karai, foppai	foppai

b. 北海道共通語について

上の「日本言語地図作成のための調査」の語彙のほか、北海道共通語と考えられるものについて、どういう形が使われているかを調査した。調査した30問のうち、集計に使ったのは、次の24問である。なお、ローマ字は、前が全国共通語、後ろが北海道共通語と考えられるものである。

- 靴をはくとき下にはくもの。これを何と言いますか。 kutusita~kututabi
- 雨の降るとき着るもの。カヤとかスゲなどで編んだ雨具のことを何と言いますか。 mino~kera
- 雨と雪とがまじって降ってくる。何が降ると言いますか。 mizore~amayuki
- 冬の寒いときに石炭や薪をたく、暖房のための道具を何と言いますか。 sutô-bu~sutohu, kahero
- ストーブの火をかきまぜる棒。先の曲がった鉄の棒のことを何と言いますか。 hikakibô~derekki
- 煙突から出る黒いもの。白い着物などに付くとよごれます。雪も黒くなるそうですが、何と言いますか。 baien~huran, yuen
- 氷の上を滑るはきもの。下駄の歯を抜いたようなものにカスガイを打ったものを何と言いますか。 sukêto(A)~gerori

08. それより上等な、革靴に金具をとり付けたもの、つまり正式な氷滑りのはきものを何と言いますか。 sukêto(B)~suketto
10. さかなの名まえ。秋になると、海から川に上ってくる大きなさかな。北海道の名産です。何と言いますか。 sake~akiazi
11. さかなが呼吸するたびに動くところ。これを何と言いますか。 era~sasame
12. カンランと言うのですか。大きな葉が巻いて玉になる野菜。何と言いますか。
kyabetu~kaibetu
13. パンを作る粉になる麦を何と言いますか。 komugi~kobaku
14. あんを作ったり、赤飯に炊き込んだりする赤い豆を何と言いますか。 azuki
~syôzu
15. 小学校へ通っているぐらゐの年かっこうの人たちを、何と言いますか。一人前とは言えません。 kodomo, kodomotati~warasi, warasyando
16. 短かく髪を刈った頭のことを何と言いますか。 marugariatama~zyan-boatama
17. このあたりのことを何と言いますか。 hitai~nazuki
18. ガッチャキという病気がありますね。このことばを使いますか。若いころも使いましたか。 zi(zirô?)~gattyaki
19. 体が丈夫で、健康だというのの反対は何ですか。病気にかかりやすいということです。 yowai~kainai
20. 人（樹木など）が成長する、体が大きくなるということを、ふだんのことばでは何と言いますか。 seityôsuru~ogaru
21. くすぐったい感じを起こさせるようにコソコソとすることを、どうすると言いますか。 kusuguru~kosoguru, kotyogasu
22. 腰を下ろすことを何と言いますか。立つの反対です。 suwaru~nemaru
23. 丸いものをコロコロとすることを、何と言いますか。 korogasu~makura-kasu
24. 荷物を持ち上げることをふつう何と言いますか。 motiageru~tanaku
23. 夕方（晩）に人の家を訪ねたときは何と声をかけますか。 konbanwa~oban desu

以上は、いろいろの文献から、北海道共通語と見られたものを選び出したのであるが、実際の集計の結果は次のようである。予想された北海道共通語が、どの世代にあらわれたか、という観点からまとめてみる。番号は問題番号である。

これによると、予想された語形がまったく出なかったのは、15 (warasi, warasyando), 16 (zyanboatama), 17 (nazuki), 19 (kainai), 21 (koso-

	第1世 だけ	第1世と 第2世	第2世 だけ	第2世と 第3世	第3世 だけ	第1世と第2 世と第3世	第1世と 第3世
美唄一橋本家	01, 02, 08, 22	04, 18			13, 20	05, 06, 10, 12, 14	24, 28
池田一小野田家	07	08, 22	14	03	20	04, 10, 12, 28	
俱知安一上野家	08, 10, 23	02, 11, 14, 20	03, 05			12, 28	04
永山一近藤家	13, 14	04, 08				05, 10, 12, 28	

guru, kotyogasu) である。これらは、あるいは半島部の方言かとも思われる。

さらに、第1世に多く使われるか、第3世に多く使われるか、という観点から、同じ北海道共通語を、古いものと新しいものとに分けることもできる。古いものとしては、02, 07, 08, 11, 18, 22などがあげられ、新しいものとしては、03がある。新しいもの、つまり独特な北海道共通語というものの数は少ないであろうし、これから新しく出てくることもそんなにはあるまい。必要があれば、そのようなことをしないで、ただちに全国共通語を採用するであろう。

各世代に平均的に使われているものが、この限りでは真の意味の北海道共通語と言えるであろう。それは、次のものである。04, 05, 06, 10, 12, 20, 28。ただし、06はyuenしかあらわれない。これが北海道独特の共通語と言えるかどうか疑問である。huranの方は1回も出ていない。すでに失なわれてしまったものか、あるいは半島部の方言であろう。

c. 福井県の方言語彙について

池田では、福井県の方言集から、被調査者家族の出身地の里言を抜き出して、それを今使うか、あるいは聞いたことがあるかなどを調べた。調査語は合計49。これが各世代でどうなっているかを数えてみよう。

小野田家	使う	昔は使った	知っている	全然知らない
第1世	25	16	3	5
第2世	19	2	15	13
第3世	6	1	20	22

近似的に「使う」に3点、「昔は使った」に2点、「知っている」に1点、「全

然知らない」に0点を与えて計算すると、第1世110点、第2世76点、第3世40点となる。この限りでは、第2世はちょうど中間となっている。ここで調査した語は、もし福井にまったく関係のない、全国共通語の話し手に聞いたならば、おそらく合計でも0点にしかならないと思われるものであるから、第3世も、第1世の影響を相当受けていることがわかる。

このような語を調査した限りでは、上のaで述べたような結論とは多少違った結論になる。すなわち、「使う」のところに焦点を合わせると、むしろ第2世と第3世との間に断層がある。しかし、「知っている」以下を見ると、やはり第1世と第2世との間に差を認めるべきであろう。「知っている」はおそらく第3世を頂点として、第4世から急激に減って、「全然知らない」が非常に多くなるという過程を経て、福井色が消えていくのであろう。なお、第3世が「使う」で、したがって3世代とも使うのは、次の語である。火葬場～サンマイ、雑炊～ゾロ、昼炊仕事を終わって家に帰ること～ヒラガリ、十能～センバ、楽な～オモイデナ、おしゃれする～ダテコク。

以上は、「火葬場」を除いて、すべて家庭的な語である。「火葬場」は、この小野田家から池田町市街地への途中に火葬場があるため、小野田家にとってはこれも家庭的な語であって、福井の里言形が保存されたのであろう。

2. 文法について

まず、美唄一橋本家では次のようなことが観察された。

現在進行と完了とを語形の上で区別するのは、第1世・第2世で、それぞれ、「サケ ノミヨル」「サケ ノンヂョル、ノンドル、ノンデル」と言う。ところが、第3世は、どちらをも「ノンドル、ノンデル」と言う。

また、第1世は、状況可能と能力可能とを否定の場合だけは語形の上で区別する。たとえば、「暗い状態にあるから書くことが不可能である」のことを、「クライキニ カケン」と言う。これに対して、「学校へ行かなかったから書くことが不可能である」のことは「ガッコー イカナンダキニ ヨーカカン」とも「ガッコー イカナンダキニ カケン」とも言う。この区別は、第2世にもあるが、第3世にはなく、どちらも「カケン」と言う。

そのほか、次のような例がある。

	第1世	第2世	第3世
死ぬ人	シヌルヒト	シヌルヒト	シヌヒト
買った	コータ, カッタ	カッタ	カッタ
高くなる	タコーナル	タコーナル	タカクナル
書かない	カカン	カカン, カカナイ	カカナイ
来ようと いない	コート イナイ, オラン	コート, キョート, コョート イナイ, オラン, オラナイ	キョート イナイ, オラン, オラナイ

これを見ると、第2世は、一部は第1世と同じであり、一部は第3世への過渡期とも言える様相を示していることがわかる。第3世になって、完全に北海道色となるようである。

池田一小野田家の場合もほぼ同じことが言えるようである。

活用形式を動詞から見ていくと、まず、否定形は、第1・2世では、「カカン」が主力で、「カカナイ」はあまり聞かれない。第3世では、意識としては、「カカナイ」が多いと言うが、実際の会話では相当「カカン」が出るようである。この第3世の「カカン」は第1世の西の方言の影響というよりも、むしろ、北海道方言に相当多いものではないかと考えられる。

意志をあらわすのに「ベー」を「カクベー」のように使うのは、第2世からである。

推量をあらわすのには、第1世は「カクデァロー」を使う。このデァは〔dæ〕のような発音である。第2世は「カクヤロー」を使う。第3世は「カクベ」であって、完全に北海道方言の話し手ということができよう。以上の関係は「カク」だけでなく、すべての動詞にあらわれる。

過去の打ち消しは、第1・2世は「カカナンダ」であるが、第3世は「カカンカッタ」を答えている。ただし、第1世の会話中に「イカンカッタ」が出てきた。これは第2・3世からの影響であろうか。

順接の助詞には、第1世で「サカイ」が聞かれるが、第2世以下にはこれがない。

音便形は、「買う」であれば、第1・2世では「カーテ」とも「カッテ」とも言うが、第3世では「カッテ」としか言わない。

命令形では、五段活用動詞は共通語形と同じであるが、それ以外は次のよう

になっている。

	第1世	第2世	第3世
起きる	オキヨ, オッキョマ	オキヤ, オキマ	オキレ
見る	ミヨ, ミレ	ミレ	ミレ
出る	デヨ, デイ, デレ	デイ, デレ	デレ
来る	コイ	コイ	コイ
する	シェイ	シレ, セー	シレ, セー
いる	——(オレ)	イレ	イレ

「来る」を除いて、第3世になると、北海道共通語の命令形語尾の「レ」が確定し、ほとんどそれだけとなる。第2世は、それへの移行の段階として、第1世の言語をも反映している、ということができる。

可能をあらわす形についても、ほぼ同様である。第1世は「ミレル」のような言いかたはほとんどしないが、第2世からこの形があらわれはじめ、第3世で「ミレル」が確立する。「する」についても「シレル」と言うほどである。

形容詞では、いわゆる連用形に特色がある。「安い」であれば、「安くなる」「安くない」「安くて」は、この順に、第1・2世では「ヤスナル」「ヤスナイ」「ヤステ」となるが、第3世ではすべて全国共通語と同じく「ヤスクナル」「ヤスクナイ」「ヤスクテ」となる。「珍しい」であれば、第1・2世は「メズラシナル」「メズラシテ」であるが、第3世は「メズラシクナル」「メズラシクテ」となる。「無い」は、第1・2世で「ノーナル」「ノーテ」であるが、第3世では「ナクナル」「ナクナッタ」で答えているが「ナクテ」となる。動詞では、第2世が相当北海道共通語化していたのに、形容詞では、第2世はほとんど第1世と同じである。

形容動詞では、終止形に差がある。「静かだ」「立派だ」などの「だ」に当たる部分は、第1世で一番多く使うのは「ジャ」であるが、「ダ」とも言う。そのほか「ヤ」を使うこともあるという。第2世は、「ヤ」と「ダ」を使う。第3世になると、もっぱら「ダ」となる。

俱知安—上野家でも、事情はほぼ同一である。

動詞では、命令形のレ語尾が第2世ではほとんど出ない点が、池田の場合とは違っている。なお、「買う」の音便形では、第1世は「コーテ」であるが、

第2世は、第1世に向かってはこれを使い、その他の場合は「カッテ」を使う。第3世はそのような区別をせずに、「カッテ」だけである。また、雪が、「フリヨル」は現在進行、「フットル」は結果という区別は、第2世までは、語によってやや不明確なものもあるが、とにかく区別は保たれている。しかし、第3世になると、すべてフッテル式に言い、区別がない。

形容詞で、池田の場合と違うのは、第2世で「ク」がはいる、という点である。すなわち、池田と比べると、第2世は、動詞では北海道化せず、形容詞では北海道化している、ということになるだろうか。また、池田の第1世では、「ヤスナル」、「メズラシナル」のようであったが、俱知安の第1世では「ヤスーナル」、「メズラシューナル」となっている点も違っている。

3. 音声について

美唄一橋本家で、世代の間に差の見られる代表的な例をあげると、次のようなものがある。斜線は、その間に差のあることを示す。

	第1世	第2世	第3世
① ていねい	te [˧] inei	/ te [˧] :nei	te [˧] :nei
② {火事 鍛冶	{ka [˧] ʒi -kandʒi	{ka [˧] ʒi -kadʒi	/ {ka [˧] dʒi kadʒi
③ 肌	ha [˧] nda	/ ha [˧] da(ときにha [˧] nda)	ha [˧] da
まゆげ	ma [˧] ju [˧] ŋe	/ ma [˧] ju [˧] ge(ときにma [˧] ju [˧] ŋe)	ma [˧] ju [˧] ge
④ 背中	-θenaka	-θenaka	/ -senaka
⑤ 牛	-uʃi	-uʃi	/ -uʃi
⑥ 汽車	kifa	-kifa	/ k [˧] ʃa
鳥	ka [˧] rasu	karasu	/ ka [˧] ra [˧] sū

①は二重母音の発音がどうなっているかである。高知方言風の二重母音は第2世でなくなる。②は、ジとヂとの発音を区別するかどうかである。第2世までは区別がある。これらを含めて、第1・2世のモーラ体系の一部は、次のようになる。

tu[tsu]~[tu]	to ta te ti[tʃi]~[ti]	tju[tʃu]	tjo tja
du[dzu]	do da de di[dʒi]	dju[dʒu]	djo dja
zu	zo za ze zi	zju	zjo zja

c-の系列は欠く、ということになる。第3世のモーラ体系は東京方言のそれ

とまったく同一である。③は、語中の〔d〕,〔g〕の入りわたりが鼻音化するかどうかである。第2世は、ときどきは鼻音化するが、普通にはしない。第3世は決して鼻音化させない。④は、〔θ〕,〔ð〕音があるかどうかである。第3世になると、〔s〕,〔dz〕となっている。⑤は、ウの音が、くちびるを丸めて発音するかどうかである。第2世までは、西日本的なまるくちの〔u〕である。⑥は、／i／と／u／が、無声子音に狭まれるとか語末に来るときに、無声化するかどうかである。第3世に至って、東京方語と同様無声化させる。

以上を見ると、第2世で変わるものもあるが、第3世で変わるものの方が多い。高知方言の音声的特色は、第3世では完全に失なわれていることになる。

池田一小野田家では、次のようである。

①全国共通語の1モーラ名詞などを、第1世は関西風に長く引いて発音する。第2・3世ではこの傾向がだんだん薄れていく。3人に尋ねた12語のうち(発音の調査のための全語数は95)、第1世は全部をこのように発音しているのに対して、第2・3世は、具体的な語には出入りはあるが、半数の6語についてこのように発音しているにすぎない。これは、語末の母音が終わったあとはっきり声止め(声門閉鎖)をしないこととも関係があり、1モーラ名詞に限らず、たとえば、「月」〔tsu「k_ɟiː」〕のようにあらわれる。このようなものが、第1世に8語ある。②また、たとえば「銅像」を第1世は〔doːˈzoː〕,第2世は〔doːˈzoː〕のように長く引くが、第3世は〔doːˈzo〕のように短かく発音する。この傾向は「牛乳」「孝行」「奉公」「九州」などにあらわれるが、世代による差とは認められない。③語中の／N／の持続部が、第1世で、時間的に短いことが注意される。たとえば、「新聞」は〔ʃimbuːn〕となる。語中の／N／は調査語のなかの12語に出て来るが、第1世ではその6語にこの特徴が認められた。それが第2・3世では、それぞれ1語にしか認められない。④／e／の発音が非常に狭いことが第1世で注目される。⑤話中の〔t〕,〔k〕,特に〔k〕が母音間で有声化する傾向が第1世には強くあらわれている。⑥／se, ze／は、第1世では〔s_ɟe〕,〔z_ɟe〕となるのが普通である。第2世ではごくまれにあらわれるが、第3世では会話の中で拾った「絶対」〔z_ɟeˈttai〕だけであった。⑦語頭の／r-／を〔d〕の破裂をともなって発するのは第1世だけで、

第2世以下にはこの発音はない。／a／、／o／の前で特に著しい。⑧その他、特殊な発音としては、第1世の「位牌」〔ju¹ɾːɸa¹i〕がある。第2・3世はいずれも〔i¹ha¹〕であって、〔ɸa〕という音節はあらわれない。第1世でも、このように両唇の摩擦が著しいのは、この語だけであって、「九杯」など、同じような音声的環境にあっても、ごくわずかな唇音化するにとどまる。

以上の8項目を、池田で調べた他の家族について見てみよう。

①については、吉田第2世では小野田第2世よりも長く発音する傾向があり、松浦第3世は小野田第3世よりも長く発音する傾向がある。②は、吉田家ではそれほどあらわれていないが、松浦家では第3世までこの傾向が見られる。③については、吉田家第2世は、他の第2世よりも多くこの傾向を示す。④については、吉田・松浦両家の第1・2世では、／i／と／e／とは、語頭と二重母音の第2母音要素の位置では区別されない。したがって、「息」も「駅」も〔e¹gi〕、「鯉」も「声」も〔ko¹ẽ〕である。この両家でも、第3世は／e／の発音がやや狭めではあるが、／i／との区別がある。この点で小野田家は、第1世でときどきこの区別があいまいになるだけなので、福井方言の音声的特徴は早く失っているといえよう。⑤吉田・松浦両家とも、第2世にもわずかなではあるが、この傾向が残っている。⑥は、松浦第2世にはこの傾向がわずかに残っている。第1世はもちろん、両家とも〔s_ɾe〕、〔z_ɾe〕である。⑦は、第1世はすべてこの傾向があり、第2世では松浦家だけに聞かれる。⑧は、他の人々には聞けなかった。

以上を通観すると、第1世はほとんど福井方言の特徴を保存しているのに対して、第3世はそれをほとんど失っているということがわかる。家族によって、福井色の失われる速度の速い遅いはある。概して小野田家が速く、松浦家が遅い。

俱知安一上野家の場合は次のようである。

①第1世は／kwa／、／gwa／というモーラを持っている。これに対して、第2世以下はこのモーラを持っていない。②「歯」を第1・2世は〔ha¹ː〕と言うのに対して、第3世は〔ha〕のようである。すべて、第3世だけが1モーラ名詞を持っている。③語中の〔d〕、〔g〕の入りわたりが鼻音化するのは、第

1・2世だけである。第3世は鼻音化することはない。もっとも、第2世は多少動揺している。「窓」,「釘」は、第1世 [ˈmaːndo], [ˈkuɯːgi], 第2世 [maːndo]~[maːdo], [kuɯːgi]~[kuɯgi], 第3世 [maːdo], [kuɯgi] のようになる。④3世代を通じて変わらない特徴としては、語頭の/e/が [je] と発音される点と、たとえば、「孝行」,「牛乳」を[koːko], [ɡjuːɾu] のように、全国共通語で3モーラ以上の語の語末長母音が短くなる点とがあげられる。

以上それぞれの場合を通じて言えることは、第3世になれば、第1世が持っていた出身地の方言の発音的特徴は非常に薄くなるということである。第2世はそれへの過程にあると言ってよかろう。もっとも、多少第1世寄りである。

4. アクセントについて

美唄一橋本家では次のようである。

第1世と第2世はまったく同じアクセントである。しかも、高知方言のアクセント体系をそのまま保っている。

				友達
			桜	金持
		鼻	鏡	からかさ
戸	花	心		あいさつ
	雨	薬		紫
		兎		化物
				小刀

2モーラ名詞の五つの類の歴史的統合も I/II・III/IV/V⁽²⁾ のようで、高知方言と同様である。

第3世は、4モーラ以上の語については型がほぼ一定しているが、2モーラ以下の語は型が不定で、本人も高低配置の差を意識していない。すなわち、部分的には無アクセント化していると見てさしつかえない。3モーラ語についても不安定である。たとえば、「花が~鼻が」,「橋が~箸が」は、日によって時によって、●○○, ○●○のように発音し、しかも、●○○と○●○とを聞かせても、どちらが「花が」か「橋が」かというようなことはわからない。4モー

ラ語はこれが「紫」なら〇●〇〇,「小刀」なら〇●●●で安定している。

池田一小野田家は、第1世の出身地が無アクセントの地帯であるので、第1世にはもちろんアクセントがない。また、第2・3世にもアクセント意識はないようである。たとえば、3モーラ語では、現象的には、〇●〇が基調で、1モーラ助詞がつくと、〇●●〇となるが、〇●〇〇と〇●●〇とを発音してみても、両者を聞き分けることはできない。

俱知安一上野家では、第1・2世が

{ 鼻が	●●●	{ 箸が	●●●	{ 飴が	●●●	{ 栗が	●●●
{ 花が	●〇〇	{ 橋が	●〇〇	{ 雨が	●〇〇	{ 泡が	●〇〇

のような区別をはっきり持っていて、いつも変わらないのに対し、第3世は、2回聞いたところでは、次のようである。

	鼻が	花が	箸が	橋が	飴が	雨が	栗が	泡が
第1回	●●●	●●●	●●〇	●●●	●●●	〇●〇	●●●	●●●
第2回	●●〇	●●〇	●●●	●●〇	〇●〇	●●●	〇●〇	〇●〇

これからも、アクセント意識が薄れていることがうかがえる。一つの語に助詞の「が」「の」「に」「も」などを付けて発音してもらおうと、最初に、たとえば〇●〇と発音すると、そのあとも続けてそう発音するし、何かの拍子で●●●に変わると、あとはまた続けてそう発音する、という状況である。

以上を通してみると、アクセントは第3世になると無アクセントに近くなる、ということができよう。池田で、第3世がアクセント意識のないことは、その地域社会にも無アクセント化の傾向があることを示している。無アクセントの人でも、アクセントのある地方に移住したとき、その子や孫は、アクセントを獲得するに至る。しかし、この地方は、だれもいないところへ互にアクセントの違う方言の話し手が移住してきて混住したため、それらの方言が衝突して、無アクセントが生まれたのであろう。池田の第3世がアクセント意識を持つに至らなかったのもそのせいと思われる。

注

(1) 国立国語研究所の地方言語研究室が調査センターとなって、全国の地方研究員に依頼して、昭和32年度から8か年計画で始めた仕事で、全国の方言分布を知るのが目

的である。約300項目を約2,400地点で調べ、約 300 枚の言語地図を作る予定である。北海道の調査で使った230語は、上の約300項目のうちの第1次項目（初年度から調べているもの）である。

（2） 2モーラ名詞は、アクセントの変遷とか方言の違いとかから見ると五つの類に分かれる。それぞれを第Ⅰ類、第Ⅱ類、第Ⅲ類、第Ⅳ類、第Ⅴ類と言う。この五つの類が、ある方言では四つに統合され、別の方言では三つに統合され、さらに別の方言では二つに統合されるというように、方言によって歴史的統合のしかたが違っている。高知方言は四つに統合される例である。それぞれの類に属する2モーラ名詞は、たとえば『国語学辞典』の付録（994ページ）に出ている。

3. 北海道共通語の成立

— 調査Ⅱ（3世調査）

§1 目 的

調査Ⅰの結果、北海道第3世のことは、第1世の出身地がどこであろうと、ほぼ共通であることが明らかになった。しかし、それは、わずか数か所で調べたことにすぎない。調査Ⅰの結果がほかの土地でも当てはまるものかどうか。北海道第3世をもっと多く調べてみなければならない。

北海道第3世を多数、しかも能率よく得るためには都会地がいい。そこで、札幌市と帯広市と釧路市とを選んだ。札幌は北海道全体の中心都市であって、その言語的影響力も強い。帯広市は農村地帯の中心都市で、調査Ⅰの調査地とも深い関係がある。釧路は、参考のために、海岸部から選んだ都市である。釧路は海岸部に属するが、半島部にはないため、北海道共通語の影響を受けていると見られた。

§2 実 施

調査は、国立国語研究所の分担者4人が担当した。調査に当たっては、市民に1人ずつ面接して、調査票によって調査するという方法をとった。調査の月日および被調査者の内訳は次のとおりである。なお、男0、女1などの、0、1、2は生年をあらわす。大正14年以前生まれが0、昭和11年以後生まれが2、その中間が1である。

調査地	調 査 日	被調査 者数	男0	男1	男2	男計	女0	女1	女2	女計
札 幌	12月 8日—10日	52	1	12	16	29	1	3	19	23
帯 広	12月12日—14日	48	1	5	26	32			16	16
釧 路	12月16日—18日	61	3	13	17	33		5	23	28
	計	161	5	30	59	94	1	8	58	67

なお、この調査では、3世の定義をゆるくして、両親のどちらかが北海道生まれなら該当者としたが、それでも、該当者を見つけることはやさしくなかった。

§3 結 果

この調査では、被調査者を任意に選んだので、以下の数字は厳密にはその都市の状況を示すとは言えない。また、それぞれの都市の男性なら男性だけの％は、ある程度ある傾向を反映しているといえるかもしれない。しかし、男性の％と女性の％を加えたものを他の都市全体の％と比較することはしばしば危険を伴うと思われる。このことを考慮しながら、以下の数字を見ていきたい。

1. 語彙について

問ごとに、番号・質問文・共通語・予想される北海道方言をこの順にあげ、その次に結果を述べる。

101. 物の値段をたずねるときには何と言いますか。「このまんじゅうはひとつ……」, それから何と言いますか。 ikura~nanbo

ナンボという語を使うかどうかを調べるものである。調査地ごとに、男女別に、ナンボを使う人の％を算出すると次のようになる。

ナンボ	札幌	帯広	釧路	計	札幌だけがやや少ない。このように、札幌が比較的東北方言の色彩が薄いことは、この問に限らず、しばしば
男	69%	91	91	84	
女	61	69	71	67	

見られる。男性のほうが3箇所ともナンボを多く使う。なお、以上の数は、ナンボを使うが、ほかにイクラなども使うと答えた者をも含む。

102. これを何と言いますか。この、物を見るものです。 me~managu

東北方言系のマナグが、どの程度北海道に行なわれているかを見ようとした。しかし、これは、わずかに釧路で男女ひとりずつから聞かれたに過ぎない。

103. まぶたのへりにぶつとできる小さなできものです。何と言いますか。

うみを持って赤くはれると、むずむずしてかゆいものですが、間もなく直ります。 monomorai~nome

これは、調査地によって差があるようである。被調査者の何％がノメやその他の里言形で反応しているかを示そう。

北海道方言としてノメを期待したが、意外に少なかった。ノメの固有の分布地は、青森・岩手・福島県である。

ものも らい	モノモ ライ	メモライ	メッパ	ノ	メ	パ	カ	ノボロ	モノモライとい
札 幌	83%	10	14	2		2		—	う全国共通語形は
帯 広	60	—	38	2		2		6	札幌に多く釧路に
釧 路	13	—	87	11		—		2	少なく、メッパは

釧路に多く札幌に少ない。帯広は、この項目に関する限り、両都市の中間の地位にある。このように、北海道のことばは決して単一でなく、方言的差異が見られる。なおメッパはこのように、北海道では割に有力であるが、内地では、青森・秋田・新潟県などにわずかに分布するだけである。

104. この指は何と言いますか。 kusuriyubi~benisasi

西日本的なベニサシは1回も聞けなかった。

105. 梅干しの味はどんなだと言いますか。 suppai~sukai

スカイなどの東北方言形は、各調査地に、あってもひとりぐらいなものである。スイという西日本方言形は、帯広で男31%，女25%もあって、ここだけ特異である。他では釧路の女性にひとりあっただけである。男女差・年齢差はあまりない。

106. 塩の味はどんなだと言いますか。 karai~syoppai

ショッパイが圧倒的である。

107. 「あさって」の次の日のことは何と言いますか。 siasatte~yanoasatte

明々後日	シアサッテ	ヒアサッテ	ヤノアサッテ	ヤナアサッテ	なお、同一被調
札 幌	23%	—	63	17	査者がたとえばシ
帯 広	42	4	44	15	アサッテとヤノア
釧 路	11	7	66	18	サッテの二つを答
年齢0	—	—	33	67	えれば、それぞれ
年齢1	29	3	74	11	の語に1名が反応
年齢2	24	4	55	16	したとして計算し
男	24	4	55	18	たので、横に%を
女	24	3	63	15	

加えていくと、多くは100%を超えている。以下同様である。

108. その次の日のことは何と言いますか。 yanoasatte~siasatte

上の2問の結果では、シアサッテヤノアサッテの順の東京式の言いかたが

明々後日の翌日	シアサッテ	ヒアサッテ	ヤノアサッテ	ヤナアサッテ	(NR)	帯広に比較的多い。帯広以外では、関東・東北式のヤノアサッテの順の言い方が優勢である。
札幌	44%	2	2	2	50	
帯広	29	4	10	10	40	
釧路	31	13	3	—	44	
年齢0	33	—	—	—	67	
年齢1	37	16	—	2	45	
年齢2	34	4	13	5	44	
男	30	10	5	4	46	—シアサッ
女	43	2	4	3	43	テの順の言

い方が優勢である。しかし、このことが、北海道のなかの地域差を示すものかどうかは、すぐには決められない。同じ調査地のなかでさえ、順の逆のものが混在しているからである。むしろここでは、意味の違うシアサッテまたはヤノアサッテが、同じ町に共存していることに注意したい。これが、北海道のこつばの一つの性格を示しているようにも思える。特に、問108について無答(NR)が非常に多いのも、このことと無関係ではあるまい。

年齢的に見ると、年をとっているほうがヤノアサッテ—シアサッテの順のほうに傾いているのは注目すべき点である。また、107について、ヤノアサッテかヤナアサッテかを比べると、高い年齢層がヤナアサッテに傾いているのもおもしろい。ヒアサッテが釧路に多いのは、おそらく地域的な特色であろう。のちに、音声のところで述べる「ヒとシ」と比較せよ。なお、男女差では、108のシアサッテが女性に多く、ヒアサッテが男性に多いのが目立つ。

109. 雨と雪とがまじって降ってくる。何が降ると言いますか。

mizore~amayuki

北海道方言といわれている、アマユキ・アメユキは、実数で次のように出ている。

みぞれ	アマユキ	アメユキ
札幌	1人	0
帯広	1	1
釧路	5	2

これでは、釧路にやや多い（合計で11%）が、全体としてはとるに足りないくらいである。

110. 「手に手袋を……」それから何と言

いますか。

hameru~haku

手袋を～	札幌	帯広	釧路	年齢0	年齢1	年齢2	男	女	ハクのほう
ハク	92%	90	95	67	87	95	90	96	が圧倒的に多
ハメル	21	21	15	17	24	17	20	18	い。この北海

道方言は、むしろ年齢が若くなるにつれて多くなっている点が注目される。だんだん広がりつつある方言であろう。

111. 冬の寒いときに石炭やまきをたく、暖房のための道具を何と言いますか。

sutôbu～sutohu

ストーブとストフを合わせて数えると、札幌3人、帯広5人、釧路7人となる。これを年齢別に％で出すと、年齢0は50％、年齢1は5％、年齢2は9％となる。年齢2と年齢1とは大差ないと認めるならば、大正14年以前に生まれたものにストーブ・ストフが多くあらわれると言えそうである。

112. ストーブの火をかきまぜる棒、先の曲がった鉄の棒のことを何と言いますか。

hikakibô～derekki

デレッキがほとんどであって問題ない。ただ、デレキとなる場合には地域差があるようで、札幌で6％、帯広で6％、釧路で30％（男24％、女37％）となる。これで見ると、釧路方言と言えそうである。そのほかに、デデッキ、デルッキ、デルキ、デリッキ、デリキ、カンユなどの形がある。

113. かまどでたきぎ（まき）をたいたあとに残る白いもの、あれのことを何と言いますか。

hai～aku

ハイとアクについて％を出してみると次のようになる。なお、石炭をたいた

灰	た き ぎ		石 炭		あとに残るものについても結果が出ているので、これも合わせてあげる。～ハイ、ハイ～のように上や下にハイのつくものは省いた。
	ハイ	アク	ハイ	アク	
札 幌	88%	27	15%	75	この結果によると、札幌では、たきぎをハイ、石炭をアクと言って、両者を区別する。帯広ではたきぎについても、石炭についても、ハイを使う人の割合とアクを
帯 広	48	46	25	29	
釧 路	69	52	8	64	
年齢0	67	67	17	50	
年齢1	68	34	13	55	
年齢2	69	43	14	58	
男	65	40	19	55	
女	75	43	10	60	

使う人の割合との間に差がない。釧路では、たきぎについては差がないが、石炭についてはアクのほうが圧倒的に多い。

このことを別の面から明らかにしてみよう。たきぎの灰と石炭の灰とをことばで区別するかどうかという観点から整理してみると、次のようである。たきぎ～石炭の順に％で示すと、札幌ではアク～ハイが2％、ハイ～アクが46％。帯広でアク～ハイが21％、ハイ～アクが15％である。釧路でアク～ハイが2％、ハイ～アクが30％であった。帯広は、アクとハイの区別が他に比べてはつきりしていないと言える。

年齢0、つまり比較的年とった人が、昭和生まれの人に比べて区別することが少なく、男性が女性よりも区別することが少ないのも目立つ特色である。

114. 「かんらん」と言うのですか、大きな葉が巻いて玉になる野菜を何と言いますか。 kyabetu～kaibetu

カイベツの％を出すと次のようである。札幌13、帯広35、釧路36。年齢0 67、年齢1 53、年齢2 19。男37、女15。札幌は、他に比べて北海道方言的色彩が薄くなっている。若い者ほどカイベツがなくなり、男性のほうにカイベツが多く残っている。この傾向は、他の多くの語に見られる傾向と同じである。

115. 魚の名まえ。秋になると、海から川に上がってくる大きな魚。北海道の名産です。何と言いますか。 sake～akiazi

アキアジが圧倒的である。アキアジと言わない人の％をあげると、札幌25、帯広4、釧路7となる。札幌は、ここでも北海道方言的色彩が薄いことを見せている。年齢別に見ると、これら、アキアジと言わない人はすべて年齢2、すなわち最も若い層である。なお、男10、女15。

116. ×のしるしのことを何と言いますか。 batu～kakeru

カケルを予想していたのであるが、カケジルシを含めて、実数で、札幌1、帯広5しかなかった。圧倒的に多いのはバッテンである。

117. 荷物などを移動させるために持ち上げることを、ふつう何と言いますか。 motiageru～tanagu・tagaku

タナク・タナグ・タガクなどは次のようにあらわれている。

次の表からわかることは、まず、釧路でタナク・タナグ・タガクが多く使わ

持ち上げる	タナク	タナグ	タガク	計	
札幌	8%	4	13	25	れていることである。
帯広	4	0	15	19	また、他のところでは
釧路	30	10	10	49	タガクのほうがむしろ優勢であるのに対し
年齢0	0	0	17	17	て、釧路ではタナクの
年齢1	5	5	18	29	ほうが優勢であること
年齢2	19	5	10	34	も目立つ。なお、上の
男	12	6	18	36	3つの語を、1人の被
女	19	3	4	27	

調査者が2つ以上答えることはない。これも特色である。

これらの語形にはすべて東北方言の色彩があるにもかかわらず、若いほうにだんだん多くなっているのも注目される。なお、男性はタガクに傾き、女性是比较的タナクに傾くというのもおもしろい。いずれも、これが偶然によるのかどうかは、別にサンプリングによる調査をしてみないとわからない。

118. 荷物が重いから、酒屋にちょっと「あずかってこよう」というように、「あずかる」ということばを使いますか。

「使う」という答の%をあげると、札幌67、帯広73、釧路79となる。年齢0 83、年齢1 76、年齢2 72。男78、女67。年齢の若いほうが使うことが少ないという傾向が見られる。地域別にも、札幌・帯広・釧路の順に「使う」が多くなるが、これは他の多くの項目にも見られる傾向である。

119. 「こわい」ということばを疲れた、くたびれた、という意味に使いますか。重い荷物を背負って歩いたので「こわい」というふうに。

120. 「あかい」ということばを、明るいことを表わすときに使いますか。ろうそくより電灯の方が「あかい」というふうに。

119は全員が「使う」であり、120は全員が「使わない」であった。すなわち、すべて、関西的ではないと言えるようである。

以上を通観すれば、全体に東北的色彩が見られ、そのうちでも、札幌は比較的希薄であるのに対して、釧路はかなり濃厚であると言えることができる。すなわち、語の面でも、北海道共通語というまったく等質なものが全土をおおっているのではなく、地域により多少の差が見られるということである。年齢別に

見たときには、だんだん失われていく方言形と、勢力を得つつある方言形との2種類があるようである。なお、この点については、調査Ⅲで詳しく調べることしよう。

2. 文法について

動詞では、「書く」「起きる」「来る」「する」の4語について、若干の活用形およびそれに続く助詞・助動詞を調べた。

まず、「否定形」をめぐって、書カン式の「ン」がどのくらいあらわれたかを%で示してみよう。

否定形の 「ン」	書 く	起きる	来 る	す る
札 幌	2%	0	0	0
帯 広	17	8	0	4
釧 路	10	3	2	5
年齢0	17	0	0	0
年齢1	10	8	3	5
年齢2	9	3	0	3
男	7	6	1	5
女	12	0	0	0

札幌では少ないが、他ではこれが語によってある程度聞かれる。しかし、現実の北海道の言語としては、この数字よりもっと多く行なわれているのではないかと考えられる。調査という場面なので、多少改まったかと思われる。

今後調査すべき点であろう。性別では「書く」を除いてすべて男性のほうが多い。なお、「来ない」をキナイというのは、札幌の年齢2の男にひとりだけあった。

「意志形」に「べ」を使うものの%を出すと、次のとおりである。

意志形の 「べ」	書 く	起きる	来 る	す る
札 幌	42%	40	31	42
帯 広	50	46	40	46
釧 路	44	33	46	44
男	76	65	65	73
女	3	3	1	3
男 0	60	80	60	60
男 1	83	53	70	77
男 2	73	69	64	73

語によって、あらわれかたにそれほど差がないようである。性別では、ほとんど男だけにあらわれる。年齢的に一定の傾向は出ていない。「べ」は、まず北海道共通語の男性語と見てよさそうである。

スルベでなくシルベと言ったのは釧路に比較的多く、他の語形をも言うものを含めて、8%であった。

あとは帯広で2%あっただけである。シルベーは東北的なのであろうか。

次に、「仮定形」に「ダラ」を使って、「書くなら」を「書クダラ」のように言う者の%をあげてみよう。

仮定形の 「ダラ」	書 く	起きる	来 る	す る	語には関係なくすこぶる安定 している。地域的には、札幌で 少なく、釧路で多い。帯広はそ の中間であって、やや釧路寄り である。この傾向は、他のいく つかの項目と共通である。性別 では、男のほうが、わずかなが ら、この形を多く使う傾向があ
札 幌	14%	17	17	21	
帯 広	60	63	63	52	
釧 路	74	75	70	80	
年齢0	67	67	67	83	
年齢1	50	44	44	47	
年齢2	50	55	53	53	
男	52	53	53	54	
女	48	52	48	51	

るようである。年齢別に見ると、各年齢層ともそれぞれに安定しているが、なぜ年齢1、つまり年齢的に中間の層が方言的でないかの説明はこれだけではつけられない。

「命令形」では、「起きる」に対する「オキレ」、「する」に対する「スレ」「シレ」が問題になる。「書く」「来る」については共通語形が圧倒的であるので問題は無い。問題点だけを%で示そう。

命令形の 「レ」	オキレ	オキロ	(オキロだけ)	ス レ	シ レ	スレ+シレ	シロ	(シロだけ)
札 幌	75%	8	(4)	46	27	60	6	(0)
帯 広	77	15	(6)	37	54	73	10	(0)
釧 路	82	15	(0)	57	33	74	10	(0)
年齢0	100	17	(0)	50	33	67	33	(17)
年齢1	86	21	(3)	47	31	60	10	(0)
年齢2	74	9	(3)	48	39	72	7	(0)
男	97	17	(3)	62	54	87	15	(1)
女	52	6	(3)	28	13	43	0	(0)

「オキレ」「スレ」「シレ」などが圧倒的多数形であり、まずはこれらを北海道共通語形と断じていいようである。「スレ」+「シレ」が、左の「スレ」「シレ」の合計と一致しないのは、両方言う人があるからである。

共通語形の「オキロ」「シロ」はどちらも非常に少ない。しかも、これらの

人は、「オキレ」などといっしょに二つ以上答えている者が多い。「オキロ」または「シロ」だけを答えたという者は（ ）の中に示すように、きわめてわずかなのである。この共通語形を使う者は、若い人ほど少なくなるのは注目すべきであろう。「オキレ」などの力の強さを知ることができる。

「スレ」と「シレ」とでは、札幌・釧路では「スレ」が多く、帯広では「シレ」の方が多い。これが地域差を反映しているものかどうかは、これだけでは判断できない。

「仮定形」では、「来る」における「コイバ」または「コエバ」が問題になる。これは次のようにあらわれる。

仮定形	コエバ	コイバ	これが東北的な言い方であるにもかかわらず、釧路の率が帯広よりも少ないのが注意を引く。なお、この場合、コエバとコイバの両方を答えた人はいない。「コエバ」が若い人のほうに多く、「コイバ」は年の多い人のほうに多いのは偶然ではないように思われる。
札幌	10%	14	
帯広	40	25	「する」における「セバ」は、「コエバ」
釧路	34	20	
年齢0	0	50	などから考えられるほどは多くない。札幌・帯広それぞれにひとり、釧路にふ
年齢1	18	23	
年齢2	32	16	たりだけであって、問題とするに足りない。
男	29	26	
女	27	10	

「する」における「セバ」は、「コエバ」などから考えられるほどは多くない。札幌・帯広それぞれにひとり、釧路にふたりだけであって、問題とするに足りない。

形容詞・形容動詞で問題になるのは、「仮定形」である。東北的な「ダラ」という語尾を使うかどうかである。「ダラ」を使う人の%を示すと次のとおりである。

ダラ	高い	新しい	元気だ	ある。
札幌	14%	15	18	
帯広	35	42	34	「ダラ」が、やはり、他の項目と同じように、札幌で少なく、釧路で多くなっている。年齢別には一定の傾向はないようである。男女差で目立つのは、形容詞では男に「ダラ」が多いのに、形容動詞では両方が同じとなっていることである。形容動詞には「元気
釧路	56	50	66	
年齢0	33	67	33	
年齢1	42	31	50	
年齢2	31	30	44	
男	37	38	44	
女	28	22	46	

だ」という共通語形があるので、「ゲンキダラ」という方言形があまり方言形として意識されないからではなかろうか。これによって見ると、女性にも形容詞で「ダラ」を使う素地はじゅうぶんにあるようである。

さらに、形容詞には「タカイバ」「アタラシ(一)バ」という方言形もある。この%を出してみよう。

バ	タカイバ	アタラシバ
札幌	4%	4
帯広	8	0
釧路	16	15
年齢0	0	0
年齢1	5	3
年齢2	12	9
男	10	5
女	10	9

やはりこれも釧路にいちばん多く出ている。年齢では、若いほうにこの傾向が強い。新しく勢力を持って広がろうとしているものか。

以上、文法についての結果を通観すると、語と同様、釧路が最も東北的で、札幌が最も東北的でないと言えそうである。語については、新しい方言形が広が

りつつある現象はどこにも見られるもので、珍しくはないが、文法についてもこの現象が割に有力に見られるのは、北海道方言の一特色ではないかと思う。

3. 音声について

ここでも、問ごとにその結果を述べる。

1) イとエとの区別があるか。

「息」という語と「駅」という語で聞いている。結果は、釧路で区別をしていない者が5% (3人) あった。区別はしているものの、「駅」の〔e〕が非常に狭い者が、釧路でそのほかに5人、帯広で1人あった。

2) スとシとの区別があるか。

3) ツとチとの区別があるか。

4) ズとジとの区別があるか。

2) は「煤」と「寿司」、3) は「月」と「土」、4) は「知事」と「地図」で聞いている。すべて、区別はする。ただ、「土」のチがキとなる個人が札幌でひとりいた。

5) 語中のカ行子音は有声化するか。

「茎」と「釘」との区別で聞いている。有声化するものは札幌でひとりだけ

であった。

6) 語中のタ行子音は有声化するか。

「的」と「窓」との区別で聞いている。区別はあるものの、「的」のタ行子音がわずかに有声化して〔つ〕となった者が釧路にふたりあった。

7) 母音は無声化するか。

「北」と「口」との、第1母音が無声化するかどうかを聞いた。無声化しない発音は、札幌だけで聞かれた。「北」で12%、「口」で17%あった。帯広・釧路では、全員が無声化する。

8) ウの母音は丸いか平たいか。

「兎」と「歌」という語で聞いた。結果を、まるくちの〔u〕を出した人を%で出すと、札幌6、帯広10、釧路13（ただし、「歌」では15）である。〔u〕,〔ʊ〕の間をゆれているものが、釧路にひとりいる。

9) 語中のガ行子音は鼻音化するか。

「中学」、「道具」におけるガ行子音と語頭のガ行子音とを区別するものの%は次のとおりである。

ガ行鼻音	「中学」	「道具」	両語とも区別
札幌	35%	37	25
帯広	38	46	36
釧路	82	84	77
年齢0	83	83	67
年齢1	44	50	34
年齢2	55	58	48
男	50	53	41
女	58	63	51

釧路が非常に多いのは、やはり東北方言的な性格を反映しているものと思われる。年齢別では、年齢0に属する人数が少ないせい
か、年齢による傾向は特別に出ていない。男女別では、女に区別する者の多いことが注目される。しかし、これが東北方言的な性格を

反映するものと言えるかどうか疑わしい。この特徴はまた東京語の特徴でもあり、女性のほうが、一般に、東京語的と考えられるからである。こころみに、東北方言色の強い釧路を除いて、札幌・帯広について両語ともに区別するものを男女別に%の計算をすると、男21、女27となって、やはり女のほうが多い。

10) ヒをシと発音するか。

「火箸」と「膝」とで質問した。共通語のヒに当たる子音を〔ʃ〕,または〔ɕ〕

と〔j〕との間で発音したものの％は、次のとおりである。

ヒ と シ	火 箸	膝
札 幌	14%	0
帯 広	4	8
釧 路	21	20
年齢0	0	0
年齢1	6	2
年齢2	31	25
男	12	12
女	16	7

このほかに、釧路で「火箸」について15%、「膝」について8%が、〔ɕi〕〔ʃi〕を両用して動揺している。札幌・帯広にはこれがないから、もしこれを加えると、釧路では、相当この傾向が他の2都市に比べて強い、ということが言えるであろう。これも東北方言的な特徴と関係がある。年齢別で見ると、ヒとシとの混同はだんだん広まっているようであるが、さらに今後の調査で確かめる必要がある。

性別については語によって傾向が逆なので、これだけでは何とも言えない。

11) シュ、ジュはどう発音されるか。

「手術」・「主人」が調査語である。結果は次のとおりである。

シュ	「手術」のシュ			「主人」 シ	「手術」のジュ			
	シュ	シ	両方		ジュ	ズ	ジ	まざり
札 幌	55%	38	6	14	29	23	37	6
帯 広	47	52	2	2	35	35	27	0
釧 路	74	21	2	2	25	52	18	2
年齢0	67	33	0	0	83	0	17	0
年齢1	52	39	3	10	29	26	39	3
年齢2	59	34	4	4	27	44	21	3
男	53	39	4	4	29	32	33	2
女	64	30	3	7	30	46	15	4

「主人」の場合、札幌でシという発音が多い。しかし、「手術」のシは帯広で多い。「手術」のジはまた札幌で多い。釧路ではシも少ないし、ジも少ない。しかし、その釧路で、シュから想像されるようには、ジュが多くなく、むしろズが最大多数形となっている。これらが、地域的な差を反映しているのかどうかは、にはわかには決められないと思う。

一般に、札幌・帯広・釧路の順に東北方言色が深まるが、ズとジとについて、この順にズがふえ、逆にジはこの順に減っているのは偶然であろうか。また、ズは女性に多く、ジは男性に多いが、これが何を意味するか、これだけで

は、はっきりしない。

以上、音声を通じて見たとき、東北方言的な色彩はやはり釧路に最も濃いようであるが、語・文法に比べたとき、その色彩はずっと薄れてくる。帯広は、語・文法では、札幌と釧路との中間的な性格がよくあらわれていたのであるが、音声では、その傾向はいささかはあるものの、ごくわずかである。

東北方言で区別がないと言われる、シ・ス、チ・ツの区別は割にはっきりしている。つまり、北海道共通語は、他の点では相当東北方言的なものを有しているが、音声的には、東北色から遠ざかって洗練されている、と言うことができよう。ただし、これは札幌・帯広・釧路という、比較的大きい都会における調査(調査Ⅱ)での結果である。もっと小さな都市、あるいは農村ではどのようなになっているのか、それぞれの調査のところで述べることにする。

4. アクセントについて

この調査では、4モーラ以下の名詞のアクセントについて調査した。

まず、同音の2モーラ名詞について比較したものを集計してみよう。調査語は次の6組である。

鼻と(Ⅰ類)～花と(Ⅲ類), 飴と(Ⅰ類)～雨と(Ⅴ類), 橋と(Ⅱ類)～箸と(Ⅳ類), 紙と(Ⅱ類)～髪と(Ⅲ類), 泡と(Ⅲ類)～粟と(Ⅳ類), 雲と(Ⅲ類)～蜘蛛と(Ⅴ類)。

このうち、「紙と～髪と」、「雲と～蜘蛛と」は、東京ではアクセントがまったく同じであるから、別に集計することにする。

アクセントで区別する(たとえば、「花と」が○●○, 「鼻と」が○●●●(●●●●)であるということで区別する)1組に○, アクセントの型を1語が2

札幌

○△	0	1	2	3	4	計
0	1人	4	1	2		8
1	5	1	3	1		10
2	6	3	2			11
3	15	5				20
4	3					3
計	30	13	6	3		52

つ以上持つということで区別しうる(たとえば、「花と」が○●○, 「鼻と」が○●●●ととともに, ○●●●をも持つので, その一方を見れば区別していることになる)1組に△をつけて, 各人がこの4組で○や△をいくつとったか(0個から4個まで)を数え, 人数との相関表を作ると次のとおりであ

帯 広

○△	0	1	2	3	4	計
0	9人	1				10
1	9	1				10
2	11	1				12
3	12	1				13
4	3					3
計	44	4				48

釧 路

○△	0	1	2	3	4	計
0	3人	1				4
1	6	2	1			9
2	16	5	1			22
3	22					22
4	4					4
計	51	8	2			61

る。

たとえば、○が0個(0組)、△が0組(アクセント区別なし)の人は、札幌1人、帯広9人、釧路3人であることを示す。これを見ると、札幌では比較的△が多い(つまり1語にいくつかのアクセントの型を持つ)ということがわかる。調査方法に精粗の差はないはずであるから、このことは非常に特徴的と言えるであろう。ここで、2つ以上のアクセントを持った語数がどのくらいあったかを12個の調査語について数えると次のようである。

2つ以上のアクセントを持つものは、言わば動揺しているのである。札幌が最も動

揺がはなはだしい、ということができよう。アクセントを2つ以上持つ語を1

語 数	0	1	2	3	4	5	6	7	8	平 均	語 も答えなかった
札 幌	24人	10	5	5	3	2	1	1	1	1.3語	者は、札幌46%，
帯 広	46	11	3	1						0.4	帯広85%，釧路75
釧 路	41	4	1	2						0.2	%である。

アクセントが動揺していることを示す△は省いて、何組アクセントで区別しているか、その平均を出してみよう。サンプルではないから、平均や分散はたいした意味を持たないかもしれないが、参考のために出してみた。なお、△が多い札幌は省くのが適当であろう。

	平 均	分 散
帯 広	1.8組	1.51
釧 路	2.4	1.22

この結果によると、帯広と釧路との間には、信頼度95%で、釧路のほうに有意差をも

つて、アクセントで区別することが多いと言える。とは言っても、釧路でも、それほどはっきり区別をする、というわけでもない。アクセントに型の区別のある内地の方言に比べたら、区別がそれほどはっきりしていない、と言うべきであろう。しかし、○も△も0だった者、つ

まり、まったく区別しない人の数も札幌1人(2%), 帯広9人(19%), 釧路3人(5%)であって、「無アクセント」の地方ほどアクセントの区別があいまいなわけでもない。以上から考えて、型の区別はそれほどはっきりしていない、と言うことはできるであろう。

「紙と～髪と」、「雲と～蜘蛛と」は、東京では前に述べたように、これらをアクセントでは区別しない。これらについての結果をまとめると、次のとおりである。「区別なし」を×であらわす。

アクセント	紙と～髪と			雲と～蜘蛛と		
	○	△	×	○	△	×
札幌	38%	27	35	21	8	71
帯広	25	4	71	17	2	81
釧路	64	5	31	21	2	77
年齢0	50	17	33	33	0	67
年齢1	50	13	37	11	8	81
年齢2	42	11	47	22	3	75
男	47	7	46	17	5	78
女	40	18	42	24	1	75

調査地別に見ると、「雲と～蜘蛛と」のほうは、各地でだいたい同じであるが、「紙と～髪と」のほうは△の多い札幌はともかく、帯広と釧路との間にも相当の違いがある。すなわち、帯広では「区別なし」

(×)のほうが多く、釧路では「区別する」(○)のほうが多い。年齢別・性別には傾向らしいものは見られない。

東京で区別する他の4組でどうなっているかを見るために、○と×とについて集計してみよう。

アクセント	鼻と～花と		飴と～雨と		橋と～箸と		泡と～栗と	
	○	×	○	×	○	×	○	×
札幌	46%	29	52	31	71	17	31	58
帯広	56	44	50	50	56	37	17	81
釧路	52	39	70	26	82	15	18	77
年齢0	83	17	83	17	67	33	33	50
年齢1	60	29	60	31	76	21	23	68
年齢2	47	41	56	37	69	22	20	73
男	53	38	55	39	64	29	19	74
女	49	36	63	28	81	13	25	69

「泡と～栗と」で○が少ないのは、これがあまり使われない語、特に「栗」という語を含んでいるからであろう。「橋と～箸と」はどこでも、いちばん区別

するものが多い。しかし、これはいわば知識として習得したからではなかろうか。他の組でも、知識の反映と見られる例が調査中に多く聞けたのである。知識があれば、それをアクセントに反映させることができる人が半数以上あるのは、薄れているとは言っても、アクセント観念がやはりあることを示していると思う。

さて、「紙と～髪と」の○は、「泡と～粟と」を除いた他の3組の○と比較すると、まず少ないと言える（釧路の「鼻と～花と」は例外）。すなわち、東京方言における紙・髪の「区別なし」を多少反映しているのかとも考えられる。

年齢別に見たとき、「橋と～箸と」のような知識を反映するものを除くと、若い人ほど○が少なく、×が多くなっている傾向がうかがわれる。北海道方言のアクセントが無アクセントに向かいつつあることを、示すのであろう。

なお、参考のために1モーラ名詞について区別があるかないかの観点からまとめたものを次にかかげよう。

取り上げた調査語は「柄と（Ⅰ類）～絵と（Ⅲ類）」、「日と（Ⅱ類）～火と（Ⅲ類）」である。

アクセント	「柄と～絵と」			「日と～火と」			各地とも「日と～火と」のほうが、○が少ないことが共通している。これはどういうわけであろうか。釧路で最もよく区別しており、帯広が最も
	○	△	×	○	△	×	
札幌	63%	10	27	46	19	35	
帯広	46	0	54	33	13	54	
釧路	77	8	15	44	10	46	
年齢0	67	17	17	50	0	50	
年齢1	73	5	22	47	11	42	
年齢2	60	6	34	39	16	45	
男	65	4	31	38	15	47	
女	61	9	30	46	12	42	

も区別があいまいになっている。札幌はこの中間にある。この傾向は、前に述べたところでも大体あらわれていたことである。また○の率にも、1モーラ名詞と2モーラ名詞とで、そう大きな差はないようである。すなわち、2モーラ以下の名詞が不安定である、という、調査Ⅰで得た結論は、大体ここでもあてはまると思う。

年齢的に見ると、若いほうに区別しない傾向がわずかだが見えるようで、こ

れも 2 モーラ名詞について述べたこととだいたい一致している。

§ 4 まとめ

以上、調査Ⅱによって、都市部における第3世の言語の状態が明らかになった。北海道方言も決して単一なものではなくて、地域差が相当認められる、ということも明らかとなった。この点については、なお全道的に調査する必要を感じ、のちに調査Ⅴを計画した。

なお、同世代であっても、年齢の差によって、言語の状態、あるいは共通語化の程度が違うのではないかと考えられる。この点に焦点を置いて調査したのが、つぎに述べる調査Ⅲである。

また、集団移住地、すなわち、今なお集団移住者の子孫が住民の大多数を占める地域社会の第3世は、混住地の第3世とどのように違うか、どんな点に故地の言語を残しているか、などについても、ある程度の数について調査する必要がある。そして計画したのが、調査Ⅳである。

4. 世代の違いと年齢の違い

—調査Ⅲ(富良野調査)

§ 1 目的

この調査は、年齢層と世代のどちらが共通語化の要因としてきいているかを知ることを主目的とした。すなわち、調査Ⅰによって、第1世から第2世、さらに第2世から第3世へ移るに従って共通語化が進むことが明らかとなったので、つぎに同じ世代にあっても、年齢が違えば共通語化の程度が違つかどうか、違つたとすれば、年齢の差と世代の差のどちらが共通語化の要因としていっそうつよく働くかを知ろうとしたのである。

言うまでもないが、第2世および第3世の言語の実態を把握することも目的とした。特に第3世のそれは、調査Ⅱと比較すれば、調査地による差を見る資料となる。

§ 2 実施

以上の目的を達成するためには、調査地として、次のような条件にかなったところを選ぶのが適当である。すなわち、

- ① 北海道の内陸部の農業地帯にあること。これは調査Ⅰの結果と関連させるうえでも重要である。
- ② ある程度植民の歴史が古いこと。
- ③ 人口動態のあまり激しくないこと。以上②、③は、被調査者、特に第3世の被調査者をたやすく得るためである。
- ④ 差を数量的に見るために、被調査者を多く得られるところ。すなわち、少なくとも総人口2万程度の町であること。
- ⑤ 多くの町民に協力してもらえそうところ。まず町当局の強力な援助が期待できるところでなければならない。

以上のような条件を備えたところとしてあがった候補地のうちから、^{ソラチ}空知郡^{フラノチヨウ}富良野町(上川支庁^{カミカフ})を調査地として選んだ。富良野町は、人口28,747人(昭和33年)で、明治30年に初めて植民のあったところである。位置は、経緯度で

いえば、北海道のほぼ中央になる。

調査は次のような段取りで行なった。昭和34年8月4日。調査費用の点を考慮し、町別人口表によって、被調査者となる15歳以上の人口が約1万人になるように、町内のある区域を指定した。また調査票などの関係書類を配布する準備をした。8月5、6日。その1万人に、国立国語研究所第1研究部長名および町長名の依頼状を添えて、「社会調査票」を配った。各町内にいる町の嘱託員に一括して概数を配布し、嘱託員から、該当する15歳以上の男女に配る、という方法をとった。8月7～10日。嘱託員が各戸から調査票を集め、調査本部に届けた。8月8～13日。集まった調査票を整理集計した。作業には北海道立富良野高等学校の生徒の協力を受けた。8月13日。整理した調査票によって、面接調査の被調査者を200人選び出し、この被調査者に、国立国語研究所第1研究部長名の、訪問予定日を記入した依頼状を郵送した。8月14～21日。研究所側の調査員は、この間に「言語調査票」によって200人について面接調査を行なった。同時に「社会調査票」によって得られた3世代そろった家族について北海道側の調査員が面接調査を行なった。

配布した「社会調査票」は、本人についてたずねる部分と、家族についてたずねる部分とに分かれている。本人については、氏名・性別・生年・現住所・出生地・居住経歴・学歴について記入を求めた。家族については、父親・母親・父方の祖父・父方の祖母・母方の祖父・母方の祖母について、次のような形で記入を求めた。なお、この「社会調査票」のねらいは、主として、本人が北海道何世であるかを知ることにある。以下に示すのは父親の場合であるが、母親以下についても同じ形で記入を求めた。

父 親	1. 氏名	4. 出生地	都道 府県	郡市 区	町村	番地
	2. 明治・大正・昭和 年生	5. 居住経歴	0歳から	歳まで	都道 府県	郡市 区
	3. (○で囲む)		歳から	歳まで	町村	
	イ. 現住所は富良野町				〃	〃
	ロ. 現住所は富良野町以外		〃	〃	〃	〃
	ハ. 明治・大正・昭和 年に死去		〃	〃	〃	〃

「社会調査票」の回収状況を簡単に表示すれば次のようである。この種の調査の回収率としてはいいほうである。

	配布数	回収数	回収率
市街地	6,108人	4,298人	70.4%
郊 外	5,317	4,165	78.3
合 計	11,425	8,463	74.1

回収された調査票によって、次の条件を加味して、面接調査の被調査者200人を選んだ。すなわち、第何世か（できるだけ純粹の第2

世・第3世とする）、年齢（10代・30代を中心とする）、性、居住地（市街地か郊外か）などである。200人の内訳は次のようである。

○世代・年齢

10代第2世	50人	30代第2世	50人	第2世	100人
10代第3世	50	30代第3世	50	第3世	100
10代	100	30代	100	計	200

○性 男 100 ○居住地 市街地 114
女 100 郊 外 86

このほか、選択に当たっては考慮しなかったが学歴・職業などについては次のようになっている。

○学歴

小学校卒（小と略す）	21
高小・新中卒（中）	82
旧中・新高卒（高）	84
旧高・新大卒（大）	12
不明	1

○職業

事務的俸給生活者・自由業・公務員	35
商業的事業主	10
商業的労務者（商店員など）	13
工員・運転手・鉄道員	27
その他の労務者・日雇	4
農業	56
学生	26
主婦	25
なし	4

○居住経歴

富良野町以外で2年以上住んだことがない	169
北海道以外に2年以上住んだことがない	29
北海道以外に2年～9年間住んだ	2

§ 3 結果

1. 社会調査の結果

回収した社会調査票を集計したものは、付表2にまとめてあげる。これらの表は、直接ことばには関係しないことであるが、一般にこのような農村を背景に持つ都市（および住民）がどのような構造を持っているかを知ること、言語の変化の解釈にも役立つであろう。なお、集計対象は、回収数から、対象外

(14歳以下), 年齢や性別の不明な者などを除いた, 8,337である。

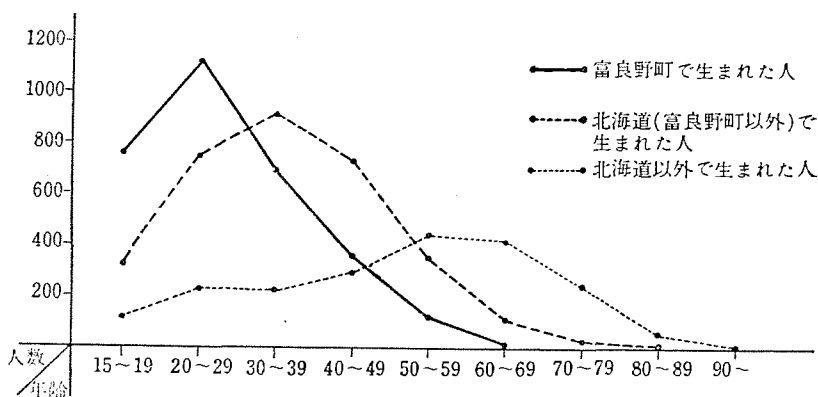
調査地区は富良野町のうち, 次の区域である。

- a. 1区～6区, 鉄道区, 製綿所区。
- b. 学田, 北・上・中・下・南御料, 上・中・下5区, 西・南・北扇山, 南・北大沼, 東・西鳥沼, 清水山, 富沢, 沼内。

aは市街地。以下の集計では, 必要に応じては「町」と略記する。bは農林的地域。同じく「村」と略記する。

集計表から読み取れることで, ことばにやや関係のあることについて説明しよう。

まず, 出生地別に分けると, 下の表のように, 年齢の高くなるにつれて, 富良野町で生まれた人が少なくなり, 北海道以外で生まれた人が多くなる。富良野町以外の北海道で生まれた人はその中間である。この程度の規模と古さを持つ地点での住民構成は大体このようなものであろう。



出身県別に見て, 多いのは, 宮城県167, 青森県163, 富山県157, 秋田県137, 福島県133, 山形県114で, 少ないのは, 高知県・長崎県・宮崎県各2, 鹿児島県・島根県各3, 千葉県・京都府各4である。ひとりもない府県はない。なお, 中部473のうち, 北陸3県で256を占めている。

父親の出身県別に見た場合は, 多いのは, 富山県491, 宮城県280, 青森県256, 福島県230, 少ないのは, 長崎県・宮崎県各2, 神奈川県・大阪府各3である。母親の方は, 多いのは, 富山県361, 宮城県260, 福島県222, 青森県209,

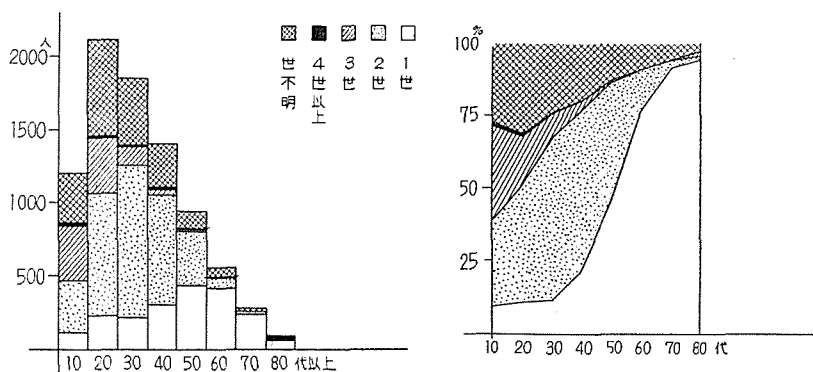
少ないのは、長崎県・宮崎県・鹿児島県各1，神奈川県・島根県各2である。ともに、ひとりもない府県は一つもない。

本人の出身地に比べて、中部（すなわち北陸）の比重が大きくなっていることが注目される。本人の場合でも、中部は高年齢のところが多かった。富良野の植民史では、まず、北陸からの移住が多く、ついで東北からの移住が多くなったことがうかがわれる。

次に、父方の祖父の出身地を見ると、少ないのは関東各都県である。多いのは富山県161，福井県80，新潟県53，鳥取県49，徳島県48などである。注意すべきことは、鳥取・徳島両県が本人および父親ではそれほど目立たないのに、祖父のところで多いことである。この両県の富良野への植民の古さを物語る。しかし、後続する者は少なかったわけである。

父系3世代を合わせたところでは、出身者の多い県は順に富山県809，宮城県491，青森県446，福島県393，秋田県339，新潟県330となり，逆に少ない県は，宮崎県・長崎県各4，鹿児島県9，神奈川県11，千葉県・島根県各12となっている。

以上のような出生地調査によって，本人が北海道何世であるかが決定される。その結果を図示すると，次のようになる。



次に，本人の居住経歴について，

富良野以外で2年以上住んだことがない者

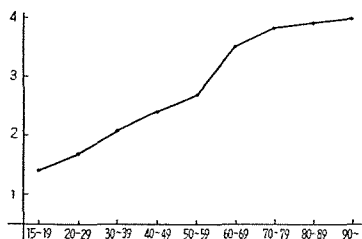
1点

北海道以外に2年以上住んだことがない者	2点
北海道以外に2年～9年間住んだ者	3点
北海道以外に10年以上住んだ者	4点

のように点数を与えて、年齢別に平均点を出すと次の表のようになる。ただし、「不明」は除く。点の高いほどよその土地にいたことを示すわけである。

	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～89	90～	計
男	1.45	1.65	2.24	2.46	2.80	3.52	3.87	3.82		2.23
女	1.47	1.83	1.98	2.31	2.76	3.50	3.70	3.87	4.00	2.16
計	1.46	1.75	2.11	2.38	2.78	3.51	3.78	3.85	4.00	2.20

男女の計を図に示すと、次のようになる。



2. 言語調査の結果

1) 語彙について

「言語調査」では語彙については、調査Ⅱを参考として、25問提出している。

なお、関連質問がほかに10問ある。次に、簡単にこれをあげる。問の番号の右上に*のついているのは関連質問である。また、調査Ⅱの結果を述べたところに問題文の出ているものは、Ⅱとしてその問の番号をあげてある。

101 ジャガイモ。101*「いも」といったら何を指すか。102 (=Ⅱ114) キャベツ。103 トーモロコシ。103* 種類によって名に区別があるか。104 (=Ⅱ115) サケ。104*「ホッチャレ」を使うか。105 (=Ⅱ111) ストープ。105* (=Ⅱ112) ヒカキボー。106 (=Ⅱ113) ハイ。106* たばこの場合は？ 107 冬ひどく寒いことを？ 107* 池の水が氷になることを？ 107** ぬれた手るぐいがカチカチになることを？ 108 冷たいことを「ヒャッコイ」「シャッコイ」というか。109 (=Ⅱ110)「手に手袋を～」それから？ 110 (=Ⅱ119)「コワイ」を疲れたという意味で使うか。110* 楽でない、苦労だ、の意味で「ユルクナイ」を使うか。111 かわいいという意味で「メンコイ」を使うか。111* 人間についても使うか。112 (=Ⅱ107) シアサッテ。113 (=Ⅱ108) ヤノアサッテ。114 (=Ⅱ101) イクラ。115 コンバンワ。116 一生懸命になるという意味で「ハッ

チャキニナル」「ハッチャキコク」を使うか。117 持ち上げる, 運ぶ, という意味で「タナク」「タガク」を使うか。117* その発音は? 118 腐るという意味で「アメル」を使うか。119 加える, 仲間に入れるという意味で「カテル」を使うか。120 とりかえる, 交換する, という意味で「バクル」を使うか。121 ひっかくという意味で「カッチャク」を使うか。122 (=Ⅱ109)「アメユキ」「アマユキ」を使うか。123 乞食の意味で「ホイト」を使うか。124 ナンデモアルの反対は? 125 ソーダヨの反対は?

以上のうち, 次の20問について, ローマ字などで示したと同じ反応があったとき1点を与え, これらを「使った」, 「少し使う」とき0.5点を与える。これらの反応形は, 北海道方言と考えられるもの(言われてきたもの)であるから, 点の多いほど北海道的と考えることもできるわけである。

101 gosyoimo, nidoimo. 102 kaibetu, kyaibetu. 103 tókibi, t'kimi. 104 akiazi. 105 sutôhu. 106 aku. 107 sibareru. 108 hyakkoi, syakkoi. 109 haku. 110*使う。111 使う。114 nanbo. 116 使う。117 使う。なお, tannaku も。118 使う。119 使う。なお, kazeru も。120使う。121 使う。122 使う。123 使う。

結果は次の表のとおりである。

	人数	平均	分散	有意差	これによると、 年齢層では30代、 世代では第2世の ほうが北海道的で あるが、有意差は ない。有意差はな いものの、年齢・世 代ともさがるにつ れて北海道的色彩 が薄れる、つまり、 全国共通語的にな る、という傾向を
全	200	14.51	10.04		
10代	100	14.17	8.35		
30代	100	14.96	13.95		
2世	100	14.99	10.36		
3世	100	14.03	8.27		
10代 2世	50	14.71	9.59	10代3世**30代2世	
10代 3世	50	13.62	6.66		
30代 2世	50	15.28	6.84		
30代 3世	50	14.43	8.14		
男	100	14.77	6.79		
女	100	14.25	8.73		
居住地 市街地	114	14.32	9.24		
郊外	86	14.75	7.89		

居住経歴	1 点	169	14.56	8.79				示しているようである。したがって、この年齢と世代とを組み合わせるとき、10代3世と30代2世との間には有意差が生じる（一番右の「有意差」の欄で、*
	2 点	29	14.05	11.50				
学歴	小学校(小)	21	15.48	4.53	小	*	高	
	高小新中(中)	82	15.21	7.92	小	*	大	
	旧中新高(高)	84	13.89	14.31	中	*	高	
	旧高新大(大)	12	12.20	14.01	中	*	大	
職業	俸給生活者	35	13.88	7.44	俸給 * 工員			
	工 員	27	15.44	7.30				
	農 業	56	14.82	7.20				
	学 生	26	14.25	6.76				
	主 婦	25	14.06	9.36				

の二つあるのは1%以下の危険率で、*の一つあるのは5%以下の危険率でそれぞれ有意差のあるものである。以下も同じ）。

性・居住地・居住経歴では、それぞれ常識的な結果が出ているが、有意差はない。なお、居住経歴で1点、2点とあるのは、上の社会調査のところで、それぞれ1点、2点を与えた項目である。

学歴でも、高いほうが北海道的でない、という結果で、常識的である。表の「有意差」のところを見ると、中と高との間に断層のあることがわかる。中はいわば義務教育的な教育程度の上限であるから、この点もうなづけるところである。

職業についても、人数の少ないものは省略したが、まずは常識的な結果といえるであろう。

ところで、「北海道的」ということばは、これまでは、北海道方言といわれてきたものかどうかという観点から決めていたが、なお、現在北海道でもっとも多く使われているものかどうかという観点から決めることもできる。この後者の観点から、もう一回計算してみよう。

各問の多数反応形（以下「多数形」と略称）が何であるかを調べて、多数形が比較的是っきりしていて、集計に都合のいい次の20問での多数形をとったとき1点を与えた。多数形が具体的に何であったかについては、後に述べる。20問とは、101, 104, 106, 107*, 107**, 108, 110, 110*, 111, 114, 116, 117, 118, 119, 120, 121, 122, 123, 124, 125である。

結果は次のとおりである。

	人数	平均	分散	有意差
全	200	15.1	11.10	
10代	100	15.0	10.68	
30代	100	15.3	8.44	
2世	100	15.7	10.50	3世*2世
3世	100	14.6	8.06	
10代 2世	50	15.7	10.35	10代3世*30代2世 10代3世*10代2世
10代 3世	50	14.3	10.03	
30代 2世	50	15.8	7.50	
30代 3世	50	14.8	8.88	
男	100	15.6	8.26	女*男
女	100	14.7	10.50	
居住地 市	114	14.9	10.81	
郊外	86	15.4	10.27	
居住経歴 1点	169	15.3	10.30	
2点	29	14.2	13.43	
3点	2	15.0	4.00	
学歴 小	21	15.9	5.76	高*小 高**中 高大**高 大大**中 大大**小
中	82	16.1	5.58	
高	84	14.6	8.10	
大	12	11.8	13.76	
職業 俸給生活者	35	14.3	8.25	
工員	27	16.2	4.56	
農業	56	15.2	13.30	俸給*工員
学生	26	15.5	9.29	
主婦	25	14.8	10.04	

この表を見ると、前の表と同じ傾向である。しかし、これは107*を除いて、すべて、これまで北海道方言といわれてきたものであることから見ても、当然といえるであろう。ともあれ、二つの表とも、年齢層よりも、世代のほうが大きい差を出している。

先に述べた、2世のほうが「北海道的」であるという結論は、調査Ⅰの、3世になれば北海道共通語が確立する、とした結

論と矛盾するように見える。しかし、これは、調査Ⅰでは故地の言語を手がかりに世代を比較したのに対し、調査Ⅲでは、東北以外の故地の言語があらわれるような調査票を用いなかったためであろう。すなわち調査Ⅲでは、2世に残っているはずの故地の言語が表面にあらわれてこなかったと見られるのである。また、調査Ⅰ、Ⅱで、3世で確立するとした「北海道共通語」も非常に全国共通語的な性格のものであったから、3世は共通語化する、と一面からはいえる、

調査Ⅲの結果と別に矛盾するものではない、といってよからう。

なお、富良野の多数形(%で示す)が何であったかを表示してみよう。°じ
るしのは、上に多数形による集計のとき使ったものである。年齢別・世代
別に多数形を見ると、語によっていろいろの傾向があることがわかる。

なお、二番目にあげた表は、多数形でない語形で参考になると思われるもの
である。

	問	全	10 代 2 世	10 代 3 世	30 代 2 世	30 代 3 世
°	101	goyoimo 64%	// 66	// 50	// 72	// 68
	101*	zyagaimo 99.5	// 100	// 100	// 100	// 98
	102	kyabetu 86.5	// 96	// 94	// 78	// 78
	103	tókibi 96	// 96	// 100	// 88	// 100
°	104	akiazi 94	// 94	// 86	// 96	// 100
	104*	hottiyare 知ら ない 41	// 44	// 54	知ってい る 38	// 34
	105	sutôbu 91.5	// 94	// 94	// 86	// 92
	105*	derekki 71.5	// 60	// 82	// 68	// 76
°	106	aku 82	// 78	// 84	// 86	// 80
	106*	haiなど 88	// 90	// 88	// 90	// 84
	107	sibareru 97	// 96	// 94	// 100	// 98
°	107*	kôru 78.5	// 82	// 80	// 76	// 74
°	107**	sibareru 88.5	// 90	// 76	// 94	// 94
°	108	syakkoi 43	// 48	// 56	// 44	hyakkoi 44
	109	haku 97	// 98	// 96	// 96	// 98
°	110	kowai 95.5	// 96	// 92	// 96	// 98
°	110*	yurukunai 60.5	// 70	// 44	// 72	// 56
°	111	menkoi 90	// 84	// 86	// 98	// 92
	111*	menkoi 84	// 82	// 76	// 96	// 82
	112	siasatteなど 54	// 58	// 52	// 44	// 62
	113	yanaasatte など 34	// 34	// 30	// 38	// 34

101 でゴシヨイモ
というのは30代に多
く、世代よりも年齢
が要因としてきいて
いる。

102 でキャベツと
いう言いかたは、年
齢のほうがかいてい
て、10代に多い。逆
に、カイベツという
方言形は30代に多
い。

104*のホッチャレ
も同様で、10代は
「知らない」が多数形
であるが、30代では
「知っている」が多数
形となる。

105*のデレッキは
世代の方がきいてい
て、3世の方が使う
ことが多い。これに
対して、デレキは2

○	114	nanbo 77.5	ikura 80	ikura nanbo 76	nanbo 80	ikura nanbo 78
	115	oban 96	// 94	// 92	// 100	// 98
○	116	hattyaki 72	// 72	// 80	// 68	// 68
○	117	tagaku 43	// 40	// 38	// 50	// 44
○	118	ameru 67.5	// 76	// 46	// 82	// 66
○	119	kateruなど 52.5	// 64	// 66	// 44	// 32
○	120	bakuru 93.5	// 96	// 94	// 94	// 90
○	121	kattyaku 88.5	// 88	// 88	// 88	// 90
○	122	ameyukiなど 45	// 48	// 42	// 50	// 40
○	123	hoitoなど 64.5	// 66	// 58	// 68	// 66
○	124	nanmo~ 77.5	// 82	// 76	// 80	// 72
○	125	s de~ 88	// 94	// 76	// 88	// 94

世に比較的多い。デ
レッキよりもデレキ
の方が古いと考えら
れる。

107*の池の水がコ
ールは、年齢がきい
ており、10代に多
い。といって、多数
形でないものとして
のシバレルに一定の
傾向があるわけでは
ない。

110*のユルクナイ
は、世代がきいてい
て、2世に多く使わ
れる。しかし、3世
もこの語は少なくと
も耳にする者は多い
のであるから理解語
彙ではあるわけであ
る。「聞く」という
ものも加えると、ほ
とんどすべて同じと
なる。

111 のメンコイは
年齢がきいていて、
30代に多い。

112 では、シアサ

	問	全	10 代 2 世	10 代 3 世	30 代 2 世	30 代 3 世
	102	kaibetu% 43.5	44	30	48	52
	103	tôkimi 4.5	6	0	8	4
	105*	dereki 16.5	24	10	20	12
	106	hai 66	70	70	56	68
	106*	aku 5	6	2	4	8
	107*	sibareru 61	64	52	62	66
	108	hyakkoi 38	40	30	38	syakkoi 24
	110*	yurukunai聞 く 33	24	48	22	38
	112	yanaasatteな ど 41.5	52	42	40	32
	113	知らない 38.5	34	52	26	42
	114	ikura 76.5	(80)	(76)	72	(78)
	117	tanaku 19	24	18	18	16
	119	kateruなど使 った 41.5	34	32	42	58

ッテとヤナアサッテとが混乱しているようである。共通語形としてはシアサッ

テであるが、これをヤナアサツテというのは、3世よりも2世に多いようである。なお、これとはやや逆の方向ではあるが、ヤナアサツテは30代よりも10代のほうが多い。

113 をヤナアサツテと言うものは年齢・世代でそう変わってはいないけれども、このヤナアサツテを知らないのが、3世に多いのはおもしろい。

116 のハッチャキも年齢であるが、これはむしろ10代のほうが多い。

117 のタガクは30代・2世のほうが多いが、これはそれほど大きな差というほどではないようだ。

118 アメルは世代の方がどちらかというときいており、2世のほうが多い。

119 は年齢のほうで、10代のほうが多いが、これは、この語が遊びの場面で多く使われるからであろう。「使った」という者を加えても、10代のほうがやや多い傾向がある。

122 アメユキなどは世代で、2世のほうが多い。

124 にナンモがあらわれるのも122と同じ傾向である。

以上を総合すると、年齢のほうがかきいているのは、101, 102, 104*, 107*, 111, 116, 119の7項目であり、世代のほうがかきいているのは、105*, 110*, 112, 113, 118, 122, 124のやはり同じ7項目である。つまり、全体としてどっちがかきいているということではなく、語によって違うということになる。この問題が、複雑な様相を示すゆえんである。しかも、たとえば年齢なら、30代のほうが方言的とは言い切れない(101, 116, 119など)ことが、さらに問題を複雑にしており、北海道方言の、他方言と違う特色を見せている。

全体として年齢がかきいているか、世代がかきいているかについては、語彙についてのはじめの二つの表から見ると、世代のほうがかきいているとはいえるわけである。

以上を総合してみよう。

まず、世代がきくもので、3世のほうが多いものは、デレッキなどである。これは、今までの結論から推理すれば、北海道で新しく広がりはじめた語ではなからうかと思われる。東北に基盤を持つとしても、東北の比較的狭い地域の語であろう。ハッチャキ……なども、年齢のほうがかきいてはいるが、多少3世

のほうが多いとも思われる。

これに対して、2世のほうが多い語、ユルクナイ、ヤナアサッテ（しあさっての意味の）、タガク、アメル、アメユキ、ナンモなどは、東北的語彙かも知れない。この点については、東北で調査して検証する必要がある。

次に、年齢がきくものでは、10代が多いのは、まず、キャベツ、コールのように東京語と同じものである。いってみれば、年齢の若くなるにつれて、東京語的に、わずかながらなっていく面もあるわけである。また、ハッチャキとかカテルのように、遊びのとき使うと思われるものには、10代に多いものがある。

逆に30代のほうが多かったのは、ゴショイモ、カイベツ、ホッチャレ、メンコイなどである。

ゴショイモ、カイベツは東北に起源を有するが、それほど東北で有力ではない方言形である。北海道に古く渡って、この地で大きな勢力を得たものである。ホッチャレは、近年鮭が川に上がってこなくなったからであろう、30代は「知っている」が多数形なのに、10代は「知らない」が多数形である。

メンコイは、東北方言形として有名であるから、世代のほうがいいて、2世のほうに多くなりそうなのに、年齢のほうがいいているのは、あまり方言形として有名なので、方言をきらう若い層で少なくなったのでであろう。メンコイは人間についても言いうるかということを次に質問している。はじめに使うと言った人から、人間にも使うと言った人を引くと、使いかたに区別をつけている人の数が出る。その％は、全体で6％、10代2世と30代2世とがそれぞれ2％、10代3世と30代3世とがそれぞれ10％であった。すなわち、2世のほうが区別なしに使う人が比較的多い。これは2世のほうが東北的であるという原則にかなうものである。

以上のことから、次のことが概略言えるであろう。すなわち、北海道語彙には、第1次と第2次との2種がある。

第1次北海道語彙は、東北方言基盤のもの、あるいは北海道で古く生まれたもので、これは世代が下がるにしたがって薄くなっていく。

第2次北海道語彙は、北海道独特の風物につけられた名、および北海道で生

まれた語彙の一部で、これは今のところ世代が下がるにしたがって多く使われるようになっていく。さらに、年齢の若くなるにしたがって東京語的となる。これは幾分、世代ともからみ合うから、第2次北海道語彙には東京語的なかおりのする部分もある。

2) 文法について

文法については富良野では21問聞いている。調査Ⅱでは、活用表を埋めるという形で質問していたのであるが、ここでは質問文によることとした。

質問文を全部あげるのは長くなるから、番号と簡単な説明だけに と どもえよう。

201.「書カナイ」202.「書カナイ ッケナンナイ」「書カナキヤナラナイ」「書カネバナラナイ」どの言いかたをするか。203.「書カサラナイ」（書けないの意）を使うか。204.「書ク（ン）ナラ」「書ク（ン）ダラ」どっちを使うか。205.「書クダロウ」「書クベ」親しい人にはどっちを使うか。206.「起キナイ」207.「起キヨウ」「起キルベ」親しい人にはどっちを使うか。208.「起キレナイ」「起キラレナイ」「起キランナイ」どう言うか。209.「起キロ」「起キレ」「起キイ」どう言うか。210.「行クベ」「行コウ」親しい人にはどっちを使うか。211.「見レナイ」「見ラレナイ」「見ランナイ」どう言うか。212.「見ロ」「見レ」「見イ」どう言うか。213.「勉強スレバ」「勉強シレバ」「勉強スリャア」「勉強シリャア」どう言うか。214.「勉強セイ」「勉強シロ」「勉強シレ」「勉強スレ」どう言うか。215.「コレバ」「クレバ」「コイバ」「クリャア」どう言うか。216.「持ッテコサス」「持ッテコサセル」「持ッテコラス」「持ッテコラセル」どう言うか。217.「笑ワサッタ」（我慢しても笑ってしまったの意）を使うか。218.「新シイ魚ダラ」「新シイ魚ナラ」「新シイ魚ダバ」どう言うか。219.「新シイダロウ」「新シイベ」親しい人にはどっちを使うか。220.「食ベラセヨウ」「食ベサセヨウ」「食ベラソウ」「食ベサソウ」どう言うか。221.「高イナラ」「高イバ」「高イダラ」どう言うか。

以上のうち、次の16問について、ローマ字などで示したのと同じ反応があったとき1点、これを「少し使う」「使った」のとき0.5点を与えて計算した結果を次に示す。これらの反応形は、北海道方言と考えられるもの（いわれてきた

もの)であるから、点の多いほど北海道的ということになる。

203. 使う。204. kakudara, kakundara. 205. kakube, kakubesa. 207. okirube. 208. okirenai, okiren, okirene. 209. okire. 210. ikube, ikubeya, ikubesa. 211. mirenai, miren, mirenwa. 212. mire. 213. sireba, seba, sēba. 214. sire, sure. 215. koiba, koeba, koreba. 217. 使う。218. ~dara, ~daba. 219. atarasiibe, atarasiibesa. 221. takaidara, takaidara, takaiba.

なお、分布は、1点から15.5点に及んでいる。

	人数	平均	分散	有意差
全	200	7.68	12.72	
10代	100	8.05	12.84	10代 * 30代
30代	100	7.34	12.80	
2世	100	8.24	9.20	2世 * 3世
3世	100	7.25	12.59	
10代 2世	50	8.31	10.22	10代2世 * 30代3世
10代 3世	50	7.63	17.39	
30代 2世	50	8.01	14.02	
30代 3世	50	6.68	9.99	
男	100	10.13	9.90	男 ** 女
女	100	5.25	4.23	
居住地 市	114	8.36	6.16	
郊外	86	8.17	14.44	
居住経歴 1点	169	7.73	13.29	
2点	29	7.52	11.10	
学歴 小学校(小)	21	6.74	8.57	高 * 大 中 * 大
高小・新中(中)	82	8.05	14.87	
旧中・新高(高)	84	7.69	13.92	
旧高・新大(大)	12	6.04	4.45	
職業 俸給生活者	35	8.09	12.96	俸給**主婦 工員**主婦 農業**主婦 学生**主婦
工員	27	8.87	10.57	
農業	56	7.83	13.88	
学生	26	8.40	10.14	
主婦	25	5.08	3.99	

2世のほうが北海道的という点では語彙の結果と同様であるが、年齢的に見たとき、10代のほうが北海道的である点が語彙の結果と逆である。これは、「書くべ」のような方言形が、社会人が比較的多い30代で出にくかったためと思われる。

一番大きな差があらわれたのは性である。これも、上と同じく「べ」のつくことが女性では特に少ないところからきている。

のであろう。職業で主婦だけが差が出たのも、これとまったく同じ理由によるものと思われる。

語彙のところで述べたのと平行して、多数形を使つての集計を次にあげよう。

集計に使つたのは次の15問である。202, 203, 204, 206, 207, 208, 209, 211, 212, 213, 215, 216, 217, 220, 221。

	人数	平均	分散	有意差
全	200	10.3	4.54	
10代	100	10.5	2.02	
30代	100	10.1	4.33	
2世	100	10.5	3.23	
3世	100	10.2	1.77	
10代 2世	50	10.6	7.98	
10代 3世	50	10.2	5.44	
30代 2世	50	10.2	2.58	
30代 3世	50	10.1	3.65	
男	100	10.6	4.40	
女	100	10.0	4.49	
居住地 市	114	10.4	2.84	
郊外	86	10.3	4.04	
居住経歴 1点	169	10.4	4.69	
2点	29	9.8	4.48	
3点	2	9.0	1.00	
学歴 小	21	10.3	3.05	
中	82	10.4	4.31	
高	84	10.3	3.15	
大	12	10.4	2.92	
職業 俸給	35	10.0	2.54	
工員	27	10.2	13.55	
農業	56	10.1	9.20	
学生	26	10.8	3.98	
主婦	25	10.0	4.08	

前の表と比べて著しく違う点は、差が極めて少なく、有意の差はまったく見られないということである。この原因は、「べ」のつく205, 210がこの集計では省かれ、わずかに、207の「起きるべ」だけが残されたことに主としてあるのではないかと思われる。いずれにしろ、文法の多数形という見地からは、「べ」を除けば、富良野は相当均一的であるわけである。

このことは、次に掲げる多数形の表からもうかがわれるところである。

問	全	10 代 2 世	10 代 3 世	30 代 2 世	30 代 3 世
201	kakanaiなど 92.5 %	// 96	// 94	// 86	// 90
○ 202	kakan(a)kya 82.5	// 88	// 76	// 82	// 84
○ 203	kakasaranai 77	// 76	// 76	// 80	// 76
○ 204	kakunara 70.5	// 70	// 76	// 64	// 72
205	kakudarō 52.5	// 54	kakube 48	kakuda- rō 50	// 68
○ 206	okinai 95	// 96	// 98	// 98	// 88
○ 207	okiyō 62.5	// 60	// 56	// 62	// 72
○ 208	okirenai 68.5	// 60	// 74	// 68	// 72
○ 209	okire 56.5	// 60	// 56	// 62	// 48
210	ikō 61.5	// 56	// 66	// 60	// 64
○ 211	mirenai 67.5	// 78	// 68	// 62	// 62
○ 212	mire 49	// 60	// 48	// 50	// 38
○ 213	sureba 69	// 68	// 66	// 64	// 78
214	sire 27.5	// 38	// 20	sei 30	sire 26
○ 215	koiba, koeba 77	// 86	// 68	// 78	// 76
○ 216	koraseru 40	// 42	// 40	// 46	kosase- ru 38
○ 217	warawasatta 93.5	// 98	// 94	// 90	// 92
218	atarasiinara 71.5	// 82	// 72	// 58	// 74
219	atarasiidarō 35	// 40	atarasii- be 36	// 32	atarasi- idarō 50
○ 220	tabesaseyō 43.5	// 44	// 48	tabesasō 46	tabesa- seyō 44
○ 221	takainara 81	// 80	// 84	// 78	// 82

201 で「書かない」と「ない」を使うのは年齢の方がわずかにきいており、10代の方が多いようである。しかし、あまり大きな差ではない。

204 は「書くなら」が多数形である。これはむしろ世代であって、3世のほうが多い。しかし、これも差は微々たるものである。

209 の「起きれ」、212 の「見れ」という命令形は2世のほうが多い。これは代表的な北海道方言と考えられているが、世代が下がるにつれて少なくなる傾向にあるらしい。ただし、

214 の「しれ」という命令形では以上の傾向は見られなかった。

211 の「見れない」は年代がきいていて、10代が多いが、同じものと見られる8の「起きれない」にはこの傾向はないから、これは偶然かもしれない。

215 の「くれば」に対して、コイバで反応するか、コエバで反応するかについて、年齢および世代で差があるようである。

10代と2世にコイバが多い。特に、10代はコイバに傾いているようであ

	コイバ	コエバ
10代	54	23
30代	39	38
2世	54	28
3世	39	33

る。

216 では、30代3世だけが多数形コサセルであるが、コラセルは32%である。

目立つ点は以上のようなであるが、全体にわたってそれほど大きな差の見られないところ

に、文法の反応の均一性が見られる。

なお、多数形以外で参考になると思われる反応形を次にあげる。

問	全	10代 2世	10代 3世	30代 2世	30代 3世
205	kakube 38%	// 42	kakuda- rô 38	kakube 40	// 22
207	okirube 39	// 46	// 42	// 36	// 32
210	ikube 35	// 40	// 40	// 34	// 26
213	sireba 26,5	// 30	// 36	// 26	// 14
214	sei 20,5	// 20	// 14	sire 26	sei 18
219	atarasiibe 30	// 38	atarasi- idarô30	// 20	atarasii- be 14
220	tabesasô 39	// 40	// 28	tabesa- seyô 38	tabesasô 42

205, 207, 210の「べ」

のついた形、213の「し

れば」の形が、いずれ

も10代のほうに片寄っ

ていることは注意すべ

き現象である。219の

「新しいべ」について

も、前の表と合わせて

考えると、上に述べた

ことが言えるようである。

3) 音声について

音声については、次の10問（各問2語）を質問した。

401 イとエとの区別—息・駅、402 シとスとの区別—煤・寿司、403 チとツとの区別—月・土、404 ジとズとの区別—知事・地図、405 語中のkが有声化するか—茎・釘、406 語中のtが有声化するか—的・窓、407 母音の無声化があるか—北・ロ、408 語中でgかqか—中学・道具、409 ヒとシの混同—火箸・膝、410 シュの音—手術・主人。

これについて、各問に次のような点を与えたところ、次の表のようになった。2語とも index 通りであれば0点、2語とも index 通りでなければ1点、1語だけ index 通りであれば0.5点とする。×は不明である。数字は実数である。総数200であるから、%はこの実数の半分である。

この表で、一番上の401 から、409 までの8問について、0点を取った者と

問	index	0	0.5	1	×
401	iとeとの区別なし	3	21	176	
402	siとsuとの区別なし		12	188	
403	ciとcuとの区別なし		5	194	1
404	ziとzuとの区別なし	1	3	195	1
405	kukiの第2のkに有声化あり		3	196	1
406	matoのtに有声化あり	2	4	192	2
407	「北」「口」の第1母音の無声化なし	8	5	187	
409	〔çi〕と〔ji〕との区別なし	2	6	192	
405	「釘」の第2子音の鼻音化なし	140	20	28	12
408	「中学」の第2子音の鼻音化なし	163	11	26	
	「道具」の第2子音の鼻音化なし	161	17	22	
410	「手術」の第1音節が〔ji〕。(反対は〔ɰ〕)	65	2	130	その他3*
	「主人」の第1音節が〔ji〕。(反対は〔ɰ〕)	8	4	188	
410	「手術」の第2音節〔ɰ〕 41, 〔zu〕 77, 〔çi〕 44, 〔ri〕 5, 〔re〕 1, 第1音節と融合 2, × 30 「主人」の第2音節 〔çi〕 137, 〔ɰ〕 2, × 61 *〔ɰ〕 1, 第2音節と融合して〔ji〕となるもの2。				

0.5点を取った者とを合わせて集計すると、次の表ようになる。

		401	402	403	404	405	406	407	409	計
年 齢	10代	11	4	0	0	0	3	5	4	27
	30代	13	8	5	4	3	3	8	4	48
世 代	2世	17	8	3	2	2	5	7	5	49
	3世	7	4	2	2	1	1	6	3	26
性	男	15	5	2	1	1	3	7	4	38
	女	9	7	3	3	2	3	6	4	37
居住地	市街地	14	8	2	2	0	4	9	6	45
	郊 外	10	4	3	2	3	2	4	2	30
居住経歴	1	21	12	5	4	3	5	11	6	67
	2	3	0	0	0	0	1	2	2	8

この表によると、年齢では30代、世代では2世が東北的特色を強く持っていることがわかる。すなわち、この2つの観点からいうと古い層ということになる。

性については差が見られなかった。居住地・居住経歴では差がありそうに見えるが、それぞれの総数が少し違うから、これだけでははっきりわからない。そこで、いろいろな要因別に、そこに属する人が平均何回このような東北的発音をしたかを次に表示しよう。全数で、4回2人、3回3人、2回13人、1回

	人数	平均	分散	有意差
全	200	0.38	0.57	
10代	100	0.27	0.72	10代*30代
30代	100	0.48	0.71	
2世	100	0.49	0.73	3世*2世
3世	100	0.26	0.39	
10代 3世	50	0.16	0.17	30代2世**10代3世
10代 2世	50	0.38	0.64	
30代 3世	50	0.36	0.59	
30代 2世	50	0.60	0.80	
男	100	0.38	0.54	
女	100	0.37	0.61	
居住地 市街地	114	0.39	0.58	
郊外	86	0.35	0.58	
居住経歴 1	169	0.40	0.59	
2	29	0.28	0.51	
学歴 小	21	0.81	1.20	大*小
中	82	0.40	0.61	大*中
高	84	0.29	0.40	大*高
大	12	0.08	0.07	高*小
職業 俸給生活者	35	0.34	0.62	学生**工員
工員	27	0.56	0.62	学生*主婦
農業	56	0.36	0.48	学生*農業
学生	26	0.08	0.07	
主婦	25	0.64	1.27	

32人、あとの150人は0回である。

この表の結果によれば、年齢・世代・性については、まったく前に述べたことと同じであるといえる。居住地は差がないことは明らかとなったが、居住経歴にはやや差が出た（しかし、有意差ではない）。学歴は低いほど、東北的という理論的な結果が出ている。

職業では、学生が最も東北的でないようである。これも若い世代が多い

からであろう。

次に、問405、408の鼻音化の問題（gかŋか）について、上と同じ方法によって計算すると次の表ようになる。

有意差はないものの、30代のほうが10代より鼻音化している点、2世より3世

	人数	平均点	分散	有意差
全	188	0.53	0.9146	
10代	95	0.49	0.8740	
30代	93	0.57	0.9546	
2世	96	0.69	1.2436	2世 * 3世
3世	92	0.36	0.6528	
10代 2世	48	0.77	1.2571	10代2世**10代3世 10代2世*30代2世 10代2世*30代3世
10代 3世	47	0.20	0.0408	
30代 2世	48	0.60	0.9574	
30代 3世	45	0.53	0.7714	
男	94	0.69	1.1196	男 * 女
女	94	0.37	0.6605	
居住地 市街	110	0.527	0.8681	
郊外	78	0.532	0.9659	
居住経歴 (1)	161	0.48	0.8269	
(2)	26	0.79	1.3662	
学歴 小学校(小)	20	0.90	1.2150	
高小・新中(中)	75	0.55	0.9841	
旧中・新高(高)	80	0.38	0.6600	
旧高・新大(大)	12	0.88	1.2220	
職業 俸給生活者	34	0.41	0.6554	
工員	25	0.54	1.0400	
農業	52	0.45	0.8023	
学生	25	0.26	0.5624	
主婦	22	0.48	0.6900	

のほうが有意差をもって鼻音化していない点から、北海道方言は除々に〔ŋ〕を失いつつあることが推定される。10代であっても2世は〔ŋ〕の率が高いのは、移住して比較的間のない両親からの影響ではないかと考えられる。

男性のほうが女性より〔ŋ〕の多いのは何に原因しているかはっきりしない。

410 の 2 語を比較すると、まず、第 1 音節では、

「手術」のほうが「主人」よりも〔ʃi〕になりやすいという傾向を持っている。61ページ上の表で、0点と0.5点で示した計67人（つまり、〔ʃi〕と言う人、および言う傾向のある人）について、社会的要因を調べると、次のようである。

	人数
10代	28
30代	39
2世	37
3世	30

30代、2世という古い層のほうが、〔ʃi〕の出る率が高いといえるようである。

性別では、男性のほうが〔ʃi〕ということが多いが理由はわからない。

10代 2世	16
10代 3世	12
30代 2世	21
30代 3世	18
男	43
女	24
居住地 市街	36 (31.5%)
居住地 郊外	31 (36.0%)
小	5 (23.8%)
学 中	38 (46.3%)
高	23 (27.4%)
歴 大	0 (0.0%)
不明	1

居住地では、郊外のほうが〔ji〕という率が高いようである。

学歴の点では、一定の傾向はないようである。「小」を除くと学歴の高いほど〔ji〕といういわばなまりの音が少なくなるようであるが、「小」のところで狂っているので、偶然のことかも知れない。

なお、「手術」の第2音節を、リまたはレという者6人のうち、5人までは学田に住んでいることはおもしろい（他の1人は大沼）。すなわち、新しい傾向、俚言の萌芽となるものかも知れない。

い。

4) アクセントについて

アクセントについては、便宜上、調査Ⅳのところで、調査Ⅱ～Ⅳを一括して述べることにする。

§ 4 まとめ

富良野のような農村の中心地における住民の構成が明らかになった。このような構成については大体の想像はあるのであるが、実際にこのような規模で調査したものはあまり見当たらないようである。

言語調査の結果によれば、次のことがわかった。

1. 世代がきくか年齢がきくかについては、項目によって違いがあり、一般的な答は出せない。

2. 他の諸方言における事情と全く同じで、世代のさがるにつれ、年齢の若くなるにつれて、全国共通語にむしろ近くなっていく。独特の北海道共通語が形成されつつあるわけではない。もっとも、項目によっては、北海道的なものが強くなっていくというものもある。

ここまで述べてきた調査Ⅰ，調査Ⅱ，調査Ⅲはすべて混住地についての調査であった。では、混住地でないところではどのようなになっているか。それを調べるために計画したのが次の調査Ⅳである。

5. 集団移住地の特色

—調査Ⅳ（吉野・浦臼・豊頃調査）

§ 1 目的

調査Ⅲの結果と、集団移民的性格を持ったところとでは、特に3世の言語にどのような違いがあるかについて明らかにしようとした。

§ 2 実施

上のような目的のもとに、今までに集団移住地として知られている樺戸郡新十津川町のほか、3か町村を探し出して調査した。その地点名などは次のとおりである。

調 査 地 点	故 地	調 査 者	調査期日 (昭和35年)
ソラチ フラノマチ 空知郡富良野町	ナラ ヨシノ 奈良県吉野郡	柴田・上村・徳川・佐藤	2月5日— 8日
トツカワマチ 樺戸郡新十津川町	ナラ ヨシノ 奈良県吉野郡十津川村	野元	2月5日— 8日
ナカガワ トコヨコヤ 中川郡豊頃村	フクイ ジマ 福島県相馬郡	柴田・長谷川	2月9日—13日
ウラウス 樺戸郡浦臼村	タカシ 徳島県	野元・五十嵐	2月9日—13日

調査地点ごとの調査状況をいまいし詳しく述べると、次のようである。

1. 富良野町

調査Ⅲのときは面接調査（言語調査）の地域に入れなかったが、社会調査票によって、奈良県吉野郡出身者が多いことを知ったので、富良野町の上御料・中御料・下御料・南御料・上五区で調査することにした。しかし、実際はそれほど集団移住地的ではなく、相当混住している。社会調査票であらかじめ該当者がわかっていたので、東京から郵便で依頼状を発送することができた。上村・徳川・佐藤の3調査員によって、結局50人を調査した（柴田は別の3世代調査を実施）。その被調査者の内訳は次のとおりである。なお、調査票は、調査Ⅲの「言語調査票」に、さらに吉野団体用の言語調査票および家庭の歴史・故地との交通の度などの調査票を加えたものである。以下この調査を「吉野」と略称する。

○世代・年齢	10代 2 世	8	30代 2 世	18	2 世	26
	10代 3 世	15	30代 3 世	9	3 世	24
	10代	23	30代	27	計	50

○性 男 33 女 17

○学歴 小 学 校 4 高小・新中 24 旧中・新高 16
旧高・新大 3 不 明 3

「新十津川村夫妻の出身地」

夫方 出身地	妻方 出身地	青岩福富山	秋福新石富	長東群愛岐	奈京兵和広	山島徳高香	愛福佐そ不	計
		森手島城形	田井渦川山	野京馬 (山梨) (茨城) (千葉)	知阜 (山梨) (三重)	根 (鳥取)	の	
青岩福富山	森手島城形	9 1 1 1 1	1 1 1 3	1 1 3	6 3 1 3	1	1 1	18 9 6 10 11
秋福新石富	田井渦川山	1 1 1 1	1 2 1 1 2	5 3 8 9 4 5	3 1 5	1 1 1	1 1 6	10 12 19 17 27
長東岐奈京	野(山梨) 京(茨城) 阜良都	1 2 1	1 1 2 4 1	1 1 1 40 1	1 1 1 1	1 2	2 4 1 1 3 1	4 7 2 56 6
大和岡広鳥	阪歌山(三重) 山島根	1	1 1 1 1	1 1 1	1 4 1	1	1 1 2	2 6 37 47 1
徳香愛福佐	島川媛岡賀	1 1	1 1 1 1	2 1 1 1	7 2 1	1 1 3	6 1	5 12 11 3 2
長鹿そ不	児の 崎島他明	3 6 1 1	1 3 2 2 2 4	2 1 1 1 1 3 1 1	3 7 1 1	1 2 1 1 1 1	1 3 2 2 6	1 2 25 41
計		19 5 6 7 11	10 7 27 12 44	4 3 2 6 2	6 82 2 6 2	2 4 10 2 6	6 9 4 15 17	332

2. 新十津川町（空知支庁）

ここは古来集団移住地として知られ、ことばの上でも故地十津川の趣きを残すとされている。しかし、現地に臨んでみると、集団移住地的だったのは大正年代までで、以後は非常に混住的な色彩が濃くなったようである。開村は、明治23年1月4日であるが、前年の十津川の未曾有の洪水により、資財ことごとくを失った約600戸の移住に始まる。しかし、その後の来住者は、母村からでなく、多くは他府県からであった。しかも、いろいろな理由から600戸のうちにも離村するものが多かったので、十津川出身者の占める割合はかなり減少している。この状況を、北海道教育研究所編の「北海道教育史」地方編二(昭32)に所載(776ぺ)の「新十津川村夫妻の出身地」の表(前ページ下)によってみよう。なお、この表は調査年および調査方法が記載されていない。

今回の調査では、十津川村出身、1世男3人、2世男5人、3世男3人・女1人、その他の出身家族、2世女1人、3世男3人にあたった。ここの調査では、必ずしも3世の人数が多く得られなかったので、以後の数量的な集計からは省くことにする。

3. 豊頃村（十勝支庁）

ここは典型的な集団移住地である。明治30年に福島県相馬郡から二宮尊親の率いる興復社がはいり、以後170余戸が入植して、二宮農場を開拓した。興復社はいうまでもなく、二宮尊徳の報徳教を精神的支柱としているが、この二宮農場だけでなく、豊頃村の村是となっている。このような精神的なものを中心に強い団結を今にいたるまで保っている。故地との結びつきも強く、婚姻も集落内でなければ、相馬郡との間で結ばれた。

被調査者は、10代2世1人、10代3世15人；男7人、女9人である。

4. 浦臼村（空知支庁）

浦臼は明治26年に、武市安哉に率いられた高知県からの移住者によって開かれた。豊頃村の報徳教に当たるものは、ここではキリスト教であって、明治27年には教会が設立されている。

被調査者は、10代3世18人、30代3世2人；男13人、女7人である。

§ 3 結果

1. 語彙について

問はすべて調査Ⅲと同じであるから、ここでは省略する。

調査Ⅲにおける多数形で反応したとき 1 点を与えて、点数を出した表を次にかかげよう。なお、☆がついているのは、それぞれの地点における多数形で反応したとき 1 点を与えた集計結果である。それぞれの地点の多数形が調査Ⅲと違うのは、吉野では107*, 浦臼で101, 106, 118, 豊頃では101, 107*である。

			人数	平均	分散	有意差
吉 野	全		50	14.7	3.79	
	10 代		23	15.1	2.72	
	30 代		27	14.3	6.13	
	2 世		26	14.7	4.98	
	3 世		24	14.7	2.49	
	男		33	14.8	4.96	
	女		17	14.4	4.52	
	学歴 中		24	14.5	4.75	
	高		16	15.0	5.25	
	職業 農		27	14.7	2.50	
吉野☆	全		50	14.9	5.01	
	10 代		23	15.2	4.61	
	30 代		27	14.6	6.50	
	2 世		26	14.7	7.21	
	3 世		24	15.1	3.16	
	男		33	15.0	5.06	
	女		17	14.6	7.36	
	学歴 中		24	14.8	5.46	
	高		16	15.2	4.27	
	職業 農		27	15.2	5.80	
浦 臼			20	13.8	3.71	
浦臼☆			20	14.5	3.35	
豊 頃			16	13.1	4.39	
豊頃☆			16	13.8	3.49	

この表と、調査Ⅲで述べたものとを比較すると、吉野については、傾向が逆になっていることが注意される。たとえば、30代よりも10代が、2世よりも3世が「北海道的」である。この原因として考えられるのは、吉野の2世がすべて故地の吉野方言の影響を受けているため、特にこれが西日本であることともあいまって、3世のほうが「北海道的」となった。これに対して、富良野の被調査者のほうは東北出身者の2世が多いため(100人中、両親とも東北出身49、片親だけ東北出身16)、東北方言の強い影響を受けている北海道方

言は、実は故地の言語という意味もあり、二つの面が重なり合って2世のほうが「北海道的」となったのであろう。

この「北海道的」であるかどうかを示す指標としては、しかし、調査Ⅲの49～50ページにあげた集計表と同じ計算をしたほうが、今までいわれている北海道的かどうかを示すものではあるが、適当であらう。この結果を次にかかげる。

		人数	平均	分散	有意差
吉 野	全	50	14.8	3.00	
	10 代	23	14.7	5.29	
	30 代	27	14.8	3.55	
	2 世	26	15.0	3.12	
	3 世	24	14.5	5.20	
	男	33	15.1	3.19	
	女	17	14.1	5.43	
	学歴 中	24	14.7	3.93	
	高	16	15.1	1.33	
	職業 農	27	15.1	16.55	
浦 白		20	12.7	11.31	吉野* 浦白
豊 頃		18	13.9	4.73	

全体としては、調査Ⅲと吉野とはほとんど差がない点が注目される。有意差としては、吉野と浦白との間にしかないが、他の地区との間のほうが大きい。すなわち、地域によってのほうが家族の出身地の差よりも違っていることになる。

多数形について調査Ⅲと同じように表をあげてみよう。

問	富 良 野	吉 野	浦 白	豊 頃	注
101	gosyoimo 64%	" 50	barèsyo 60	imo 72.2	浦白gosyoimo 35 豊頃 " 27.8
101*	zyagaimo 99.5	" 90	" 95		
102	kyabetu 86.5	" 88	" 80	kaibetu 77.8	
103	tòkibi 96	" 100	" 100	" 61.1	
104	akiazi 94	" 98	" 95	" 100	
104*	hottyare 知らない 41	" 46	" 95	" 66.7	

105	sutôbu 91.5	" 78	" 90	" 88.9	
105*	derekki 71.5	" 74	" 90	知らない 77.8	
106	aku 82	" 82	hai 85	aku 88.9	
106*	hai ^な ど 88	" 62	" 55	" 55.6	
107	sibareru 97	" 100	" 95	" 94.4	
107*	kôru 78.5	sibareru 82	kôru 55	sibareru 72.2	
107**	sibareru 88.5	" 96	" 95	" 100	
108	syakkoi 43	" 58	" 55	" 94.4	
109	haku 97	" 100	" 100	kakeru 77.8	豊頃のhakuは 55.6
110	kowai 95.5	" 96	" 100	" 100	
110*	yurukunai 60.5	" 68	" 80	" 55.6	
111	menkoi 90	" 98	" 100	" 100	
111*	menkoi 84	" 94	" 100	" 100	
112	siasatte ^な ど 54	" 76	" 95	yanaasatte ^な ど 72.2	
113	yanaasatte ^な ど 34	" 48	" 45	" 5.6	
114	nanbo 77.5	" 88	" 80	" 88.9	
115	oban 96	" 94	" 95	" 94.4	
116	hattyaki 72	" 90	" 80	" 38.9	
117	tagaku 43	" 36	" 20	" 16.7	

118	ameru 67.5	ameru聞く 34	ameru 知らない 50	ameru 55.6	吉野 26 浦白 " 30 sueru 40
119	kateruなど 52.5	" 46	ireru 45	mazeru 83.3	
120	bakuru 93.5	" 96	" 100	" 94.4	
121	kattyaku 88.5	" 92	" 100	" 100	
122	ameyukiなど 45	" 58	" 35	" 61.1	
123	hoitoなど 64.5	" 38	" 55	知らない 44.4	豊頃hoitoなど 16.7
124	nanmo 77.5	" 78	" 80	" 33.3	
125	sôde 88	" 86	" 80	" 61.1	

参 考

問	富 良 野	吉 野	浦 白	豊 頃	注
102	kaibetu 43.5%	" 48	" 70	kyabetu 55.6	
103	tôkimi 4.5	" 0	" 0	" 38.9	
104*	hottiyare 20.5	" 12	" 5	" 16.7	
105*	dereki 16.5	" 12	" 5	" 0	豊頃の derekkiは 11.1
106	hai 66	" 72	aku 50	hai 66.7	
106*	aku 5	" 8	" 10	" 16.7	
107*	sibareru 61	kôru 58	sibareru 50	kôru 55.6	
108	hyakkoi 38	" 34	" 45	" 0	
110*	yurukunai聞く 33	" 26	" 5	" 16.7	
112	yanaasatte など 41.5	" 24	" 5	siasatteなど 27.8	

113	知らない 38.5	" 48	" 55	" 55.6	
114	ikura 76.5	" 66	" 45	" 44.4	
117	tanaku 19	" 14	" 0	" 0	
119	kateru など使った 41.5	" 38	" 0	" 0	浦臼kateru 10 豊頃 " 5.6

吉野は、行政的に富良野町に属しており、富良野とあまり変わりはないが、浦臼・豊頃は富良野とは相当変わっている面がある。以下、簡単にこのことについて述べよう。

浦臼では、全国共通語的とでもいう傾向を持っているようである。このことは、北海道的であるかどうかを示す数字にもあらわれていた。101 ジャガイモでは、バレーシヨが多数形で、富良野の多数形であるゴシヨイモは35%にすぎない。106のハイ（灰）もハイが多数形である。118のアメルも半数が知らないし、119のカテルを使う人はひとりもない。なお、107*池の水がコールは、わずかながらコールが多数形となっている。

豊頃で目立つことは次のようなことである。すなわち、102キャベツは他と違ってカイベツが多数形となる。103トーモロコシでは、他の地点と比べて、トーキビの率が下がり、トーキミの率が少し高い。これは故地のトーギミの影響と考えられる。105*のデレッキを知らない人が80%もいる。108のシャッコイは、この語形がどこでも多数形であるが、豊頃は、これにほとんど集中しているのに対し、他の地点ではハッコイが多少の勢力を占めている点も注目される。109の手袋をハメルは、カケルが多数形で78%。ここではハクは56%であって、他の調査地でほとんど100%近くがハクなのと鋭く対立している。ここでは、ハクが全国共通語であるとの意識を持っているようであるが、ハクの力はまだ弱い。112は他の地点がシアサッテなのに対して、豊頃はヤナアサッテなどである。したがって、113のヤナアサッテは非常に少ない。これは、故地の方言の反映であろう。117ではタガク・タナクという北奥的な方言はずっと少なくなる。119カテルも浦臼とともに知らない人が多い。123ホイトは知らない人のほうがずっと多くなり、知っている人はわずか17%にすぎない。122

アメユキなどは他に比べて多く、一方 124ナンモは少ない。

以上のように、豊頃では故地の方言をよくそのまま残している。

2. 文法について

文法についても質問はすべて調査Ⅲと同じである。

調査Ⅲにおける多数形で反応したとき 1 点を与えて、点数を出した表を次にかかげる。なお、☆がついているのは、それぞれの調査地における多数形で反応したとき 1 点を与えた集計結果である。それぞれの調査地の多数形が調査Ⅲと違うのは、浦臼では216, 220, 豊頃では202, 204, 207, 208, 209, 211, 212, 221である。この数だけからすれば、豊頃が大きく他の地点と違っていることが予測される。吉野は全く調査Ⅲと同じであるから、ここでは☆は計算す

人数 平均 分散 有意差 必要はない。

吉 野	全		50	10.0	3.76
	10	代	23	9.7	4.96
	30	代	27	10.1	5.77
	2	世	26	9.7	4.21
	3	世	24	10.3	3.57
	男		33	10.1	3.47
	女		17	9.8	2.90
	学歴	中高	24	9.8	4.37
浦 白			20	9.1	2.94
	浦臼☆		20	9.6	4.34
豊 頃			16	6.3	7.99
	豊頃☆		16	9.8	2.83

語彙とは少し結果が違っている。すなわち、年齢層では、語彙とは逆に30代のほうが北海道的である。もちろん、有意差はない。

豊頃が吉野、ひいては調査Ⅲの結果と相当違っていることが予想される。豊頃の☆と☆のついていないものとの差は、語彙のときよりもはなはだしい。

なお、北海道的であるかどうかの観点から、今まで北海道的な表現といわれているものに 1 点を与えて集計すると左の表

吉 野			人数	平均	分散	有意差
	全		50	8.4	13.26	
	10	代	23	8.9	10.44	
	30	代	27	8.0	14.84	
	2	世	26	7.0	11.66	
	3	世	24	10.0	8.90	3世**2世

男	33	10.4	6.01	男**女
女	17	4.6	3.74	
学歴 中	24	8.0	14.94	
高	16	8.5	12.95	
職業 農	27	8.2	15.10	
浦 臼	20	8.4	10.05	
豊 頃	16	9.0	3.77	

のようになる。

世に言われている北海

道的であるかどうかとい

う観点からするならば、

吉野では10代・3世のほ

うが北海道的ということ

になる。男女の差は極め

て顕著である。これは、この意味における「北海道的」が、起キルペのように、

「べ」をとるものであるために、「べ」のつきにくい女性の点が低く出たのであるう。

3箇所と比較では、豊頃の分散が小さいのが注目される。これは、豊頃の社会の単一性を物語るものであろう。

次に多数形について、前と同じように表示すると次のようになる。

問	富 良 野	吉 野	浦 臼	豊 頃	注
201	kakanaiなど 92.5%	" 78	kakanai, kakan 60	kakanai 83.3	
202	kakan(a)kya 82.5	" 72	" 50	その他 61.1	豊頃 kakanakya 16.7
203	kakasaranai 77	" 78	" 55	" 55.6	
204	kakunara 70.5	" 66	" 55	kakudara 88.9	豊頃 kakunara 11.1
205	kakudarō 52.5	kakube 58	" 65	" 77.8	
206	okinai 95	" 90	" 60	" 66.7	
207	okiyō 62.5	" 56	okirube 60	" 83.3	
208	okirenai 68.5	" 82	" 95	" 61.1	
209	okire 56.5	" 72	" 90	okiro 83.3	豊頃okire 27.8
210	ikō 61.5	ikube 52	" 60	" 72.2	

211	mirenai 67.5	" 80	" 75		豊頃mirarena- i, mirenai とも に27.8
212	mire 49	" 58	" 55	miro 77.8	豊頃mire 22.2
213	sureba 69	" 76	" 70		豊頃sureba, surebaともに 44.4
214	sire 27.5		sei 60	siro 72.2	吉野sire, sei ともに34 豊頃sire 16.7
215	koiba, koeba 77	" 60	" 90	" 66.7	
216	koraseru 40	" 40	kosasu 35	koraseru 88.9	浦臼koraseru 5
217	warawasatta 93.5	" 84	" 75	" 66.7	
218	atarasiinara 71.5	" 80	" 65	atarasiidara 72.2	豊頃 atarasiinara 16.7
219	atarasiidarô 35	atarasiibe 44	atarasiidarô 50	atarasiibe 77.8	
220	tabesaseyô 43.5		tabesasô 50	tabesaseyô 44.4	吉野 tabesaseyo, tabesasô とも に42
221	takainara 81	" 48	" 65	takaidara 61.1	豊頃 takainara 16.7

202では豊頃に「その他」が多数形となっているのは、調査者によるゆがみと思われる。その中では「書カナカタラ」の28.8%が一番多かった。これは、反応形として求めていなかったものである。「書カナイッキヤ」も「書カナキヤ」と並んで16.7%あるのも注意すべきである。

豊頃は3箇所のうちで～べ、～ダラという東北方言にもとづく語形が一番多い点で東北的といえるけれども、一方、起キレ、見レ、シレなどのレ語尾は少なく、口語尾となっていて、この点では北海道的とはいえない傾向を持っている。

その他、参考となるとと思われるものを次に表示する。

問	富良野	吉野	浦臼	豊頃
205	kakube 38%	kakudarô 46	" 25	" 27.8

207	okirube 39	// 54	okiyô 40	// 16.7
210	ikube 35	ikô 48	// 45	// 27.8
213	sireba 26.5	// 12	// 5	
214	sei 20.5		sire 10	sei 5.6
219	atarasiibe 30	atarasiidarô 34	atarasiibe 40	atarasiidarô 11.1
220	tabesasô 39		tabesaseyô 25	tabesasô 16.7

3. 音声について

調査Ⅲで試みたと同じように、問ごとの表を次にかかげよう。数字は%である。

		吉 野				浦 臼				豊 頃			
		0	0.5	1	×	0	0.5	1	×	0	0.5	1	×
401	iとeとの区別なし	6	94			100				50.0		50.0	
402	siとsuとの区別なし	42	48			100				100.0			
403	ciとcuとの区別なし	42	48			100				5.6	94.4		
404	ziとzuとの区別なし	2	38	60		100				11.1	83.3	5.6	
405	kukiの第2のkに有声化あり			100				100				100.0	
406	matoのtに有声化あり			100			15	85				100.0	
407	「北」「口」の第1母音の無声化なし	24	2	74		5	5	90				100.0	
409	〔çi〕と〔ʃi〕との区別なし			100		5	10	85		55.6	16.7	27.7	
405	「釘」の第2子音の鼻音化なし	94		6		70		30		5.6	94.4		
408	「中学」の第2子音の鼻音化なし	92	2	6		60	5	35				100.0	
	「道具」の第2子音の鼻音化なし	92		8		65		35				100.0	
410	「手術」の第1音節が〔ʃi〕 (反対は〔ʃw〕)	48		52		10		75 ^{その他} 15*		33.3	5.6	50.0	11.1
	「主人」の第1音節が〔ʃi〕 (反対は〔ʃw〕)			100				100		5.6	11.1	83.3	
	「手術」の第2音節		〔ʒw〕	34		〔ʒw〕		5		〔ʒw〕		33.3	
			〔zw〕	18		〔zw〕		40		〔zw〕		38.9	

「主人」の第2音節	[ʒi]	40	[ʒi]	30	[ʒi]	22.2
	[ri]	8	[ri]	10	×	5.6
	[ʒi]	62	[ʒi]	95	[ʒi]	100.0
	[ʒu]	2	[ʒu]	5		
	×	36	*第2音節と融合して[ʒu:]となるもの			

401～404については、富良野よりも吉野のほうが、吉野よりも豊頃のほうが東北的であるといえる。豊頃はこの点でも最も東北的である。浦臼は、植民の歴史からしても東北的な色彩は割に希薄である。409のヒとシとの区別がないという点も、浦臼を除いて同様である。

		人数	平均	分散
吉 野	全	50	1.70	3.73
	10 代	23	1.17	3.11
	30 代	27	2.15	3.82
	2 世	26	1.65	3.62
	3 世	24	1.75	3.85
	男	33	1.58	3.57
	女	17	1.94	3.94
	学歴 中	24	1.50	3.58
	高	16	1.81	3.54
	職業 農	27	1.78	3.79
浦 臼	全	20	0.40	0.24
豊 頃	全	15	4.07	0.44

参考のために、以上で、0点および0.5点をとった数を個人ごとに出して集計すると次のようになる。

この表では、点の高いほうが東北的である。有意差はないが、吉野では、10代より30代、2世より3世のほうが東北的ということになる。世代については、富良野（調査Ⅲ）とは逆傾向である。

浦臼と吉野、吉野と豊頃の間にはそれぞれ有意差がある。浦臼が

一番東北的でなく、豊頃が東北的であることがはっきりあらわれたわけである。

次に、405、408について、76ページ下の表によると、吉野—浦臼—豊頃の順にだんだん〔g〕が多くなるようである。この点について、個人ごとに点を出して合計すると次のようになる。

有意差は全体について以上のように出ており、前に述べたことを裏書きして

		人数	平均	分散	有意差
吉 野	全	50	0.22	0.28	
	10 代	23	0.11	0.17	
	30 代	27	0.30	0.35	
	2 世	26	0.21	0.31	
	3 世	24	0.21	0.25	
	男	33	0.24	0.31	
	女	17	0.15	0.23	
	学歴 中 高	24 16	0.23 0.19	0.25 0.28	
	職業 農	27	0.24	0.32	
浦 白	全	20	1.03	1.75	吉野*浦白
豊 頃	全	15	2.97	0.06	浦白**豊頃

トについて調査している。4 モーラから順に考えることにしたい。なお、参考のために、調査Ⅱの結果をもいっしょにあげた。付表3. 各地のアクセントを見られたい。

a. 4 モーラ名詞

付表3で()のついているものは被調査者によってゆれの激しいもの、()のついていないものは、そのゆれが激しくないものであるから、()のついていないものに2点、ついているものに1点、空欄に0点をそれぞれ近似的に与えて計算した。その結果は次の表の示すようである。

	札幌	帯広	釧路	富良野	10代 2世	10代 3世	30代 2世	30代 3世	吉野	浦白	豊頃
2	10	9	16	9	9	10	9	9	10	18	18
1	9	8	4	14	15	8	15	12	10	7	4
0	1	3	0	2	1	7	1	4	5	0	3
計	20	20	20	25	25	25	25	25	25	25	25
平均	1.45	1.30	1.80	1.28	1.32	1.12	1.32	1.20	1.20	1.72	1.60

この表では、点の多いほうが一つの語のアクセントが安定しているわけである。釧路が安定したアクセントを持っていることは、調査Ⅱのところでも述べたが、なお、この表で見ると、浦白もよく安定している。豊頃も比較的安定し

いる。

410は、やはり、浦白—吉野—豊頃の順にだんだん〔f〕が多くなるようである。

4. アクセントについて

前に述べたように、ここでは富良野のものも一括して述べることにする。

この調査では、4 モーラ以下の名詞のアクセン

ているようであるが、これについては、のちに述べる。

帯広と富良野とは大体同じような結果となった。これは、位置・性格などの類似によるものと思われる。

富良野の結果を、年齢と世代とに分けて集計すると次のようになる。

	10代	30代	2世	3世
2	10	9	9	10
1	10	15	14	9
0	5	1	2	6
計	25	25	25	25
平均	1.20	1.32	1.28	1.16

これによれば、30代よりも10代が、2世よりも3世が安定していないようである。そして、年齢と世代とは要因としてそれほど差がないように思える。

東京方言との型の対応関係を表示すると次のようになる。()の意味は付表3と同様である。

様である。なお、×は多数形のないものである。

東京 ●○○○○○：北海道 ●○○○○○

札幌：(三角)，小使い，(あいさつ)

帯広：(三角)，小使い，(あいさつ)

釧路：(三角)，小使い，あいさつ

富良野：(三角，小使い，あいさつ)

吉野：(小使い，あいさつ)

浦臼：小使い，あいさつ

東京 ●○○○○○：北海道 ●●○○○○○

吉野：(三角)

浦臼：(三角)

東京 ●○○○○○：北海道 ●●●○○○○

札幌：(貧乏)

帯広：(貧乏)

釧路：貧乏

富良野：(貧乏)

吉野：貧乏

浦臼：貧乏

東京 ○●○○○○○：北海道 ●●○○○○○，○●○○○○○

札幌：手袋，紫

帯広：手袋，紫

釧路：手袋，紫

富良野：(すずらん), 手袋, 紫, 九つ

吉 野：(すずらん), 手袋, 紫, 九つ

浦 臼：すずらん, 手袋, 紫, 九つ

東京 ○●○○○：北海道 ○●●●●

札 幌：(生花)

帯 広：(生花)

釧 路：(生花)

富良野：(生花)

吉 野：(生花)

浦 臼：生花

東京 ○●○○○, ○●●○○：北海道 ○●○○○

吉 野：建物

東京 ○●○○○, ○●●○○：北海道 ○●●○○

札 幌：(建物)

東京 ○●○○○, ○●●○○：北海道 ○●●●●, ●●●●●

釧 路：建物

富良野：(建物)

浦 臼：(建物)

東京 ○●○○○, ○●●○○：北海道 ×

帯 広：建物

東京 ○●●○○：北海道 ○●●○○, ●●●○○

札 幌：唐傘, 米粒

帯 広：唐傘, 米粒

釧 路：唐傘, 米粒

富良野：(唐傘, 米粒), 先生

吉 野：(唐傘, 米粒), 先生

浦 臼：唐傘, (米粒), 先生

東京 ○●●○○：北海道 ○●●●●, ●●●●●

札 幌：(腰掛), 酒飲み

帯 広：(酒飲み)

釧 路：腰掛, 酒飲み

富良野：(腰掛)

浦 臼：(腰掛, 酒飲み)

東京 ○●●○○：北海道 ×

帯 広：腰掛

富良野：酒飲み

吉 野：腰掛，酒飲み

東京 ○●●○○○，○●●●○○：北海道 ○●●○○○，●●●○○○

札 幌：(化物)

帯 広：(金持)

吉 野：(化物)

東京 ○●●○○○，○●●●○○：北海道 ○●●●○○，●●●●○○

浦 臼：(金持)

東京 ○●●○○○，○●●●○○：北海道 ○●●●●●，●●●●●●

札 幌：(金持)

帯 広：(化物)

釧 路：(小刀)， 化物， 金持

富良野：(小刀， 化物， 金持)

浦 臼：小刀， (化物)

東京 ○●●○○○，○●●●●●：北海道 ×

札 幌：小刀

帯 広：小刀

吉 野：小刀， 金持

東京 ○●●●○○：北海道 ○●●●○○，●●●●○○

富良野：(妹)

吉 野：(妹)

浦 臼：妹

東京 ○●●●●●：北海道 ○●●●●●，●●●●●●

東 京：日の丸， 友達， (福引)， かまぼこ

帯 広：日の丸， (友達)， 福引， かまぼこ

釧 路：日の丸， 友達， 福引， かまぼこ

富良野：日の丸， 友達， 福引， かまぼこ， 東京

吉 野：日の丸， 友達， 福引， かまぼこ， 東京

浦 臼：日の丸， 友達， 福引， かまぼこ， 東京

北海道では，東京に比べて，概して核が後ろのほうへずれている。このことは，東京の○●●●○○や○●●●●●が，北海道ではこれ以外の形では対応していないこととも合わせて，核の後ろにあるもののほうが安定していることを示すものである。

b. 3 モーラ名詞

4 モーラ名詞のところで述べたことと同じような分析をしてみよう。

	札幌	帯広	釧路	富良野	10代 2世	10代 3世	30代 2世	30代 3世	吉野	浦臼	豊頃
2	15	13	21	7	9	8	6	7	8	13	12
1	9	10	3	13	12	11	13	11	11	5	9
0	0	1	0	4	3	5	5	6	5	6	3
計	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24
平均	1.63	1.50	1.86	1.13	1.25	1.13	1.04	1.04	1.13	1.29	1.38

	10代	30代	2世	3世
2	8	6	7	7
1	13	13	14	10
0	3	5	3	7
計	24	24	24	24
平均	1.21	1.04	1.17	1.00

札幌，帯広，釧路の相対的關係は4モーラ名詞の場合と同じである。富良野は，4モーラ名詞の場合と違って，だいぶ不安定のようなのである。

富良野について，年齢と世代とに分けて集計してみると，左のようになる。

4 モーラ名詞とは年齢のほうが傾向が逆に出ている。この理由については，簡単に説明することはむずかしい。

次に，東京方言との型の対応関係を表示してみよう。

東京 ●○○○：北海道 ○●○○，●●○○

札幌：姿，（涙），鳥

帯広：姿，（涙，鳥）

釧路：姿，（涙），鳥

富良野：姿，（涙，鳥）

吉野：（姿，涙）

浦臼：姿，涙

東京 ●○○○：北海道 ○●●●，●●●●

浦臼：（鳥）

東京 ●○○○，○●○○：北海道 ○●○○，●●○○

札幌：朝日

帯広：朝日

釧路：朝日

吉野：朝日

浦臼：朝日

東京 ○●○○：北海道 ○●○○, ●●○○

札 幌：一人

帯 広：一人

釧 路：一人

富良野：一人

吉 野：(一人)

浦 臼：一人

東京 ○●○○, ○●●○：北海道 ○●○○, ●●○○

札 幌：刀, (心)

帯 広：刀, 心

釧 路：刀

富良野：(心)

吉 野：心

浦 臼：心

東京 ○●○○, ○●●○：北海道 ○●○○, ●●●○

釧 路：心

東京 ○●○○, ○●●○：北海道 ×

富良野：刀

吉 野：刀

浦 臼：刀

東京 ○●●○：北海道 ○●○○, ●●○○

札 幌：頭

帯 広：(二人), 頭, (言葉)

東京 ○●●○：北海道 ○●●○, ●●●○

札 幌：二つ, 二人, 男, (言葉)

帯 広：(二つ), 男

釧 路：二つ, 二人, (頭), 男, 言葉

富良野：(二つ, 二人, 頭, 男)

吉 野：(二つ, 二人, 言葉)

浦 臼：二つ, (二人, 頭, 男)

東京 ○●●○：北海道 ×

富良野：言葉

吉 野：頭, 男

浦 臼：言葉

東京 ○●●○：北海道 ●○○○

札 幌：(後ろ, 鯨)

帯 広：鯨

釧 路：後ろ，鯨

富良野：(鯨)

東京 ○●●●●：北海道 ○●○○○，●●●○○

札 幌：背中

帯 広：(兎，背中)

釧 路：兎，(鰻)，背中

吉 野：(鯨)

東京 ○●●●●：北海道 ○●●○○，●●●●○

浦 臼：(つるべ)

東京 ○●●●●：北海道 ○●●●●，●●●●●

札 幌：桜，形，隣，昔，(兎，鰻)

帯 広：桜，形，隣，昔，鰻

釧 路：桜，形，隣，昔

富良野：桜，形，隣，昔，(兎，鰻，背中，後ろ)

吉 野：桜，形，隣，昔，(兎)，鰻，背中，(後ろ)

浦 臼：桜，形，隣，昔，兎，鰻，背中

東京 ○●●●●：北海道 ×

帯 広：後ろ

富良野：つるべ

吉 野：つるべ

浦 臼：後ろ，鯨

東京 ●○○○○，○●●●●：北海道 ●○○○○

札 幌：(苺)

帯 広：(苺)

釧 路：苺

東京 ●○○○○，○●●●●：北海道 ○●○○○，●●●○○

吉 野：(苺)

東京 ●○○○○，○●●●●：北海道 ×

富良野：苺

浦 臼：苺

東京 ●○○○○，○●●●●：北海道 ○●●●●，●●●●●

札 幌：毛拔

帯 広：(毛拔)

釧 路：毛拔

富良野：(毛拔)

東京 ●○○○○，○●●●●：北海道×

吉 野：毛拔

浦 臼：毛拔

ここでも、東京の一つの型に多くの型が対応している。つまり安定していない。「朝日」だけはかえて安定している。核は後ろのほうにずれ、また平板化が見られる点も4音節名詞と同じ傾向である。

東京の平板型のうち、Ⅰ類のものはそのまま平板であるが、Ⅵ類は○●○○、●●○○へ、Ⅶ類は●○○○への傾斜がいちじるしいようであり、これは、東北における傾向を反映するものである。Ⅳ類、Ⅴ類における○●○○、●●○○の傾斜もまったく同様である。

富良野、吉野、浦臼で×が多くなっているのも注目される。「兎」「鰻」「背中」「後ろ」などの平板化がこれらの地点で見られるのとも無縁ではないであろう。つまり平板化はまた不安定化へ通じるのである。核がなくなることとは、それだけ安定を欠くことになる。さらには、「頭」「莓」などで核が後ろに移っていることも無縁ではないかも知れない。

c. 2 モーラ名詞

これについては、「鼻、鼻と口」「雨、雨と露」……というような形で質問している(付表3の321~335を参照)。はじめの「鼻」「雨」……に当たるところについて、今まで述べたのと同じようにして作った表が次のものである。

	札幌	帯広	釧路	富良野	10代 2世	10代 3世	30代 2世	30代 3世	吉野	浦臼
2	12	5	12	3	8	2	2	2	2	7
1	0	7	0	16	11	17	17	13	18	13
0	0	0	0	1	1	1	1	5	0	0
計	12	12	12	20	20	20	20	20	20	20
平均	2.00	1.42	2.00	1.10	1.35	1.05	1.05	0.85	1.10	1.35

次に「鼻と」「雨と」……のところの表をあげる。

	札幌	帯広	釧路	富良野	10代 2世	10代 3世	30代 2世	30代 3世	吉野	浦臼
2	4	2	8	1	1	1	0	1	0	2
1	8	9	4	13	15	14	12	12	12	16
0	0	1	0	6	4	5	8	7	8	2
計	12	12	12	20	20	20	20	20	20	20
平均	1.33	1.08	1.67	0.75	0.85	0.80	0.60	0.70	0.60	1.00

「〜と」が加わるとずっと安定度が落ちることは、この2つの表を比べてみるとすぐわかることである。地点ごとの安定の度合いは相対的に3音節以上とほぼ同じである。すなわち、釧路が最も安定していて、札幌→帯広の順となる。富良野は帯広と同じような傾向を示すが、帯広よりは安定度が低い。

なお、年齢・世代に分けると次のようになる。

	10代	30代	2世	3世
2	1	0	1	1
1	15	12	13	12
0	4	8	6	7
計	20	20	20	20
平均	0.85	0.60	0.75	0.70

年齢のほうがいきているようであるが、普通考えられるのとは逆に30代のほうが安定していないで、10代のほうが点がいい。しかし、これは必ずしも10代の無アクセント化がそれほど進んでいないということにはならない。無アクセント化も一つの安定

化ではあるからである。

なお、参考のために「…と口」「…と露」……のように発音したばあいの「口」「露」……と、このような組み合わせでなく、単独に「枝」「壁」……のように発音したばあい（付表3の331～335）とについて、それぞれの表を比べてみよう。

		札幌	帯広	釧路	富良野	10代 2世	10代 3世	30代 2世	30代 3世	吉野	浦臼	
「…と口」	2					6	12	6	6	6	4	6
	1					14	8	14	14	14	16	14
	0					0	0	0	0	0	0	0
						20	20	20	20	20	20	20
					1.30	1.60	1.30	1.30	1.30	1.20	1.30	
		札幌	帯広	釧路	富良野	10代 2世	10代 3世	30代 2世	30代 3世	吉野	浦臼	
「単独」	2	18	13	19	6	11	8	5	5	4	7	
	1	2	6	1	14	9	12	15	15	16	12	
	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
	計	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	
平均	1.90	1.60	1.95	1.30	1.55	1.40	1.25	1.25	1.20	1.30		

この「単独」の表は、はじめの「鼻」「雨」…の表(前ページ上)と同じに出る

はずのものであるが、必ずしも一致していない。これは各類の出題数が彼我同じでないことにも理由はあろうが、なお、語が違うためということもあろう。つまり、このようなものは基本的には語ごとに考えるべきものであろう。

3 モーラ以上と同じように、「鼻と」の形の対応関係を次に表示しよう。

東京 ●○○：北海道 ●○○

札幌：箸

帯広：箸

釧路：箸

富良野：箸，秋

吉野：箸，（秋）

浦臼：（秋）

東京 ●○○：北海道 ○●○，●●○

札幌：（雨，粟），雲，蜘蛛

帯広：粟，（雲，蜘蛛）

釧路：（雨），粟，雲，蜘蛛

富良野：（雨，粟，雲，蜘蛛，糸，井戸）

吉野：（雨，井戸）

浦臼：（雨，粟），雲，蜘蛛，（糸，井戸）

東京 ●○○：北海道 ○●●，●●●

浦臼：箸

東京 ●○○：北海道 ×

帯広：雨

富良野：針

吉野：粟，雲，蜘蛛，針，糸

浦臼：針

東京 ○●○：北海道 ●○○

吉野：（橋，紙，髪，雪）

東京 ○●○：北海道 ○●○，●●○

札幌：（花，髪），泡

帯広：（花，髪），泡

釧路：花，（髪），泡

富良野：（花，泡）

吉野：（花）

浦臼：（花，橋，紙，髪，泡）

東京 ○●○：北海道 ○●●，●●●

札幌：（橋，紙）

帯 広：(橋, 紙)
釧 路：(橋), 紙
浦 臼：(町)

東京 ○●○：北海道 ×
富良野：橋, 紙, 髪, 町, 雪
吉 野：泡, 町
浦 臼：雪

東京 ○●●：北海道 ○●○
富良野：(鼻, 飴)
浦 臼：(飴)

東京 ○●●：北海道 ○●●, ●●●
札 幌：(鼻, 飴)
帯 広：(鼻, 飴)
釧 路：(鼻), 飴
富良野：(道, 蟻)
吉 野：(鼻, 道, 蟻)
浦 臼：(鼻, 道, 蟻)

東京 ○●●：北海道 ×
吉 野：飴

全般的傾向としては、型の確定度はやはり東京に比べて低くなっている。核が後ろに移り、遂に0となる傾向も、3モーラ以上の場合と同様に認められる。以上は全般的な傾向であるが、なお、地点によって多少違っている。たとえば、富良野、浦臼、ことに後者では○●○, ●●○への傾斜が著しく、吉野は他の地点よりも●○○が多い。この観点からするならば、札幌、帯広、釧路は相互にあまり差はないことになる。

類の統合の関係を見ると、だいたい、札幌、帯広、釧路は、I・II/III/IV・Vとなっている。I・IIは○●●, ●●●, IIIは○●○, ●●○を主体としている。IV・Vはi, uで終わるものは●○○, その他は○●○, ●●○である。東京はI/II・III/IV・Vであり、東北主流はI・II/III/IV・Vであることから考えると、この北海道のアクセントは、東京のくずれたものというよりも、東北主流からの流れと考えたほうがいいだろう。

富良野は、このような類の統合関係がはっきり見られるほど安定してはいない。吉野もはっきりはしないが、IとIIとは分けられるようである。○●●,

●●●はⅠにだけある。浦臼もあまりはっきりしないが、Ⅰ／Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴとなるようである。Ⅰは○●●, ●●●, 他は○●○, ●●○である。

吉野・浦臼は被調査者数が少ないが、ⅠとⅡが分かれる点は、あるいは植民の歴史を反映しているかも知れない。吉野および高知ではⅠとⅡとが分かっているからである。

今まで、北海道のアクセントは、東北と同じく、Ⅳ・Ⅴ類では、狭い母音 i, u に終わる 2 モーラ名詞は●○○になるとされている。各県の調査語を i, u で終わるものとそうでないものとに分けて、それに属する語のうちいくつが●○○となるかを分数で示すと次のようになる。

		札幌	帯広	釧路	富良野	吉野	浦臼	この表から、Ⅳ・Ⅴ類で、i, u に終わるものはやはり、●○○になる傾向が著しいことがわかる。この傾向は、札幌、帯広、釧路でははっきり認められる。富良野、吉野、浦臼になると、この傾向はⅡ、Ⅲにまで及んで
Ⅰ	{-i, -u	1/2	1/2	1/2	1/6	2/6	0/6	では、i, u に終わるものはやはり、●○○になる傾向が著しいことがわかる。この傾向は、札幌、帯広、釧路でははっきり認められる。富良野、吉野、浦臼になると、この傾向はⅡ、Ⅲにまで及んで
	{その他	0/4	0/4	0/4	0/6	0/6	0/6	
Ⅱ	{-i, -u	1/5	1/5	0/5	3/10	9/10	5/10	では、i, u に終わるものはやはり、●○○になる傾向が著しいことがわかる。この傾向は、札幌、帯広、釧路でははっきり認められる。富良野、吉野、浦臼になると、この傾向はⅡ、Ⅲにまで及んで
	{その他	0/2	0/2	0/2	0/4	3/4	0/4	
Ⅲ	{-i, -u	0/3	0/3	0/3	2/6	4/6	2/6	では、i, u に終わるものはやはり、●○○になる傾向が著しいことがわかる。この傾向は、札幌、帯広、釧路でははっきり認められる。富良野、吉野、浦臼になると、この傾向はⅡ、Ⅲにまで及んで
	{その他	0/5	0/5	0/5	0/6	0/6	0/6	
Ⅳ	{-i, -u	3/3	3/3	3/3	5/6	5/6	3/6	では、i, u に終わるものはやはり、●○○になる傾向が著しいことがわかる。この傾向は、札幌、帯広、釧路でははっきり認められる。富良野、吉野、浦臼になると、この傾向はⅡ、Ⅲにまで及んで
	{その他	0/3	0/3	0/3	2/6	0/6	1/6	
Ⅴ	{-i, -u	2/2	2/2	2/2	5/5	5/5	5/5	では、i, u に終わるものはやはり、●○○になる傾向が著しいことがわかる。この傾向は、札幌、帯広、釧路でははっきり認められる。富良野、吉野、浦臼になると、この傾向はⅡ、Ⅲにまで及んで
	{その他	0/3	0/3	0/3	3/6	1/6	1/6	

いるが浦臼を除いて、程度はⅣ・Ⅴよりも低いようであり、やはりⅡ・ⅢとⅣ・Ⅴとの間には一線を引くべきであるかも知れない。なぜ札幌、帯広、釧路のような大都市ではっきりⅢとⅣ・Ⅴとが分かれているかについては、この調査だけではわからない。Ⅰだけがどの調査地点でもあまり●○○に犯されていないのはおもしろい。「鈴」だけが多くの地点で●○○となっているのはおそらく語彙的な例外であろう。

富良野で、321から330までの調査項目では、「鼻、鼻と口」、「花、花と草」のように、同じ名詞を2回繰り返し、1回は助詞「と」をつけている。この「と」のついたものとつかないもののが、違ったアクセントで発音されたとき1点を与えて集計した結果を次にのべる。ただし、331の「枝」から335の「猿」までの20のうち、全部または一つを除いて全部を同じアクセントで発音した人のものは

「完全一型」と認めて、この集計の対象からはずした。そうしないとそういう人は「一型」であるために、すべての語を機械的に二つのばあいとも同じように発音するため、0点となって、型を区別する人と区別できなくなるからである。

このような人は全部で23人いた。内訳は次の通りである。

男	8	10代	8	2世	9
女	15	30代	15	3世	14

2世より3世のほうが「一型」の多いことは、今までのわれわれの設定してきた仮説からしてもうなずけるところである。しかし、年齢で30代のほうに「一型」が多いのは、年齢とともに型を失っていくことがあるからかも知れない。

年齢 世代	10代	30代	年齢と世代とを組み合わせると、左の表のような分布が見られるが、これはある程度そのことを裏書きするもののようである。なお、男性よりも女性のほうが「一型化」しやすいという結果については、いま何も説明を加えることができない。
2世	3	6	
3世	5	9	

さて、点数の分布は次のようになっている。

	0点	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	計	平均	分散
計	16人	25	27	23	23	11	10	8	10	7	6	2	2	2	2	1	175	4.2	11.09
男	9	14	10	9	17	7	5	5	3	2	4	2	1	1		1	90	4.1	11.42
女	7	11	17	14	6	4	5	3	7	5	2		1	1	2		85	4.2	11.61
10代	10	15	18	14	8	7	6	3	2	2	4	1	1		1		92	3.6	9.11
30代	6	10	9	9	15	4	4	5	8	5	2	1	1	2	1	1	83	4.8	13.07
2世	11	8	18	13	11	6	5	4	5	4	2				2	1	90	3.9	11.01
3世	5	17	9	10	12	5	5	4	5	3	4	2	2	2			85	4.4	12.00

点の多いほうが、安定していないことになる。男と女とには、この場合はほとんど差がない。10代と30代とは、5%の危険率で有意差をもって30代のほうが安定していない。有意差はないものの、2世より3世のほうが安定していないことも今まで述べたものと同じ傾向を示している。

次に、やはり富良野で、同じ2モーラ名詞のアクセントについて、同じ語を別のところで2回聞いて、その2回が違ったアクセントで発音されることがな

いかどうかを確かめてみた。「花」「針」「紙」「耳」「月」「糸」「壁」「水」の8語である。2回の発音が違っているとき1点を与えて、各人に点をつけてみた。上に述べた23人の「完全一型」の人は今度も除き、また上でもそうであったが、データの完全でない他の2人も除いてある。

	計	男	女	10代	30代	2世	3世
花	74人	40	34	31	43	34	40
針	80	41	39	38	42	39	41
紙	70	39	31	36	34	33	37
耳	53	31	22	30	23	28	25
月	33	11	22	13	20	14	19
糸	65	33	32	34	31	31	34
壁	41	22	19	23	18	18	23
水	31	14	17	16	15	12	19
計	447	231	216	221	226	209	238
合計人数	175	90	85	92	83	90	85

まず、語ごとに
何人ぐらいがこの
ゆれを示すかを調
べてみよう。
この表による
と、語ごとに安定
度の高いものとそ
うでないものとが
あるようだ。

次に、8語をあわせた得点ごとの人数と平均得点とを表にして示す。

	0点	1	2	3	4	5	6	7	計	平均	分散
計	18人	34	33	41	29	15	2	3	175	2.6点	2.34
男	9	15	20	22	14	8	0	2	90	2.6	2.30
女	9	19	13	19	15	7	2	1	85	2.5	2.90
10代	10	24	17	16	15	7	1	2	92	2.4	2.77
30代	8	10	16	25	14	8	1	1	83	2.7	2.44
2世	12	24	15	17	11	8	1	2	90	2.3	3.01
3世	6	10	18	24	18	7	1	1	85	2.8	2.11

結果はすべて、前の321～330の傾向と同じで、性による差はほとんど見られなかった。これは、集計から省いた「完全一型」の人にあらわれた傾向とは一致していない。しかし、上の321～330と同様、年齢層と世代とは、「完全一型」の場合と同じであって、この場合は、世代のほうで5%の危険率で有意差をもって3世のほうで安定していない。両々あいまって、10代より30代のほうが、2世より3世のほうが型が不安定になってきていることは言えると思う。

321～326までは、たとえば、321が「鼻」と「花」のように、かなで書くと

区別のなくなる語の組み合わせである。この「鼻」と「花」とをアクセントで区別しているとき1点を与えて集計してみよう。つまりアクセントが語の弁別的特性になっているかどうかを見るものである。組み合わせは、321のほか322「飴」～「雨」、323「橋」～「箸」、324「紙」～「髪」、325「泡」～「粟」、326「雲」～「蜘蛛」である。

	1点	0.5	0	計	前述のように、区別するとき1点、しないとき0点、中間的なとき0.5点とすると、問別に全体で、富良野では次のようになる。
321	53人	1	144	198	
322	55	2	141	198	
323	84	2	112	198	323「橋」～「箸」が一番区別されているが、
324	58	1	139	198	これは幾分知識によるものであろうということ
325	41	0	157	198	とは前にも述べた。325「泡」～「粟」、326「雲」
326	38	0	160	198	～「蜘蛛」は一番区別していない。とはいっても、それぞれの差はそれほど大きなものではない。

男女別などで計算すると次のようになる。

	人数	平均	分散
計	198	1.65	2.0477
男	98	1.72	2.0518
女	100	1.57	2.0701
10 代	100	1.65	1.9175
30 代	98	1.65	2.1805
2 世	99	1.80	2.2954
3 世	99	1.49	1.7850

年齢は全く差が見られない。性よりも世代のほうに差があるが、どちらにも有意差は見られない。すなわち、この観点からは、あまり差がない、ということになる。

d. 1 モーラ名詞

4, 3 モーラ名詞のときと同じ集計をしてみよう。

付表3で()のついていないものに2点、ついているものに1点、空欄に0

	札幌	帯広	釧路	富良野	10代 2世	10代 3世	30代 2世	30代 3世	吉野	浦臼
2	2	4	4	6	7	5	5	5	1	3
1	3	0	2	3	2	4	4	4	4	5
0	1	2	0	0	0	0	0	0	4	1
計	6	6	6	9	9	9	9	9	9	9
平均	1.17	1.33	1.67	1.67	1.78	1.56	1.56	1.56	0.67	1.22

点を近似的に与えて計算すると次の通りである。

この結果のうち、釧路が安定していることはこれまでと同様であるが、あと、帯広→札幌の順となっている点が、2モーラ以上とは違っている。また、富良野が大体帯広と同じだったのが、ここでは変わって、富良野が大変安定しているようである。いろいろな意味で、1モーラ名詞は2モーラ以上と違うようである。

富良野について年齢・世代ごとに集計すると次のようになる。

	10代	30代	2世	3世
2	6	6	7	5
1	3	3	2	4
0	0	0	0	0
計	9	9	9	9
平均	1.67	1.67	1.78	1.56

差はほとんどないといっていいであろう。

東京方言との型の対応関係を表示すると次のようになる。

東京 ●○：北海道 ●○

札幌：絵，火

帯広：絵，火

釧路：絵，火

富良野：絵，火，目

吉野：(絵，火，目)

浦臼：絵，火，(目)

東京 ○●：北海道 ●○

帯広：名

釧路：(日)

富良野：(柄，血)，日，名，葉

吉野：(名，葉)

浦臼：(柄，血，目，名)，葉

東京 ○●：北海道 ○●，●●

札幌：(戸，柄，日)

帯広：戸

釧路：戸，柄，(名)

富良野：(戸)

東京 ○●：北海道 ×

札幌：名

帯広：柄，日

吉野：戸，柄，血，日

東京の●○は、北海道でもその型が比較的安定しているが、東京の○●は北海道では不安定である。○●, ●●に傾いている札幌, 釧路に対して、富良野, 浦臼では●○に傾いている。いずれにしても、比較的安定している●○のほうへ引き寄せられてしまっている。ここにも一種の不安定化があらわれていることになる。富良野で、東京の○●に対応するもののうち、いわゆるⅡ類にカッコがつかず、Ⅰ類のものにカッコがついているのは、おそらく偶然ではないであろう。

e. アクセント全体を通観して

以上の結果を見渡して言えることは、4モーラ名詞から3モーラ名詞、さらに2モーラ名詞と、モーラ数が下がるにしたがって、固定化が薄くなる、つまり無アクセント化していくことである。特に、3モーラ名詞と2モーラ名詞との間には大きな断層がある。ところが、1モーラ名詞となると、固定化が著しく、それまでの傾向と矛盾する。このことは、固定化と無アクセント化とが対立概念ではないということで説明がつくのではないかと考える。ことに、モーラ数の少ないほうでは、無アクセント化した結果、現象としてある型への固定化が行なわれた、と見るべきであろう。ある型への集中のうち、何割のものが無アクセント化の結果で、何割のものがそうでないかをふるい分けることはむずかしい。

一方、1モーラ名詞を除けば、モーラ数の多いほど固定化しており、これは全部ではないまでも、無アクセント化しにくいことと結びつくものと思う。

さて、年齢では、4モーラ名詞で30代の点が高いのは、無アクセント化によらない固定化と考えてよからう。それより小さいモーラ数で10代のほうが高くなるのは、無アクセント化による固定化であると解釈できる。世代のほうで3世のほうが固定度の低いのは無アクセント化によるもので、無アクセント化による固定化が、結局それほど高くないところに、年齢と比べて、要因としての世代のききかたがいっそうはなはだしいことを、かえって示すものであらう。もちろんこれは今のところは論証抜きの推論である。

型の対応の表を見ると、3モーラ名詞全体として、4モーラ名詞よりも混乱

が見られるようである。2 モーラ名詞になるとようやく無アクセント化が目立ってくる。すなわち○●○, ●●○型への傾斜である。ただし, i, u に終わるものが○●○, ●●○への「一型化」の妨げとなっている。これらの無声化しやすい母音を持つモーラは、アクセントの核となりにくいからであろう。

1 モーラ名詞では、もう疑いもなく●○に「一型化」が進んでいる。しかし、これはまだ内地のいわゆる無アクセントほど強固ではない。

以上 1, 2 モーラ名詞で●○; ○●○, ●●○への「一型化」が有力となっているのに、3, 4 モーラ名詞では、必ずしもそれに平行して○●●○, ●●●○; ○●●●○, ●●●●○の型に統合していかない点に、北海道アクセントの複雑さがあるようである。

§ 4 結論

以上の調査Ⅳの結果から、移住の形態が集团的であるか混住的であるかによって共通語化も相当違っていることが明らかとなった。なお、同じ混住であっても、地域によって相当差の見られることも確かめられた。北海道方言は決して単一方言ではないわけである。

6. 北海道内部の地域差

—調査Ⅴ（高校調査）

§ 1 目的

広く北海道各地を調査して、北海道の言語の地方的な差異をつかむことを主目的とした。北海道3世になれば、その言語はほぼ北海道共通語になると思われるが、3世のことばも地域によってだいぶ違うことは、調査Ⅱ，調査Ⅳですでに明らかとなった。これを、もっと多くの地点において調べてみようとするわけである。今まで、北海道の言語には、大きく分けて、海岸部のいわゆる「浜ことば」と、内陸部のことばの2種類がある、とされていた。この差が3世にも反映しているかどうか、反映していれば境界線は大体どのあたりに引かれそうか、などがわかるであろう。

そのほか、北海道と地域的に隣接する東北地方のことばも調べて、北海道方言との関係を明らかにしようと、同じ項目について東北地方でも調査することを計画した。これによって、北海道方言の成立基盤のある部分が明らかになるであろう。

§ 2 実施

3世である被調査者は高等学校の生徒から選んだ。上に述べた目的を達するためには、被調査者は高等学校で比較的容易に得られると考えたからである。

高等学校にはあらかじめ「ことばの環境調べ」という調査票を送って、該当する3世の生徒に記入しておいてもらい、これを材料にして調査者が適当と認めた者約5人を指名して面接調査を行なった。調査票「ことばの環境調べ」はその生徒がどこ出身者の孫であるかを記入するよう求めている。この調査の場合は比較的ゆるく条件を考えた。すなわち、

①本人はその土地で生まれ、よそに出たことのない者

②父母は北海道生まれであること

③父方の祖父が内地出身者で、言語形成期を過ぎてから渡道したことなどである。父方の祖母および母方の祖父母は問題としなかった。なお、東北地方については、その土地で生まれ、よそに出たことのない者で、数代前から

その土地に定住している者から選んだ。

このような方法で昭和35年8月の下旬から9月の上旬にかけて次の各地で調査した。

調査者	調 査 校	被 調 査 者	
		男	女
柴 田	桧山郡江差町，江差高等学校	2	3
"	岩内郡岩内町，岩内高等学校	3	2
"	雨竜郡深川町，深川西高等学校	3	2
"	名寄市，名寄高等学校	3	2
"	北見市，北見北斗高等学校	3	2
野 元	函館市，市立函館東高等学校	4	2
"	小樽市，小樽桜陽高等学校	3	2
"	根室市，根室高等学校	3	2
"	標津郡中標津町，中標津高等学校	3	2
"	斜里郡斜里町，斜里高等学校	3	2
上 村	茅部郡森町，森高等学校	3	2
"	上川郡清水町，清水高等学校	3	2
"	苫小牧市，苫小牧東高等学校	3	2
"	浦河郡浦河町，浦河高等学校	3	2
"	広尾郡広尾町，広尾高等学校	3	2
徳 川	松前郡松前町，松前高等学校	2	3
"	有珠郡伊達町，伊達高等学校	4	2
"	江別市，江別高等学校	3	2
"	留萌市，留萌高等学校	3	2
"	稚内市，稚内高等学校	2	3
佐 藤	瀬棚郡今金町，今金高等学校	4	5
"	余市郡余市町，余市高等学校	3	2
"	夕張郡栗山町，栗山高等学校	3	3
"	静内郡静内町，静内高等学校	3	2
"	赤平市，赤平高等学校	3	2
五十嵐	室蘭市，室蘭清水丘高等学校	3	2
"	苫前郡羽幌町，羽幌高等学校	4	1
"	札幌郡豊平町，月寒高等学校	4	1
"	旭川市，旭川東高等学校	3	2
"	滝川市，滝川高等学校	3	2
長谷川	士別市，士別高等学校	3	2

〃	紋別郡遠軽町，遠軽高等学校	3	2
〃	紋別市，紋別高等学校	3	2
〃	中川郡本別町，本別高等学校	4	2
〃	厚岸郡厚岸町，厚岸高等学校	3	2
石 垣	寿都郡寿都町，寿都高等学校	3	2
〃	山越郡長万部町，長万部高等学校	3	3
〃	増毛郡増毛町，増毛高等学校	3	3
〃	歌志内市，歌志内高等学校	3	2
〃	三笠市，三笠高等学校	3	2

小 計 123 87

以下東北地方

柴 田	盛岡市，杜陵高等学校	3	2
野 元	弘前市，弘前高等学校	3	2
〃	能代市，能代市立商業高等学校	3	2
上 村	青森市，青森高等学校	3	2
〃	八戸市，八戸高等学校	3	2
徳 川	大曲市，大曲高等学校	3	2

小 計 18 12

合 計 141 99

すべて，特に断わらない限り，高等学校は道立または県立である。

このときの調査の結果から，内陸部にありながら，言語上，海岸的色彩の強い地点が明らかになったので，この海岸的色彩を確認するために，もう一度，ある同じ地点の同じ高等学校で同じ項目について調査することにした。ただ，調査者は前回と別の者を当てるようにした。なお，これと比較のため，内陸部にあって内陸的なことばの行なわれているところも1地点調査することにした。ここでも調査者は前回と別とした。また，今までの調査で非常に東北方言的な

色彩の濃いところが確認された半島部の，植民の歴史の古い地点でもう一度調査して，被調査者

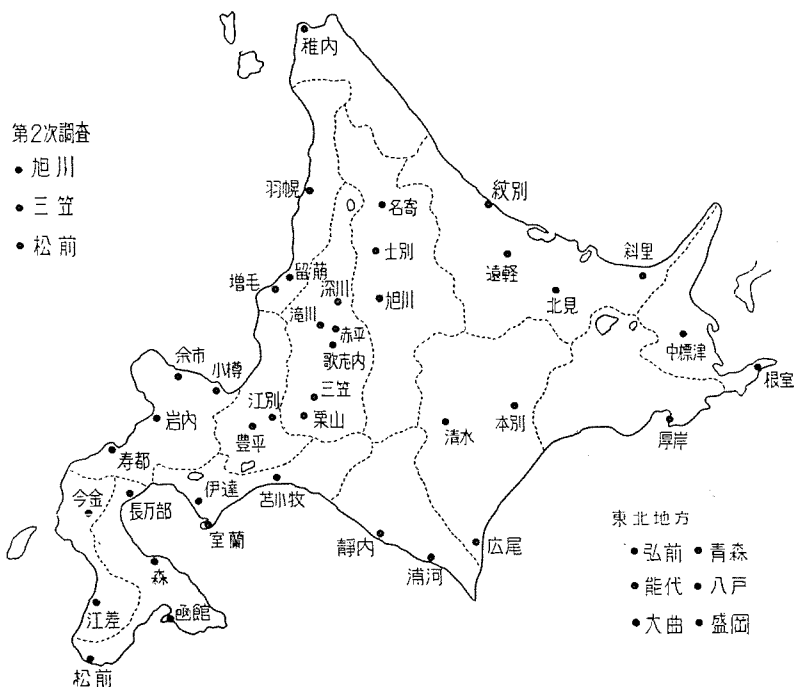
調 査 者	調 査 校	被調査者	
		男	女
野元・長谷川	旭川市，旭川東高等学校	5	5
上村・佐藤	三笠市，三笠高等学校	5	5
佐 藤	松前郡松前町，松前高等学校	6	3
		計 16	13

数をふやして参考とすることを考えた。

なところ、松前が半島部の代表的なところとして選んだ。

校調査の第2次調査である。

以上の調査地点を図示すると地図1のようになる。



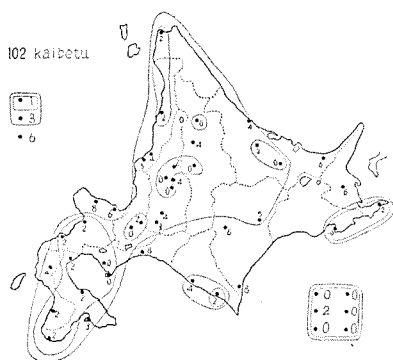
地 图 1

§ 3 結果

1. 語彙について

一口に北海道共通語と言っても、必ずしも北海道全域に等質に分布するとは限らない。分布図が示すように、北海道共通語の分布の濃淡は実にさまざまである。一つずつ簡単に説明する。

101. gosyoimo. 海岸部, 特に半島部とオホーツク沿岸および内陸部ではあ

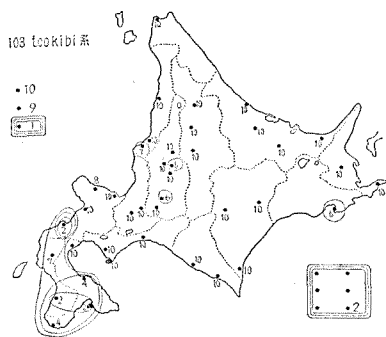


地 図 2

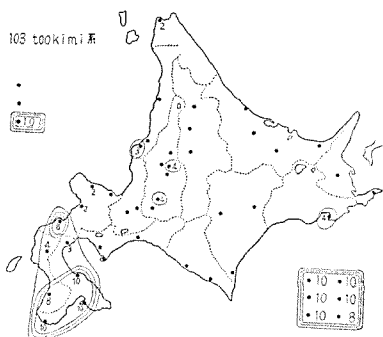
まり多くない。青森県に行なわれるものの反映と考えられる。地図は略す。

102. kaibetu. キャベツのことをカイベツというのは秋田方言の影響であるといわれているが、能代・大曲でもそれほど多くはない。(地図2)

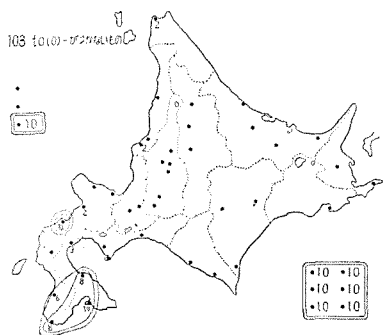
分布図の調査地点に記入した数字は、それぞれの調査地点における被調査者を10人として換算したときの、その形を答



地 図 3



地 図 4



地 図 5

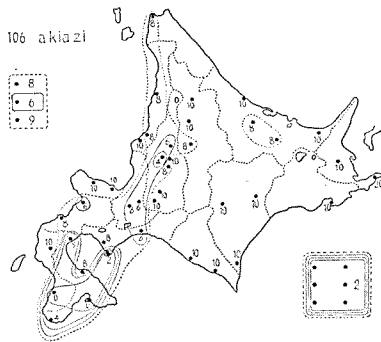
えた人の数である。kaibetu の分布図で、たとえば4とあるのは、10人のち4人の割合で kaibetu を使うということを表わしている。数字が大きいほど kaibetu を使うことが多く、数字が小さいほど kaibetu を使うことが少ないことを表わしているわけである。以下の分布図はすべて同じようにして描いてある。

分布図によって、説明の都合上、ある

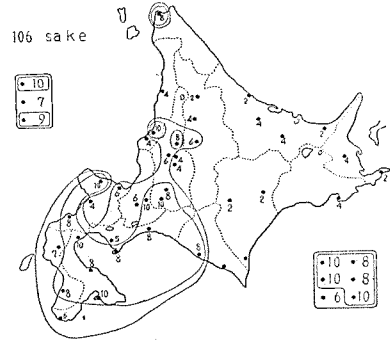
いは、そう答えた人の数の多い地点を線で囲み、あるいは、そう答えた人の数の少ない地点を線で囲んだ。たとえば、地図2は後者の場合である。

103. トウモロコシ。主なものとしては、tookibi 系と tookimi 系とがある。それぞれを地図に描いてみたのが地図3、地図4である。後者は半島部に多く、前者はそれ以外に多いことは明らかである。前者は少ないところ、後者は多いところに線を引いてみた。ほとんど同じところに線が引かれることになる。なお、以下、表および地図では0の場合は省略することにする。

次にto(o)-がつかない者の数を出してみた。(地図5) これによると、to(o)-のつくのは、半島部以外に多い。東北は tookimi 系であるが、to(o)-はつか



地図 6



地図 7

ないことがわかった。東北の南部のkibiにto(o)-がついて、このto(o)-のついた形が、北のほうから半島部のほうにひろがっていることがわかる。

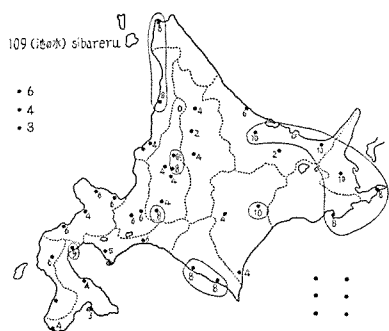
104 蛙

105 蜘蛛

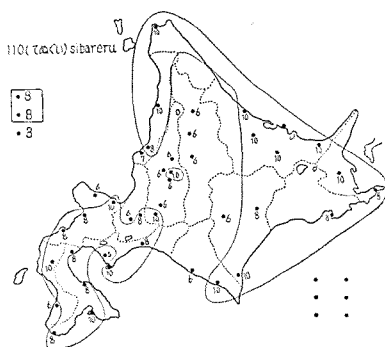
いずれも、ほとんどの地点で、それぞれ、kaeru, kumo であるので、分布図を描くことを省略する。

106は鮭。地図6では、akiazi ということの少ない地点を線で囲んだ。点線以外のところではすべていうと答えている。東北ではこの語は使わず、この影響が半島部や、これと同じ傾向にある日本海沿岸地方、中央部の炭鉱地帯に及んでいる。

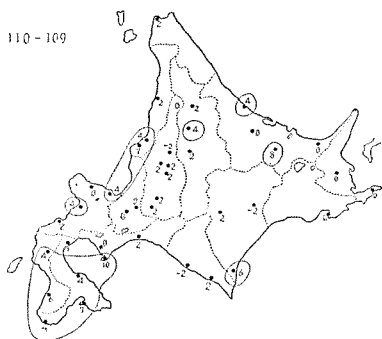
akiazi といわないところは sake という。(地図7)



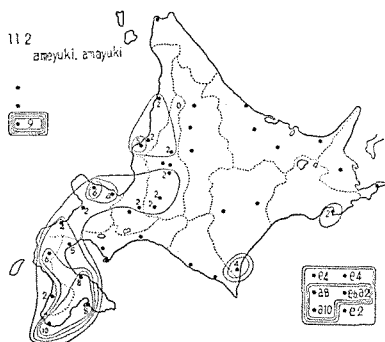
地図 8



地図 9



地図 10



地図 11

107 寒いを *sibareru* というのが全道で圧倒的なので、地図を描くことは省略する。なお、東北では秋田でこの語は行なわれないようである。余市が0で、全員 *kooru* と答えているのは、あるいは調査員の誤差であるかも知れない。

108 氷はすべて全国共通語的なので、地図は描かなかった。

109は池の水の氷ること。110は外に干してある手ぬぐいが「氷る」ことを何というかの問である。地図8，地図9を見ると，*sibareru* を，池の水が氷ることに，手ぬぐいが氷ることに使う地点が少くない。後者を *sibareru* と言うことのほうが前者を同じように言うことよりも多いので，110の数値から109の数値を引いてみた。こうして，二つのことがらを言い分けるかどうかを示す図（地図10）ができる。これを見ると，東部を

除いた海岸部に言い分けている地点が多いことがわかる。

なお、109は東北ではシミルが多数形で、弘前6、青森4、能代2、八戸4、大曲0、盛岡4、同じく110についても弘前10、青森10、能代4、八戸6、大曲6、盛岡6である。

111で、「つらら」のことを *sigá* 系でいうのは半島部と一部の海岸に見られる。*koori* というのは半島部と東部とを除く一部に見られる。東北は *sigá* 系統が多いが、なお、*taronpe* もあり、能代10、大曲2である。(分布図省略)

112は「みぞれ」のことを、*ameyuki* または *amayuki* という人の数である。これらは半島部を中心に使われていることがわかる。東北での *e* は *ameyuki*, *a* は *amayuki* を示す。両者は東北では地域性があるようであるが、北海道では地域差は見られない。(地図11)

113 「まぶしい」。東北は *matuppe* が能代6、大曲2、盛岡2、*mazippe* が大曲4、盛岡2、*matipoi* が八戸8である。北海道の *matukoi* は同じ系統であるが、青森に *matukoi* 4 とあるのと無縁ではなかろう。(分布図省略)

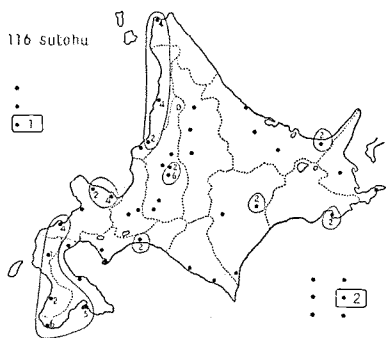
114 「冷たい」は、全域 *syakkoi* で、地域差は見られない。大曲だけは *hakoi* 系である。地図は省略する。

115 手袋を「はめる」。 *hameru* もあるが、*haku* もなかなか多い。(図省略)

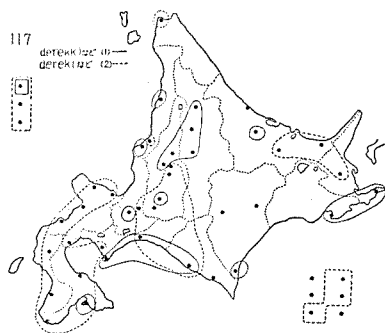
116 の「ストーブ」を *sutohu* というのは、海岸部・半島部に多い。東北でも、盛岡を除いて、使わないまでも、「聞く」と答えた者は多い。(地図12)

117 はストーブの中をかきまわす棒。(2)のような促音のない言いかたは半島部・海岸部、道央の炭鉱地帯に多いようである。地図13には数字を入れずに、(1)の多い地域を実線、(2)を点線で囲んだ。(1)+(2)でも少ないのは紋別・清水・浦河である。なお、この棒を実際生活で使っていない者の数を示すと地図14ようになる。半島部ではあまり使わないようであるが、これは東北の生活形態の影響であろう。北海道の東半分であり使わないのは薪ストーブを使っているからか。なお、レじるしは調査もれ。

118 の「煙突」を *entoo* または *ento* というもの。*ento* は今は半島部にはあまりないが、元来は海岸部のものであろう。*ento* が北海道の東半(いわゆる道東)に多いのも特徴的である。(分布図省略)



地図 12

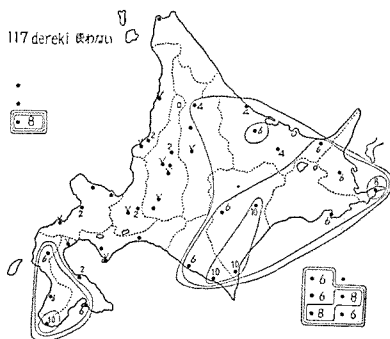


地図 13

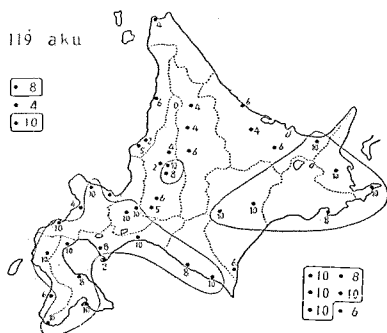
119の「灰」をaku というのはほとんど全道的で、北海的語彙であるといえるが、中でも半島部・海岸部でその色彩が濃いことが地図15で明らかとなっている。

120「眉毛」を東北式にkonoke, 121「薬指」を関西式に benisasi(yubi)というものは、一度も出なかったので省略する。

122「ほくら」をaza というのは東北



地図 14

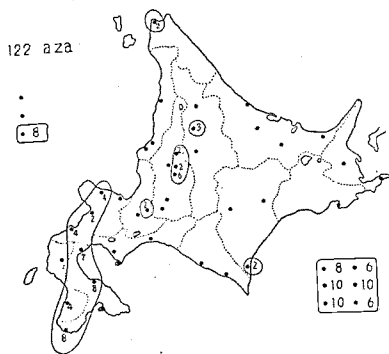


地図 15

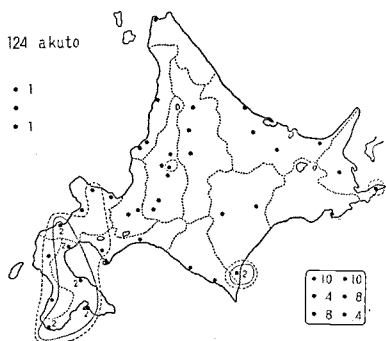
式であるが、これは半島部から海岸部、さらに中央の炭鉱部に見られる。(地図16)

123「凍傷」はsimoyakeに集中している。地図は描かない。ただし、東北では、能代・大曲はyukiyake系、青森・八戸はsinpare系が多い。

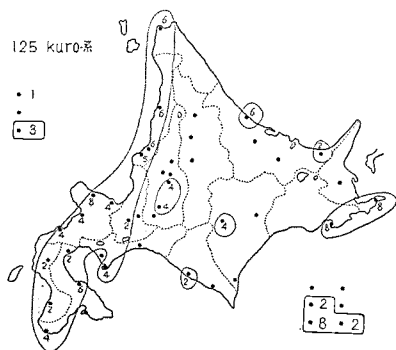
124「踵」をakutoという者。地図17は言うと言った者を実線で示し、聞い



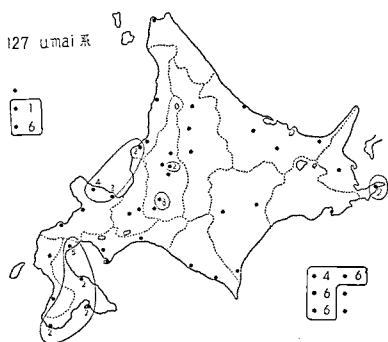
地図 16



地図 17



地図 18



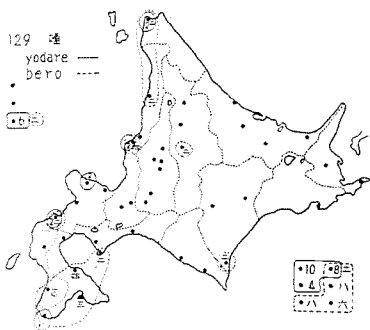
地図 19

たことがあると答えた者を、数字は省略して、点線で示しておいた。聞いたことがあると答えた者のいる地域が、言うと答えた者のいる地域のまわりに分布しているのが図によく出ている。

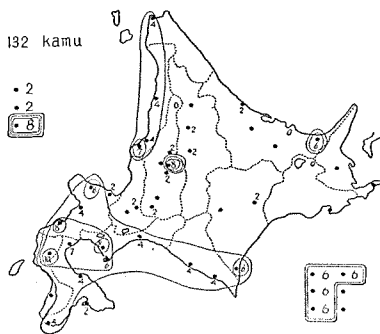
125 「くるぶし」は kuru- というより、kuro- というのが海岸部に見られる。これも東北の影響であろう。(地図18)

126 「塩の味」は東北系のsyoppai が圧倒的で、karai という関西以西の形はところどころに少し行なわれているにすぎない。地図は省略する。

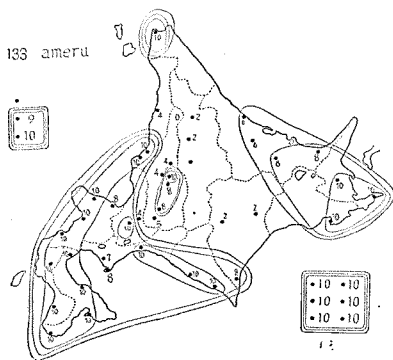
127 は「砂糖の味」。東北系の umai は、上の126 とは違って、おそらく同音異義語との衝突で、それほど大きな勢力を占めておらず、半島部と、海岸部・炭鉱地帯にわずかにあるにすぎない。(地図19)



地図 20



地図 21



地図 22

128 「梅干の味」も、東北系の sukai が海岸部を中心として残っているが、東北で非常に優勢なのに対してあまり勢力はない。おそらく消えていく寸前と思われる。(分布図省略)

129 「唾」。地図20では洋数字と実線で yodare 系を、漢数字と点線で bero 系を示す。yodare は、東北では青森（特に津軽）、秋田北部に多く、bero は南部に多い。なお、tanpe 系がこれらの南に分布しているが、北海道にはこれはない。

130 は、ほとんどすべてが共通語と同じ「イビキオカク」で、東北系の「ha-naoto オ～スル」はほとんど見られなかった。地図は省略する。

131 は、ほとんどすべてが共通語と同じ「ニオイ」で、東北系の kamari はほとんど見られなかった。地図は略す。

132 は「においをかぐ」ことを東北流に kamu というかどうかを見ようとした。これはまだ半島部・海岸部には比較的濃厚に残っているようである。(地図 21)

133 の「ごはんが腐る」ことをいう ameru も同様に海岸部的である。この語を知らない者は炭鉱部、海岸部を除いた道央から道東に多いようである。この語は、東北の語彙が北海道に根をおろし

たものである。(地図22)

134 の「かわいい」の意味の *menkoi* は、東北的語彙であるが、北海道でも圧倒的多数形として使われている。地域差は見られない。地図は略す。

135 の「疲れた」の意味の *kowai* は、東北的語彙であるが、北海道でも圧倒的多数形として使われている。地域差は見られない。地図は略す。

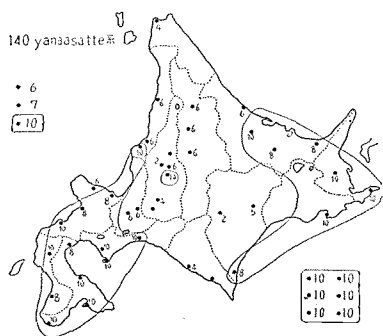
136 の「草や木の大きくなる」意味の *ogaru* は海岸部的である。東北的語彙が北海道に根をおろしたものである。地図は省略する。

137 は「正座する」で、多数形は *hizamazuku* である。ほかに、海岸部や炭鉱部に *nemaru* や *hizao* ～ が分布するが、この二つはすでに弱まって、いまや消えようとしている(地図は略す)。*hizamazuku* は、東北地方にはあまり見られなくて、むしろ中国や九州に見られる語である。なお、東北地方では、北部に *hizao* ～、岩手・秋田南半・宮城・山形北半に *nemaru* が分布する。

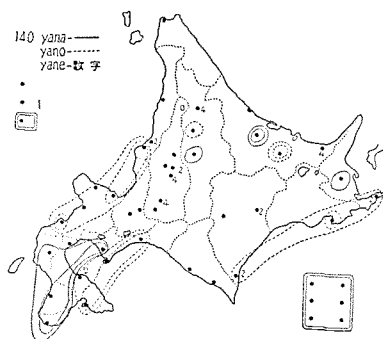
138 の、夜、人の家を訪ねたときのあいさつのことばは *oban desu* に集中しているので、地図は省略する。

139 の、物の値段を尋ねるときの *nanbo* という語は、おそらく *nanbo* が多数形であろうと推定されるが、調査員による誤差があるようなので、ここでは地図を描くことを省略する。

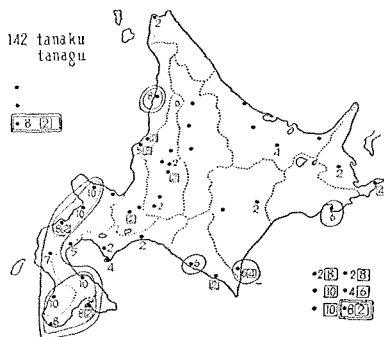
140 は「あさって」を何というかである。地図23を見ると、共通語流に *si-asatte* というのは道央部に多い。東北流に *yanaasatte* というのは半島部・海岸部に多い。*yanaasatte* 系のうち、はじめの部分を *yana-* といつか *yano-*



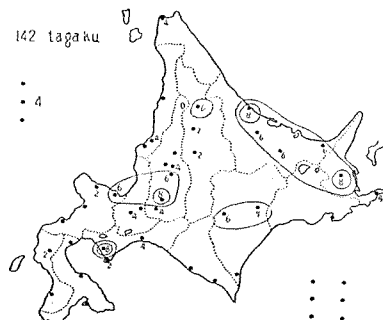
地 図 23



地 図 24



地 図 25



地 図 26

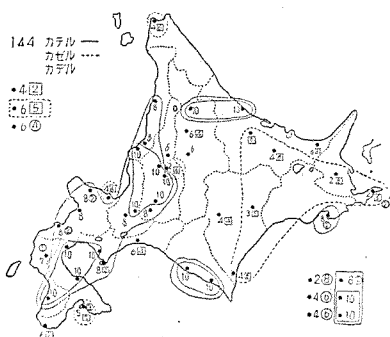
というか *yane-* ということによって分類してみると、地図24で見るように *yana-* は半島部に強い。東北地方の直接の影響であることがわかる。*yano-* はそれ以外の海岸部に多い。*yane-* は特別の地域を持たないようであるが、どちらかということ道央部に多い。地図では *yana-* の多い地域を実線、*yano-* の多い地域を点線で示し、それぞれ数字を省略し、*yane-* は数字だけをあげてみた。

141 140の次の目のことを *siasatte* と東北流にいうのは半島部・海岸部・道東に多く、*yanaasatte* と共通語流にいうのは道央に多い(地図省略)。

142 は重いものを持ち上げることを何というかである。おもな形として、*tanaku* と *tagaku* とがある。前者が東北北部的で、後者は東南北部的といわれている。地図25、地図26で見るように、北部的なほうが半島部や海岸部を占め、南部的なほうが道央部・道東部を占めている。地図25では、*tanaku* 系統と認められる *tanagu* を特に四角で囲んで数字で示す。東北北部系の語彙と南部系の語彙とが北海道の中で、このような地域性をもって分布していることは興味がある。

143 一生懸命になることを「ハッチャキになる」というように使うかどうかは、ほとんどの地点で、使うと答えているから、地図を描くことを省略する。

144 「加える」という意味で「カテル」などということばを「使う」かどうかを聞いた。「聞く」というのも加えて地図を描くと、地図27のようになる。カテルは実線でそのままの数字、カゼルは数字を四角で囲んで点線、カデルは数字



地 図 27

を丸で囲む。この語は調査Ⅲで、小地域の中でも地域差があると考えられたものであるが、北海道全体から見たときも地域性があるようである。カデルがカテル系統であることは地図の上から見ても明らかである。

145「交換する」意味のバクルは、「使う」が各地で圧倒的なので、地図を描くことを省略する。

146「乞食」の意味のホイとも、「使う」が各地で圧倒的なので、地図を描くことを省略する。

147「きたならしい」「むさくるしい」を ヤバチイというのは東北的語彙であり、したがって、半島部・海岸部、さらに中央の炭鉱部で多く使われているようである。ヤバシイという語もあるが、これはそんなに多くはない。おそらく、ヤバチイという音が方言的な印象を与えるのを嫌って、「美しい」などに類推してあとから生まれた形であろう。地図は省略する。

148 は「気楽だ」「ゆったりしている」「きまづくない」などの意味で、アズマシイという語を使うかどうかを聞いているが、これも圧倒的に「使う」と答えているので、地図は省略することにする。

以上の語彙についての記述からわかるように、北海道で行なわれている語彙の分布にはいろいろのタイプがある。これをタイプごとに説明していくことにしよう。

まず、半島部・海岸部（この場合内陸の炭鉱地帯を含む）が東北的なもの。これが調査語の中では比較的多い。103 tookimi, 111 siga, 112 ameyuki など, 113 matukoi, 117 derekki など, 119 aku, 122 aza, 124 akuto, 125 kuro-, 132 kamu, 133 ameru, 140 yanaasatte, 141 siasatte, 142 tanaku, 144 kateru などがこれである。

これに似ているが、この半島部・海岸部が北海道的なものがある。110 si-bareru, 116 sutohu, 118 ento などであるが、北海道的といっても、まった

く東北と関係がないとはいえないであろう。

この変形として半島部・海岸部以外が北海道的なものとして 103 tookibi, 半島部以外の海岸部が北海道的なものとして 109 sibareru がある。

次に、道東の特に内陸部が北海道的なものとして, 102 kaibetu, 106 aki-azi, 142 tagaku (これは東北的), 144 kazeru などがある。これらの地域が逆に共通語的なものもある。140 siasatte, 141 yanaasatte など。

北海道一円が東北的なものも数多い。107 sibareru, 114 syakkoi など, 115 haku, 126 syoppai, 134 menkoi, 135 kowai, 138 oban desu, 139 nanbo, 143 ハッチャキニナルがこれである。

北海道一円が東北的でなく、共通語的なものもまたある。104 kaeru, 105 kumo, 108 koori, 120 mayuge, 121 kusuriyubi, 123 simoyake, 130 i-bikio kaku, 131 nioi などである。

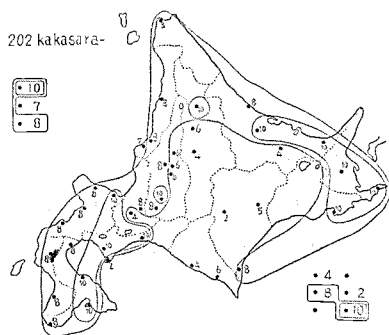
東北的な語彙がだんだん消えていくことがはっきりしているものは, 127 u-mai, 128 sukai, 129 yodare, bero, 137 nemaru, hizao ~などで、北海道的な語彙がだんだん消えていくものは 101 gosyoimo である。

2. 文法について

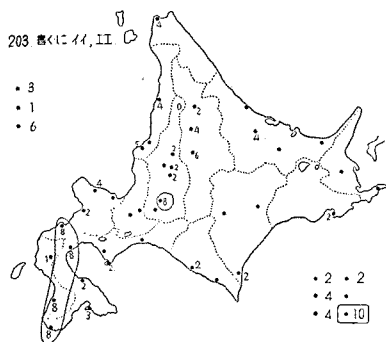
語彙の場合と同様に1項目ずつ説明し、地域的な差が見出せるものは地図に書いてみよう。

201 は「書く」の否定形を聞いている。カカンという者はあまり多くないし、地域性もないようである（地図は略す）。しかし、これは調査という場面に制約されているように思う。実際生活ではカカンのような表現はよく耳にした。これは方言だという意識が強いので、調査では出てこないのであろう。

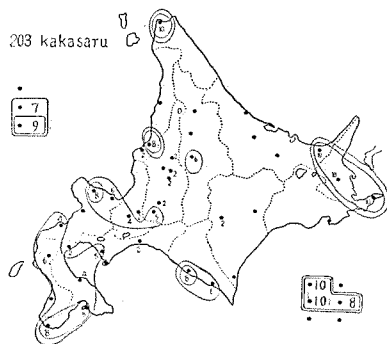
202 は「こんなペンではうまく書かされない」のように kakasara-を使うかどうかである。この形を使うのは、地図28でわかるように、半島部・海岸部に多い



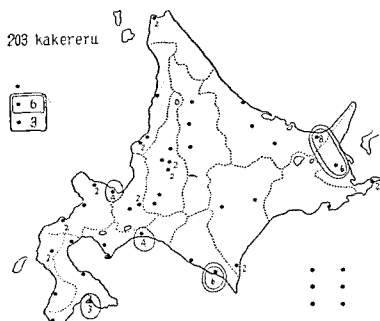
地 図 28



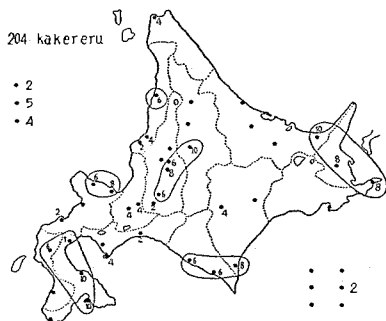
地図 29



地図 30



地図 31

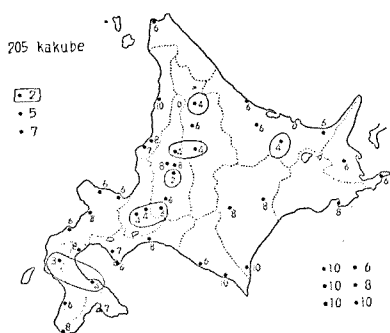


地図 32

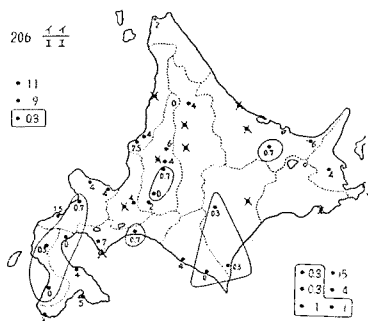
のであるが、その他の地方にもあり、ほとんど全道的といってもいい。これは東北にもあるが、東北でも、その一部であって、北海道ほど優勢ではない。起源は東北に求められるが、新しい生命を北海道で得て発達したというべきか。kake-re-の形をいうのは、これに比べるとずっと少ない。やや海岸的かとも思われるが、それほど顕著ではない。

203 書きやすいペンのことを「このペンは書くにええ」のようにいうかどうかである。書くにイイまたはエエという者を地図に示す。(地図29) このうち、エエという者はその中核をなすように分布している。しかし、エエというのは東北にはあまりないようである。

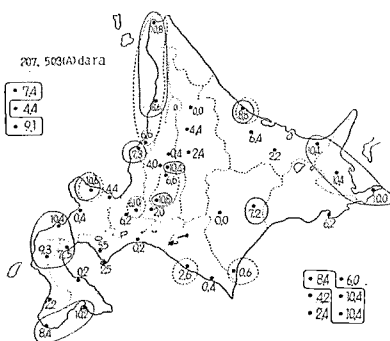
また、kakasaru, kakereru という言い方もあり、地図30, 地図31に示すように分布する。202で述べたことと平行



地 図 33



地 図 34



地 図 35

したことがいえる。kakereru はどちらかという弱い。

204 自分はローマ字で手紙を「書くことができる」をもう少し短かくいうと、どうなりますか？ というのが質問文である。203 が情況可能を聞いているのに対して、こちらは能力可能である。カカサルやカクニイなどはずっと少なくなくて、kakereru が多くなっているが、これは全道的というよりも、やや海岸的のようである。(地図32)

205 手紙はあの人が「書くだろう」「あの人が書くべ」のどっちを仲のいい友人には使うか、という形で尋ねた。kaku-be が方言であることはいわば知れわたっているのであるが、全道的に特に男子に根強く行なわれ、どちらかというと海岸的といえる分布を見せている。(地図33)

206 手紙が来たから返事を「書けばいいのに」「書けばええのに」のどちらを、相手が仲のいい友人だったら使うか、という形で尋ねた。ここではイイかエエかの観点から集計した。イイの数をエエの数で割ったものを示したのが地図34である。ただし、イイ≠0であり、もしエエ=0のときは、仮にエエ=1としての計算に1を加えた。答えの数値の少ないとき線で囲んでみたところ、地図34のよう

に半島部・海岸部にエエが多いことが明らかとなった。このことは203でも見られたところである。なお×じるしは計算不能であることを示す。

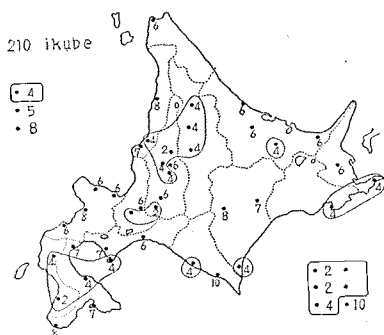
207「書くなら」「書くだら」のどちらを使うか、である。なお、これに関連して、最後に短文を読ませ、標準語としておかしいところを直させる問(503)を出した。それは、「それ^(A)だらそうと早く^(B)言**い**ば**い**いのに」のような文で、(A)を直さなかった者で、しかも、この207で *dara* と答えた者の数を出した。地図35では、左に問207の場合の数字、右に短文の場合の数字を示し、かつ実線で前者を、点線で後者を示した。結果を見ると、*dara* はやはり半島部・海岸部に多いことは明らかである。北海道では後者のほうが多いところが数地点、特に南岸沿いに見られたのに対して、東北ではそのようなことが少ないのは偶然であろうか。東北のほうが方言を直す点に注意が常に向いているものかとも思えるが、この点は確実にはいえない。しかし、平均点を出すと、北海道3.8に対して東北3.0と東北のほうがよく直していることも事実である。

208「起きられる」の否定形である。*okire-* が圧倒的であって、これは全道的といえる(地図略す)。これも「かれは肩をいためたので、ボールを投げられないそうだ」という短文を見せて、直すべきところを直させようとしたが(問505)、相当の人が「投げられない」のところは直していない。この *okire-*、*nagere-* の起源は、東北地方に求めることができよう。

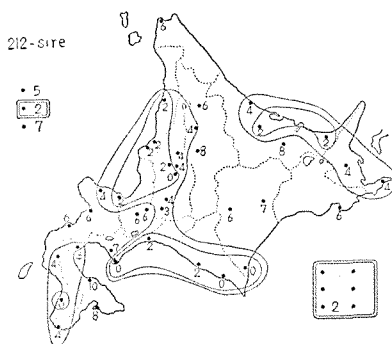
209「起きる」の命令形である。*okire* が圧倒的であって、ほぼ全道的ではある(地図略す)が、208に比べると、道東の勢力はそれほど強くないし、また多少半島部・海岸部的である。この形は東北では能代、大曲で多く聞かれたから、東北全体でなく、少なくとも秋田の影響によって広がったのであろう。東北全体を基盤としていない点で、208の *okire* に比べて少し弱い理由かも知れない。

okiro という共通語形は、東北では秋田を除く4地点で多数形となっているが、北海道では極めて勢力が弱い。*okinasai* と *okina* も北海道ではあまり有力ではなく、東北では1回も出なかったのが注目される。

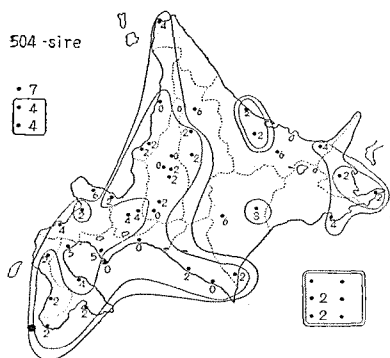
210は「いっしょに映画見に行くべ・映画見に行こう」のどちらを仲のいい友人にいうかという問である。205の *kakube* と比べると、*ikube* の勢力はわずかに弱いようである。地図36では少ないところを線で囲んだが、210のほうが



地 図 36



地 図 37



地 図 38

それが広いうえに、205にはわずかに見られた海岸部の傾向が少し薄れてしまっている。なお、東北では ikubesi という形が見られ、弘前6、青森6、能代8と北部のほうにかたまっているが、北海道にはこれの影響と認められるものは見つからない。

211「勉強するのは好きだ・勉強するのは好きだ」のどちらの言い方をするかである。サ変動詞の一段化の程度を見ようとしたのであるが、まず問題なく suru であって、結果を示すまでもないので、地図を描くのは省略する。

212「もっと勉強せい・もっと勉強しろ・もっと勉強しれ・もっと勉強すれ」仲のいい友人にはどの言い方をするか。-seeはそれほどない。-sure, -sireは東北には少ない（東北の圧倒的多数形は-seeである）から、まずは北海道でひろがった命令形とっていいであろう。東北の影響を比較的受けがちな半島部・海岸部でこの言い方が少し少なくなっていることからこのことは伺われる。地図37には-sireと答えた者の数を示しておいた。

なお、504は「しっかりしれ。元気を出せ。思いきって投げろ」というのを直すものである。地図38は504において-sireの部分直さなかった者の数を示した。

213「早くこればいいのに・くればいいのに・こいばいいのに」のどのいい方をするか。koiba（およびkoeba）について見ると、やや海岸部的ではあるが、ほとんど全道に行なわれている（地図は省略する）。なお、この言い方は秋田方言に起源を有する。

214 は「あんまりおかしくてどうしても笑わさった」というように「笑わさった」という言い方をするかどうかを聞いたものであるが、いうのが東北ともども圧倒的多数形である。したがって地図は省略する。

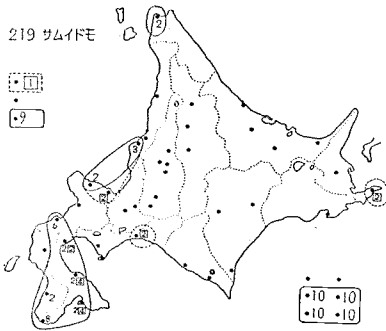
215「このりんごは弟に食べらせよう・食べさせよう・食べらそう・食べさそう」のどれをいうかである。taberaseyoo がやや半島部・海岸部的なのを除けば、あまり差は見られない。北海道全体としては、多さの順に並べると tabesaseyoo～tabesasoo～taberaseyoo～taberasoo となる。なお、東北では tabesaseyoo～taberaseyoo～tabesasoo の順であり、taberasoo は一つもなかった。地図は省略する。

216 は「冬には野菜がたけくなる」のように「たけく」を使うかどうかである。これはほとんどの被調査者が知らないと答えている。函館3，松前2，長万部2，増毛3だけが使い、わずかに半島部・海岸部的であったことを示しているが、もうほとんど消えてしまっているようである。東北ではこれはもう少し多く、弘前2，能代6，大曲2，盛岡8である。地図は省略。

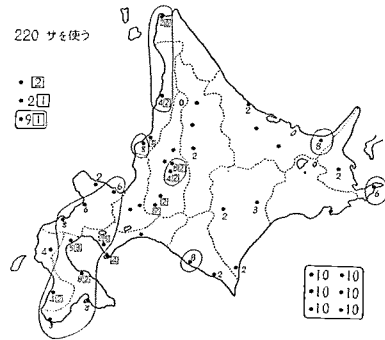
217 は「冬は野菜は高かんべ・高いべ・高かっぺ」のうちどういう言い方をするかを聞いた。以上の答を -be 語尾のついたものと認めてまとめると、多少の差はあるが全道に見られ、特に地域的な傾向はないようである。（地図略）

218 は「寒いから寝たほうがいい」の「から」のところをどうい う か である。スケ、ハンデという東北系のことばを使うのは半島部に限られ、しかも、これはほとんど消えかかっているといっている。（地図略）

219 は「寒いけれども」の意味でサムイトモというかどうかである。地図39で、今は使わないが、昔は使ったというものを特に四角で囲んで示し、点線でその地域を示した。これは半島部・海岸部に限られ、しかも消えかかっていることが明らかである。このようなものは、すでに北海道方言とはいえないであろう。なお、盛岡は10のうちサムイトモ2を含む。



地 図 39



地 図 40

220 は「学校さ行く」のようにサを使うことがあるかである。219 と 同じ方法で描いた。(地図40) これも半島部・海岸部でよく使われる。

文法についての分布のタイプは、語彙のそれよりも簡単のようである。道東の内陸部で北海道的または共通語的というタイプは文法の場合にはない。

まず、半島部・海岸部が東北的なものが、205 kakube, 206 書けばエエのに、207 dara, 220 サで、同じく北海道的なものが、202 kakere-, 203 kakkereru, 204 kakkereruで、東北と北海道の中間的のともいうものは、202 kakasara-, 203 書くにイイ・エエ, kakasaru である。

次のタイプは全道一円に同じくらいの高さで行なわれるものである。東北的なものに、214 warawasatta があり、北海道的なものに、201 カカン, 212 ~re があり、両者の中間的なものとして、208 okire-, 209 okire, 210 ikube, 217 -beなどがある。

第3のタイプは、第1のタイプに属するが、ほとんど消え去ろうとしているものである。218 ハンデ, スケ, 219 サムイデモなど。

このようにあげてくると、文法の項目はすべて東北的または北海道的であって、共通語的というのがないようであるが、これは、すべて共通語的となるような項目を質問しなかったためと思う。北海道方言にはもちろん、共通語と同じ文法的特徴は数多い。

つぎに項目番号500台の質問のうち5つについて、それぞれ200台の質問と組

み合わせて、1地点平均どういう数値になるかを計算してみよう。

		北 海 道		東 北	
dara	207	5.3	1.5	6.7	3.7
	503	3.8		3.0	
okire-	208	8.8	2.1	7.7	1.0
	505	6.7		6.7	
okire	209	7.9	1.1	4.3	1.0
	501	6.8		3.3	
～re	212	7.4	1.0	0.7	-0.3
	504	6.4		1.0	
koiba, koeba	213	7.1	5.1	3.3	2.6
	502	2.0		0.7	

200台のところの数値が比較的高ければ、このような方言形が比較的多く行なわれていることになる。dara を除いて、すべて北海道で盛んに使われていることがわかる。ことにサ変のレ語尾命令(212)は北海道独得のものである。

200台と500台の間にある数値は両方の差である。この数値が大きいほど方言と知りながら使っていることになる。koibaまたは koeba のその数値が、北海道で一番大きい。東北ではdaraが方言であるとの意識が北海道よりも強いことがわかる。

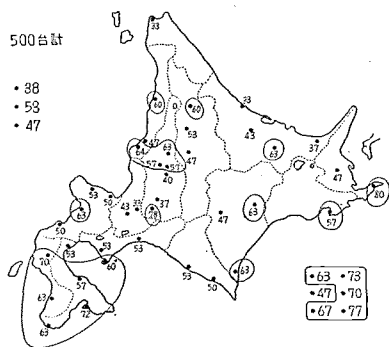
500台の数値はどれも東北のほうが低い。つまり、方言訂正能力が高い。この点からするならば北海道における共通語教育は多少遅れているようであるが、もちろんこれだけで確言することはできない。

okire-, okire, ～reについては、ほとんど10人中6, 7人までが北海道方言だとは思っていない。被調査者が高等学校の生徒であるのに、こうであるということは、問題にしてもいいことだと思われる。

500台の501, 502, 503(A), 同(B), 504, 505の6間について、共通語のように直したとき1点を与えて合計し、各地点を100点満点で換算すると地図41のようになる。点が高いところを線で囲んでみると、海岸部や半島部に多く出て来るし、また東北にも多い。これは、今までに述べたことを裏書きしている。

500台計

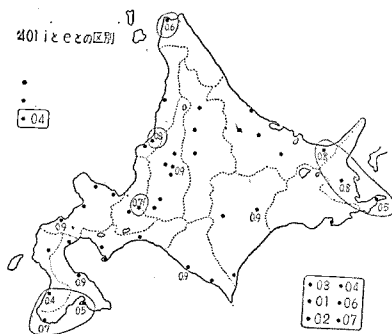
- 38
- 53
- 47



地図 41

401 iとeとの区別

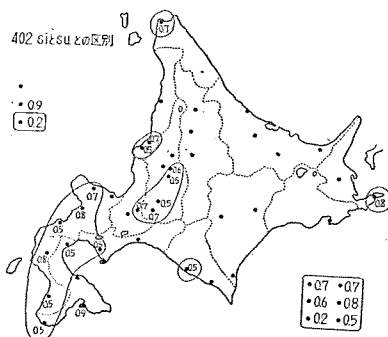
• 04



地図 42

402 siとsuとの区別

• 09
• 02



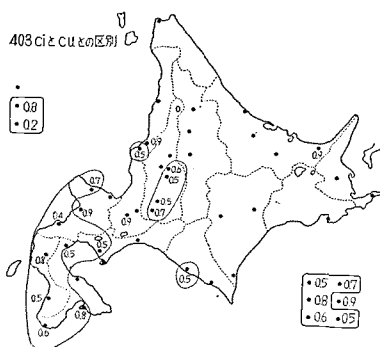
地図 43

3. 音声について

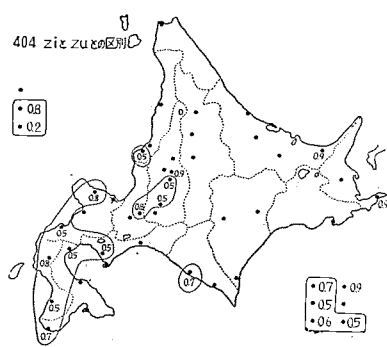
音声については、別な集計をした。たとえば、iとeとの区別があるかどうかの観点から、調査語2語について、被調査者各人が2語とも、iとeとを発音し分けていないときは0点、2語とも完全に発音し分けているとき1点、その中間と考えられるとき（たとえば、1語だけ区別するなど）0.5点という点を与え、地点ごとに、5人なら5人の平均点を出した。地図に書いてある数字もこの平均点である。だから、平均点が1点ということは、被調査者全員がiとeとをはっきり区別している、ということである。ただし、地図では1を省略する。

401 iとeとの区別。東北でこの区別がはっきりしないことはこの調査でも明らかであるが、北海道では、それほど強くない。ただ、半島部・海岸部に少し残っているだけである。（地図42）

402 siとsuとの区別。道東部を除くと、iとeとの区別よりもはっきりしないようである。しかし、東北ではむしろこのほうが区別ははっきりしている。（地図43）これを403のciとcuとの区別と比べてみると、分布は極めて似ている。（地図44）404のziとzuとの区別のほうは区別のあやしい区域が半島部以外で402や403より少なくなっている



地 図 44



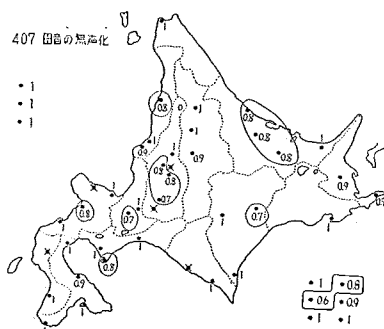
地 図 45

ことが注目される。(地図45)

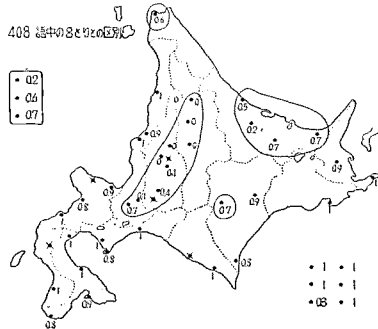
405 語中のkとgとの区別。406 語中の t と d との区別。ともに、わずかに海岸部に残る程度である(地図は略す)。405 のほうは東北でも薄れてきているが、406のほうは東北ではまだ相当強いことがうかがわれる。

407 母音の無声化があるとき1点、ないとき0点とした。今金、余市、栗山、赤平、静内では0点となったが、これらはある1人の調査員の担当した地点であり、この点は後にも述べるが、調査員の誤差とも見られるので、地図46では×じるしをつけて省いておく。やや海岸的な傾向もあるが、半島部ではこの傾向は見られない。

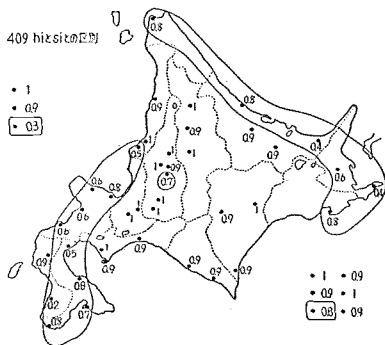
408 語中のgとりとの区別。この場合も先の今金以下の5地点は、地図では



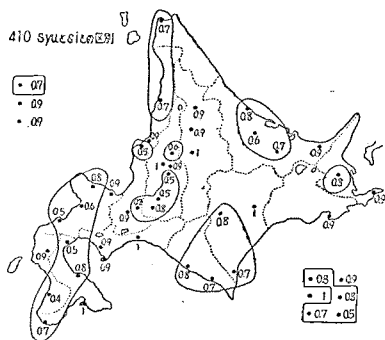
地 図 46



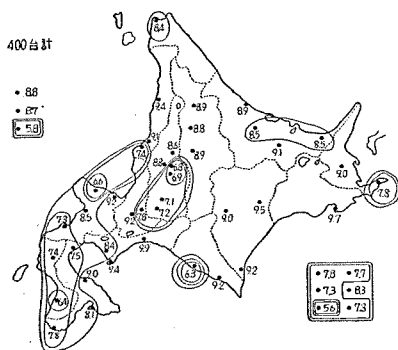
地 図 47



地図 48



地図 49



地図 50

省略することにする。地図47によると、海岸部では比較的区別されているが、オホーツク海沿岸や内陸部、特に後者ではこの2つを区別しない。だんだんこの区別が失われる傾向が東京などにもあるが、北海道では、東北の影響の強いところではまだよく区別している。

409 hiとsiとの区別。hi と si を区別しないのは、東京を初め、東北に広いといわれる。結果を見ると東北では非常に薄くなっている。(地図48) しかし、東北の影響を受けていると考えられる半島部・海岸部ではまだ強く残っている。

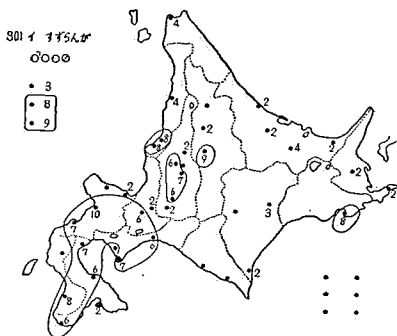
410 syuとsiとの区別。この区別がないのは、どちらかといえば海岸的な特徴かと期待されたが、それほどはっきりしていない。(地図49)

400台(音韻)の点数を合計したものが付表4の3. 音声の表の一番下の行に出ている。この点数の高いほうが東北的と見られるものである。地図50によれば、いわゆる半島部・海岸部で点が高い。また、内陸の炭鉱地帯も同様に高くなっている。つまり、これらの地帯は音韻的に見て東北的だといえるであろう。

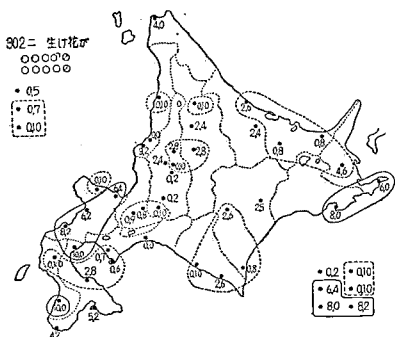
4. アクセントについて

アクセントについても、音声についてと同じような整理を試みた。

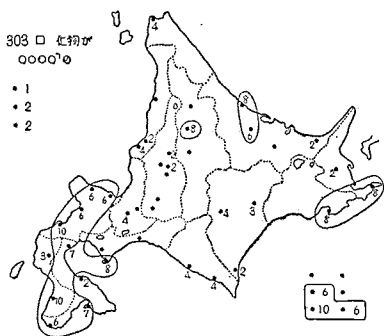
今までに、北海道のアクセントが無ア



地図 51



地図 52



地図 53

クセント化しつつあることを述べてきたが、このような状況下にあっても、なお、地域性を持っているようである。

a. 4 モーラ名詞

「すずらんが」を●○○○○のようにいうのをよく北海道で耳にする。このアクセントは地図51のように半島部・海岸部を中心として、内陸の炭鉱部にも一部認められる。東北にはないから、北海道で発生したものであろう。

このように、東北と関係ないものもある一方では、やはり東北と関係のあるものが、特に半島部・海岸部に見られる。たとえば、「建物が」について、東北には●○○○○はほとんどまったくなく、半島部・海岸部にもこの形はあまり多くない。東北では能代・大曲・盛岡に○○○○が多く、青森・八戸に●●●●が多いが、この2つの形は、ある小グループを形成しながら、半島部・海岸部に混在している。このように異なる型が並存していることと、北海道アクセントの無アクセント化とは無関係でなかろうと思う。(地図略す)

なお、「建物が」は、付表には302口、351口の2つが出ている。これは、まず、302口でこの語のアクセントを聞いて、そのあと、いくつかの語を聞いてから、もう一度351口で聞いて得た結果である。

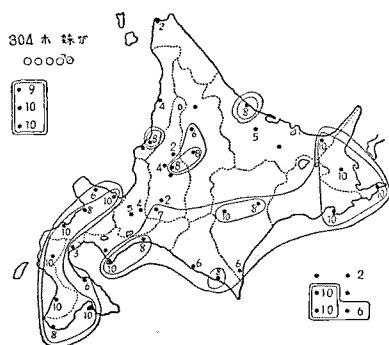
これについては、あとで、さらに説明することにする。

「生け花が」を地図に描いてみよう。地図52の数字の左は ○○○●○ , 右は ●●●●● の数である。前者の多いところは、実線で、後者の多いところは点線で囲んだ。

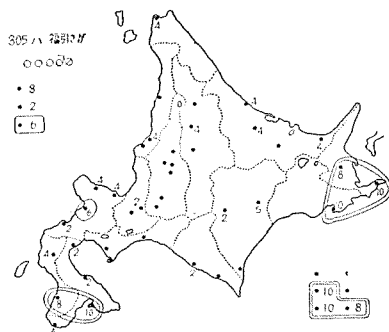
「九つが」では、○○●○○ は半島部・海岸部に多く、○●○○○は内陸部から道東部に多いという分布が認められる。

「化物が」を ○○○●○ のようにいう数は地図53のようになっている。非常に半島部・海岸部的な色彩が濃いようで、これについてはまた後に述べることにする。

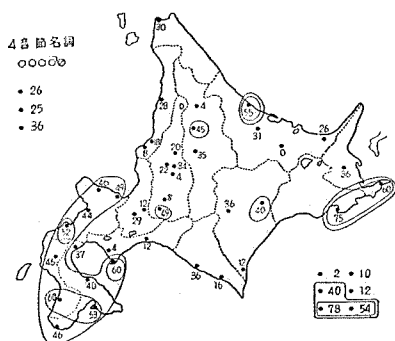
「妹が」と「福引きが」の○○○●○の率を示すと、地図54, 地図55のように



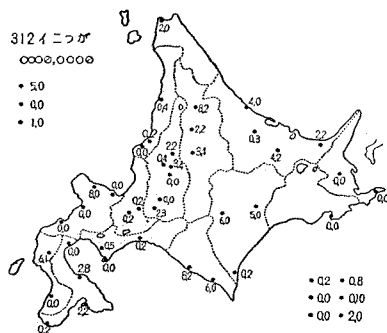
地 図 54



地 図 55



地 図 56



地 図 57

なる。東北調査のほうはほぼ同じ条件であるが、「妹が」のほうが北海道ではずっと勢力が強い。これは共通語のほうの支援があるからとも考えられる。分布が語ごとに区々である例の一つである。

以上述べたところからすると、半島部・海岸部はすべて ○○○●○ に落ちつく傾向があるように思える。そこで、4 モーラ名詞の全調査語について、○○○●○ の数を合計して地図56を描いたところ、確かにその傾向は認められるようである。これは、東北の、特に秋田などの一般的傾向の反映とも考えられる。もっとも、秋田方言の ○○○●○ は [○○○「○」○] のようであるが、北海道方言の ○○○●○ は必ずしもそうばかりとは限らず、 ○●●●○ でもある。

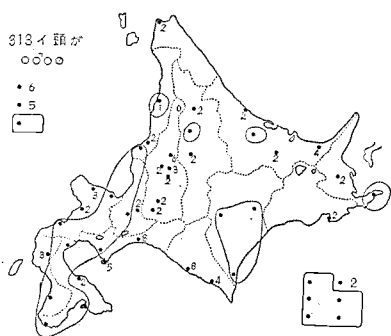
b. 3 モーラ名詞

「二つが」を ○●○○ を左、 ●●●● を右に数字で示してみた。(地図57) ●○○○ はないから、10から、上の2つの数字の和を引いたものが ○○●○ の数となる。●●●● は中部に比較的多いことが出ているが、この傾向は他の語でも多少見られる。東北に多い ○○●○ の型は、半島部・海岸部に多いことがうかがわれる。

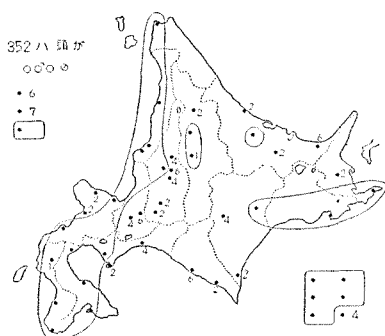
「頭が」は、間にいくつか調査語をおいて2回聞いている。その2つの結果を地図58、地図59に分けて描いてみた。地図では ○●○○ のないところを線で囲んでみたが、○●○○ のないところが半島部・海岸部にあることは否定できないものの、二枚の地図は必ずしも一致していない。すなわち、ある個人のアクセントがゆれているわけである。2つの答が一致した人数を各地点の被調査者10人として換算したのが、地図60である。これによれば、半島部・海岸部、つまり東北の影響を受けているところは比較的ゆれが少ないと認められる。無アクセント化ということが盛んなのはおそらくそれ以外の地域においてであろう。

「毛抜きが」を ●●●● のように平板にいうのは、『国立国語研究所年報12』にすでに述べたように半島部・海岸部に多い。これは東北の影響である。

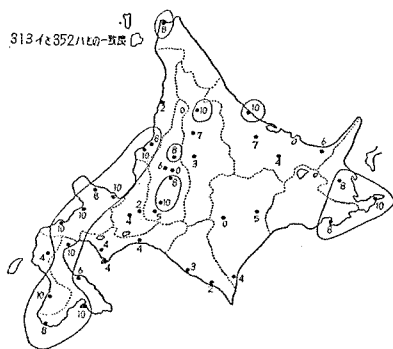
「心が」について、前に述べた「頭が」と同じような点を示してみよう。(地図61、地図62、地図63)「心が」についても、「頭が」のところで述べたことがそのままいえるようである。一致度からいうと、半島部・海岸部的な色彩は



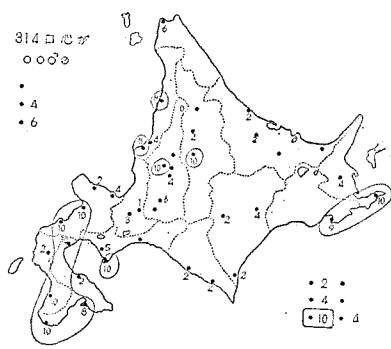
地 図 58



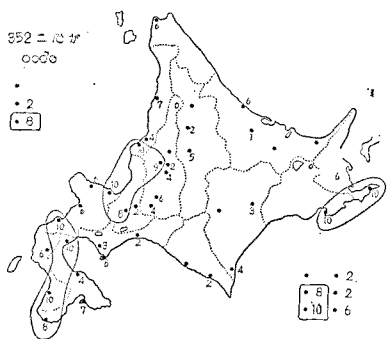
地 図 59



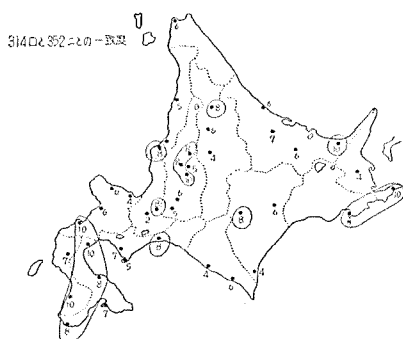
地 図 60



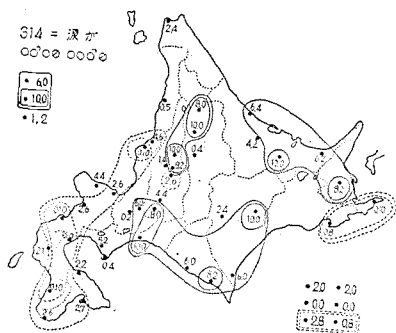
地 図 61



地 図 62



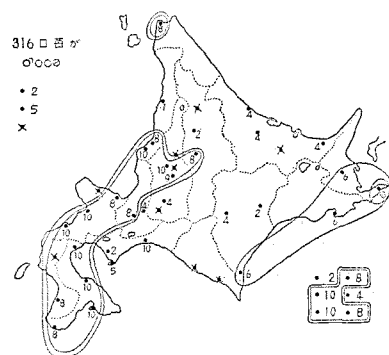
地 図 63



地 図 64



地 図 65



地 図 66

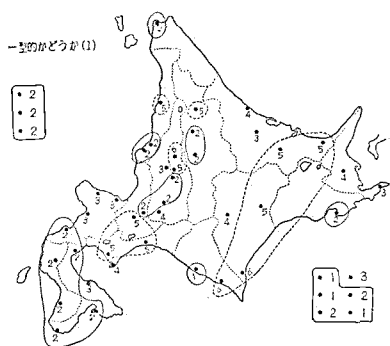
「頭が」よりも少し薄れている。このような場合でも語ごとに違うといえる。東北も思ったよりも一致していないようである。

「涙が」の分布図（地図64）を見ると、○○○○が道央から道東にかけ、○○●○が半島部・海岸部で行なわれていることが明らかである。東北では大曲・盛岡にしかない○○●○が半島部・海岸部に広がったわけであるが、この地域には、4モーラ名詞のところで述べたように、○○●○型の広まる基盤があったのかとも思われる。

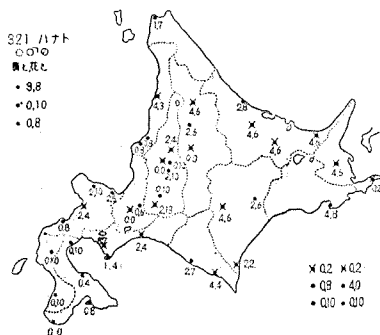
「ねずみが」の●●●●●を地図に示すと、東北調査では、青森県にこの型が多かったにもかかわらず、この型は半島部・海岸部には広がっていない。（地図65）この部分には○○●○の型が行なわれており、これは秋田に多い。すなわち、アクセントにおいては、半島部・海岸部が東北的というのは、青森的这一よりも秋田的であることが多いようである。

「後ろが」については『国立国語研究所年報12』で述べたので、ここでは省略する。

「舌が」は●○○○が強い勢力を持っているが、これは特に半島部・海岸部に多いものである。（地図66）なお、これ



地図 67



地図 68

には調査員誤差があるようなので、図中の×じるしの地点は集計から除外した。

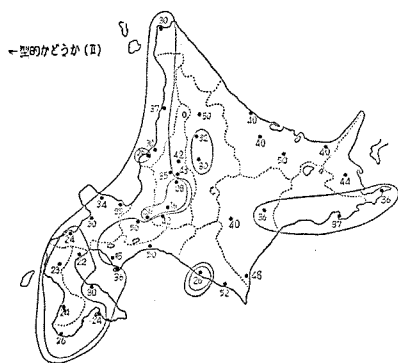
c. 2 モーラ名詞

「鼻と」～「花と」, 「飴と」～「雨と」, 「橋と」～「箸と」, 「紙と」～「髪と」, 「泡と」～「粟と」, 「雲と」～「蜘蛛と」という同音語の6つの組み合わせで、その地点としてアクセント上の区別があるかどうかを判定し、ないときに1として合計すると、地図67のような結果となる。最後の組は東京方言では区別のないものであり、最後の2つの組は東北方言でも区別のないものであるため、全部の組を区別するということはなかった。結果によると、多少の調査員誤差はあるようであるが、大体、半島部・海岸部では区別する傾向にあり、道央から道東では無アクセント化しているということがいえるのではないかと思う。

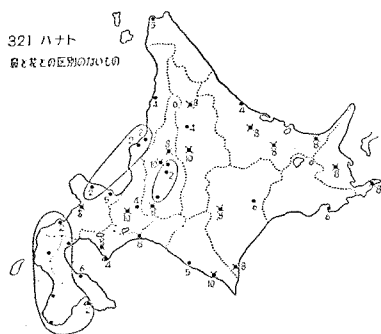
40調査地点のうち何地点で区別していないかを各組について数えると次のようになる。「鼻と」～「花と」18, 「飴と」～「雨と」15, 「橋と」～「箸と」10, 「紙と」～「髪と」18, 「泡と」～「粟と」38, 「雲と」～「蜘蛛と」36。組によって相当違っていることが明らかである。

ここで1例として、「鼻と」～「花と」について、○●○の数を地図に描こう。(地図68) ×じるしは、先の判定で、この組についてアクセントの区別が、地点として、ないと認められたものである。

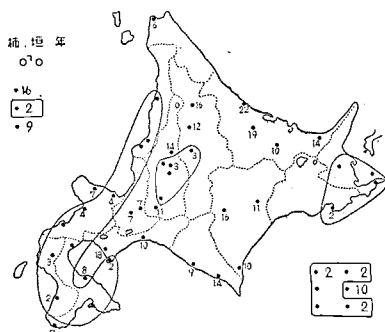
地点としての区別とは別に、各個人が区別しているかどうかを調べて、地点ごとに被調査者が10人だとして換算をし、6組について、区別しない人間の数を合計してみた。数値の大きいほど無アクセント化の程度がいちじるしいこと



地図 69



地図 70



地図 71

になる。やはり今述べたことと同じことがいえるようである。地図69が示すように、半島部・海岸部では区別する傾向があり、道央（炭鉱部を除く）や道東では無アクセント化している。

40地点400人のうち、何人が区別していないかを各組について数えると次のようになる。「鼻と」～「花と」209人、「飴と」～「雨と」194人、「橋と」～「箸と」136人、「紙と」～「髪と」207人、「泡と」～「粟と」333人、「雲と」～「蜘蛛と」330人。これも前に述べた結果と一致する傾向である。

また1例として、「鼻と」～「花と」について、区別しなかった人の数を地図に描いてみよう。8以上のところは無アクセントだとして×じるしをつけた。この×じるしのついた地点は、前のものときわめてよく一致している。（地図70）

調査Ⅳのところで述べた、Ⅰ類からⅤ類までで、i, uで終わるものが●○になるかどうかの観点からながめてみよう。条件を統一するために、付表3の331以下の各類で、iで終わるもので最初に出てくるものをとりあげて調べてみる。

Ⅳ類の「海」、Ⅴ類の「蛇」はともに●○が圧倒的で、特に「蛇」ではこれが著しい。これらは地図を描くまでもないので省略する。

I類「柿」, II類「垣」, III類「年」についてまとめると、地図71のようになる。地図には、この3語を●○のように答えた者が各語10人に何人いるかを計算して合計した数字を示してある。地図71によると、●○にならない傾向（つまり、東北や東京と同じ傾向）を持つのは半島部・海岸部を中心とし、それに影響されている道央の炭鉱部に及んでいるのがわかる。このように、北海道のアクセントは、東北と同じくIV, V類が●○となるだけでなく、I～III類にまでこの傾向が及んでいるわけである。これは北海道アクセントの一つの特色といえるであろう。

なお40地点（つまり400人のうち）で、I類「柿」74人、II類「垣」95人、III類「年」

102人が●○である。I類まではなかなか侵していないということを調査IVのところでも述べたが、まったく侵していないのではなく、多少はあることが、これで明らかとなった。II, III類はそれぞれほぼ同じ程度に侵されているが、I類は多少程度が違っているともいえる。

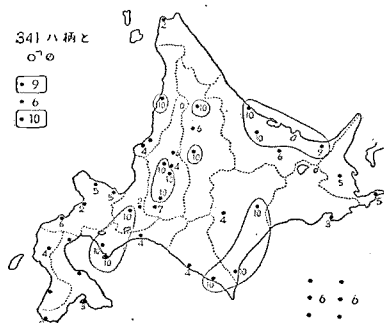
「鈴」が、I類であるのに●○なのは、語彙的な問題であろうとすでに述べたが、ここでは、北海道全域でどういう分布をしているかを地図に描いてみた。地図72によれば、●○は北海道の中部以東で優勢な型であることがわかる。半島部は東北とともにこの型が少ないから、これは北海道的な、つまり北海道独自で優勢になった型であろう。「すずらん」のアクセントとはまったく関係なく、むしろ分布は逆に出ている。

d. 1 モーラ名詞

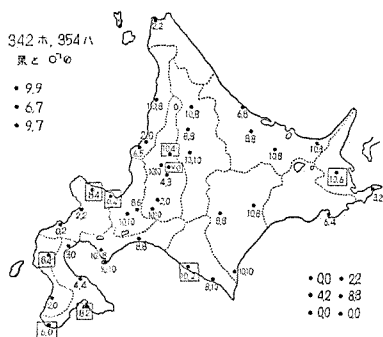
「柄と」のアクセントが●○である率



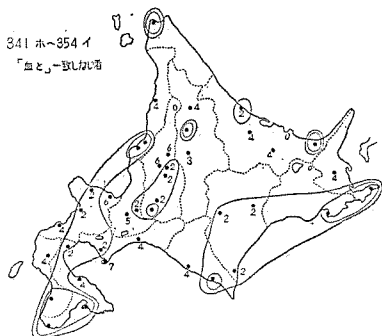
地 図 72



地 図 73



地 図 74



地 図 75

たことと一致しており、無アクセント化の地域性というものが単純でないことを示している。

§ 4 まとめ

以上をまとめると、調査Ⅳまでの調査で、北海道方言をさらに細かく区分できる地域差というのが認められ、それが、この調査Ⅴで、調査地点を比較的多くとることによって、その境界線はどこに引かれて、どのような性質を持っているかが明らかになった。

大まかにいえば、常識的ではあるが、半島部・海岸部とその他とに分かれ、前者が比較的強く東北方言の影響を受けているということになる。

を地図に描いてみよう。(地図73) 半島部で劣勢な型である。

2回聞いたものの結果を1枚の地図に描いてみよう。(地図74)「葉と」について、2回の調査で●○の者の数を出し、差の大きかったところを四角で囲んでみた。この結果ではどちらかというと、差の大きい、つまり型の安定度の低いのは、それほど目立たないが、むしろ海岸部に多いようである。この点は今まで述べたものとは違う傾向である。東北では、この観点からいってもやはり安定しているので、こういう点からの安定度の低さもやはり考慮する必要はあろう。無アクセント化というものにもいろいろの方向があることになる。

次に、「血と」の2回のアクセントが違っていった者の数を地図に描いてみた。(地図75) 半島部・海岸部では一致する者が多いわけである。これは今まで述べ

東北との比較によると，特に日本海側のほう（ことに秋田）の影響が強く印象づけられる。一方，東北との比較から，新しく北海道に生まれたと考えられる表現もかなりあることが明らかとなった。

全体として，共通語化の方向に向かっていることは事実であるが，無アクセント化ということのほかにも，全国共通語から離れていく現象もあることが認められた。

7. 調査結果の吟味

—調査Ⅵ（吟味調査）

§ 1 目的

今までの調査の集計に当たって、調査に際して調査者の個人的なかたよりが多少あるように思われた。このかたよりが大きいものであれば、今までの結果を多少修正する必要があるだろう。調査Ⅵの目的はこのかたよりがあるかどうか、もしあれば、どの程度かを知るためであった。

§ 2 実施

調査は、昭和36年2月25、26の両日、札幌市で一般市民を対象として行なった。ひとりの被調査者に対して、2人ないし4人の調査者をつけるという方法をとった。調査者の組み合わせは、7人（柴田、野元、上村、佐藤、五十嵐、長谷川、石垣）が2人ずつの組を作ったときのあらゆる場合を尽くすように配慮した。ひとりの被調査者に対しては、調査の始めから終わりまで同一の調査者が質問し、他の調査者は口出ししないことを原則とした。調査者および被調査者は次のとおりである。

被 調 査 者				調 査 者	「世代」のところの 2.5
姓	性	生年	世代		
牧野	男	1939	2.5?	柴田、上村	は、父方か母方かどちらかから見れば3世で、他方から見れば2世であることを示す。?は、記憶などが疑わしいものである。なお、調査者のうち一番左が質問者である。質問した回数は、柴田4回を除いて、他は3回ずつである。
北岡	女	1926	2	佐藤、野元	
後藤	女	1922	2	石垣、五十嵐、柴田、上村	は、父方か母方かどちらかから見れば3世で、他方から見れば2世であることを示す。?は、記憶などが疑わしいものである。なお、調査者のうち一番左が質問者である。質問した回数は、柴田4回を除いて、他は3回ずつである。
茅野	女	1936	2.5	上村、佐藤	
武部	女	1936	2	野元、柴田、五十嵐	は、父方か母方かどちらかから見れば3世で、他方から見れば2世であることを示す。?は、記憶などが疑わしいものである。なお、調査者のうち一番左が質問者である。質問した回数は、柴田4回を除いて、他は3回ずつである。
遠藤	男	1909	2	上村、野元	
呉羽	男	1905	2	佐藤、長谷川	は、父方か母方かどちらかから見れば3世で、他方から見れば2世であることを示す。?は、記憶などが疑わしいものである。なお、調査者のうち一番左が質問者である。質問した回数は、柴田4回を除いて、他は3回ずつである。
葛西	男	1917	2.5	柴田、佐藤、五十嵐、石垣	
北村	男	1926	3	野元、上村、長谷川	は、父方か母方かどちらかから見れば3世で、他方から見れば2世であることを示す。?は、記憶などが疑わしいものである。なお、調査者のうち一番左が質問者である。質問した回数は、柴田4回を除いて、他は3回ずつである。
今井	男	1931	3	五十嵐、野元	
沢田	男	1916	2	上村、長谷川	は、父方か母方かどちらかから見れば3世で、他方から見れば2世であることを示す。?は、記憶などが疑わしいものである。なお、調査者のうち一番左が質問者である。質問した回数は、柴田4回を除いて、他は3回ずつである。
中川	男	1930	3	五十嵐、柴田	
篠田	女	1886	2	野元、佐藤	は、父方か母方かどちらかから見れば3世で、他方から見れば2世であることを示す。?は、記憶などが疑わしいものである。なお、調査者のうち一番左が質問者である。質問した回数は、柴田4回を除いて、他は3回ずつである。
川村	女	1917	2	柴田、石垣	
出村	男	1923	2	長谷川、上村、五十嵐	被調査者は以上22人で

五十嵐 男	1900	2	石垣, 上村	あるが, おもな内訳は,
藤沢 男	1924	2	長谷川, 野元, 五十嵐	男15, 女7; 2世13, 2.5
渡辺 男	1932	2.5?	柴田, 佐藤	
中沢 男	1928	2?	佐藤, 上村	世6, 3世3; 明治生ま
田上 男	1912	2	長谷川, 石垣, 柴田	れ4, 大正生まれ9, 昭
欠 女	1940	2.5	五十嵐, 上村, 長谷川(一部)	
杉山 男	1942	2.5	石垣, 野元	和生まれ9である。

調査者7人のあらゆる組み合わせは21ある。その組の状況は次のとおりである。

組み合わせ	数	左のうち質問者		
長谷川～五十嵐	3	長谷川	2, 五十嵐	1
長谷川～石垣	1	長谷川	1	
長谷川～野元	2	長谷川	1, 野元	1
長谷川～佐藤	1	佐藤	1	
長谷川～柴田	1	長谷川	1	
長谷川～上村	4	長谷川	1, 上村	1
五十嵐～石垣	2	石垣	1	
五十嵐～野元	3	五十嵐	1, 野元	1
五十嵐～佐藤	1			
五十嵐～柴田	4	五十嵐	1, 柴田	1
五十嵐～上村	3	五十嵐	1	
石垣～野元	1	石垣	1	
石垣～佐藤	1			
石垣～柴田	4	石垣	1, 柴田	2
石垣～上村	2	石垣	2	
野元～佐藤	2	野元	1, 佐藤	1
野元～柴田	1	野元	1	
野元～上村	2	野元	1, 上村	1
佐藤～柴田	2	柴田	2	
佐藤～上村	2	佐藤	1, 上村	1
柴田～上村	2	柴田	1	

この表の「数」の欄の数字と、「左のうち質問者」の数字とが、合わないところのあるのは、ときにふたりとも質問者にならなかった（第三者が質問者になった）ことがあるからである。結局、44の調査票を得て分析した。

§ 3 結果

以上の組み合わせについて、各問の答が違っているかどうかを調べてみた。その答の記入の食い違った数を表にすると次のとおりである。なお、問の数

は、100台(語彙)…48, 200台(文法)…20, 300台(アクセント)…186, 400台(音声)…20, 500台(文法訂正)…5(7か所)である。

問の番号 被 調 査 者 調査者		100台 (語彙)48項	200台 (文法)20項	300台 (アクセント)186項	400台 (音声)20項	500台 (文法訂正)5(7)項
長谷川～五十嵐	出村	3	3	67	1	0
	藤沢	4	3	78	1	1
	欠	3	4	67	1	1
	平均	3.3	3.3	70.7	1	0.7
長谷川～石 垣	田上	12	5	26	4	0
長谷川～野 元	北村	7	1	18	5	1
	藤沢	6	1	17	2	0
	平均	6.5	1	17.5	3.5	0.5
長谷川～佐 藤	呉羽	10	7	58	4	0
長谷川～柴 田	田上	8	2	27	4	0
長谷川～上 村	北村	11	4	21	5	1
	沢田	5	2	70	1	0
	出村	4	1	21	3	0
	欠	3	2	9	2	1
	平均	5.8	2.3	30.3	2.8	0.5
五十嵐～石 垣	後藤	3	6	60	4	1
	葛西	7	5	67	4	6
	平均	5	5.5	63.5	4	3.5
五十嵐～野 元	武部	12	4	78	3	1
	今井	18	9	65	4	0
	藤沢	8	4	76	3	1
	平均	12.7	5.7	73	3.3	0.7
五十嵐～佐 藤	葛西	8	5	76	4	6
五十嵐～柴 田	後藤	2	3	53	3	1
	武部	13	5	77	5	0
	葛西	12	5	70	3	6
	中川	3	2	74	7	1

	平均	7.5	3.8	68.5	4.5	2
五十嵐～上 村	後藤	2	3	51	0	1
	出村	7	2	66	4	0
	欠	8	5	68	1	0
	平均	5.7	3.3	61.7	1.7	0.3
石 垣～野 元	杉山	9	6	22	5	0
石 垣～佐 藤	葛西	11	7	31	3	0
石 垣～柴 田	後藤	3	3	20	1	0
	葛西	12	6	18	3	0
	川村	5	3	28	0	0
	田上	11	3	33	0	0
	平均	7.8	3.8	24.8	1	0
石 垣～上 村	後藤	3	4	13	4	0
	五十嵐	5	3	18	3	0
	平均	4	3.5	15.5	3.5	0
野 元～佐 藤	北岡	7	6	27	4	1
	篠田	16	5	29	2	0
	平均	11.5	5.5	28	3	0.5
野 元～柴 田	武部	11	4	25	4	1
野 元～上 村	遠藤	10	3	18	5	1
	北村	10	3	10	4	0
	平均	10	3	14	4.5	0.5
佐 藤～柴 田	葛西	8	3	26	2	0
	渡辺	4	2	25	1	1
	平均	6	2.5	25.5	1.5	0.5
佐 藤～上 村	茅野	5	1	32	4	0
	中沢	8	3	23	4	0
	平均	6.5	2	27.5	4	0
柴 田～上 村	牧野	2	2	24	3	0
	後藤	1	2	15	3	0
	平均	1.5	2	19.5	3	0

これを調査者各人についてまとめて、平均を算出してみると次のようになる。

	100台(48項)	200台(20項)	300台(186項)	400台(20項)	500台
長 谷 川	6.3	2.9	39.9	2.8	0.4
五 十 嵐	7.1	4.3	68.3	3.0	1.6
石 垣	7.4	4.6	30.5	2.8	0.6
野 元	10.4	4.2	35	3.7	0.5
佐 藤	8.6	4.3	36.3	3.1	0.9
柴 田	6.8	3.2	36.8	2.8	0.7
上 村	5.6	2.7	30.6	3.1	0.3

数値が小さいほど他と離れないことを意味するから、各行で最も数値の小さいことが多ければ多いほど優秀ということもできる。しかし、それは組み合わせの相手次第で、だれが多く相手になったかによって違って来るから、このことだけで調査者の優劣を決めることはできない。

さらに前の表を、調査者を国語研究所グループと北海道グループに分けて、それぞれの食い違い、各個人とグループとの食い違いを数えてみると次のようになる。

調 査 者		被調査者数	100台	200台	300台	400台	500台
研 究 所 研 究 所	野 元～柴 田	1	11	4	25	4	1
	野 元～上 村	2	20	6	28	9	1
	柴 田～上 村	2	3	4	39	6	0
	計	5	34	14	92	16	2
	平 均		6.8	2.8	18.4	3.8	0.4
	野 元～研	平 均	10.3	3.3	17.7	4.3	0.7
	柴 田～研	〃	4.7	2.7	21.3	3.3	0.3
研 究	上 村～研	〃	5.8	2.5	16.8	3.8	0.3
	野 元～長谷川	2	13	2	35	7	1
	柴 田～長谷川	1	8	2	27	4	0
	上 村～長谷川	4	23	9	121	11	2
	野 元～五十嵐	3	38	17	219	10	2
	柴 田～五十嵐	4	30	15	274	18	8
	上 村～五十嵐	3	17	10	185	5	1
	野 元～石 垣	1	9	6	22	5	0

所 北海道	柴田～石垣	4	31	15	99	4	0
	上村～石垣	2	8	7	31	7	0
	野元～佐藤	2	23	11	56	6	1
	柴田～佐藤	2	12	5	51	3	1
	上村～佐藤	2	13	4	55	8	0
	計	30	225	103	1175	88	16
	平均		7.5	3.4	39.2	2.9	0.5
	長谷川～研	平均	6.3	1.9	26.1	3.1	0.4
	五十嵐～研	"	8.5	4.2	67.8	3.3	1.1
	石垣～研	"	6.9	4.0	21.7	2.3	0
北海道 北海道 北海道	佐藤～研	"	8.0	3.3	27.0	2.8	0.3
	野元～北	"	10.4	4.5	41.5	3.5	0.5
	柴田～北	"	7.4	3.4	41.0	2.6	0.8
	上村～北	"	5.6	2.7	35.6	2.8	0.3
	長谷川～五十嵐	3	10	10	212	3	2
	長谷川～石垣	1	12	5	26	4	0
	長谷川～佐藤	1	10	7	58	4	0
	五十嵐～石垣	2	10	11	127	8	7
	五十嵐～佐藤	1	8	5	76	4	6
	石垣～佐藤	1	11	7	31	3	0
	計	9	61	45	530	26	15
	平均		6.8	5.0	58.9	2.9	1.7
	長谷川～北	平均	6.4	4.4	59.2	2.2	0.4
	五十嵐～北	"	4.7	4.3	69.2	2.5	2.5
	石垣～北	"	8.3	5.8	46.0	3.8	1.8
	佐藤～北	"	9.7	6.3	55.0	3.7	2.0

この表によると、研究所～研究所のグループが一番食い違いが少なく、北海道～北海道のグループが一番食い違いが多いようである。この食い違いの数を多いとするか少ないとするかは議論の分かれるところであるが、調査というものは多少このような食い違いは避けることができないものであり、この程度^群は調査の結果に大きな狂いは生じさせなかったと見るべきであらう。しかも、この食い違いは集計に当たって、なるべく多目に見て、つまり辛くとした結果である。

アクセントの数値は大きいようである。しかし、研究所～研究所のグループ

ぐらいの少なさであれば満足すべきものであろう。北海道のアクセントのように無アクセント化の過程にあるようなところでは、なかなか記述の一致はむずかしいと思われる。すでに述べたように、項目によっては一部の調査員の結果を省いたものもある。

調査Ⅴは、調査員が各1人で1地点を調査しているので、調査員間のゆがみが最も結果にあらわれやすい。この調査のうちから音声（400台）をとって、調査員間の食い違いを調べてみたのが次の表である。この表に示した点数は、東北的でないときに1点を与えたものであるから、点数の低いほうが東北的であるということになる。

調査員・調査地点		401 i e	402 si su	403 ci cu	404 zi zu	405 k g	406 t d	407 母無 音声 化	408 ŋ g	409 hi si	410 sj si	計	合計
柴田	江 差	0.4	0.5	0.5	0.5	0.9	1	1	1	0.2	0.4	6.4	43.5
	岩 内	1	0.8	0.9	1	1	1	0.8	0.8	0.6	0.6	8.5	
	深 川	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0.6	9.6	
	名 寄	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0.9	9.9	
	北 見	1	1	1	1	1	1	0.8	0.7	0.9	0.7	9.1	
野元	函 館	0.5	0.9	0.8	1	0.6	0.7	1	0.9	0.7	1	8.1	42.6
	小 樽	1	1	1	1	0.6	1	1	0.9	0.8	0.9	9.2	
	根 室	0.5	0.8	1	0.9	0.8	0.8	0.7	1	0.4	0.9	7.8	
	中標津	0.8	1	1	1	1	1	0.9	0.9	0.6	0.8	9.0	
	斜 里	0.8	1	0.9	0.9	0.9	1	1	0.7	0.4	0.9	8.5	
上村	森	0.9	1	1	1	1	0.6	0.9	1	0.8	0.8	9.0	46.3
	清 水	1	1	1	1	0.6	1	1	0.7	0.9	0.8	9.0	
	苫小牧	1	1	1	1	1	1	1	1	0.9	1	9.9	
	浦 河	1	1	1	1	0.8	0.8	1	1	0.9	0.7	9.2	
	広 尾	1	1	1	1	1	0.8	1	0.8	0.9	0.7	9.2	
徳川	松 前	0.7	0.5	0.6	0.7	1	1	1	0.8	0.8	0.7	7.8	41.5
	伊 達	1	0.5	0.5	0.5	1	1	1	1	1	0.9	8.4	
	江 別	0.7	0.7	1	0.8	1	0.8	1	0.1	1	0.7	7.8	
	留 萌	0.8	0.7	0.9	1	1	0.9	1	0.9	1	0.9	9.1	
	稚 内	0.6	0.7	1	1	1	1	1	0.6	0.8	0.7	8.4	
佐藤	今 金	1	0.8	0.8	0.8	1	1	0	0.2	0.9	0.9	7.4	34.3
	余 市	1	0.7	0.7	0.8	1	1	0	0	0.6	0.8	6.6	
	栗 山	1	0.7	0.7	1	1	1	0	0	1	0.8	7.2	

	静内 赤平	0.9	0.5	0.5	0.7	1	1	0	0	0.9	0.8	6.3
		0.9	0.6	0.6	0.9	1	1	0	0	0.9	0.9	6.8
五十嵐	室蘭	1	1	1	1	1	1	0.8	0.8	0.9	0.9	9.4
	羽幌	1	1	1	1	1	1	0.8	1	0.9	0.7	9.4
	豊平	1	1	0.9	1	1	1	0.7	0.7	1	0.9	9.2
	旭川	1	1	1	1	1	1	0.9	0	1	1	8.9
	滝川	1	1	1	1	1	1	0.8	0	1	1	8.8
長谷川	士別	1	1	1	1	1	1	1	0	0.9	0.9	8.8
	遠軽	1	1	1	1	1	1	0.8	0.2	0.9	0.6	8.5
	紋別	1	1	1	1	1	1	0.8	0.5	0.8	0.8	8.9
	本別	0.9	1	1	1	1	1	0.7	0.9	1	1	9.5
	厚岸	1	1	1	1	1	1	1	1	0.8	0.9	9.7
石垣	寿都	0.9	0.5	0.4	0.5	0.9	1	1	1	0.6	0.5	7.3
	長万部	1	0.5	0.5	0.5	1	1	1	1	0.5	0.5	7.5
	増毛	1	0.5	0.5	0.5	1	1	0.9	1	0.5	0.5	7.4
	歌志内	1	0.5	0.5	0.5	1	1	0.8	0.4	0.7	0.5	6.9
	三笠	1	0.5	0.5	0.5	1	1	0.7	0.4	1	0.5	7.1

調査員の合計点について、低い順に並べてみると、佐藤34.3、石垣36.2、徳川41.5、野元42.6、柴田43.5、長谷川45.4、五十嵐45.7、上村46.3となる。この点は、東北的でないとき1点を与えたものであるから、点の低いほうが東北的特色が強いことになる。したがって、佐藤、石垣は少し東北的に傾き、上村は非東北的に傾いているように見える。ただし、これも担当調査地点の分布

がある場合もあり、一様でないので、ただこの数値からだけ結論を出すべきではない。

各人について、5地点で、東北的である順に番号をつけて地図に描いてみると地図76ようになる。

この図はそれほどはっきりはしないが、大体、半島部・海岸部、それに内陸部の一部が東北的であることを示し、点



地 図 76

数のことをそれほど考えないならば、調査員ひとりひとりでは、東北的と非東北的とが分けられていることを示す。その他、調査Ⅴで図示したように、多くの項目で論理的に筋の通る結果が得られているから、食い違いが多少あることはあっても、それほど大きい影響はなかったのではないかと考える。

もっとも、上の音声の例でいえば、佐藤の406, 407, 石垣の402, 403, 404のように多少個人の調査癖と考えられるものが出ていないでもない。

次に、参考のため、調査Ⅴの調査員別の調査時間の表をかかげよう。

柴田	所要時間	17 20 21 24 25 27 28 29 30 31 32 33 34 38 42	平均(分)	標準偏差
	人数	1 2 2 2 2 3 3 2 2 1 1 1 1 1 1	27.6	5.6
野元	所要時間	32 33 35 36 37 38 39 40 41 45 46 47 48 55 不明		
	人数	1 2 2 1 2 4 2 1 1 3 1 2 1 2 1	40.88	6.2
上村	所要時間	25 26 27 28 29 30 31 33 35 36		
	人数	1 2 1 2 8 4 3 1 2 1	29.76	2.7
徳川	所要時間	25 28 30 32 35 37 38 40 45 50		
	人数	1 2 4 1 5 2 1 7 2 1	36.15	5.9
佐藤	所要時間	35 40 45 49 50 55 60 65 90 不明		
	人数	1 4 9 1 7 2 1 2 1 2	49.61	10.4
五十嵐	所要時間	25 30 33 34 35 37 38 40 42 70		
	人数	1 7 1 1 8 1 1 2 2 1	35.64	8.1
長谷川	所要時間	37 38 39 40 41 42 43 45 46 48 49 51 52 53 55 56 59 63		
	人数	1 1 1 2 2 1 1 1 4 1 3 1 1 2 1 1 1 1	47.19	12.8
石垣	所要時間	15 30 32 33 35 36 38 39 40 41 42 45 50 53 58		
	人数	1 2 2 1 5 2 2 1 3 2 1 2 1 1 1	38.11	8.0
総 計			38.32	10.8

(所要時間は分で示す。)

この結果を見ると、一番短いものと一番長いものの差は2倍近くもある。また、上村の最長時間36分は長谷川の最短時間37分よりも短い。要するに、個人の変動はかなり大きい。ばらつきを示す標準偏差は、だいたい調査時間の

長いほうがばらつきも大きいことを示している。上村は最も安定していて、同じスピードで調査している。

§ 4 結論

以上を要するに，調査員の個人差はたしかに存在するけれども，結果に強い影響を与えるほどのものではないであろうと判断される。個々の項目について，多少問題となる場合がないでもないが，その個々のものについて処理すればいいものと思われる。

すなわち，調査Ⅵによっても，これまでの調査Ⅰ～Ⅴの結果は修正しないでもいいと判断する。

付表1 1世・2世・3世の言語の対照表

1. 美咲市・橋本家

(1) 語彙

	1世	2世	3世
1. かまきり	ka「maki」ri	カマキリ	-kamakiri
2. 蜘蛛	ku「mo	クモ	ku「mo
3. 蜘蛛の糸	ku「mo」noe	クモノイト	i「to
4. 蜘蛛の巣	ku「mo」noe「ba	クモノス	sü「:
5. かたつむり	katatsu「muri maĩn「go(多)	カタツムリ デンデンムシ	katatsumuri de「ndemmufi
6. なめくじ	na「me」kuži	ナメクジ	-namekudži
7. おたまじゃくし	-kairunoko otamaža「kufi	オタマジャクシ	o「tamadža「kufi
8. 蛙	-kaçiru -kawandzu	カエル kawazu	-kaeru kawazu (内地で聞いた)
9. ひきがえる	ja「mo」ri	ガマ	ga「ma
10. 蛇	he「bi	ヘビ	he「bi(多) na「ga」muſi
11. まむし	-mamufi	マムシ	-mamufi
12. とかげ	NR	トカゲ	-kanatjoro
13. かなへび	-ombakoze		NR
14. いくつ (年齢)	i「ku」tsu(多) -nambo	イカツ ナンボ(まれ)	oikutsu
15. いくら (値段)	i「ku」ra nambo(高知ことば)	イクラ nambo	-ikura(60%) -nambo(40%)
16. いくつ(数)	i「ku」tsu	イカツ	i「ku」tsu
17. 黄色い	-ki: 「ki:ro」i	キイロイ	ki「:roĩ
18. 赤い	「aka」ĩ	アカイ	a「ka」ĩ
19. 「あかい」を 「明るい」の 意味で	使う	使わない	〃
20. 「あおい」の 意味	5	7,8	8
21. 嘘をつく	u「so ju」:	ウソ ヌウ(第3者に)	u「so」o ju:

	1 世	2 世	3 世
		ウソ ツク (本人に対する時)	u「so」o tsu「ku
22. 灸をすえる	kju「: ta」teru kju: -sueru	オキユウヲ スエ ル	o「kju: o su「e」ru
23. (時計を)つくる	tsu「kuru -kojiraeru	tukuru	kosaeru(目上に対して) tsukuru(対等するとき)
24. (酒を)つくる	tsu「kuru kojiraeru		tsu「ku」ru
25. 「なおす」の 意味	修繕する	〃	〃 ちゃんとした位置にか える
26. 「なおす」を 使う 「片づける」 の意味で		使わない	〃
27. 「なおす」を 使う 「修繕する」 の意味で		〃	〃
28. 「おどろく」 使う を「目が覚 める」の意 味で		使わない	〃
29. 「おどろく」 使う を「目をさ ます」の意 味で		使わない	〃
30. 「おどろく」 使う を「びっく りする」の 意味で		〃	〃
31. 頭	「ata」ma	アタマ	a「ta」ma
32. 旋毛	-mai「mai」(多) girigiri	ツムジ ギリギリマイ girigiri maimai	girigiri u「dzu
33. 禿頭	ha「ŋe	ハゲアタマ	ha「ŋe
34. 目	me「:	メ	me「
35. 眉毛	ma「ju」nge	マユゲ	ma「ju」ge
36. 麦粒腫	mo「no」gira「i -meppat「i(北海道へ来て から覚えた) me「bo」: (多。本当は国 での言い方)	メ ッパチ(老。幼) メ ボウ(多)	me「ppa monomorai (使ったこと がある) me「bo」: (祖母が言っ ていた)
37. 鼻	-hana	ハナ	-hana
38. いいにおい	ni「oi -kaori	ニオイ	ni「o」i

	1 世	2 世	3 世
39. 悪いにおい	ni ^o ĩ		ni ^o ĩ
40. きなくさい	çinaku ^o saĩ kinakusaĩ (北海道で覚えた)	キナクサイ	kinakusaĩ
41. こげくさい	kongekusaĩ	コゲクサイ	kogekusaĩ
42. においを嗅ぐ	kangu	ニオイヲ カグ	ni ^o ĩo ka ^o gu
43. 耳	mi ^o mi	ミミ	mi ^o mi
44. 口	-kut ^o fi	クチ	ku ^o t ^o fi
45. よだれ	-jodare	ヨダレ	-jodare
46. 唾	tsu ^o ba ʽtsuba ^o ke(多)	ツバ(多) ツバキ	tsu ^o ba tsu ^o ʽbaki
47. 唇	ku ^o t ^o fi bi ^o ro	クチビル	kut ^o fi bi ^o ru kut ^o fi be(たまに言う人あり) 註 kut ^o fi be ni という接続だけか?
48. 舌	ji ^o ta be ^o ro(子供に対して)	シタ	ʽjita be ^o ro(赤ん坊の舌)
49. 鹹い	ʽka ^o raĩ ʽji ^o ʽoppa ^o ʽĩ(北海道で覚えてこちらの方をよく使う)	カライ シオカライ ショッパイ(まれ)	ʽjoppaĩ ka ^o ʽra ^o ʽĩ(度がすぎたとき)
50. 辛い	ʽka ^o raĩ	カライ	ka ^o ʽra ^o ʽĩ
51. 味が薄い	a ^o maĩ(多) usuĩ	アマイ(多) ウスイ	u ^o su ^o ʽĩ(多)
52. 砂糖が甘い	a ^o maĩ	アマイ	a ^o ʽma ^o ʽĩ
53. すっぱい	su ^o ʽĩ(土佐。多) su ^o ʽppa ^o ʽĩ su ^o ʽkka ^o ʽĩ	スイ	su ^o ʽppa ^o ʽĩ suĩ(略した言い方)
54. いびきをか く	i ^o bi ^o kio ka ^o ʽku	イビキラ カク	ibikio ka ^o ku
55. 咳をする	se ^o kio su ^o ru ta ^o ʽngoru(土佐)	セキラ スル	se ^o kio suru
56. 頬	ho ^o ʽ; hoppeta(北海道) ho ^o ʽ; ta ^o mbo(土佐のことば)	hoho ホッペタ(子)	ho ^o ʽ; hoho hoppeta(子供に対して)
57. 顔	-kao(多) tsu ^o ʽra(人の悪口を言うとき) me ^o ʽN	カオ	-kao tsura(親しい間で激しい言い方をするとき) o ^o ʽme ^o ʽN(悪口)
58. 生まれつきの瘰	ʽa ^o ʽða	アザ	a ^o ʽza

	1 世	2 世	3 世
59. 痣ができる	kurodzini na「ru	不明	aza
60. ほくろ	ʔa「ða	ホクロ	hokuro
61. 少し大きい、ふくらんだほくろ	ho「kuro	ホクロ	a「za(多)
62. 「あざ」の意味			hokuro
63. 親指	o「ja「jubi	オヤニビ	o「ja「jubi
64. 人さし指	çi「tosa「ji「jubi	ヒトサシニビ	çi「tosa「ji「jubi
65. 中指	na「ka「jubi(多) ta「kataka「jubi	ナカニビ	na「ka「jubi
66. 薬指	「benisa「ji「jubi (紅をこ れて染ったことを知っている。 下くちびるの一部分だけ)	クスリニビ	kʏsuri「jubi
67. 小指	ko「ju「bi	コニビ	ko「ju「bi
68. しもやけ	ji「moja「ke	シモヤケ	jimojake
69. 踵	-kagato(多) ki「bi「su(軍隊に入ってから) -kiribusa(土佐)	カカト	kagato kibisu(聞いたことある)
70. くすぐったい	ko「soba「i	コソバイ(多) クスグッタイ	ko「saba「i(50%) kʏsuguttai(50%)
71. あぐらをかく	-çiða ku「mu ne「maru(北海道のこと ば)	アグラヲ カク	agurao ka「ku
72. 坐る	ka「jikomaru(土佐) tʃinto suwaru(子供に 対して)	スワル o「su「wari su- 「ru ka「jikomaru	o「su「wari su「ru
73. みずおち	-miadzuo「tʃi	ミズオチ	-midzootʃi
74. 垢	a「ka sa「suri(土佐)	アカ	a「ka
75. 雲脂	φuke ku「ke	フケ	φuke
76. 鱗	u「ruko	ウロコ	uro「ko
77. 「こけ」の意味	苔	湿気ある時木・石 に生える小さい草	苔
78. 「こけ」を茸 の意味で		言わない	〃
79. 茸	ki「noko(食えるの) naba(食えないの)	キノコ	ki「no「ko
80. 男	「oto「ko ja「ro「:(鹿)	オトコ	otoko ja「ro「:

	1 世	2 世	3 世
81. 女	o「na」ngo (多。国のこ とは) o「nna」(北海道) me「ro」: (北海道) a「ma」: (北海道)	オンナ(多) onago(少)	onna mero: onago(聞くことはある。) 年寄りに多い。)
82. 風	ta「ko	タコ	ta「ko
83. 竹馬	-takahaji(?) -takeuma(?)	タケウマ	-takeuma(多) -takauma
84. お手玉遊び	「ajaa」sobi o「dza」mi (北海道で使 う)	アヤツキ オテダマ(子供)	o「te」dama ajatsuki(子供が使っ てい るか?)
85. お手玉	a「ja」(国のことば) o「dza」mi (北海道で使 う)	アヤ	o「te」dama(多) a「ja」(本人はそう言うが?)
86. 肩車	-kubimma	カタグルマ	kataguruma
87. 片足飛びを する	NR ji「ûji」N(土佐。北海道で は?) jiûjiûsa	kegken	kegken suru
88. 鬼ごっこ	「oni」sagago「kko	オニゴッコ	onigokko
89. かくれんぼ	ka「kurembo」:		
90. お金	-kane -okane ze「ni」(俗に) -ozeni -zegko (北海道で使う。子 供に向って。)	オカネ	ka「ne」(主) ze「ni」(子供) zegko
91. おつり	-tsuri -tsuriθeN uwaku(土佐のことば)	オツリ	-otsuri
92. お金を数え る	kandgo: suru	カンジョ スル	kandgo: suru
93. 鉛筆を数え る	-kazuo ka「zoeru 「kandgo」: -suru ji「raberu	カゾエル	kadzoeru
94. もらう	mo「rau	モラウ	-morau
95. やる	-kureru(本当) jaru	ヤル	jaru(多) kureru
96. くれる	-kureru	ヤル	-kureru
97. 「あずける」 を「子供に おもちゃを	使わない	〃	使う

	1 世	2 世	3 世
	買って与える」の意味で		
98.	「あずける」を「よく働いたから、ほうびにお金を与える」の意味で	使わない	“ ”
99.	借りる	karitekoĩ	カリル kariru
100.	貸す	-kasu	カス kasu
101.	「かってくる」の意味	買ってくる	“ ”
		借ってくる(多)	
102.	今日	kjo「:	キョオ kjo「:
103.	昨日	kinjo「:	キニョオ ki「no「:
		キノオ	
104.	一昨日	「ototo「ĩ	オトトイ oto「to「i
105.	一昨日	「sakiototo「ĩ	サキオトトイ (父から聞く) NR
		sa「ototsu「ĩ(土佐)	sa「oto「i(昔使った) sakiototoi(父が使う)
106.	昨晚	-jo:be	ユウベ sa「ku「baN
107.	一昨晚	-ototoĩno baN	オトトイノ バン i「ssaku「baN
108.	明日	a「su(多)	アシタ a「su
		-aʃita	a「ʃita
109.	明後日	「asatte	アサッテ a「sa「tte
110.	明々後日	-ʃiasatte	シアサッテ janoasat「te
111.	明々々後日	saʃiasatte(土佐)	ʃi「asat「te
		janoasat「te	
112.	今晚	ko「m「baN	コンバン ko「mbaN
		ko「i「sa(土佐。北海道では使わない。通らないから)	ko「ĩja
113.	明日の晩	-asuno baN	アシタノ バン mjo「:baN
			-asuno baN
114.	太陽	o「çi「:saN	タイヨオ oçi:sama
			oçi:saN
			çi:
			ta「ijo:saN
			ta「ijo:
115.	まぶしい	maba「çi i:(北海道)	マブシイ
		「baba「çi i:(土佐)	ma「buʃi「:
116.	月	tsu「ki	
117.	雨	a「me	アメ
118.	梅雨	-nju:baĩ(時期)	ツユ(子)
			tsuju(時期)

	1 世	2 世	3 世
	na「ga」ji	バイウ	nju:baɪ (時期)
119. 夕立	-ju:datʃi	ユウダチ	ju:datʃi
120. 雷	ka「mina」ri ra「i -gorogorosan (子供に 対して) 「dondoū」san (子供に 対して)	カミナリ	kaminari rai
121. ごろごろ (雷鳴)	-gorogoro	ゴロゴロ	goroqoro
122. 稲光	i「nadzuma	イナヅマ	inabikari (多) inadzuma
123. 落雷する	-raiga o「tʃiru a「maru (北海道では言わ ない)	カミナリガ オチ ル	kaminariga otʃiru rakurai suru
124. 虹	ni「gi	nizi	ni「dʒi
125. 雪	ju「ki	ユキ	ju「ki
126. 氷	-korri	コオリ	ko:ri
127. 水が氷る	-ko:ru 「fiba」reru (北海道のこと ば)	コオル シバレル (多)	ko:ru (多) ji「ba」reru
128. 手拭が氷る	ko:ru 「fiba」reru (北海道のこと ば)	シバレル	ko:ru (少) fibareru (多)
129. 氷柱	-tsurara kurara	ツララ	-tsurara
130. つむじ風	-tatsumaki	タツマキ	tatsu「ma」ki tsumudʒi「kaze (小さい)
131. 目にはいる ごみ	go「mi	ゴミ	gomi
132. 箒で掃き集 めるごみ	go「mi	ゴミ	go「mi
133. 畳から出る ほこり	-hokori	ホコリ ゴミ	hokori
134. 川の棒ぐい にひっかか ったごみ	-kawagomi	ゴミ	gomi
135. 地震	dʒi「ji」N	ジシン	dʒi「ji」N
136. たきぎを拾 いに行く林	-mori	ハヤシ	mori (何町歩, 原始林) hajaʃi (二・三町歩, 植林)
137. 平地でも 「ハヤシ」か		ハヤシである	ハヤシである
138. (お宮などの)森	-mijanomori	モリ	dʒindʒanomori

	1 世	2 世	3 世
139. 「はやし」の意味	並木にして植樹したもの		
140. 「もり」の意味			
141. 「家のにわ」の意味	土間 庭園 仕事場(北海道で)	庭園 玄関内	土間 庭園
142. 「家の土間」を「ニワ」と	言う	//	//
143. 「家の 前 の 仕事場」を「ニワ」と	言わない	//	//
144. 「かど」の意味	角(curve)	道路から玄関迄の道	角, 端
145. 「屋 外」を「カド」と	言わない	//	//
146. 「家の 前 の 仕事場」を「カド」と	言わない	//	//
147. 井戸	-indzumi i「do -tsurui(土佐)	イド	i「do idzumi(祖母のことば)
148. 炊く	-taku	タク	ta「ku
149. 煮る	-niru	ニル	ni「ru
150. かまどに残る灰	-hai(北海道. 多) -aku(国の方で言う)	ハイ アク(老翁)	-hai「(まき) aku(石炭)
151. 火鉢の中に入れる灰	-hai	アク	-hai(多) a「ku
152. お湯から立つ湯気	ju「nge	ユゲ	ju「ŋe
153. 御飯から出る湯気	ju「nge	ユゲ	ju「ŋe
154. まな板	-namaita(魚用) -saiban(野菜用) -namaita(国ではどちらもこれを使う)	マナイタ	ma「naita
155. すり鉢	「suri」batji	スリパチ	su「ri」batji
156. すりこぎ	「suri」kogi	スリコギ	su「riko」gibo:
157. 瀬戸物	se「tomo」no ka「ratsu(土佐)	セトモノ	se「tomono
158. 大きい	o「: ki」: φu「toi(多)	オオキイ	o「: ki」:

	1 世	2 世	3 世
159. 小さい	ko ¹ maĩ	チイサイ komaĩ	tʃi ¹ sa ¹ ĩ ko ¹ ma ¹ ĩ(多)
160. 太い	ʔo:ki ¹ ĩ ɸu ¹ toĩ	フトイ	ɸu ¹ to ¹ ĩ
161. 細い	ʔko ¹ maĩ ʔtʃi:sa ¹ ĩ ho ¹ soĩ	ホソイ	ho ¹ so ¹ ĩ
162. 荒い	ʔara ¹ ĩ	アライ	a ¹ ra ¹ ĩ
163. 細かい	ʔko ¹ maĩ	コマカイ	ko ¹ maka ¹ ĩ
164. 綿	wa ¹ ta	ワタ	wa ¹ ta
165. 真綿	-mawata	マワタ	ma ¹ wata
166. 糸	i ¹ to	イト	i ¹ to
167. 絹糸	-kinuito	キスイト	ki ¹ nuito
168. 木綿糸	ʔmomeɲi ¹ to	momenito kanaito	mo ¹ meɲ ¹ ito
169. 織り糸	ʔbo:ʃekii ¹ to	bo ¹ :seki	tsu ¹ mugii ¹ to
170. 「せんたく」 の意味	洗う	〃	〃
171. 「裁縫する」 の意味で「セン タク」と	言わない	〃	〃
172. 「くさる」を 「濡れる」の 意味で	使わない	〃	〃
173. 米	-momi (モミからコメにす る) -kome	コメ	mo ¹ mi (モミからコメに する) kome
174. うるち	-urumaĩ(多) -ko:maĩ ki ¹ tʃi(北海道のことばでは ない)	ウルマイ(老) コウマイ(青年) u ¹ ru ¹ tʃi(最近まで使 ったことがない)	u ¹ ru ¹ gome(多) ko ¹ :maĩ
175. もち米	-motʃimaĩ	モチゴメ	mo ¹ tʃigome dʒu ¹ maĩ
176. 飯米	-ʃokurjo:maĩ -hammaĩ(多)	ハンマイ	ha ¹ mmaĩ
177. 米櫃	-tobitsu	コメビツ	ko ¹ mebi ¹ tsu
178. 粳がら	-momigara	モミガラ	mo ¹ migara
179. 糠	nu ¹ ka	ヌカ	nu ¹ ka
180. 田	ta ¹ :(多) tambo (よそのことば)	スイデン	ta ¹ ta ¹ mbo su ¹ iden(多)

	1 世	2 世	3 世
181. 田の一区画	「sema」tʃi (1区画のこと) ta「:(多) tambo(よそのことば)	? osematʃi (子供のとき に聞いた)	ta ta「mbo
182. 畦	a「ðe	アゼ	a「ze
183. 畑	ha「ta ha「ta「ke	ハタケ	ha「ta「ke
184. 鳥おどし	NR	ナルコ	o「do「ji (きらきら光るもの) na「ru「ko (鳴るもの)
185. 案山子	ka「ga「ji	カカシ	ka「ka「ji
186. じゃがいも	ba「re「ifo(多) go「fo:「imo ʒaŋgataraimo ʒaŋgaimo	イモ ゴシ ヽ イモ	ba「re「:fo go「foimo dʒa「gaimo
187. さといも	-satoimo -taimo(土佐)	サトイモ	sa「toimo
188. さつまいも	-satsumaimo	サツマイモ	sa「tsumaimo
189. 「いも」とい えば何をさ すか	どれでもありうる	じゃがいも	//
190. とうもろこ し	to「:「kibi(多) mo「ro「koʃi	トーキビ to:morokoʃi (よそゆきことば)	to「:ki「bi(多) to「:mo「rokoʃi ki「bi(子供のとき)
191. かぼちゃ	-kabotʃa -boʃura(土佐)	カボチャ ボーフラ	ka「botʃa
192. 菫	NR	スミレ	sumire
193. たんぽぽ	ta「mpopo ta「mpoko	タンポポ	tampopo
194. 土筆	tsu「ku「ji	ツクヅクシ (学校で習った) tsukuʃimbo: (子供に対して)	tsu「kuʃim「bo:
195. すぎな	-matsuna	su「gina	NR
196. どくだみ	-dokudame	ドクダミ	do「kudami
197. 松かさ	-matsukasa	マツカサ	//
198. 竹	-take	タケ	//
199. 指にささっ たとげ	-tonge ba「ra	トゲ	//

	1 世	2 世	3 世
200. ばらの木な どのとげ	-tonge ba ^ɾ ra(国のことば)	トゲ	〃
201. 「おちる」を 「降りる」の 意味で	言わない	〃	〃
202. 「すてる」を 「紛失する」 の意味で	使う(国のことば)	使わない	〃
203. 「こわい」の 意味	疲れたとき	〃	〃 恐いとき
204. 「こわい」を 「疲れた」の 意味で	使う	〃	〃
205. 「こわい」を 「固い」の意 味で	使わない	〃	〃
206. 「こわい」を 「おそろし い」の意味で	使う	〃	〃
207. 「けち」の意 味	物を少ししかくれない	物惜しみする 不吉、順調でない	出し惜しみする時
208. 「けちだ」を 「けしから ん」の意味で	使わない	〃	〃
209. 「けちだ」を 「不思議だ」 の意味で	使わない	〃	〃
210. 「けちだ」を 「物惜しみす る」の意味で	使う	〃	〃
211. 「はそん」の 意味	こわれた	破損	こわれること
212. 「修繕する」 ことを「ハ ソンスル」と	言わない	〃	〃
213. 馬	m ^ɾ ma	ウマ	〃
214. 牡馬	ʔotokom ^ɾ ma	オウマ	オスウマ オンタ(動物の雄を全部)
215. 牝馬	me ^ɾ mma	メウマ ɕimba (公式のことば)	〃 ヒンバ
216. 子馬	to ^ɾ ne to ^ɾ ne ^ɾ ko -komma	トネコ トネ	コウマ トネコ
217. たてがみ	-mmanoka ^ɾ mi	タテガミ	〃
218. 牛	-uʃi(今)	ウシ	〃

	1 世	2 世	3 世
	be ^h ko(今)	be ^h ko	ベコ
	「mmo ^h 」:(国でいう)		
219. 牡牛	-oufi	オウシ	//
			オンタ(馬にも同様)
220. 牝牛	-meu ^h fi	メウシ	//
221. 子牛	-koufi	コウシ	//
			コッコウシ
222. もうもう (牛のなき声)	-mmo:	モオオモオオ	
223. もぐら	「moguramo ^h tji mu ^o guramotji o ^o goramotji (土佐のこ とば)	モグラ mo ^h guramo ^h tji	//
224. 梟	「hukuro ^h 」	フクロオ	//
225. ほうほう (梟のなき声)	-φu:-φu:	ホオホオ	//
226. せきれい	「seki ^h reN	セキレイ	//
227. ちっちっ (せきれいのなき 声)	NR	チッチッ	
228. 雀	-suzume	ズズメ	//
229. ちゅんちゅ ん(雀のなき 声)	tji:tji:	チューチュー	//
			チュンチュン(参)
230. とさか	-tosaka(北海道) ka ^h bu ^h to(土佐)	トサカ	トカサ トッカサ

1. 美咲市・橋本家

(2) 文 法

	1 世	2 世	3 世
書く 終止・連体	ka ^h ku	カク	//
否定	ka ^h kaN	カカナイ	カカン
希望	ka ^h ki ^h tai	カキタイ	//
意志	ka ^h ko:	カコー	//
			カクペー(子供のとき)
推量	ka ^h kuda ^h ro: ka ^h kudga ^h ro: kakuro:(土佐のことば)	カクダロー カクロー(子供の とき)	//
音便	ka ^h ite	カイテ	//
過去	ka ^h ita	カイタ	//
			この否定カカナンダ
完了・進行	ka ^h ite ^h ru ka ^h itjo ^h ru	カイテル カイチョル(子供の とき)	// カイトル

	1 世	2 世	3 世
	ka「kijo」ru	カイトル ^(子供のとき)	
		カキヨル ^(子供のとき)	
假定	ka「ke」ba	カケバ カキヤー	〃
順接	ka「kuki」ni	カクカラ	〃
逆接	ka「kuke」redo(moga)	カクケレドモ	〃
命令	ka「ke	カケ	〃
可能	ka「keru	カケル	〃
	この否定 ka「keN, (能力・状況によって不可能)	この否定カケン	〃
	ka「kike」ni na「raN, (暇がなくて不可能)		カカレル この否定カカレン
	「kaka」reN(禁止)		
尊敬	o「kakini na「ru	カイテ オラレル	オカキニ ナル
ていねい	ka「kima」su cf. 謙譲ka「kajite」 moraimasu	カキマス	〃
読む	終止・連体 否定	jo「mu jo「maN jo「mana」i	ヨム ヨマナイ ヨマン ヨマナイ
希望	jo「mita」i	ヨミタイ	
意志	jo「mo:	ヨモーヤ	ヨモー
推量	jo「mu」dgaro:	ヨムロー ヨムダロー	ヨムダロー
音便	jo「nde	ヨンデ	〃
過去	jo「nda この否定jo「mana」nda	ヨンダ	
完了・進行	jo「nde」ru jo「ndo」ru jo「ndgo」ru jo「mi」joru	ヨンデル ヨンドル ヨミオル	〃 〃
假定	jo「me」ba jo「mja」:	ヨメバ ヨミヤー	〃
順接	jo「muki」ni jo「mukara	ヨムカラ	
逆接	jo「muke」redo(moga)	ヨムケレドモガ	ヨメ(ヤ)
命令	jo「me	ヨメ	
可能	jo「meru	ヨメル	〃

	1 世	2 世	3 世
	この否定 jo ¹ meN	この否定ヨメン	//
	jo ¹ mare ¹ ru (jo ¹ meruと意味の差なし)		
	この否定 jo ¹ mare ¹ N (禁止)		
	jo ¹ mike ¹ ni na ¹ raN (眼がなくて不可能)		
尊敬		ヨンデ オラレル	//
ていねい	jo ¹ mima ¹ su	ヨミマス	
売る 終止・連体		ウル	
否定	u ¹ ra ¹ N	ウラナイ	//
		ウラン	//
希望	u ¹ rita ¹ i		
意志	u ¹ ro ¹ :	ウローヤ	ウロー
推量	「uru ¹ džaro:	ウルダロー	ウルダロー
音便	utte	ウッテ	//
過去	utta	ウッタ	
	この否定u ¹ rana ¹ nda		
完了・進行	u ¹ tte ¹ ru	ウットル	
	u ¹ tto ¹ ru	ウッテル	
	u ¹ ttjo ¹ ru	ウッチョル(子供のとき)	
	u ¹ rijoru		
仮定	u ¹ reba	ウレバ	//
	u ¹ rja ¹ :	ウリヤー	
順接	u ¹ ru ki ni	ウルカラ	
逆接		ウルケレドモガ	
命令	u ¹ re	ウレ	ウレ(ヤ)
可能	u ¹ reru	ウレル	//
	「urare ¹ N(禁止)	この否定ウレン	ウラレン(禁止)
尊敬		ウッテ オラレル	//
ていねい		ウリマス	
買う 終止・連体		カウ	
否定	ka ¹ wa ¹ N	カワン	カワナイ
		カワナイ	カワン
希望	ka ¹ ita ¹ i		
意志	ka ¹ o ¹ :	カオーヤ	カオー
推量	「kau ¹ džaro:	カウダロー	//
音便	ka ¹ tte	カッテ	//
	ko ¹ :te (係にむかって使う)		
過去	ka ¹ tta	カッタ	

	1 世	2 世	3 世
	ko ⁷ :ta この否定ka ⁷ wana ⁷ nda		
完了・進行	ka ⁷ tte ⁷ ru ka ⁷ tto ⁷ ru ka ⁷ ttfo ⁷ ru(土佐の ことば) kaijoru	カットル カッテル カッチョル(子供の とき)	// //
假定	ka ⁷ eba	カエバ	//
順接		カウカラ	
逆接		カウケレド	
命令	ka ⁷ e	カエ	//
可能	ka ⁷ eru この否定ka ⁷ en ^(高い から) , ka ⁷ ware ⁷ N ^(金がない から)	カエル この否定カワレン	// この否定カエン,
尊敬		カッテ オラレル	// オカイニ ナル
ていねい		カイマス	
起きる 終止・連体		オキル	
否定	o ⁷ kina ⁷ i o ⁷ kiN	オキナイ オキン(子供のとき)	オキン
希望	o ⁷ kita ⁷ i		
意志	o ⁷ kijo:	オキヨーヤ	オキヨー
推量		オキルダロー	//
音便		オキテ	//
過去		オキタ	
	否定 o ⁷ kina ⁷ nda		否定オキナカッタ
完了・進行	o ⁷ kite ⁷ ru o ⁷ kito ⁷ ru o ⁷ kitfo ⁷ ru	オキテル オキトル	// //
假定		オキレバ	//
順接		オキルカラ	
逆接		オキルケレドモガ	
命令	o ⁷ kire~o ⁷ ki ⁷ re o ⁷ ki ⁷ jo(よく使う) o ⁷ ki ⁷ : (子供にむかって) o ⁷ kiro(まれに使う)	オキレ オキロ	// //
可能	o ⁷ kire ⁷ ru o ⁷ kira ⁷ reru	オキレル この否定オキレン	// この否定オキレン, オキラレン
尊敬		オキテ オラレル	オキラレル

	1 世	2 世	3 世
			オキラレテ イル
見る	ていねい	オキマス	
	終止・連体	ミル	
	否定	ミナイ	//
	mi ^ɾ na ^ɾ i (多く使う)		
	mi ^ɾ N		
	希望		
	意志	ミヨーヤ	ミヨー
	推量	ミルダロー	//
	音便	ミテ	//
	過去	ミタ	
			この否定ミナンダ,
			ミナカッタ
	完了・進行	ミテル	//
	mi ^ɾ te ^ɾ ru		
	mi ^ɾ to ^ɾ ru	ミトル	//
	mi ^ɾ tjo ^ɾ ru (まれに使う)		
	mi ^ɾ jo ^ɾ ru		
	仮定	ミレバ	//
			ミリヤー
	順接	ミルカラ	
	逆接	ミルケレドモガ	
	命令	ミレ	//
	mi ^ɾ re (まれに使う)		
	mi ^ɾ jo (よく使う)	ミロ	//
	mi ^ɾ :		
	可能	ミレル	//
	mi ^ɾ reru		
	mi ^ɾ rare ^ɾ ru	この否定ミレン	この否定ミレン,
			ミラレン
	尊敬	ミテ オラレル	ミラレル
			ゴランニナル
来る	ていねい	ミマス	
	終止・連体	クル	
	否定	コナイ	コン
	ko ^ɾ N	コン	コナイ
	希望		
	意志	コー	コヨー
	ko ^ɾ :	コヨー	
		キヨー (方言かもしれない)	
	推量	クルダロー	//
	「kuru ^ɾ dʒaro:		
	「kuru ^ɾ daro:		
	音便		キテ

	1 世	2 世	3 世
過去			
完了・進行	ki「te」ru ki「to」ru ki「tjo」ru ki「joru	キテル キトル キヨル(子供のとき)	// //
假定		クレバ クリヤー	//
順接		クルカラ	//
逆接		クルケレドモガ	
命令	ko「i (jo) ki「:(jo) (甘やかしたこと ば。きれいな国のことば)	コイ	//
可能	ko「reru ko「rareru	コレル この否定コレン	// この否定コレン, コラレン
尊敬		コラレル	//
ていねい			
する 終止・連体		スル	
否定	finai senai se「N	セン シナイ	セナイ セン シナイ
希望			
意志		シヨー (ヤロー)	//
推量	「suru「dgaro: 「suru「daro:	スルダロー	//
音便			シテ
過去			
完了・進行	fi「teo」ru fi「tjo」ru 「fi「joru	シテル シトル シヨル(子供のとき)	// //
假定	su「re」ba su「rja」:	スリヤー	スレバ セバ
順接			スルカラ
逆接			
命令	fi「re se「jo se: fi「: ja (国のことば) cf. fi「ro (山形のことば)	セー スレ	セ // シロ

	1 世	2 世	3 世
可能	se「re」ru se「rareru		(デキル)
尊敬			シテ イラレル セラレル
ていねい			
いる 終止・連体	o「ru i「ru	イル(他人の存在) オル(自分の存在)	
否定	「ina「i oranaï o「raN(多く使うが、 雑な言い方)	オラン イナイ オラナイ	// // //
希望	i「ta「i o「ri「tai(こちらが本 当の言い方)	オリタイ イタイ	
意志	o「ro:	オロー	//
推量	o「rudgaro: o「ruro:(国のことば)	イルダロー オルダロー	// //
音便	i「te o「tte(多く使う)	イテ オッテ	
過去	i「ta o「tta(多く使う)		
完了・進行			
仮定	o「reba	オレバ イレバ(まれに使う)	オリヤー オレバ イレバ
順接	o「rukini(国のことば) o「rukara(多く使う)		イルカラ オルカラ
逆接	o「rukeredo(mo)	オルケレドモガ	
命令	o「re(jo)	オレ	// イレ
可能	o「reru その否定 o「reN, 「ora「reN(禁止)	オレル	
尊敬			イラッシャル
ていねい	o「rima「su		
高い 終止・連体	ta「kai	タカイ	//
連用	ta「ka「ku na「ru(多) ta「ko「: na「ru	タカクナル	// タコーナル
連用	ta「ka「ku nai(多) ta「ko「: nai	タカクナイ	//

	1 世	2 世	3 世
連用	ta「ka」kute(多) ta「ko」:te	タカクテ	〃
推量	ta「kaidzaro」:(多) ta「kaidaro」:	タカイダロー	〃
過去	ta「kaka」tta	タカカッタ	〃
仮定	ta「kake」rja ta「kaikereba」 ta「ka」kereba(多)	タカケリヤー	〃 タカケレバ
順接	ta「kaikara」 ta「kaikini」(少)		タカイカラ
逆接	ta「kaikeredomo」	タカイケレドモガ	タカイケレドモ(ガ) タカイケド
ていねい	ta「ka」idesu		タカイデス
重い 終止・連体	o「mo」i		
連用	o「moku na「ru(会 話) o「mo」: na「ru		オモクナル
連用	o「moku nai」(多) o「mo」: nai		オモクナイ
連用	o「mo」kute o「mo」: te(多)		オモクテ
推量	o「moidzaro」:(多) o「moidaro」:		オモイダロー
過去	o「mokatta」	オモカッタ	〃
仮定	o「mo」kerja o「mo」ikereba o「mo」kereba(多)	オモケリヤー	〃 オモケレバ
順接	o「mo」ikara o「mo」ikini(少)		
逆接	o「mo」ikeredo	オモイケレド	〃
ていねい	o「mo」idesu		
安い 終止・連体	ja「sui」		
連用	ja「su」ku na「ru」(多) ja「su」: na「ru	ヤスクナル	
連用	ja「su」ku nai ja「su」: nai	ヤスクナイ	
連用	ja「su」kute ja「su」: te	ヤスクテ	
推量	ja「su」idzaro」:(多) ja「su」idaro」:		ヤスイダロー

	1 世	2 世	3 世
過去	ja「suka」tta	ヤスカッタ	//
假定	ja「suke」rja	ヤスケリヤー	//
	ja「suikereba		
	ja「suke」reba		
順接	ja「suikara		
逆接	ja「suike(re)do	ヤスケレドモ	ヤスイケレドモ(ガ)
ていねい	ja「suidesu		
暑い 終止・連体	a「tsui		
連用	a「tsu」: na「ru		アツクナル
	a「tsuku na「ru(多)		
連用	a「tsu」ku nai		アツクナイ
	a「tsu」: nai		
連用	a「tsu」kute		アツクテ
	a「tsu」: te		
推量	atsuidzaro:		アツイダロ
	a「tsu」idaro:		
過去	a「tsuka」tta	アツカッタ	
假定	a「tsu」kerja	アツケリヤ	//
	a「tsu」ikereba		
	a「tsu」kereba		
順接	a「tsuikara		
	a「tsuikini		
逆接	a「tsuikeredo	アツイケレドモガ	
ていねい	a「tsuidesu		
寒い 終止・連体	sa「bui~sa」mui		
連用	sa「mu」ku na「ru		サムクナル
	sa「mu」: na「ru		
連用	sa「mu」ku nai		サムクナイ
	sa「mu」: nai		
連用	sa「mu」kute		サムクテ
	sa「mu」: te		
推量	sa「muidzaro:		サムイダロ
	sa「muidaro:		
過去	sa「muka」tta		サムカッタ
假定	sa「mu」kerja	サムケリヤ	//
	sa「mu」ikereba(ていねい)		
	sa「mu」kereba		
順接	sa「muikara		
	sa「muikini(少)		

	1 世	2 世	3 世
逆接	sa ^ㄊ muikeredo	サムイ ケ レ ド モ ガ	
ていねい	sa ^ㄊ muidesu		
よい 終止・連体	e ^ㄱ : i :	エー	
連用	jo ^ㄊ : na ^ㄱ ru(内輪で) jo ^ㄊ ku na ^ㄱ ru(他人に)	ヨクナル ヨーナル	//
連用	jo ^ㄊ : na ^ㄊ i jo ^ㄊ ku na ^ㄊ i	ヨクナイ ヨーナイ	
連用	jo ^ㄊ : te jo ^ㄊ kute	ヨクテ	//
推量	e ^ㄱ : daro : e ^ㄱ : dgaro :	エーダロ	ヨイダロ
過去	jo ^ㄱ ka ^ㄊ tta	ヨカッタ	イカッタ ヨカッタ
仮定	jo ^ㄊ kereba(多) jo ^ㄊ ikereba jo ^ㄊ kerja (土佐のことば) e ^ㄱ : ㄱ kereba(会話中)	ヨケリヤ	ヨケリヤー
順接	e ^ㄱ : kara jo ^ㄱ ikara e ^ㄱ : kini (まれ。土佐 のことば) jo ^ㄱ iki ^ㄊ ni	ヨイカラ	// イーカラ
逆接	e ^ㄱ : ㄱ keredo~ e ^ㄱ : keredo	エーケレドモガ	
ていねい	jo ^ㄱ i ^ㄊ keredo e ^ㄱ : ㄱ desu jo ^ㄊ idesu		
ない 終止・連体	na ^ㄊ i na ^ㄊ i çi ^ㄱ to	ナイ ネ	
連用	na ^ㄊ ku na ^ㄱ ru(多) no ^ㄊ : na ^ㄱ ru	ナクナル ノーナル	//
連用	na ^ㄊ kute no ^ㄊ : te (土佐のことば)	ナクテ ノーテ	//
推量	na ^ㄊ idgaro : (土佐の ことば) na ^ㄊ idaro :	ナイダロ	//
過去	na ^ㄱ ka ^ㄊ tta	ナカッタ	//
仮定	na ^ㄊ kereba na ^ㄊ kerja na ^ㄊ ikereba	ナケリヤ	//
順接	na ^ㄊ ikara		

	1 世	2 世	3 世
	na ^l ikini		
逆接	na ^l ikeredo	ナイケレドモガ	
ていねい	na ^l idesu		
淋しい 終止・連体			
連用	sa ^l mi ^l i ^l ku na ^l ru	サミシクナル	//
	sa ^l mi ^l i ^l : na ^l ru		
連用	sa ^l mi ^l i ^l ku na ^l i	サミシューナイ	サミシクナイ
	sa ^l mi ^l i ^l : na ^l i		
連用	sa ^l mi ^l i ^l kute	サミシクテ	//
推量	sa ^l mi ^l i ^l : d ^l zaro:	サミシイダロー	//
	sa ^l mi ^l i ^l : daro:		
過去	sa ^l mi ^l i ^l katta	サミシカッタ	//
仮定	sa ^l mi ^l i ^l : kereba	サミシケリャー	//
	sa ^l mi ^l i ^l kereba		
順接	sa ^l mi ^l i ^l : kara		
	sa ^l mi ^l i ^l : kini		
逆接	sa ^l mi ^l i ^l : keredo	サミシイケレドモガ	
ていねい	sa ^l mi ^l i ^l : desu		
静かだ 終止・連体	ji ^l dzu ^l kad ^l za		
	ji ^l dzu ^l kada		
	ji ^l dzu ^l kana		
	ji ^l dzu ^l kana ɕi ^l to		
連用	ji ^l dzu ^l kani na ^l ru	シズカニナル	//
連用	ji ^l dzu ^l kade na ^l i	シズカデナイ	//
連用	ji ^l dzu ^l kade	シズカデ	//
推量	ji ^l dzu ^l kad ^l zaro:	シズカダロー	//
	ji ^l dzu ^l kadaro:		
過去	ji ^l dzu ^l kade a ^l tta	シズカダッタ	//
仮定	ji ^l dzu ^l kanara	シズカナラ	シズカナラバ
	ji ^l dzu ^l kade a ^l re ^l -ba	シズカナラバ	シズカダラ
順接	ji ^l dzu ^l kad ^l zakara		シズカダカラ
	ji ^l dzu ^l kanakara		
逆接	ji ^l dzu ^l kad ^l zakeredo	シズカダケレドモ	
ていねい	ji ^l dzu ^l kadesu		
りっぱだ 終止・連体	「rippad ^l za(会話中) rippada 「rippana ɕi ^l to		

	1 世	2 世	3 世
連用	「rippani na「ru	リッパニナル	//
連用	「rippade na「i	リッパデナイ	//
連用	「rippade	リッパデ	//
推量	「rippadʒaro: 「rippadaro:	リッパダロー	//
過去	「rippade a「tta	リッパダッタ	//
仮定	「rippana「ra 「rippade a「re「ba	リッパナラ(バ)	リッパナラバ リッパダラ
順接	「rippadʒa:「kara		リッパダカラ
逆接	「rippa「dʒakeredo	リッパダケレドモ	
ていねい	「rippade「su		
まっすぐだ 終止・ 連体	ma「ssu「gudʒa ma「ssu「guda ma「ssu「guna mitʃi		
連用	ma「ssu「guni na「ru	マッスグニナル	//
連用	ma「ssu「gude na「i	マッスグデナイ	//
連用	ma「ssu「gude	マッスグデ	//
推量	ma「ssu「gudʒaro: ma「ssu「gudaro:	マッスグダロ	マッスグダロー
過去	ma「ssu「gude a「tta	マッスグダッタ	//
仮定	ma「ssu「gunara ma「ssugu「de a- 「re「ba	マッスグナラ(バ)	マッスグダラ(バ) マッスグナラバ
順接	ma「ssu「gudʒakara ma「ssu「gunakara		マッスグダカラ
逆接	ma「ssu「gudʒake- redo	マッスグダケレド モ	
ていねい	ma「ssu「gudesu		

1. 美唄市・橋本家

(3) アクセント

1 (イ)	1 世	2 世	3 世		1 世	2 世	3 世
日の丸	●●●●●	●●●●●	○●●●●	福引き	●●●●○	●●●●○	○●●●●
友達	●●●●●	●●●●●	○●●●○ ○●●●●	かまぼこ	●●●●●	●●●●●	○●●●●
くちばし	○●●●○	●●●●○	○●●●○	夕焼	●●●●●	●●●●●	○●●●●
函館	●●●●●	●●●●●	○●●●●	魚屋	●●●●●	●●●●●	○●●●●
東京	●●●●●	●●●●●	○●●●●	(ロ)			
鉛筆	●●●●●	●●●●●	○●●●●	金持	●●●●○	●●●●○	○●●●○ ○●●●●

	1 世	2 世	3 世
腰掛	●●●○	●●●○	○●●○
日帰り	●●●○	●●●○	○●●○
耳搔き	●●●○	●●●○	○●●●
妹	●●●○	●●●○	○●●○
弟	●●●○	●●●○	○●●○ ○●●○
道楽	●●●○	●●●○	○●●○
(イ)			
小刀	○●●●	○●●●	○●●●
化け物	○●●○	○●●○	○●●●
からかさ	●●○○	○●●○	○●○○
先生	●○○○	●○○○	●○○○
争い	●●○○	●●○○	○●○○
長男	○●●○	○●●○	●○○○
考え	○●●○	○●●○	○●●○
ろうそく	○●●○	○●●○	○●●●
さいころ	○●●●	○●●●	○●●●
(ニ)			
朝顔	○●○○	○●○○	○●○○ ○●○○
建物	○●○○	●●●○	○●●● ●●○○
すずらん	●○○○ ○●○○ ●●○○	●●○○	●○○○
手袋	○●●○	●●●○	○●○○
座蒲団	●○○○	●○○○	○●●○
土曜日	○●○○	○●○○	○●○○
九つ	●○○○	○●○○	○●○○
生け花	○●●●	●●●●	○●○○
紫	○●○○	○●○○	○●○○
生き物	●●○○	●●●○	○●●●
(ホ)			
あいさつ	●○○○	●○○○	●○○○
全国	●○○○	●○○○	●○○○
羽二重	●○○○	●○○○	○●○○
本人	●○○○	●○○○	●○○○
親切	●○○○	●○○○	●○○○
貧乏	○●○○	○●○○	●○○○
2 (イ)			
桜	●●●●	●●●●	○●●●

	1 世	2 世	3 世
形	●●●●	●●●●	○●○○
いわし	●●●●	●●●●	○●○○
煙	●●●●	●●●●	○●●●
机	●●●●	●●●●	○●○○
隣	●●●●	●●●●	○●○○
氷	●●●●	●●●●	○●○○
柳	●●●●	●●●●	○●○○
着物	●●●●	●●●●	○●●●
印	●●●●	●●●●	●●○○
車	●●●●	●●●●	○●●●
昔	○●○○	○●○○	○●○○
(ロ)			
あずき	○●○○	○●○○	○●○○
毛抜き	●●○○	○●○○	○●○○
つるべ	○●○○	○●○○	●○○○
二つ	●●○○	○●○○	○●○○
ふたり	○●○○	○●○○	○●●●
間	●●●●	●●●●	○●●●
(ハ)			
頭	●●○○	●●○○	○●○○
表	●●○○	●●○○	○●○○
鏡	●●○○	●●○○	○●○○
刀	●●○○	●●○○	○●○○
ことば	●●○○	●●○○	○●○○
暦	●●○○	●●○○	○●●●
女	●○○○	●●○○	○●○○ ○●●●
男	●●○○	●●○○	○●○○ ○●●●
宝	●●○○	●●○○	○●○○
東	●●○○	●●○○	○●●●
光	●●○○	●●○○	○●○○
袋	●●○○	○●○○	○●○○
(ニ)			
朝日	●○○○	○●○○	○●○○
五つ	●○○○	○●○○	○●○○
命	●○○○	○●○○	○●○○
心	●○○○	●●●●	○●○○
姿	●○○○	●●●●	○●○○
涙	●○○○	●○○○	○●○○

	1 世	2 世	3 世		1 世	2 世	3 世
火箸	○●○ ●○○	●○○	○●○	～が	●○○	●○○	○●○
油	●○○	○●○	○●○	～は	●○○	●○○	○●○
柱	○●○	○●○	○●○	～の	●○○	●○○	○●○
雨				～に	●○○	●○○	○●○
兎	○●●	○●●	○●○	～も	●○○	●○○	○●○
鳥	○●●	○●●	○●○	～を	●○○	●○○	○●○
うなぎ	○●●	○●●	○●●	(四)			
きつね	○●●	○●●	○●○	箸	○○	○○	●○
雀	○●●	○●●	○●○	～が	●●●	●●●	○●○
背中	○●●	○●●	○●○	～は	●●●	●●●	○●○
ねずみ	○●●	○●●	○●●	～の	●●●	●○○	○●○
よもぎ	○●●	○●●	○●○	～に	●●●	●●●	○●○
(ハ)				～も	○○○	○○○	○●○
後ろ	○●○	○●○	○●○	～を	●●●	●●●	○●○
蚕	○●○	○●○	●○○	5 (イ)			
いちご	○●○	○●○	○●○	飴	●●	●●	●○
鯨	○●○	●○○	●○○	～が	●●●	●●●	●○○
葉	○●○	○●○	○●○				●●○
ひとり	○●○	○●○	○●○	～は	●●●	●●●	●○○
3 (イ)				～の	●●●	●●●	●●○
鼻	●●	●●	○○	～に	●●●	●●●	●●○
～が	●●●	●●●	○●○	～も	●●○	●●○	●●○
～は	●●●	●●●	○●○	～を	●●●	●●●	●●○
～の	●●●	●●●	○●○	(四)			
～に	●●●	●●●	○●○	雨	○○	○○	●○
～も	●●○	●●○	○●○	～が	○○○	○○○	●○○
～を	●●●	●●●	○●○				●○○
(四)				～は	○○○	○○○	●●○
花	●○	●○	●○	～の	○○○	○○○	●●○
～が	●○○	●○○	○●● ○●○	～に	○○○	○○○	●●○
～は	●○○	●○○	○●○	～も	○○○	○○○	●●○
～の	●○○	●○○	○●○	～を	○○○	○○○	●●○
～に	●○○	●○○	○●○	6 (イ)			
～も	●○○	●○○	○●○	釜	●●	●●	○○
～を	●○○	●○○	○●● ○●○	～が	●●●	●●●	○●○
4 (イ)				～は	●●●	●●●	○●○
橋	●○	●○	○○, ●○	～の	●●●	●●●	○●○
				～に	●●●	●●●	○●○
				～も	●●○	●●○	○●○

	1 世	2 世	3 世		1 世	2 世	3 世
～を	●●●	●●●	○●○	～の	●●●	●●●	●●○
(四)				～に	●●●	●●●	●●○
鎌	○●	○●	○●	～も	○●○	○●○	●●○
～が	●●●	●●●	○●○	～を	●●●	○●○	●●○
～は	●●●	●●●	○●○	9(イ)			
～の	●●●	●●●	○●○	糸	○●	○●	●○
～に	●●●	●●●	○●○	～が	●●●	●●●	●●○
～も	○●○	○●○	○●○				○●○
～を	●●●	●●●	○●○	～は	●●●	●●●	●●○
7(イ)				～の	●●●	●●●	●●○
紙	●○	●○	○●				○●○
～が	●○○	●○○	○●○	～に	●●●	●●●	●●○
～は	●○○	●○○	○●○	～も	○●○	○●○	●●○
～の	●●○	●○○	○●○	～を	●●●	●●●	●●○
	●○○						
～に	●○○	●○○	○●○	(四)			
～も	●○○	●○○	○●○	井戸	○●	○●	●○
～を	●○○	●○○	○●○	～が	○●○	○●○	●○○
(四)				～は	○●○	○●○	●○○
髪	●○	●○	○●	～の	○●○	○●○	●○○
～が	●○○	●○○	○●○	～に	○●○	○●○	●○○
～は	●○○	●○○	○●○	～も	○●○	○●○	●○○
			○●○	～を	○●○	○●○	●○○
～の	●○○	●○○	○●○	10(イ)			
～に	●○○	●○○	○●○	蟻	●●	●●	○●
～も	●○○	●○○	○●○	～が	●●●	●●●	●○○
～を	●○○	●○○	○●○	～は	●●●	●●●	●○○
8(イ)				～の	●●●	●●●	●○○
泡	●○	●○	●○	～に	●●●	●●●	●●○
～が	●○○	●○○	○●○	～も	●●○	●●○	●○○
～は	●○○	●○○	○●○	～を	●●●	●●●	●○○
～の	●○○	●○○	○●○	(四)			
～に	●○○	●○○	○●○	針	○●	○●	●○
～も	●○○	●○○	○●○	～が	●●●	●●●	●○○
～を	●○○	●○○	○●○	～は	●●●	●●●	●○○
(四)				～の	●●●	●●●	●○○
粟	○●	○●	●○	～に	●●●	●●●	●○○
～が	●●●	●●●	●●○	～も	○●○	○●○	●○○
～は	●●●	●●●	●●○	～を	●●●	●●●	●○○

11(i) 1 世 2 世 3 世

足 ●○ ●○ ●●
 ～が ●○○ ●○○ ○●●
 ～は ●○○ ●○○ ○●○
 ～の ●○○ ●○○ ○●○
 ●●●
 ～に ●○○ ●○○ ○●○
 ～も ●○○ ●○○ ○●○
 ～を ●○○ ●○○ ○●○

(田)

汗 ○● ○● ●○
 ～が ○●○ ○●○ ●●○
 ～は ○●○ ○●○ ●●○
 ～の ○●○ ○●○ ●●○
 ～に ○●○ ○●○ ●●○
 ～も ○●○ ○●○ ●●○
 ～を ○●○ ○●○ ●●○

12(i)

牛 ●● ●● ○●
 ～が ●●● ●●● ○●○
 ～は ●●● ●●● ○●○
 ～の ●●● ●●● ○●○
 ～に ●●● ●●● ○●○
 ～も ●●○ ●●○ ○●○
 ～を ●●● ●●● ○●○

(田)

石 ●○ ●○ ○●
 ～が ●○○ ●○○ ○●○
 ～は ●○○ ●○○ ○●○
 ～の ●○○ ●●●
 ●○○
 ～に ●○○ ●○○ ○●○
 ～も ●○○ ●○○ ○●○
 ～を ●○○ ●●●
 ●○○

13(i)

昼 ●○ ●○ ●○
 ～が ●○○ ●○○ ●○○
 ～は ●○○ ●○○ ●○○
 ～の ●○○ ●○○ ●○○
 ～に ●○○ ●○○ ●○○

1 世 2 世 3 世

～も ●○○ ●○○ ●○○
 ～を ●○○ ●○○ ●○○
 (田)
 春 ○● ○● ●○
 ～が ○●○ ○●○ ●○○
 ～は ○●○ ○●○ ●○○
 ～の ○●○ ○●○ ●○○
 ～に ○●○ ○●○ ○●○
 ～も ○●○ ○●○ ●○○
 ～を ○●○ ○●○ ●○○

14(i)

箱 ●● ●●
 ～が ○●○
 梅 ●● ●●
 ～が ○●○
 枝 ●● ●●
 ～が ○●○
 柿 ●● ●●
 ～が ○●○
 風 ●● ●●
 ～が ○●○
 えび ●● ●●
 ～が ○●○
 口 ●● ●●
 ～が ○●○
 顔 ●● ●●
 ～が ○●○
 酒 ●● ●●
 ～が ○●○
 壁 ●● ●●
 ～が ○●○
 国 ●● ●●
 ～が ○●○
 首 ●● ●●
 ～が ○●○
 竹 ●● ●●
 ～が ○●○
 腰 ●● ●●
 ～が ○●○

	1 世	2 世	3 世
霧	●●	●●	
～が			○○
杉	●●	●●	
～が			●○○
鈴	●●	●○	
～が			●○○
袖	●●	●●	
～が			○○○
鳥	●●	●●	●●
～が			○○○
滝	●●	●●	
～が			○○○
棚	●●	●●	
～が			○○○
西	●●	●●	
～が			○○○
庭	●●	●●	
～が			○○●
灰	●●	●●	
～が			●○○
羽	●●	●●	
～が			○○○
蠅	●●	●●	
～が			○○○
蜂	●●	●●	
～が			○○○
紐	●●	●●	
～が			○○○
(回)			
川	●○	●○	○●
～が			○○○
岩	●○	●○	
～が			○○○
歌	●○	●○	
～が			○○○
音	●○	●○	
～が			○○○
北	●○	●○	
～が			○○○

	1 世	2 世	3 世
寺	●○	●○	
～が			○○○
夏	●○	●○	○●
～が			○○○
梨	●○	●○	
～が			○○○
旗	●○	●○	
～が			○○○
冬	●○	●○	
～が			○○○
町	●○	●○	
～が			○○○
胸	●○	●○	
～が			○○○
村	●○	●○	●○
～が			○○○
雪	●○	●○	
～が			○○○
蟬	●○	●○	
～が			○○○
人	●○	●○	
～が			○○○
(ハ)			
池	●○	●○	○●
～が			○○○
綱	●○	●○	
～が			○○○
色	●○	●○	
～が			○○○
腕	●○	●○	
～が			○○○
馬	●○	●○	
～が			○○○
裏	●○	●○	
～が			○○○
栗	●○	●○	●○
～が			○○○
鍵	●○	●○	
～が			○○○

	1 世	2 世	3 世
神	●○	●○	
～が			●○○
岸	●○	●○	
～が			○○●○
草	●○	●○	
～が			○○●○
櫛	●○	●○	
～が			●○○
島	●○	●○	●○
～が			○○●○
靴	●○	●○	
～が			○○●○
倉	●○	●○	
～が			○○●○
坂	●○	●○	
～が			○○●○
竿	●○	●○	
～が			○○●○
塩	●○	●○	
～が			○○●○
炭	●○	●○	●●
～が			●○○
谷	●○	●○	
～が			○○●○
月	●○	●○	
～が			○○●○
年	●○	●○	
～が			○○●○
波	●○	●○	
～が			○○●○
縄	●○	●○	
～が			○○●○
皮	●○	●○	○●
～が			○○●○
貝	●○	●○	
～が			●○○
雲	●○	●○	
～が			●○○
(二)			

	1 世	2 世	3 世
空	○●	○●	●○
～が			●○○
跡	○●	○●	
～が			○○●○
稲	○●	○●	
～が			○○●○
海	○●	○●	
～が			●○○
奥	●○	○●	
～が			●○○
帯	○●	○●	
～が			●○○
息	○●	○●	●○
～が			●○○
肩	○●	○●	
～が			●○○
絹	○●	○●	
～が			●○○
種	○●	○●	
～が			●○○
中	○●	●○	
～が			○○●○
苗	○●	○●	
～が			●○○
(三)			
窓	○●	○●	●○
～が			●○○
蔭	○●	○●	
～が			●○○
蜘蛛	○●	●○	
～が			●○○
鯉	○●	○●	
～が			●○○
猿	○●	○●	
～が			●○○
鶴	○●	○●	
～が			●○○
秋	○●	○●	●●, ●○
～が			●○○

	1 世	2 世	3 世
露	○●	○●	
～が			●○○
桶	○●	○●	
～が			●○○
上	●●	●●	
～が			●○○
下	●●	●●	
～が			○○●
亀	●○	●○	
～が			●○○
15(イ)			
柄	●(半長 上昇的)	●(半長)	●
～が	●●	●●	○●
～は	●●	●●	○●
～の	●●	●●	●●
～に	●●	●●	●●
～も	●○	●○	●●
～を	●●	●○, ○●	●○
(ロ)			
絵	●(半長 上昇的)	●(半長 上昇的)	●
～が	○●	○●	○●
～は	○●	○●	●●
～の	○●	○●	●●
～に	○●	○●	●○
～も	○●	○●	●●
～を	●●	●●	●○
16(イ)			
火	●(半長 上昇的)	●(半長 上昇的)	●
～が	○●	○●	●○
～は	○●	○●	●○
～の	○●	○●	●○
～に	○●	○●	●○
～も	○●	○●	●○
～を	○●	○●	●○
(ロ)			
日	●(半長 下降的)	●(半長 下降的)	●
～が	●○	●○	●○
～は	●○	●○	●○
～の	●○	●○	●○

	1 世	2 世	3 世
～に	●○	●○	●○
～も	●○	●○	●○
～を	●○	●○	●○
17(イ)			
戸	●(半長 上昇的)	●(半長)	●
～が	●●	●●	○●
～は	●●	●●	●●
～の	●●	●●	●○
～に	●●	●●	●○
～も	●○	●○	●●
～を	●●	●●	●○
18(イ)			
蚊が	●●	●●	●●, ●○
子が	●●	●●	○●
血が	●●	●●	○●
実が	●●	●●	●○
世が	●●	●●	●○
(ロ)			
葉が	●○	●○	●○
藻が	●●	○●	●○
(ハ)			
木が	○●	○●	●○
田が	○●	○●	●○
手が	○●	○●	●○
酢が	○●	○●	●○
荷が	○●	○●	○●
根が	○●	○●	○●
目が	○●	○●	●○
穂が	○●	○●	●○
湯が	○●	○●	●○
芽が	○●	○●	●○
輪が	○●	○●	●○
粉が	○●	○●	●○
毛が	●●	●●	●○, ○●
刃が	●○	●○	●○
巢が	●●	○●	●○
齒が	●○	●○	●○
19(イ)			
振	●●	●●	●○

	1 世	2 世	3 世
振らない		○○○○	○○○○
(振らん)	○○○	○○○	
振られる	○○○○	○○○○	○○○○
振らせる	○○○○	○○○○	○○○○
振った	○○○	○○○	○○○
振る時	○○○○	○○○○	○○○○
振れば	○○○	○○○	○○○
振れ	○○	○○	○○
振ろう	○○○	○○○	○○○
振りたい	○○○○	○○○○	○○○○
(ロ)			
降る	○○	○○	○○, ○○
降らない		○○○○	○○○○
(降らん)	○○○	○○○	
降られる	○○○○	○○○○	○○○○
降らせる	○○○○	○○○○	○○○○
降った	○○○	○○○	○○○
降る時	○○○○	○○○○	○○○○
降れば	○○○	○○○	○○○
降れ	○○	○○	○○
20(イ)			
鳴る	○○	○○	○○
鳴らない		○○○○	○○○○
(鳴らん)	○○○	○○○	
鳴らせる	○○○○	○○○○	○○○○
鳴った	○○○	○○○	○○○
鳴る時	○○○○	○○○○	○○○○
鳴れば	○○○	○○○	○○○
鳴れ	○○	○○	○○
(ロ)			
成る	○○	○○	○○
成らない		○○○○	○○○○
(成らん)	○○○	○○○	
成られる	○○○○	未使用	○○○○
成らせる	○○○○	○○○○	○○○○
成った	○○○	○○○	○○○
成る時	○○○○	○○○○	○○○○

	1 世	2 世	3 世
成れば	○○○	○○○	○○○
成れ	○○	○○	○○
成ろう	○○○	○○○	○○○
成りたい	○○○○	○○○○	○○○○
21(イ)			
行く時	○○○○	○○○○	
行く			○○
聞く時	○○○○	○○○○	
聞く			○○
鼻ぐ時	○○○○	○○○○	
鼻ぐ			○○
貸す時	○○○○	○○○○	
貸す			○○
死ぬ時	○○○○	○○○○	
死ぬ			○○
言う時	○○○○	○○○○	
言う			○○
買う時	○○○○	○○○○	
買う			○○
飛ぶ時	○○○○	○○○○	
飛ぶ			○○
売る時	○○○○	○○○○	
売る			○○
着る時	○○○○	○○○○	
着る			○○
為る時	○○○○	○○○○	
為る			○○
居る時	○○○○	使わず	
居る			○○
(ロ)			
書く時	○○○○	○○○○	
書く			○○
漕ぐ時	○○○○	○○○○	
漕ぐ			○○
打つ時	○○○○	○○○○	
打つ			○○
刺す時	○○○○	○○○○	
刺す			○○
勝つ時	○○○○	○○○○	

	1 世	2 世	3 世
勝つ			●○
食う時	○○●●○○	○○●●○○	
食う			●○
読む時	○○●●○○	○○●●○○	
読む			●○
取る時	○○●●○○	○○●●○○	
取る			●○
切る時	○○●●○○	○○●●○○	
切る			○○●
蹴る時	●●●●○○	●●●●○○	
蹴る			●○
見る時	○○●●○○	○○●●○○	
見る			●○
来る時	○○●●○○	○○●●○○	
来る			●○
居る時	●○○○○	○○●●○○	
居る			●○
22(i)			
磨く時	●●●●○○	○○●●●●	○○●●●●
磨く			○○●●
騒ぐ時	●○○○○○	●○○○○○	○○●●○○
騒ぐ			○○●○
拾う時	●●●●○○	●●●●○○	○○●●●●
拾う			○○●●
遊ぶ時	●●●●○○	●●●●○○	○○●●○○
遊ぶ			○○●○
進む時	●●●●○○	●●●●○○	○○●●○○
進む			○○●○
送る時	●●●●○○	●●●●○○	○○●●○○
送る			○○●○
明ける時	●●●●○○	●●●●○○	○○●●○○
明ける			○○●○
借りる時	●●●●○○	●●●●○○	○○●●○○
借りる			○○●○

	1 世	2 世	3 世
捨てる時	●●●●○○	○○●●●●	○○●●●●
捨てる			○○●●
(ii)			
歩く時	○○●●○○	●●●●○○	
歩く			○○●○
隠す時	○○●●○○	●●●●○○	
隠す			○○●○
乾く時	●○○○○○	●○○○○○	
乾く			○○●○
入る時	○○●●○○	●●●●○○	
入る			●○○○
動く時	●○○○○○	●○○○○○	
動く			○○●○
泳ぐ時	●○○○○○	●○○○○○	
泳ぐ			○○●○
起こす時	●○○○○○	●○○○○○	
起こす			○○●○
思う時	●○○○○○	●○○○○○	
思う			○○●○
頼む時	●○○○○○	●○○○○○	
頼む			○○●○
通る時	●○○○○○	●○○○○○	
通る			●○○○
掛ける時	●○○○○○	●○○○○○	
掛ける			○○●○
逃げる時	●○○○○○	●○○○○○	
逃げる			○○●○
見える時	●○○○○○	●○○○○○	
見える			○○●○

	1 世	2 世	3 世		1 世	2 世	3 世
23				熱くなか	○●○●○●○●		
濃い	●○	●○	●○	った		○●○●○●○●	
酔い	●○	●○	●○	25(イ)			
無い	●○	●○	●○	赤い	●●○	○●○	○●○
良い	○●	○●	○●	堅い	●●○	○●○	○●○
24(イ)				甘い	●●○	●●○	○●○
厚い	●●○	●●○	○●○	眠い	●●○	●●○	○●○
厚い板	●●○●●	●●○●●	○●○●●	遠い	●●○	●●○	●●○
厚くなか		○●○●○●○●		(ウ)	-		
った	○●○●○●○●			青い	●○●	○●○(?)	○●○
厚うなか	●●○●○●○●			強い	●○●	●○●	○●○
った				近い	●○●	●○●	○●○
(ウ)				古い	●○●	●○●	○●○
熱い	●○●	○●○	○●○	多い	●○●	●○●	●○●
熱いお茶	●○●○●	○●○●○					

2. 池田町・小野田家

(1) 語彙

	1 世	2 世	3 世
1. かまきり	ka「ma「ta「te(muɸi) NR		カ「マキリ
2. 蛸蜘蛛	ku「bo	クモ、クボ(少)	ク「モ
3. 蛸蜘蛛の糸	ku「bo「no「ô「to	クモノイト	〃
4. 蛸蜘蛛の巣	ku「bo「nosui「	クモノス	ク「モノス
5. かたつむり	ma「ïmaï「tsui「- buri	カタツムリ	デンデンムシ
	(今はka「tatsui「bur「- ri)	デンデンムシ (同じ程度に)	
6. なめくじ	na「mi「ku「giri	ナメクジ	〃
7. おたまじゃくし	ka「ï「ga「kuɸi	オタマジャクシ	〃
	(北海道では「otama「ga「- kuɸi)	カエルノコ	
8. 蛙	gja「(*)ruu	カエル	〃
	(北海道ではkawazui, ka- 「ëru)		
9. ひきがえる	çi「ki「ga「ëruu (越前にもここにもいない)	NR	ヒキザエル(しかしいない ので見たことがない)
10. 蛇	he「bi	へ「ビ	へビ
11. まむし	ma「mu「ɸi	マムシ	〃

	1 世	2 世	3 世
12. とかげ	to「k(i)jakur-	ト「カ」ゲ	ト「カ」ゲ
13. かなへび	to「k(i)jakur-	NR	//
14. いくつ ^(年)	na「mbo	イクツ	//
15. いくら ^(値)	na「mbo(多)	ナンボ	ナンボ(同じぐらいに使う)
	i「kura(少)	イクラ(多)	イクラ
16. いくつ ^(数)	na「mbo	ナンボ(少)	ナンボ(同じぐらいに使う)
	i「kurtur	イクツ(多)	イクツ(同じぐらいに使う)
17. 黄色い	ki「:ro「i	イクラ	ナンボ
18. 赤い	a「ka「i	キイロイ	キーロイ
19. 「あかい」を 「明るい」の 意味で	使わない	//	//
20. 「あおい」の 意味	5 番	5 番	8 番
21. 嘘をつく	ur「so: tsu「kur	ウソ ツク	ウソオ ツク(多)
			ウソオ ユー(少)
22. 灸をすえる	kjur「: ta「te「ru	ヤイトオ スエル (多)	ヤイト スエル(多)
	(越前では ja「ito sueru の 方が多い)	キューオ スエル (まれ)	オキューオ スエル(少)
23. (時計を)つ くる	ko「fura「eru	ツクル	//
24. (酒を)つく る	tsu「kur「ru	ツクル	//
25. 「なおす」の 意味	fur:zen firu (こわれ たものを直すとき)	修理すること	修繕すること
26. 「なおす」を 「片づける」 の意味で	使わない	//	//
27. 「なおす」を 「修繕する」 の意味で	使う	//	//
28. 「おどろく」 を「目が覚 める」の意 味で	使わない	//	//
29. 「おどろく」 を「目をさ ます」の意 味で	使わない	//	//
30. 「おどろく」 を「びっく りする」の 意味で	使う(bi「k「kur「rifiru は あまり多くない)	//	//
31. 頭	a「tama	アタマ	//
32. 旋毛	gi「ri「gi「ri	ギリギリ	//
33. 禿頭	hageatama	ハゲアタマ	//

	1 世	2 世	3 世
34. 目	me ^ㄊ	メ	ㄩ
35. 眉毛	me ^ㄐ iige	マ ^ㄐ イゲ	マイゲ
36. 麦粒腫	me ^ㄐ mō ^ㄊ raĩ	メモライ	メムライ
37. 鼻	hana	ハナ	ㄩ
38. いいにおい	ni ^ㄐ o ^ㄊ ĩ	ニオイ	ㄩ
39. 悪いにおい	ni ^ㄐ o ^ㄊ ĩ ka ^ㄐ za (物の腐敗, こげくさい)	ニオイ	ㄩ
40. きなくさい	ke ^ㄐ namu ^ㄐ sa ^ㄊ ĩ(多) he ^ㄐ namu ^ㄐ sa ^ㄊ ĩ(少)	キナクサイ	ケナグサイ コゲクサイ
41. こげくさい	ko ^ㄐ gekui ^ㄐ sa ^ㄊ ĩ	コゲクサイ	ㄩ
42. においを嗅ぐ	ni ^ㄐ o ^ㄊ ĩ ^ㄐ ka ^ㄊ ku	ニオイオ カク	ニオイオ カゲ
43. 耳	mi ^ㄊ mi	ミミ	ミ ^ㄐ ミ
44. 口	ku ^ㄐ tʃi	クチ	ㄩ
45. よだれ	jo ^ㄐ dare	ヨ ^ㄐ ダレ	ヨダレ
46. 唾	tsu ^ㄊ ba(多) tsu ^ㄊ ba ^ㄐ ki(少)	ツバキ	ツバ
47. 唇	ku ^ㄐ tʃi ^ㄐ bi ^ㄊ ra	クチビル	ㄩ
48. 舌	ʃi ^ㄐ ta	シタ	ㄩ
49. 鹹い	ʃo ^ㄐ p ^ㄐ pa ^ㄊ ĩ ((ʃiʃo)ku ^ㄐ de ^ㄊ は味の強すぎるとき)	シヨッパイ(多) カライ(少)	シヨッパイ
50. 辛い	ka ^ㄐ ra ^ㄊ ĩ	カライ	ㄩ
51. 味が薄い	a ^ㄐ maĩ (この程度のはなはだしいものはmi ^ㄐ zu ^ㄐ ku ^ㄐ sa ^ㄊ ĩ, 塩の足りないのによって感ずるうまくない感じ)ʃo ^ㄐ mi ^ㄐ na ^ㄊ ĩ)	シヨモナイ ア ^ㄐ マ ^ㄊ イ	アマイ シヨモナイ (ひょっと出るだけで減参に使わない)
52. 砂糖が甘い	a ^ㄐ ma ^ㄊ ĩ	ア ^ㄐ マ ^ㄊ イ	アマイ
53. すっぱい	su ^ㄊ p ^ㄐ pa ^ㄊ ĩ(多) su ^ㄊ ĩ(少)	スイ	スッパイ
54. いびきをか く	i ^ㄐ bĩ ^ㄐ ki ^ㄐ ka ^ㄊ ku	イビキオ カク	ㄩ
55. 咳をする	ʃe ^ㄐ kĩ ^ㄐ su ^ㄊ ru	セキオ スル	ㄩ
56. 頬	ho ^ㄐ be	ホッペタ	ㄩ
57. 顔	ka ^ㄊ o ツラ(悪たれことば)	カオ	ㄩ
58. 生まれつきの痣	a ^ㄐ za	アザ	ア ^ㄊ ザ
59. 痣ができる	ʃinu	ウチミニ ナル	ウジグロク ナル

	1 世	2 世	3 世
	ur「giɣurɔ̃ ɾnaɾru	ウジグロ ナル	
60. ほくろ	hoɣuro	ホクロ	//
61. 少し大きい、ふくらんだほくろ	hoɣuro	ホクロ	//
62. 「あざ」の意味	他にはない	//	//
63. 親指	oɾjaɾiɾbi	オヤユビ	//
64. 人さし指	ɕiɾtoɾsaɾji(:bi)	ヒトサシユビ	//
65. 中指	naɾkaɾiɾbi	ナカユビ	//
66. 薬指	beɾniɾsaɾji(:bi)	クスリユビ	//
67. 小指	koɾiɾtɕiɾbi	コユビ	//
68. しもやけ	iɾkiɾjaɾke (北海道では fiɾmojake) (これはほっておいでも直る。 ひどいのは toɾ:joɾ)	シモヤケ (10月末 ～3月) シバレル シバラカイタ (真冬) トーショー (少) トーシューネ カ カル (少)	シモヤケ (冬のはじ めになる) トーショーニ カカッ タ (真冬) シバレルタ (真冬)
69. 踵	kiɾbiɾsuɾ	カガト キビス アグド (少)	// キビス (少) (祖父母が使う のでたまに出る)
70. くすぐったい	koɾsoɾbaɾi	コソバイ	//
71. あぐらをかく	aɾɣura ɾkaɾkuɾ zoɾroɾkaɾkuɾ (越前こ とば)	アダラオ カク	アダラ カク
72. 坐る	tsuɾɾkuɾbaɾu	ツクバウ (多) オツクバイ スル スワル (少)	スワル
73. みずおち	muɾnasakiɾ	ミゾオチ	//
74. 垢	aɾka	ア「カ	//
75. 雲脂	ɸuɾke	フケ	フ「ケ
76. 鱗	uɾɾroko	ウロコ	ウ「ロコ
77. 「こけ」の意味	きのこのこと	木に生えるもの。馬糞に 生えるものもいうし、緑 の普通のものをいう。	馬糞などに生える食べられな い。木に生えても固くて食べ られないもの。
78. 「こけ」を茸の意味で	言う。ただし国で。今は kinoko の方が多い。	言う。キノコともいう。 同じ範圍に、同じぐら いに。	言わない。
79. 茸	kinoko		キノコ (食べられないので も毒のあるのに、ドクキノコ といつてコケとは言わない)
80. 男	oɾtoɾko	オトコ	//

	1 世	2 世	3 世
81. 女	o「nna	オンナ メロ(下品なかんじ) メツカイ(子供に対 して)	//
82. 風	ta「ko i「ka (国)	タ「コ	//
83. 竹馬	ta「ka「mma ta「kaſe (国)	タケンマ タカンマ	タカンマ(多) タケンマ(少)
84. お手玉遊び	a「ja「ho「ri	アヤコツキ	アヤコ
85. お手玉	a「jakko	アヤコ	//
86. 肩車	katamma	カタンマ(多) カタグルマ	タカンマ(多) カタグルマ(少)
87. 片足飛びをする	ſe「ŋ「gu「ri 「ka「- kuu	ケンケン スル	//
88. 鬼ごっこ	o「nigoto	オニゴッコ	//
89. かくれんぼ	ka「kuu「re「mbo	カクレンボ	//
90. お金	ze「ni	ゼンコ	ゼンコ(多) カネ(少)
91. おつり	tsü「ri(ſen)	ツリ	オツリ
92. お金を数える	ka「n「go「: firu (多) ka「n「gi「ruu(少)	カゾエル カンジョー スル (少)	カゾエル(多) カンジョー スル (少)
93. 鉛筆を数える	ka「n「go「: firu (多) ka「n「gi「ruu(少)	カゾエル	//
94. もらう	mo「raü	モラウ	//
95. やる	ja「ruu	ヤル	//
96. くれる	kuu「re「ruu	クレル	//
97. 「あずける」 を「子供に おもちゃを 買って与え る」の意味で	使わない。ja「ruuとい う。	使わない	//
98. 「あずける」 を「よく働 いたから、 ほうびにお 金与える」 をの意味で	使わない。ja「ruuとい う。	使わない	//
99. 借りる	karu(多) ka「ri「ruu	カリル	//
100. 貸す	kaisu	カス	//
101. 「かってく る」の意味	借ってくれ	両方使う。コーテ クルともいう。	買ってくる

	1 世	2 世	3 世
	(買ってくるは ko「te- 「ku「ru)		
102. 今日	kjo「:	キョー	//
103. 昨日	ki「nno:(多) ki「no:	キンノ	キノー
104. 一昨日	o「totoi	オトトイ	オトツイ(多) オットイ(少)
105. 一昨々日	sa「kiototsi	サキオトトイ	サキオトツイ(多) サキオツツイ(少)
106. 昨晚	jo「mbe	ユーベ	//
107. 一昨晚	o「totōino baN	オトトイノ バン サキオトトイノ バン(?)	オトツイノ バン
108. 明日	a「fita	アシタ	//
109. 明後日	a「satte	アサツテ	//
110. 明々後日	ji「a「sa「tte	シアサツテ	//
111. 明々々後日	go「ja「sa「tte	ゴアサツテ (うたが っていた)	ヤノアサツテ
112. 今晚	ko「mbaN	コンバン	//
113. 明日の晩	a「fitano baN	アシタノ バン	//
114. 太陽	明治以後 ci: 主として ni「t「firinsama hotokesama	テントサマ(多) オテントサマ	タイヨー
115. まぶしい	ma「bu「i	マブシイ	//
116. 月	gat「firinsama jo「ru (josari)no ho- 「toke	ツキ オツキサマ	オツキサン
117. 雨	a「me	アメ	アメ
118. 梅雨	tsū「i「ū「sa「me	ニューバイ	ツユ (ただし雨が長く続かな いから減多に使わない)
119. 夕立	ju「: dat「i	ユーダチ (朝でも いう)	ユーダチ (午前中でもない)
120. 雷	ka「mi「na「ri rai	カミナリ	//
121. ごろごろ (雷鳴)	go「rogoro:	ゴロゴロ	//
122. 稲光	i「na「bi「kari	イナビカリ イナズマ (減多にい わない)	イナビカリ(多) イナズマ
123. 落雷する	rai「ga (ka「mi「na「- riga) o「t「i「ru	カミナリガ オチ ル	//
124. 虹	nē「zi	ニジ	//
125. 雪	ju「ki	ユ「キ	ユキ
126. 氷	ko「:ri	コーリ	//

	1 世	2 世	3 世
127. 水が氷る	ji「ba「re」ru ko「ruu	シバレル	〃
128. 手拭が氷る	ji「ba「re」ru ko「ruu	シバレル	〃
129. 氷柱	ta「ru「ki(国で) ko「ri(こちらで)	ツララ。タルキと は言わない。	ツララ
130. つむじ風	tsu「gi「ka」ze	タツマキ	〃
131. 目にはいる ごみ	go「mi	ゴミ	〃
132. 箒で掃き集 めるごみ	go「mi	ゴミ	〃
133. 畳から出る ほこり	ho「kori(多) go「mi(少)	ホコリ	〃
134. 川の棒ぐい にひっかか ったごみ	go「mi go「mikurta は滅多に いわない。	ゴミ	〃
135. 地震	gi「jin	ジシン	〃
136. たきぎを拾 いに行く林	gu「rin「ji (北海道に來 てから)	NR	ハヤシ 植林した平ら な1町2町程度の広さ のもの。 ヤマ 自然林で何十町 もあるもの。 細長く続いたのは防風 林。
137. 平地でも 「ハヤシ」か	どちらも	山だとシンリン、 天然だとハヤシ、 木のあるなしにか かわらず「山」の こと	平地はハヤシ、斜地は ヤマ。
138. (お宮などの)森	mo「ri	NR	別にいわない
139. 「はやし」の 意味	樹林地をいう。	要領を得なかった	cf. 136. 植林した平ら な1・2町歩程度の広 さのもの。
140. 「もり」の意 味		使わない	〃
141. 「家のにわ」 の意味	普通の家のうちの横を いう。綺麗にして木で も植えてあるところ。 泉栽をいう。お寺さん なら前もいう。	靴脱のところで床 がないときはドマ だ。家」の前も庭 だ。	家の中の玄関入口のと ころ。床の有無にか わりない。
142. 「家の土間」 を「ニワ」と	言う。張ってあって も、はきものを脱ぐ所 ならいう。	言わない	言う

	1 世	2 世	3 世
143. 「家の前の 仕事場」を 「ニワ」と	言わない	言う	言わない
144. 「かど」の意 味	家の前の厩の前など	家の前の庭一帯を いう。それぞれの 建物の前も含む。	家の前・横の広いと ころ。裏はいわない。
145. 「屋外」を 「カド」と	言わない。前だけを言 う。	言わない	言う。しかし無制限で なしに裏はいわない。
146. 「家の前の 仕事場」を 「カド」と	言う。ただし脱穀・豆 干しは北海道では畑で してしまう。	言う	言う。しかし無制限で なしに裏はいわない。
147. 井戸	ẽ「ke(多) ẽ「do	イド (イケとはいわ ない)	イ「ド
148. 炊く	ta「kɯ	タク ニル	〃
149. 煮る	ta「kɯ	ニル	〃
150. かまどに残 る灰	a「kɯ	アク	〃
151. 火鉢の中に 入れる灰	a「kɯ ハイ(内地でいった)	アク (ハイはこたつに 入れるのやらワラの も のをいう)	アク
152. お湯から立 つ湯気	jɨŋ「ge	ユ「ゲ	ユ「ゲ
153. 御飯から出 る湯気	jiŋ「ge	ユ「ゲ	ユ「ゲ
154. まな板	Ki「riban	キリバン(多) マナイタ(少)	キリバン
155. すり鉢	su「ri「batʃi	スリパチ	〃
156. すりこぎ	su「rɯ「koŋgi	スリコギ	〃
157. 瀬戸物	ʃe「tomon	セトモノ	〃
158. 大きい	o「: ki· ẽ「kaŋi (越前で)	イカイ(多) オーキイ(多) デカイ	デカイ(多) オーキイ(少)
159. 小さい	ko「meŋi tʃi:「saŋi (越前で)	チサイ	チッチャイ(多) チーサイ(少)
160. 太い	ɸu「toŋi	フトイ	〃
161. 細い	ho「soŋi ko「maŋi	ホソイ	〃
162. 荒い	o「: ki·: a「raŋi (めったにいわな い) ẽ「kaŋi(子どもにいう)	アライ(多) オキイ	〃 オッキイー(少)
163. 細かい	ko「mɛŋi	コマコイ(多)	コマイ(多)

	1 世	2 世	3 世
		チサイ	チッチャイ(少)
164. 綿	uwa「ta	ワタ	〃
165. 真綿	tsu「ru「wata	マワタ	〃
166. 糸	ë「to	イ「ト	〃
167. 絹糸	ki「nu「ë「to	キヌイト	〃
168. 木綿糸	mo「meN「ë「to	モメンイト	〃
169. 織り糸	ë「to ha「taë「to	NR	〃
170. 「せんたく」の意味	洗う	洗うこと	〃 綺麗にすること
171. 「裁縫する」の意味で「センタク」と	言わない	〃	〃
172. 「くさる」を「濡れる」の意味で	使わない	〃	〃
173. 米	ko「me	コメ	〃
174. うるち	u「ruugome u「ru「ma「i	コメを訂正してウルマイ	ウルマイ
175. もち米	mo「tʃigome mo「tʃimaɪ	モチマイ	モチゴメ
176. 飯米	ha「mmaɪ	ジカマイ	ジカヨー
177. 米櫃	ko「mebitsʉi (木箱。1俵も入る大きいもの)	コメビツ	〃
178. 粳がら	mo「mi「nu「kwa mo「mi「ka「ra	モミカラ モミ	モミ モミガラ
179. 糠	ko「menurkwa	コメヌカ	〃
180. 田	ta「mbo	スイデン	タンボ スイデン
181. 田の一区画	ta「mbo	NR	タンボ スイデン
182. 畦	a「ʒe	ア「ゼ	〃
183. 畑	ha「ta「ke	ハダケ	ハダケ
184. 鳥おどし	to「ri「o「doʃi	このごろはカーバイトで録音器を使う スズメオドシ カラスオドシ	カカシ(カカシの他は認めない。設けない。)
185. 案山子	ka「kafi	カカシ	〃
186. じゃがいも	go「fo「imo	イモ(多) バレイショ ゴショイモ	〃 バレイショ ゴショイモも使う
187. さといも	dʒa「ki「i「mo	サトイモ	〃

	1 世	2 世	3 世
			町ではイモノコといっている。
188. さつまいも	sa ¹ tsú ¹ maimo	サツマイモ	//
189. 「いも」とい えは何をさ すか	じゃがいも	//	//
190. とうもろこ し	to ¹ :kibi	トーキビ	//
191. かぼちゃ	ka ¹ botja	カボチャ	//
192. 堇	su ¹ mire	スミレ	//
193. たんぽぽ	ta ¹ mpopo	タンポポ	//
194. 土筆	tsú ¹ kwji	ツクシ	//
195. すぎな	sú ¹ gina	スギナ	スギナ
196. どくだみ	do ¹ kw ¹ na ¹ bê	NR	NR (見たことがない)
197. 松かさ	ma ¹ tsú ¹ mo ¹ ka ¹ sa	マツカサ	//
198. 竹	ta ¹ lcê	タケ	//
199. 指にささっ たとげ	to ¹ ge	トゲ	トゲ ²
200. ばらの木な どのとげ	ha ¹ ri	トゲ ハリ	トゲ ²
201. 「おちる」を 「降りる」 の意味で	言わない	//	//
202. 「すてる」を 「紛失する」 の意味で	使わない	//	//
203. 「こわい」の 意味	汗たらしで仕事したと き	疲れたとき	仕事をしたとき
204. 「こわい」を 「疲れた」の 意味で	使う	//	//
205. 「こわい」を 「固い」の意 味で	使わない(ゴハン、赤飯、 肉にはいう)	使わない(赤飯に はいう)	使わない(御飯、赤飯等 に使う)
206. 「こわい」を 「おそろし い」の意味で	使わない	使う	使わない
207. 「けち」の意 味	ものを人に出しおし みたときなどに	けちん坊の時、物 惜しみする時使う	しみったれの場合
208. 「けちだ」を 「けしから ん」の意味で	使わない	//	//
209. 「けちだ」を 「不思議だ」 の意味で	使わない	//	//

	1 世	2 世	3 世
210.	「けちだ」を使う 「物惜しみする」の意味で	〃	〃
211.	「はそん」の直すこと 意味	こわれること	〃
212.	「修繕する」ことを「ハ ソンスル」と言う（木のものが多い。金 物はナオス。人の家では使わ ない）	言わない	〃
213.	馬 m「ma	ソマ	ウマ
214.	牡馬 ko ^ㄊ ma	コマ ボバ	〃 うまれたばかりのとき はオン、オンタという
215.	牝馬 me「m ^ㄊ ma	メソマ(多) ヒソバ	メン
216.	子馬 m「manoko」k ^ㄊ ko tonō to「nō ^ㄊ k ^ㄊ ko	コンマ	〃 トネ トーザイ
217.	たてがみ ta「te」ga ^ㄊ mi	タテガミ	タテガミ
218.	牛 u「ji	ウシ	〃
219.	牡牛 o「n」ta	オンタ	子牛にオンタという。 その他にめすはタネウ シしかいない。オウシ はいわない。
220.	牝牛 me [~] u「ji	メウシ(多) メンタ	子牛にはメンタとい う。その他にめすはニ ューギューしかいない ので、ウシといえはき まっている。
221.	子牛 ko「k」ko ^ㄊ u「ji	コウシ コッコウシ	コッコウシ コウシ(少)
222.	もうもう (牛のなき声) mo::mo::	モー	〃
223.	もぐら mo「kuro」mo ^ㄊ tji	モグラ	〃
224.	梟 φu「kuroku	フクロー	〃
225.	ほうほう (梟のなき声) ho ^ㄊ ūho ^ㄊ ūho ^ㄊ ho ^ㄊ - ūho ^ㄊ ūho ^ㄊ ū	ポー	ホー
226.	せきれい NR	セキレ	セキレイ
227.	ちっちっ (せきれいのなき声) NR	ピッピッ	ツンツン
228.	雀 sūzūme	スズメ	〃
229.	ちゅんちゅ ん(雀のなき声) tʃu ^ㄊ :tʃu ^ㄊ :tʃu ^ㄊ - tʃu ^ㄊ :	チューチュー	〃
230.	とさか toʒaʔa	トサカ	〃

2. 池田町・小野田家

(2) 文 法

	1 世	2 世	3 世	
書く	終止・連体	カク	ka [˧] kuu	カク
	否定	カカン	ka [˧] ka [˧] N	カカン
		カカナイ(あまり使わない がやかましく「カケカケ」とい ったとき)		カカナイ
	希望	カキタイ	ka [˧] ki [˧] ta [˧] i	カキタイ
	意志	カコウ	ka [˧] ko [˧] ː	カコー
			ka [˧] kuu [˧] be [˧] ː	カクペー
	推量	カクデァロウ	ka [˧] kuu [˧] ja [˧] ro	カクペ
	音便	カイテ	ka [˧] ite	カイテ
	過去	カイタ	ka [˧] ita	カイタ
		この否定カカナンダ 会話の中で拾ったもの カカンカッタ	否定 ka [˧] ka [˧] na [˧] - nda	
完了・進行	仮定	カイテル	ka [˧] iteruu	カイテル
		カキヤ	ka [˧] kjaː	カクンダラ
		カクンナラ	ka [˧] keba	カケバ
			ka [˧] kuunara	カクンナラ
順接	カクサカイ(ひらことば)	ka [˧] ku [˧] ka [˧] ra	カクカラ	
	カッカラ	ka [˧] kuunde		
		ka [˧] kuundakara		
逆接	カクケレド	ka [˧] kuuga	カクケド	
		ka [˧] ku [˧] kedo		
命令	カケ	ka [˧] ke	カケ	
可能	カケル	ka [˧] ke [˧] ruu	カケル	
	その否定カケン			
尊敬	カキナサル	あまり使わない	カイテイラッシャル	
	オカキンナル(まれ)			
ていねい	カキマス	ka [˧] ki [˧] ma [˧] sur	カキマス	
使役	カカシエル	ka [˧] ka [˧] se [˧] ruu	カキセル	
			カカス	
			カカサル	
自発				
読む	終止・連体	ヨム	jo [˧] muu	ヨム
	否定	ヨマン	jo [˧] ma [˧] N	ヨマン
			ヨマナイ	
希望	ヨミタイ		ヨミタイ	
意志	ヨモウ	jo [˧] moː	ヨモー	

	1 世	2 世	3 世
音便	ヨンデ	jo「m「be」:	ヨムペー
過去		jo「nde	ヨンデ
完了			ヨンダ
假定	ヨミャア		ヨンデル
	ヨメバ		ヨムンダラ
	ヨムンナラ		ヨムンナラ
順接			ヨムカラ
逆接			ヨムケド
命令	ヨメ	jo「me	ヨメ
可能			ヨメル
尊敬	ヨミナサル		オヨミニナル
			ヨミマス
使役			ヨマセル <small>(ヨマサルは使わない)</small>
売る	終止・連体	ur「ruu	ウル
	否定	ur「ra」N	ウラン
			ウラナイ
意志	ウロー	ur「ro」:	ウロー
		ur「ruu「be」:	ウルペー
推量			ウルベ
音便	ウッテ	ur「t「te	ウッテ
	ウッタ		ウッタ
假定	ウリヤー		ウルンダラ
	ウルナラ		ウルナラ
			ウルンナラ
			ウレバ
命令	ウレ	ur「re	ウレ
尊敬	ウリナサル		ウリナサル
買う	終止・連体	ka「ũ	カウ
	否定	ka「waN	カワン
			カワナイ(少)
意志	カオー	ka「o」:	カオー
		ka「ũ「be」:	カウペー
音便	コーテ (早口)	ko「:te	カッテ
	カッテ		
假定	カヤー		カウンダラ
	カエバ		カウンナラ
	カウナラ		カエバ
			カウナラ

	1 世	2 世	3 世
命令	カエ		カエ
尊敬	カイナサル		
起きる 終止・連体	オキル	o「ki」ruu	オキル
否定	オキン	o「ki」N	オキン
			オキナイ
希望	オキタイ	o「ki」ta「i	オキタイ
意志	オキヨー	okijo・	オキヨー
		o「kiruu」be「:	
推量	オキルダロー	o「kiruwjaro	オキルベ
	オキッデァロー	o「kiruu」be「:	
音便		o「kite	オキテ
過去	オキタ	o「ki」ta	オキタ
		この否定オキナン ダ	
完了・進行	オキテル	o「kiteruu	オキテル
仮定	オキリヤー	o「ki」rja	オキレバ
	オキルナラ	o「ki」runara	オキルンナラ
順接	オキルサカイ	o「ki」rukkara	オキルカラ
	オキルカラ	o「ki」runde	
逆接	オキルケレド	o「ki」rukkedo	オキルケド
命令	オキョ	o「ki」ja	o「kire
	オッキョマ	o「ki」re(少)	
	オキレ	o「ki」na	
可能	オキラレル	o「kirareruu	オキレル
	オキレル	o「ki」re「ruu	
尊敬	オキナサル		オキラレル
ていねい	オキマス	o「ki」ma「suu	オキマス
使役	NR	(o「ko」sa「se」ruu)	オキラセル
見る 終止・連体	ミル	mi「ruu	ミル
否定	ミン	min	ミナイ
			ミン
希望	ミタイ	mi「ta」i	ミタイ
意志	ミヨー	mijo・	ミヨー
		mi「ruu」be「:	
推量	ミルデァロー	mi「ruwjaro・	ミルベ
		mi「ruu」be「:	
音便		mi「te	ミテ
過去	ミタ	mi「ta	ミタ
	この否定ミナンダ		
完了・進行	ミテル	mi「teruu	ミテル

	1 世	2 世	3 世
假定	ミリヤー	mi [˧] rja	ミレバ
	ミルナラ	ミレバ mi [˧] ruunara	ミルンナラ
順接	ミルサカイ(普通)	mi [˧] rukara	ミルカラ
	ミルカラ	mi [˧] ruunde	
逆接	ミルケレド	mi [˧] rukedo	ミルケド
命令	ミヨ	mi [˧] re	ミレ
	ミー		
	ミレ		
可能	ミラレル(多)	mi [˧] ra [˧] re [˧] ru	ミレル
	ミレル	mi [˧] re [˧] ru	
尊敬	ミナサル		ミラレル
ていねい	ミマス	mi [˧] ma [˧] sui	ミマス
使役	ミサンエル		ミセル
出る	終止・連体	de [˧] ru	デル
	否定	de [˧] N	デン デナイ
意志	デヨー	de [˧] jo [˧] de [˧] ru [˧] be [˧] ː de [˧] te	デヨー デテ
音便			デレバ
假定	デリヤー		デルンナラ
命令	デルナラ		
	デヨ	de [˧] jo (普通)	デレ
	デイ デレ	de [˧] re	
尊敬	デナサル		デラレル
来る	終止・連体	ku [˧] ru	クル
	否定	ko [˧] N	コン コナイ
希望	キタイ	ki [˧] ta [˧] i	キタイ
意志	コヨー	ko [˧] ː	コヨー
推量	クルデアロー	ku [˧] ru [˧] ja [˧] roː	クルベ
音便		ki [˧] te	キテ
過去	キタ	ki [˧] ta	キタ
	否定コナンダ		
完了・進行	キテル	ki [˧] te [˧] iru	キテル
假定	クリヤー	ku [˧] rja	コイバ
	クルナラ	ku [˧] reba ku [˧] ruunara	クルンナラ

	1 世	2 世	3 世
		コエバ (聞いた程度)	
順接	クルサカイ	kuɽru ɽkaɽra	クルカラ
・	クルカラ	kuɽrunde	クルカラ
逆接	クルケレド	kuɽrukedo	クルケド
命令	コイ	koɽi	コイ
可能	コレル(多)	koɽra ɽreɽru	コレル
	コラレル(少)	koɽreɽru	
尊敬	キナサル	あまり使わない	コラレル
ていねい	キマス	kiɽmaɽsuɽ	キマス
使役	コサシエル	koɽsa ɽseɽru	コラセル
	シル	kiɽsa ɽseɽru	コラサル
する 終止・連体	シル	jiru	シル
否定	シェン	ʃeɽN	セン
	シェナンダ(過去)		シナイ
希望	シタイ	ʃiɽtaɽi	シタイ
意志	シヨー	ʃijo:	シヨー
		ʃoɽ:	
推量	シルデアロー	ʃiɽrujaro:	シルベ
音便		ʃiɽte	シテ
過去	シタ	ʃiɽta	シタ
	否定シェナンダ	否定セナンダ	
完了・進行	シテル	ʃiɽteiru	シテル
仮定	シリャー	ʃiɽɽjaɽ:	シレバ
	シルナラ	ʃiɽreɽba	セーバ
		suɽru ɽnaɽra	シルンナラ
		ʃiɽru ɽnaɽra	
順接	シルサカイ	ʃiɽru ɽkaɽra	シルカラ
	シルカラ	ʃiɽruɽnde	
逆接	シルケレド	ʃiɽru ɽkeɽdo	シルケド
命令	シェイ	ʃiɽre	〃
		seɽ:	セー
可能	この形で出ない		
	シラレル(鳥取の人)	ʃiɽra ɽreɽru	シレル
		ʃiɽreɽru(多)	
尊敬	シナサル		サレル
ていねい	シマス	ʃiɽmaɽsuɽ	シマス
使役	サシエル	saɽseru	サセル
			シラサル
いる (おる)	終止・連体 イル	iru	イル

	1 世	2 世	3 世
否定	イン (国でいった) オラン (ここであう)	ō`N	エン イナイ
希望	イタイ	i`ta`i	イタイ
意志	イヨー	i`jo`:	イヨー
推量	イルデアロー	i`ruja`ro`:	イルベ
音便		i`te	イテ
過去	イタ (否定, イナンド)	ita (否定, イナンド, エ) ンカツタ	イタ
完了・進行	なし		
仮定	イリヤー イルナラ	i`rja`:	イレバ イルンナラ
順接	イルサカイ イルカラ	i`ru`ka`ra i`ru`nde オッカラ	イルカラ
逆接	イルケレド	i`ru`ke`do	イルケド
命令	オレ(多) イヨ	i`re(--jo)	イレ
可能	イラレル	i`ra`re`ru i`re`ru	イレル
尊敬	イナサル		イラレル
ていねい	イマス	i`ma`sui	イマス
使役	イサンエル(普通) オラシエル		イラセル
高い	終止・連体		ta`ka`i
	連用 -なる	//	ta`kaku`na`ru
	// -ない	ta`ko`na`i	タクナイ
	// -て	ta`ka`te	
	推量	ta`ka`i`jaro`:	ta`ka`i`da`ro`:
	過去	ta`ka`ka`t`ta	
	仮定	ta`kakerja	ta`kakerja ta`kakereba タカカッタ(多)
	順接		タカイカラ
	逆接		タカイケド
	ていねい		タカイデス
重い	終止・連体	o`mo`i	オモイ オモタイ
	連用 -なる	o`moku`na`ru o`mo`na`ru	オモクナル

	1 世	2 世	3 世
	// -ない オボトナイ	o「mo「na」i	オモクナイ
	// -て オボトテ	o「mo」te	オモクテ
安い	終止・連体 ヤスイ		ja「su」i
	連用 -なる ヤスナル		ja「sukku「na」ruu
	// -ない ヤスナイ	ja「su「na」i	ヤスクナイ
	// -て ヤステ	ja「su」te	jasukute
暑い	終止・連体 アツイ	a「tsu」i	アツイ
	連用 -なる アツナル	a「tsu「na」ruu	a「tsukku「na」ruu
	// -ない アツナイ	a「tsu「na」i	アツクナイ
	// -て アツテ	a「tsu」te	アツクテ
寒い	終止・連体 サブイ	sa「bu」i	サムイ
	連用 -なる サブナル	sa「bukku「na」ruu	サムクナル
	// -ない サブナイ	sa「bu「na」i	サムクナイ
	// -て サブテ	sa「bu」te	サムクテ
よい	終止・連体 ヨイ		i」:
	イー		
	連用 -なる ヨクナル	jo「・「na」ruu	jo「ku「na」tta
	// -ない ヨクナイ	jo「・「na」i	
	// -て ヨーテ	jo「:te	ヨクテ
推量	ヨイデアロー	i」:jaro:	イイベ
	イーデアロー		
過去	ヨカッタ	jo「ka」t」ta	jo」katta
			エカッタ
仮定	ヨケリャ	jo「ke」rja	エカッタラ
		jo「ka「rja」:	イイバ
順接	ヨイサカイ		
	イーサカイ		
	ヨイカラ		
	イーカラ		
逆接	ヨイケレド	i」:「ke」do	イイケド
	イーケレド	i」:ga	
ていねい	イーデス	i」:desu	イイデス
無い	終止・連体 nae:	na」i	ナイ
	ne:		
	連用 -なる ノーナル		na「ku「na」tta
	// -ない	//	使わない
		na「ku「na」i	
		ノーナイ	

	1 世	2 世	3 世
連用 -て	ノーテ	no「te	ナクテ
推量	ナイデアロ	na「i jaro	ナイペー
過去	ナカッタ	na「ka「t「ta	ナカッタ
仮定	ナケリヤー	na「kerja	ナカッタラ
		ナケレバ	
順接	ナイカラ		
	ナイサカイ		
逆接	ナイケレド	na「ikedo	ナイケド
		na「i ga(少)	
ていねい	ナイデス	na「i desur	ナイデス
	(これよりアリマセンを使う)		
珍しい 終止・連体	メズラシー	me「zu「ra「ji「:	
連用 -なる	メズラシナル	me「zu「ra「ji「- naruu	メズラシクナル
// -ない	メズラシナイ	me「zu「ra「ji「nai	
// -て	メズラシテ	me「zu「ra「jite	メズラシクテ
推量	メズラシーデアロ	me「zu「ra「ji「- jaro	メズラシイベ
過去	メズラシカッタ	me「zu「ra「ji「ka「- tta	メズラシカッタ
仮定	メズラシケリヤ	me「zu「ra「ji「ke- rja	メズラシカッタラ
順接	メズラシーカラ	me「zu「ra「ji「ka- ra	メズラシイカラ
	メズラシーサカイ		
逆接	メズラシーケレド	me「zu「ra「ji「- kedo	メズラシイケド
ていねい	メズラシデス	me「zu「ra「ji「- 「de「sur	メズラシイデス
静かだ 終止・連体	シズカダ	//	ji「zuka「da
	シズカナ	ji「zu「ka「na	シズカナ
連用 -なる	シズカンナッタ		ji「zukan「na「ruu
	シズカネナッタ		
// -ない		ji「zuka「de「na「i	シズカデナイ
// -て		ji「zuka「de	シズカデ
推量	シズカジャロー	ji「zuka「ja「ro「:	ji「zuka「da「ro「:
過去	シズカジャッタ	ji「zuka「ja「tta	ji「zuka「datta
仮定	シズカナラ	ji「zuka「na「ra	ji「zuka「na「ra
		ji「zuka「ja「t- 「ta「ra	
順接		ji「zuka「jakara	シズカダカラ

	1 世	2 世	3 世
逆接	シズカジャケレド シズカジャケド	fi「zu「kajakara ji「zu「kajakakedo	
ていねい		ji「zu「kadesur	シズカデス
立派だ 終止・連体	リップバダ リップバジャ(多) リップバヤ(少)	ri「ppaja ri「p「pana	リップバダ リップバナ
連用 -なる	リップバニナル リップバネナル	ri「p「pan「na「 ruu	リップバニナル
// -ない	リップバデナイ	ri「p「pade 「na「i	リップバデナイ
// -て	リップバデ	ri「p「pade	リップバデ
まっすぐだ 終止・連体	マッスギジャ	ma「ssugija ua「ssugina ma「s「sugun 「na「ru(多) ma「s「sugin 「na「ru	ma「s「sur「guda マッスグナ マッスグニナル
連用 -なる		ma「s「sur「gide 「na「i	マッスグデナイ
// -ない		ma「s「sur「gide	マッスグデ
// -て			
あれは学校だ	ジャ		da
～だろう			da「ro「:
～だね	ジャナ		da「be ダネ (改まったとき) da「
～か	カ		} ga「k「ko:da「be「 } ka(na)
～かね	カネ		
先生が来た	シェンシェア オイデ ニ ナッタ		se「N「se「:ga kita せんせい来た zepkoga ne:(naei) カネナイ
金がない	カネア ナイ カネガ ナイ ジュニア ネー		
学校に行く	ガッコーイ イク		ga「k「ko「 i「kuu ガッコーイ イク
川に魚を取りに行く	カワエ サカナ トン ネ イク		ka「wa「ẽ sakana tonni iku

2. 池田町・小野田家

(3) アクセント

1 (イ)	1 世	2 世	3 世		1 世	2 世	3 世
日の丸	○●●●○	○●●●●	○●●●●	さいころ	○●●●○		
～の	○●●●●			～の	○●●●○		
友達	○●●○		○●●●●	(ニ)			
～の	○●●●○			朝顔	○●●●●	○●●●●	○●●●●
くちばし	○●●○			～の	○●●●●		
～の	○●●●○			建物	○●●○	○●●●●	
函館	○●●○		○●●●●	すずらん	○●●●●		○●○○○
東京				手袋	○●●○		○●●●○
鉛筆	○●●○	○●●●●	○●●●●	座蒲団	○●●○		○●●●○
福引き	○●●○	○●●○		土曜日	○●●●●	○●●●●	○●●●○
かまぼこ				九つ	○●●●●		○●●●●
夕焼				生け花	○●●●●		○●●●●
魚屋				紫	○●●○		○●●●●
(ウ)				生き物	○●●●●		
金持	○●●○	○●●○	○●●●●	(ホ)			
～の	○●●●●			あいさつ	○●●○	○●●○	○●●○
腰掛	○●●○			～の	○●●●●		
～の	○●●●○			全国	○●●●●		○●●○
日帰り				～の	○●●●○		
耳掻き	○●●○			羽二重	●○○○		○●○○○
妹	○●○(é「mo」・to)			本人			○●○○○
弟	○●●○	○●●○	○●●●●	親切	○●●○		○●●○
道楽	○●●○			～の	○●●●○		
(イ)				貧乏	○●●○	○●●○	○●●●●
小刀	○●●○	○●●●●	○●●●●	2 (イ)			
化け物	○●●○			桜	●○○○	○●○	○●●●
からかさ				～の	○●●○		○●●○
先生	○●●○						(～も)
争い				形	○●○	○●○	
長男		○●●●●	○●●●●	いわし	○●○	○●○	○●○
考え							○●○
ろうそく	○●●○						○●○

	1 世	2 世	3 世
煙	○○○		○○●
～の	○○●●		
机	○○○		○○●
隣	●○○ ○○○		○○●
～の	○○●○		
氷	○○○	●○○	○○●
	●○(コリとなりがち)		
～の	○○●○		○○●○ (～も)
柳	○○○	○○●	
～の	○○●●		
着物	○○○	○○●	○○●
～の	○○●○		
印	○○○		
車	○○○		○○●
～の	○○●●		
昔	○○○		○○○ ○○●
～の	○○○○ ○○●○		
(ロ)			
あづき	○○○	○○○ ○○●	○○○
～の	○○●○		○○○○ (～も)
毛抜き	○○○		○○●
つるべ	○○○		○○○
～の	○○●○		○○●○ (～も)
二つ	○○○	○○○	○○●
～の	○○●○		
ふたり	○○○	○○○	○○○
～の	○○●○		○○●○ (～も)
間	○○●		
(ハ)			
頭	○○○	○○●	○○●
～も			○○●○
表鏡	○○○	○○○	
鏡	○○○	○○○	○○●
～の	○○●○		

	1 世	2 世	3 世
刀	○○○	○○○	○○●
ことば	○○○		○○○
暦	●○○		
女	○○○	○○○	○○●
男	○○○	○○○	○○○ ○○●
～の	○○●○		
宝	○○○	○○○	○○○
東	○○○		○○○
光	○○○		○○○
袋	○○● ○○○		○○● ○○●
(ニ)			
朝日	○○●	○○○	○○○
～の			○○●○
五つ	○○●		○○○
命	○○●	○○○	○○○
心	○○●	○○●	○○○
～の	○○●●		
姿	○○● ○○○		○○○
～の	○○●●		
涙	○○○		○○● ○○○
～の	○○●●		
火箸	○○○ ○○●	○○○	○○○
油	○○●	○○●	○○●
～の	○○●○		
柱	○○○ ○○●	○○●	○○●
(ホ)			
兎	○○○	○○○	○○○
～も			○○●○
鳥	●○○	○○○	○○○
うなぎ	○○○		○○○
～の	○○●○		
きつね	○○○		○○○
～の	○○●○		
雀	○○○		○○○
～の	○○●○		
背中	○○○		○○○

	1 世	2 世	3 世
ねずみ	○●○	○●○	○●○
～も			○●●○
よもぎ	○●○		
(ハ)			
後ろ	○●○	○●●	○●●
～の	○●●○		○●●○ (～も)
蚕	○●○	○●○	○●○
いちご	○●○		○●○
～の	○●●○		
鯨	○●○		○●○
～の	○●●○		
薬	○●○		○●○
～の	○●●○		
ひとり	○●○		
～の	○●○ ○●●○		
3(イ)			
鼻	●○	○●	○●
～が	○●○	○●●	○●○
～は	○●○	○●●	○●○
～の	○●● ○●○		
～に	○●○		
～も	○●○		○●○
～を	○●○		
(ロ)			
花	●○	○●	○●
～が	○●○	○●●	○●○
～は	○●● ○●○	○●●	○●○
～の	○●○		
～に	○●○		
～も	○●○		○●○
～を	○●○		
4(イ)			
橋	○●	○●	○●
～が	○●○	○●●	○●○
～は	○●○	○●●	○●○
～の			
～に			

	1 世	2 世	3 世
～も			
～を			
(ロ)			
箸	●○ ○●	●○	○●
～が	○●○	○●●	○●○
～は	○●○	○●●	○●○
～の			
～に			
～も			
～を			
5(イ)			
飴	●○	○●	○●
～が	○●○	○●○	○●○
～は	○●○	○●●	○●○
～の			
～に			
～も			
～を			
(ロ)			
雨	●○	○●	○●
～が	○●○	○●○	○●○
～は	○●○	○●○	○●○
～の			
～に			
～も			
～を			
6(イ)			
釜	●○	○●	○●
～が		○●○	○●○
～は		○●●	○●○
～の			
～に			
～も			
～を			
(ロ)			
鎌	●○	○●	○●
～が		○●○	○●○
～は		○●●	○●○
～の			

	1 世	2 世	3 世
～に			
～も			
～を			
7(イ)			
紙	○●○ ●○	○●	○●
～が	○●○	○●●	○●○
～は	○●○	○●●	○●○
～の			
～に			
～も			
～を			
(ロ)			
髪	●○ ○●	○●	○●
～が	○●○	○●●	○●○
～は	○●○	○●●	○●○
～の			
～に			
～も			
～を			
8(イ)			
泡	●○ ○●	○●	○●
～が	○●○	○●●	○●○
～は	○●○	○●●	○●○
～の			
～に			
～も			
～を			
(ロ)			
粟	●○	○●	○●
～が		○●●	○●○
～は		○●●	○●○
～の			
～に			
～も			
～を			
9(イ)			
糸	●○	○●	○●

	1 世	2 世	3 世
～が		○●○ ○●●	○●○
～は		○●○	○●○
～の	○●○		
～に	○●○		
～も			
～を			
(ロ)			
井戸	●○	○●	○●
～が		○●○	○●○
～は		○●●	○●○
～の	○●○		
～に	○●○		
～も			
～を			
10(イ)			
蟻	●○	○●	○●
～が		○●●	○●○
～は		○●●	○●○
～の	○●○		
～に	○●○		
～も			
～を			
(ロ)			
針	●○	○●	○●
～が		○●●	○●○
～は		○●●	○●○
～の	○●○		
～に	○●○		
～も			
～を			
11(イ)			
足	○●	●○ ○●	○●
～が		○●●	○●○
～は		○●●	○●○
～の	○●○		
～に	○●○		
～も			

	1 世	2 世	3 世
～を			
(回)			
汗	●○	○●	○●
～が		○●○	○●○
～は		○●●	○●○
～の	○●○		
～に	○●○		
～も			
～を			
12(イ)			
牛	○●	○●	○●
～が		○●○	○●○
～は		○●●	○●○
～の	○●○		
～に	○●○		
～も			
～を			
(回)			
石	○●	○●	○●
～が		○●●	○●○
～は		○●●	○●○
～の			
～に			
～も			
～を			
13(イ)			
昼	●○	○●	○●
～が		○●●	○●○
～は		○●●	○●○
～の	○●○		
～に	○●○		
～も			
～を			
(回)			
春	●○	●○	○●
～が		○●○	○●○
～は		○●●	○●○
～の	●●○		
～に	○●○		
～も			

	1 世	2 世	3 世
～を			
14(イ)			
箱	●○	○●	○●
～も			○●●
梅			
枝	●○		
柿			
風			
えび			
口	●○	○●	○●
～も			○●●
顔	●○		
酒	●○		
壁			
国			
首	●○		
竹	●○	○●	○●
腰			
霧			
杉			
鈴			
袖			
鳥	●○	○●	○●
滝			
棚			
西			
庭			
灰	●○	○●	○●
羽			
蠅	●○		
蜂			
紐			
(回)			
川	●○	○●	○●
～も	○●		○●●
岩			
歌	○●		
音	○●		
北			

	1 世	2 世	3 世		1 世	2 世	3 世
寺夏		○●		波	○●		
〜も	●○	●○	○●	縄	○●		
梨旗	○●		○●●	皮	○●	○●	○●
冬	○●			貝			
町	●○	○●		雲	○●		
胸	○●	●○		(一) 空	●○	○●	○●
村	○●	○●	○●	〜も			○●○
雪蟬	●○			跡	○●		
人(ハ)	○●			稲	○●		
池	○●	○●	○●	海	○●	●○	
〜も			○●●	奥			
網色	○●			帶	○●	○●	
腕馬	○●			息	○●	○●	○●
裏栗	○●	○●	○●	肩	○●		
鍵神	○●			絹種	○●	○●	
岸草	○●	○●		中	○●		
柳島	○●		○●	苗	○●		
靴倉	○●			(二) 窓	○●		
坂竿	○●			蔭	○●		
塩炭	○●			蜘蛛	○●		
谷月	○●			鯉		○●	
年	○●			猿	○●		
				鶴	○●		
				秋	○●	○●	○●
				露		○●	
				桶			
				上		○●	
				下			
				龜	○●		
				15(イ) 柄		●	●
				〜が		○●	○●
				〜は		○●	○●
				〜の	○●		
				〜に	○●		
				〜も			

	1 世	2 世	3 世
～を			
(回)			
絵		●	●
～が		●○	●○
～は		●○	●○
～の	●○		
～に	●○		
～も			
～を			
16(イ)			
火		●	●
～が		●○ ○●	●○
～は		●○	●○
～の	●○	○●	
～に	●○	○●	
～も			
～を			
(回)			
目		●	●
～が		○●	●○
～は		○●	●○
～の	●○	○●	
～に	●○		
～も			
～を			
17(イ)			
戸		●	●
～が		●○	●○
～は		●○	●○
～の	●○		
～に	●○		
～も			
～を			
(回)			
名		●	●
～が		○●	●○
～は		○●	●○
～の			

	1 世	2 世	3 世
～に			
～も			
～を			
18(イ)			
蚊が		●○	●○
～の	●○		
子が		●○	
～の	●○		
血が		●○	
～の	●○		
実が		●○	
～の	●○		
世が		●○	
(回)			
葉が		○●	●○
～の	●○		
藻が	●○ ○●	●○	
(イ)			
木が		●○	●○
～の	●○		
田が		●○	
～の	●○		
手が		●○	
～の	●○		
酢が			
荷が			
根が			
～の	●○		
目が		●○	●○
～の	●○		
穂が		●○	
湯が		●○	
芽が			
～の	●○		
輪が			
～の	●○		
粉が		●○	
毛が		○●	●○

	1 世	2 世	3 世
～の	●○		
刃が		○○●	
～の	●○		
巢が		●○	
歯が		○○●	
～の	●○		
19(i)			
振る	●○	○○●	●○
振らない			
(振らん)		○○●●	○○○
振られる		○○●●○	○○●●○
振れる			○○○
振らせる		○○●●●	○○●●○
振った		○○●●	○○●●
振る時		○○●●●	○○●●○
振れば		○○●●	○○○
振れ		○●	○●
振ろう		○○●●	○○○
(振るべえ)			○○●●○
振りたい		○○●●●	○○●●○
(i)			
降る	●○	○○●	●○
降らない			
(降らん)		○○●●	○○○
降られる		○○●●○	○○●●○
降らせる		○○●●●	○○●●○
降った		○○●●	○○●●
降る時		○○●●○	○○●●○
降れば		○○●●	○○○
降れ		○●	●○
20(i)			
鳴る	●○	●○	●○
鳴らない			
(鳴らん)	○○○	○○●●	○○○
鳴らせる	○○●●●	○○●●●	○○●●○
鳴った	○○●●	○○●●	○○●●
鳴る時	○○●●○	○○●●○	○○●●○

	1 世	2 世	3 世
鳴れば	○○○	○○○	○○○
鳴れ	○○●	○○●	○○●
(i)			
成る	●○	○○●	●○
成らない			
(成らん)	○○○	○○●●	○○○
成られる		○○●●○	○○●●○
成れる			○○○
成らせる	○○●●○		○○●●○
成った	○○○		○○●●
成る時			○○●●○
成れば	○○○		○○○
成れ	●○		●○
成ろう	○○○	○○○	○○○
成るべえ	(na ^r ro')		○○●●○
成りたい	○○●●○	○○●●●	○○●●○
21(i)			
行く時	○○●●○	○○●●○	○○●●○
聞く時	○○●●○	○○●●○	○○●●○
唄ぐ時			
貸す時			
死ぬ時			
言う時	○○●●○	○○●●○	○○●●○
買う時	○○●●○	○○●●○	○○●●○
飛ぶ時			
売る時			
着る時			
為る時	○○●●○	○○●●○	○○●●○
居る時	○○●●○	○○●●○	○○●●○
(i)			
書く時	○○●●○	○○●●○	○○●●○
漕ぐ時	○○●●○	○○●●○	○○●●○
打つ時			
刺す時			
勝つ時			
食う時	○○●●○	○○●●○	○○●●○
読む時	○○●●○	○○●●○	○○●●○

	1 世	2 世	3 世		1 世	2 世	3 世
取る時				23			
切る時				濃い	●○	○●, ●○	●○
蹴る時				酔い	●○	●○	●○
見る時	○●●○	○●●○	○●●○	無い	●○	●○	●○
22(イ)				良い	●○	●○	●○
磨く時	○●●○	○●●○	○●●○	24(イ)			
騒ぐ時	○●●○	○●●○	○●●○	厚い	○●○	○●●	○●○
拾う時				厚い板	○●○●○		●●●●●
遊ぶ時						○●○●○	○●○●○
進む時				厚くな		○●○●○●○	
送る時	○●●○		●●●●●	かった		●●●●●●●●●	
明ける時	○●●○		○●●○	厚なか	○●●○●○		
借りる時				った	(ロ)		
捨てる時				熱い	○●○	○●●	○●○
(ロ)				熱いお茶	○●○●○	○●○●○	○●○●○
歩く時	○●●○	○●●○	○●●○	(熱なった)	○●○●○	○●○●○	○●○●○
隠す時	○●●○	○●●○	○●●○	熱くなっ	○●○●○	○●○●○	○●○●○
乾く時				た		○●○●○	
はいる時				25(イ)			
動く時				赤い	○●○	○●○	
泳ぐ時	○●●○		○●●○	堅い	○●○	○●○	
起こす時	○●●○		○●●○	甘い	○●○	○●○	
思う時				眠い	○●○	○●○	
頼む時				遠い		○●○	
通る時				(ロ)			
掛ける時	○●●○		○●●○	青い	○●○	○●●	○●○
逃げる時	○●●○		○●●○	強い	○●○	○●○	○●○
見える時				近い	○●○	○●○	○●○
				古い	○●○	○●○	○●○
				多い		○●○	○●○

2. 池田町・小野田家

(4) 音 声

	1 世	2 世	3 世
① 胃	i「 (唇は横に広い)	i「	i・ (関西ほど長くない)
糸	i「to	i「to	i「to

	1 世	2 世	3 世
板	i ^ˊ ta	i ^ˊ ta	i ^ˊ ta
息	i ^ˊ gi	i ^ˊ ki	i ^ˊ ki
	i ^ˊ gi		
鯉	ko ^ˊ i	ko ^ˊ i	ko ^ˊ i
柄	e ^ˊ ˙	e	e ^ˊ ˙
えび	ẽ ^ˊ bi	e ^ˊ bi	e ^ˊ bi
枝	ẽ ^ˊ da	e ^ˊ da	e ^ˊ da
駅	ẽ ^ˊ ki	ẽ ^ˊ ki	ẽ ^ˊ ki
	ẽ ^ˊ ki		
声	ko ^ˊ ẽ	ko ^ˊ ẽ	ko ^ˊ ẽ
② 木	ki ^ˊ ˙	ki ^ˊ ˙	ki ^ˊ ˙
銀貨	gi ^ˊ gka	gi ^ˊ gka	gi ^ˊ gka
煮た	ni ^ˊ ta	ni ^ˊ ta	
耳	mi ^ˊ mi	mi ^ˊ mi	mimi
リンゴ	ri ^ˊ ngo˙	ri ^ˊ ngo	ri ^ˊ ngo
足	a ^ˊ ʃi	a ^ˊ ʃi	a ^ˊ ʃi
石	i ^ˊ ʃi	i ^ˊ ʃi	i ^ˊ ʃi
毛	kẽ ^ˊ ˙	ke	ke
元気	ge ^ˊ gki˙	ge ^ˊ gki	ge ^ˊ g ^ˊ ki
寝た	ne ^ˊ ta	ne ^ˊ ta	
目	me ^ˊ ˙	me˙	me
練習	re ^ˊ nʃu˙	re ^ˊ nʃu˙	re ^ˊ nʃu˙
汗	a ^ˊ ʃe	a ^ˊ se	a ^ˊ se
			a ^ˊ se
店	mi ^ˊ ʃẽ	mi ^ˊ se	mi ^ˊ se
銭	ʒe ^ˊ ni	ze ^ˊ ni	
風	ka ^ˊ ʒe	ka ^ˊ ze	ka ^ˊ ze
全部		dze ^ˊ mbu˙	dze ^ˊ mbu˙
手	te˙	te˙	te
電気	de ^ˊ nki	de ^ˊ gki	de ^ˊ g ^ˊ ki
石油		ʃe ^ˊ kiju˙	
絶対			ʒe ^ˊ t ^ˊ taĩ
③ 挨拶	a ^ˊ i ^ˊ sa ^ˊ tsu˙	a ^ˊ i ^ˊ sa ^ˊ tsu	a ^ˊ i ^ˊ sa ^ˊ tsu˙
帰る	ka ^ˊ ẽru˙	ka ^ˊ ẽru	ka ^ˊ e ^ˊ ru
大概	taĩgæĩ	ta ^ˊ ĩgaĩ	
仙台	ʃe ^ˊ ndaĩ	ʃe ^ˊ n ^ˊ da ^ˊ ĩ	se ^ˊ n ^ˊ da ^ˊ ĩ
咲いた	sa ^ˊ ĩta	sa ^ˊ ĩta	sa ^ˊ ĩta
財産	za ^ˊ ĩsaā	za ^ˊ ĩsaN	dzaĩsā
英語	e ^ˊ ˙:go˙	e ^ˊ ˙:go	e ^ˊ ˙:g ^ˊ o˙

	1 世	2 世	3 世
毛糸	ke「to・	ke「to	ke「to
兵隊	ge「te: (無意識) ge「tai	he「tai	he「tai
先生	ge「Nse:	se「Nse・	se「Nse:
税金	ge「kiN	ze「kiN	dze「ki
見えた	më「eta	mi「ë「ta	mi「e「ta
消えた	kë「eta kï「eta (ていねい)	ki「ë「ta	ki「eta
教えた	o「jë「eta	o「ie:ta	o「iëta o「s「seta
④ 四	ji:	ji・ ji	ji・
媒	sur「sur	sûisû	sûisû
すし	sur「jî	sûfjî	sûfji
月	tsur「ki:	tsur「ki	tsur「ki
土	tsur「ti:	tsur「tji	tsur「tjî
知事	tji「zî	tji「zi	
通学	tsur「gakur	tsur「:「ga「kur	tsur「:「ga「kur
酢	sur・	sur・	sûi
獅子	i「no「ji「jî	ji「ji	jîji
血	ti:	tji:	tji・
地図	tji「zur	tji「zur	
中学	tjur「gakur	tjur「:「ga「kur	tjur「:「ga「kur
重箱	zur「:「ba「ko	zur「:「ba「ko	zur「ba「ko
⑤ 湯治	to「:zi to「:zi	to「:zi	to「:zi
孝行	ko「:ko・	ko「:ko・	ko:ko・
冬至	to「:zi	to「:zi	to「:zi
奉公	ho「:ko・	ho「:ko・	ho:ko・
⑥ ₁ 茎	kur「ki kur「ki	kur「ki	kur「ki
柿	ka「ki	ka「ki ka「ki	
鷹	ta「ka	ta「ka	
釘	kur「gi	kur「gi kur「gi	kur「gi
鍵	ka「gi		
たが	ta「ga	ta「ga	
難儀	na「ngi	na「ngi	na「ngi

	1 世	2 世	3 世
産後			
⑥ ₂ 旗	ha ^ˈ ʧa ha·ta (ていねい)	ha ^ˈ ta	ha ^ˈ ta
的	ma ^ˈ to ^ˋ ʧ	ma ^ˈ to	ma ^ˈ to
肌	ha ^ˈ nda	ha ^ˈ da	ha ^ˈ da
窓	ma ^ˋ do	ma ^ˋ do	ma ^ˋ do
はんだ		handa	ha ^ˈ nda
3 度			sa ^ˈ nda
⑥ ₃ 松	ma ^ˋ tsu̯i	ma ^ˋ tsu̯i	ma ^ˋ ʧsu̯i
先ず	ma ^ˋ zu	ma ^ˋ zu	mazu
水	mi ^ˋ zu mi ^ˋ ʃzu	mi ^ˋ ʃzu	
風	ka ^ˈ ʒe		
あんず			a ^ˈ nzu
何時			na ^ˈ n ^ˋ ʒi
⑥ ₄ 渋	ʃi ^ˋ bui	ʃi ^ˋ bui	ʃi ^ˋ bui
あぶ	a ^ˋ bui	a ^ˋ bui	a ^ˋ bui
いぼ	o ^ˋ bo	i ^ˋ bo	i ^ˋ bo
新聞	ʃi ^ˋ m ^ˋ buiN	ʃi ^ˋ m ^ˋ buiN	ʃi ^ˋ m ^ˋ buiN
田んぼ		ta ^ˋ mbo	
⑦ 木			
秋	a ^ˋ ʧi	a ^ˋ ʧi	a ^ˋ ʧi
義理	gi ^ˋ ri	gi ^ˋ ri	gi ^ˋ ri
脚絆	ʧja ^ˋ ʃhaN	ʧja ^ˋ ʃhaN	ʧja ^ˋ ʃhaN
今日	kjo ^ˋ :	kjo ^ˋ :	kjo ^ˋ :
京都	kjo ^ˋ ʃto:	kjo ^ˋ ʃto	kjo ^ˋ ʃto
灸	kju ^ˋ ʃ:	kju ^ˋ ʃ:	kju ^ˋ ʃ:
九州	kju ^ˋ ʃ:ʃu:	kju ^ˋ ʃ:ʃu	kju ^ˋ ʃ:ʃu:
牛乳	gju ^ˋ ʃ:nju:	gju ^ˋ ʃ:nju sa ^ˋ ʧu ^ˋ nju	gju ^ˋ ʃ:nju:
⑧ 火事		ka ^ˋ ʒi	ka ^ˋ ʒi
菓子	ka ^ˋ ʃi ka ^ˋ ʃi	ka ^ˋ ʃi̯	ka ^ˋ ʃi̯
西瓜	su ^ˋ ʃi̯ka	su ^ˋ ʃi̯ka	su ^ˋ ʃi̯ka
元日	ga ^ˋ ʃtaN	ga ^ˋ ʃtaN	ga ^ˋ ʃnʒitsui
煉瓦	re ^ˋ ʒga	regga	re ^ˋ ʒga
桑	kwa	k ^ˋ wa	k ^ˋ wa
床	ju ^ˋ kwa	ju ^ˋ ʃkwa ju ^ˋ ʃwka	

	1 世	2 世	3 世
	ikura	"	
16. いくつ(数)	nambo ikutsu	nambo(多) ikutsu	nambo
17. 黄色い	kiroi	"	"
18. 赤い	akai	"	"
19. 「あかい」を 「明るい」の 意味で	使う	使う(まれ)	"
20. 「あおい」の 意味	5, 6	5	8
21. 嘘をつく	uso tsukku	ursoo jur:	uso tsukku
22. 灸をすえる	kju: sueru(多) jaito ueru	kju: sueru	jaito suru
23. (時計を)つく る	kofiraeru	"	tsükuruu
24. (酒を)つくる	tsükuru	"	"
25. 「なおす」の 意味	質問せず	"	"
26. 「なおす」を 「片づける」 の意味で	使わない	"	"
27. 「なおす」を 「修繕する」 の意味で	使う	"	"
28. 「おどろく」 を「目が覚 める」の意 味で	使う	使う(まれ)	使わない
29. 「おどろく」 を「目をさ ます」の意 味で	使う	使わない	"
30. 「おどろく」 を「びっく りする」の 意味で	使う	"	使う(まれ)
31. 頭	kafira atama	atama	"
32. 旋毛	maimai tsuzi girigiri(新)	girigiri	tsumuzi girigiri
33. 禿頭	hage	hageatama	hage
34. 目	me	me:	me
35. 眉毛	masüge maçiçe mainoke	matsurģe(?) majurģe	maenoke
36. 麦粒腫	maro(:)to	meibo	NR

	1 世	2 世	3 世
	meibo	meppa(幼)	
37. 鼻	hana	"	"
38. いいにおい	jioi kaza(少)	jioi	jioi
39. 悪いにおい	kaza	"	jioi
40. きなくさい	cinomekursai	cinomikusai cinakusai	NR
41. こげくさい	sokokusai	kogekusai	"
42. においを嗅ぐ	kazamur	" kaḡur(少)	"
43. 耳	mimi	"	"
44. 口	kutji	"	"
45. よだれ	jodare	" bero	bero
46. 唾	tsurba	"	"
47. 唇	kutjibiru	"	"
48. 舌	ṣita bero	ṣita	"
49. 鹹い	ṣiogarai ṣioppai	ṣiogarai(多) ṣioppai	ṣoppai
50. 辛い	karai	"	"
51. 味が薄い	mizūikusai matai	"	"
52. 砂糖が甘い	amai	"	"
53. すっぱい	sui suppai	sūppai	"
54. いびきをかく	ibiki kaku nebiki kaku(少)	"	ibikio suru
55. 咳をする	sekiga deru	sekio suru	"
56. 頬	ho:tjabu ho:beta	ho:(多) ho:beta hoppeta	ho:beta
57. 顔	kao	"	"
58. 生まれつきの痣	kotojake	aza	"
59. 痣ができる	ṣiji iru	ṣibukuroji naru (?)	NR
60. ほくろ	aza	koaza kuroboji	hokuro

	1 世	2 世	3 世
61. 少し大きい、ふくらんだほくら	hokuro	//	NR
62. 「あざ」の意味	質問せず	//	//
63. 親指	ojajubi	//	//
64. 人さし指	çitosafijubi	//	//
65. 中指	nakajubi	//	//
66. 薬指	beçisafijubi	kusurijubi	//
67. 小指	kojubi	//	//
68. しもやけ	fimojake fibare	//	//
69. 踵	kagato(多) kibisu	kağato	//
70. くすぐったい	kosubai kosobai	// //	kosobai
71. あぐらをかく	çiza kumuu	çizao kumuu(まれ) agura kakuu	agurao kakuu
72. 坐る	kafikomaru	//	suurwaruu
73. みずおち	mizootji	//	//
74. 垢	aka	//	//
75. 雲脂	φuke	//	//
76. 鱗	uroko	//	//
77. 「こけ」の意味	蘚苔	//	//
78. 「こけ」を茸の意味で	質問せず	//	//
79. 茸	kinoko	//	//
80. 男	otoko	//	//
81. 女	onna	//	//
82. 胤	tako	//	//
83. 竹馬	takemma	takeuma	takemma
84. お手玉遊び	ajaoruu	otedamaasobi	ajako
85. お手玉	ifinağo	otedama ajako	ajako
86. 肩車	katakuma	kataguruma	//
87. 片足飛びをする	kegke~o suuru	//	//
88. 鬼ごっこ	owaego opigokko	opigokko	bojakko
89. かくれんぼ	kakurembo	kakurembo	//

	1 世	2 世	3 世
	kakuregokko		
90. お金	okane(多) ze:pi	//	okane
91. おつり	tsürisen	otsüri	//
92. お金を数える	kazoeru	kandzo: suru kazoeru (まれ)	kazoeru
93. 鉛筆を数える	kazoeru	//	//
94. もらう	morau	//	//
95. やる	jaru	//	//
96. くれる	kureru	//	//
97. 「あずける」を「子供におもちゃを買って与える」の意味で	使う	使わない	//
98. 「あずける」を「よく働いたから、ほうびにお金を与える」の意味で	使わない	//	//
99. 借りる	kariru	//	//
100. 貸す	kasu	//	//
101. 「かってくる」の意味	買ってくる	//	//
102. 今日	kjo:	//	//
103. 昨日	kijo:	kino:	//
104. 一昨日	ototoi ototsui(阿波で)	ottoi(多) ototoi	ototsui
105. 一昨日	sakiototoi	sakiottoi	sakiototsui
106. 昨晚	kino:noban	// ju:be	ju:be
107. 一昨晚	ototsüino ban	ottoino ban	ototsüino jorui
108. 明日	asu	asu(多) afita	afita
109. 明後日	asatte	//	//
110. 明々後日	fiasatte	//	//
111. 明々々後日	goasatte	janasatte	NR
112. 今晚	ko-ja	komban	ko-ja komban(多)
113. 明日の晩	asuno ban	// afitano ban	//
114. 太陽	oçi:san	oçi:sama	oçisama
115. まぶしい	babai:	mabu:fi:	//
116. 月	tsüiki	//	//

	1 世	2 世	3 世
117. 雨	ame	"	"
118. 梅雨	pu : bai nagase	"	NR
119. 夕立	ju : datʃi	ju:datʃi	"
120. 雷	kaminari	"	"
121. ごろごろ (雷鳴)	goroğoro	"	"
122. 稲光	inazuma	"	inabikari
		inabikari (無雷鳴)	
123. 落雷する	kaminariğa otʃiru	"	"
124. 虹	piçi	"	"
125. 雪	juki	"	"
126. 氷	?	ko : ri	"
127. 水が氷る	ko : ru (阿波)	ko : ru	"
	ʃibareru		ʃibareru
128. 手拭が氷る	ko:ru	"	ʃibareru
	ʃibareru	ʃibareru(多)	
129. 氷柱	tʃirara	tsûirara(幼)	tsûirara
130. つむじ風	maikaze	"	tatsûumaki(?)
131. 目にはいる ごみ	doro	gomi	"
	sun(?)		
132. 箒で掃き集 めるごみ	gomi	"	"
133. 畳から出る ほこり	hokori	"	gomi
134. 川の棒ぐい にひっかか ったごみ	gomi akurta gomoku	"	"
135. 地震	ʒiʃiN	"	"
136. たきぎを拾 いに行く林	ʃinriN	sanriN	mori
		hajaʃi	
137. 平地でも 「ハヤシ」か	質問せず	"	"
138. 森 (お宮などの)	mori	"	"
139. 「はやし」の 意味	小さい木で、あまり 広くない	疎林	笹、葎など
140. 「もり」の意 味	質問せず	"	"
141. 「家のにわ」 の意味	家の前	"	"

	1 世	2 世	3 世
142. 「家の土間」 を「ニワ」と	utjiniwa	言う。utjipiwa とも	//
143. 「家の前の 仕事場」を 「ニワ」と	çiropiwa	言う	sotopiwa
144. 「かど」の意 味	屋外	//	//
145. 「屋外」を 「カド」と	言う	//	//
146. 「家の前の 仕事場」を 「カド」と	言う	言わない	言う
147. 井戸	ido	//	ido
148. 炊く	taku	//	//
149. 煮る	niru	jiru(魚)	piru
	taku(多)	//	
150. かまどに残 る灰	hai(多)	//	hai
	aku	//	//
151. 火鉢の中に 入れる灰	hai(多)	hai	//
	aku		aku
152. お湯から立 つ湯気	juġe hoke(阿波)	//	//
153. 御飯から出 る湯気	juġe hoke(阿波)	//	//
154. まな板	manaita	//	//
155. すり鉢	suribatji	//	//
156. すりこぎ	deggi	surikogi	NR
157. 瀬戸物	seto karatsûi	setomono	//
158. 大きい	o:ki:	//	//
159. 小さい	komai(阿波) tji:sai	tji:sai	//
160. 太い	ôutoi	//	//
161. 細い	hosoi	//	//
162. 荒い	arai	//	//
		o:ki:	
163. 細かい	hosoi komai kommai	// tji:sai	komakai
164. 綿	wata	//	//
165. 真綿	inawata	//	//

	1 世	2 世	3 世
166. 糸	ito	//	//
167. 絹糸	kinuito	//	//
168. 木綿糸	kanaito mome~ito	momenito	ito(?)
169. 織り糸	ito(?)	NR	//
170. 「せんたく」の意味	洗うこと	//	//
171. 「裁縫する」の意味で「センタク」と	言わない	//	//
172. 「くさる」を「濡れる」の意味で	çitokusaripi natta	使わない	//
173. 米	kome	//	//
174. うるち	kitfigome urumai	urumai	uruu
175. もち米	motfigome	//	motji
176. 飯米	džikajo:	hammai	NR
177. 米糠	tobitsüi	komebitsüi	tobitsüi
178. 粃がら	momigara	süirinuka	momigara
179. 糠	nuka	//	//
180. 田	ta: tambo suiden	// // //	tambo
181. 田の一区画	180と区別せず	//	//
182. 畦	aze	//	//
183. 畑	hata	hata(まれ) hatake	hatake
184. 鳥おどし	ođoji	odoji	//
185. 案山子	kakaji	kağaji	kakaji
186. じゃがいも	bare:fo	//	ğagaimo
187. さといも	ziimo satoimo	satoimo	NR
188. さつまいも	satsümaimo	//	//
189. 「いも」といえば何をさすか	じゃがいも	//	//
190. とうもろこし	namba(阿波) to:kibi	to:kibi	//
191. かぼちゃ	kabotja	//	//
192. 蒟	sumo:toribana su mide	süimire	NR

	1 世	2 世	3 世
193. たんぽぽ	tampopo	//	//
194. 土筆	ho:jiiko	tsukuraji	tsukurtsukurbo:ji
195. すぎな	matsüina(多) sugina	//	matsüina
196. どくだみ	džü:jaku dokudame(北海道)	dokudami	NR
197. 松かさ	matsüøuguri	matsüikasa matsüøuguriとも	matsunomi
198. 竹	take	//	//
199. 指にささったとげ	toǵe	//	toǵe
200. ばらの木などのとげ	toǵe	//	toǵe
201. 「おちる」を「降りる」の意味で	言わない	//	//
202. 「すてる」を「紛失する」の意味で	jiteru	言わない	//
203. 「こわい」の意味	質問せず	//	//
204. 「こわい」を「疲れた」の意味で	使わない sekoいという	使う	//
205. 「こわい」を「固い」の意味で	使わない	//	//
206. 「こわい」を「おそろしい」の意味で	使わない	//	//
207. 「けち」の意味	質問せず	//	//
208. 「けちだ」を「けしからん」の意味で	使わない	//	//
209. 「けちだ」を「不思議だ」の意味で	使わない	//	//
210. 「けちだ」を「物惜しみする」の意味で	使う	//	//
211. 「はそん」の意味	弁償すること	質問せず	//
212. 「修繕する」ことを「ハンスル」と	言う(?)	使わない	//

	1 世	2 世	3 世
213. 馬	mma	uma	mma
214. 牡馬	koma	otokouma	omma
		ontauma(まれ)	
215. 牝馬	onayomma	memma	//
	zo:jaku(北海道ことば)		
216. 子馬	to:zai	//	komma
217. たてがみ	tategami	//	//
218. 牛	uji	//	//
			beko(まれ)
219. 牡牛	kottoi	otokouji	ouji
	oNuji		
	otokouji		
220. 牝牛	me~uji	meuji	//
	be「ko		
221. 子牛	to:zai	kouji	//
222. もうもう (牛のなき声)	mo:	//	//
223. もぐら	oġoro	moġura	//
	moġura		
224. 梟	ŋukuro	//	//
225. ほうほう (梟のなき声)	borokirehoho	NR	//
226. せきれい	sekire:	//	//
227. ちっち (せきれいのなき声)	NR	//	//
228. 雀	suzume	//	//
229. ちゅんちゅん (雀のなき声)	tʃittʃi	tʃuntʃuN	tʃuttʃu
230. とさか	tosaka	//	//
	saka		

	1 世	2 世	3 世
1. 靴下	kutsūzita	kurtsūjita	//
2. みの	kera	kera(多)	kera
	mino	//	//
3. みぞれ	mizore	mizore(多)	mizore
		amejuki	
4. ストーブ	stoφu	sūito:bu	stoφu
	ta~stoφu		

	1 世	2 世	3 世
5. 火掻き棒	çkaki	// derekki(多)	çikaki
6. 煤煙	susu	//	//
7. スケート (並)	?	sũke:to	?
8. スケート (上等)	sketto	sũke:to	//
9. 暖かい			
10. 鮭	fake akiaži	//	sake
11. えら	jera sasame	era sasameはeraの 中にあるもの	//
12. キャベツ	kaibetsu	kjabetsu(多) kaibetsu(幼時)	kjabetsu kaibetsu
13. 小麦	komuži	//	//
14. 小豆	fo:zũ	fo:zũ(多) azũki	azũki
15. 子供	kođomo	//	//
16. 丸刈り頭	gobugari	bo:zũiatama	bo:zũ
17. 額	φurtaegurtfi	çitai	odeko
18. 「ガッチャ キ(痔)」を 使うか	北海道で使う	使わない	//
19. 弱い	jowai	//	//
20. 成長する	ogaru	nobiru(多) ogaru	o:kiku naru
21. くすぐる	kosubakasu	//	NR
22. 坐る	kakeru (椅子) suwaru (坐す)	sũwaru	//
23. 転がす	koroğasũ	//	//
24. 持ちあげる	tanaguは北海道で く mottfageru	motfiageru	NR
25. 下さい	tfo:đai(上) kure:(中) okose(下)	itađakitai(上) moraitai(中) kure(下)	? ? kure:
26. ありがとう			
27. 訪問のあい さつ(朝)			
28. // (夜)	kombaN obandesu	obandejita	obandesu

3. 俱知安町・上野家

(2) 文 法

	1 世	2 世	3 世
書く 終止・連体	kaku	"	"
	kaku çito	kaku hito	"
		kaku toki	"
否定	kakan	"	kakanai
希望	kakitai	"	"
意志	kako:	"	"
		kakube(まれ)	
推量	kakuçaːro:	kakudaro:	"
音便	kaite	"	"
過去	kaita	"	"
完了・進行	kaite oru	kaitoru	区別をしない。いずれの場合もkaiteru
	kaitoru	kakijoru	
	kakkjoru	(上, 使用上区別がみられない)	
	(上, 区別はつきりせず)		
仮定	kaitara	kakeba	"
		kakunara	
順接	kakukeN	kakukara	"
逆接	kakuça	kakukeredo	kakukedo
	kakukendo		
命令	kake(jo)	kake	"
可能	kakeru	"	"
	kakupi i:という人もある		
	(e:kakaNあり)		
尊敬	kakinasaru	kakareru	"
	okakininaru	"	kaku(一般)
ていねい	kakimasu	"	kaku
			(ふだんmasuは使わぬ)
読む 終止・連体	jomu	jomu	"
		jomu hito	"
		jomu toki	"
		jomaN(主として家庭で)	jomanai
否定	jomaN	jomanai	
意志	jomo:ka	jomo:	"
音便	jonde	joNde	"
命令	jome	"	"

	1 世	2 世	3 世
尊敬	jonde oideru ojominasaru	ojomiji naru	jomu(尊敬表現をせず)
売る 終止・連体	uru	// uru hito uru toki	// // //
否定	uraN uranai	uraN(多) //	uranai
意志	uro:	//	//
音便	utte	//	//
完了・進行	urrjoru	質問せず	//
命令	ure	//	//
買う 終止・連体	kauu	kau kau hito kau toki	
否定	kawaN	kawaN kawanai(改まったとき)	kawanai
意志	kao:	//	//
音便	ko:te		
命令	kae ko:toke	//	//
尊敬	okaipi naru	//	kau
起きる 終止・連体	okiru	okiru okiru hito okiru toki	// // //
否定	okinai(多) okin	okin(主に家庭で) okinai(家庭外で)	okinai
希望	okitai	//	//
意志	okiruzo	okijo: okirube:(まれ)	//
推量	okirudaro: okiružaro:	//	//
音便	okite	//	//
過去	okita	//	//
完了・進行	okitoru(完了) okijoru(進行)	// //	okiteru (完了・進行両方に使う) okiru (進行でいう場合もある)
仮定	okitara	okireba okirunara(まれ)	//
順接	okirukara okirukeN	//	//

	1 世	2 世	3 世
逆接	okirukendo	okirukeredo	okirukedo
命令	oki:(jo)	okire oki:ということも ある	//
可能	okireru	//	//
尊敬		okipi naru okirareru ともい う	okiru
ていねい	okimasu	//	//
見る 終止・連体	miru	// miru hito miru toki	//
否定	miN	// minai ともい う	minai
希望	mitai	//	//
意志	mijo:	//	//
推量	miru ^z aro: miru ^d aro:	mirudaro	//
音便	mite	//	//
完了・進行	mitoru(完了) mijoru(進行) (上, 区別あり)	mitoru mijoru (完了・進行の別はつ きりしない)	miteiru (区別なし)
仮定	mitaga	mireba	//
順接	mirukeN	mirukara	//
逆接	mirukendo	mirukeredo	mirukedo
命令	mi:	mire(多) mi:	mire
可能	mireru	mireru	//
尊敬		goranpi naru mirareru	miru (敬語表現なし)
ていねい	mimasu	//	miru mimasu(まれ)
出る 終止・連体	deru	// deru hito deru toki	//
否定	denai deN	deN(家庭内) denaiも使う	denai (dene:も使う)
意志	dejo:	//	derube:
音便	dete	//	//
命令	de:	//	dere

	1 世	2 世	3 世
尊敬		odepi naru derareruともい う	deru
来る 終止・連体	kuru	"	"
		kuru hito	"
		kuru toki	"
否定	koN konai	koN (家庭内で主に 使う) konai も使う	konai
希望	kitai	"	"
意志	kijo:	"	"
推量	kurudaro: kuruzaro:	"	"
音便	kite	"	"
過去	kita	"	"
完了・進行		kitoru(完了) kijoru(進行)	kiteru(両方に使う) kuru(進行)
假定	kitara	kureba	koiba kureba も使う
順接	kurukeN	kurukara	kurunode kurukara も使う
逆接	kurukendo	kurukeredo	kurukedo
命令	koi kinasai	"	"
可能		koreru	"
尊敬		oidepi naru	kuru
ていねい		kimasu mairimasu も使 う	"
する 終止・連体	suru	"	"
		suru hito	"
		suru toki	"
否定	seN jinai	"	jinai
希望	jitemitai	jitai	"
意志	jo:	fijo:	surube: fijo: も使う
推量	surudaro: suruzaro:	" surube: (この頃よ く使う)	surube: surudaro: も使う
音便	jite	"	"
過去	jita	"	"

	1 世	2 世	3 世
完了・進行	jitoru(完了) jijoru(進行)	jitoruで両者を表現する。完了・進行の区別不明確	jiteiru(完了・進行)
仮定	sureba	//	//
順接	surukeN	surukara surunode(まれ)	surunode surukaraも使う
逆接	surukendo	surukedo	//
命令	se:	//	sure
可能	surupie:	serareru surupie:	dekiru jareru
尊敬		serareru	jiteiru
ていねい		jimasu jarimasuの方を多く使う	//
おる 終止・連体	oru	// oru hito oru toki	iru iru hito iru toki
否定	oraN oranoi(阿波。あやしいがこう言った。)	// inaiも使う	inai
希望	oritai	// itai	itai
意志	oro:	//	ijo:
推量	orudaro: orudzaro:	irudaro: orudaro orube:	//
音便	otte	//	ite
過去	otta	//	ita
完了・進行		oru(区別なし) iru	iru(区別なし)
仮定	oreba	//	ireba
順接	orukeN	orukara	irukara
逆接	orukendo	orukeredo	irukedo
命令	ore	//	ire
可能	oreru	// orupie:	ireru
尊敬	oiðepi naru	orareru	iru
ていねい		orimasu imasu	iru imasu

		1 世	2 世	3 世
高い、	終止・連体	takai	//	//
	連用	takaku naru	tako: naru(老人に 対し)	takaku naru
		tako: naru	takaku naru	
	連用	tako: nai	takaku nai	//
		takaku nai		
	連用	tako:te	takakute	//
		takakute		
	推量	takaidaro:	//	//
		takaindaro:	tokaibe:	//
		takaizaro:		
	過去	takakatta	//	//
	仮定	takakattara	//	takakereba
	順接	takaiken	takaikara	//
	逆接	takaikendo	takaikeredo	takaikedo
	ていねい	takaidesu	//	takai
重い、	終止・連体	omoi	//	//
			omoi-	//
	連用	omo: naru	omoku naru	//
		omoku naru	omo: naru(子供の 時だった)	
	連用	omo: nai	omoku nai	//
		omoku nai		
	連用	omo:te	omokute	//
	推量		omoidaro:	//
			omoibe:	//
	過去		omokatta	//
	仮定		omokattara	omokereba
	順接		omoikara	//
	逆接		omoikeredo	omoikedo
	ていねい		omoidesu	// (日常desuiは つけない)
安い、	終止・連体	jasui	//	//
			jasui-	//
	連用	jasu: naru	jasuku naru	//
	連用	jasu: nai	jasuku nai	//
暑い、	連用	jasu:te	jasukute	//
	終止・連体	atsui	//	//
			atsui-	//
	連用	atsu: naru	atsuku naru	//
	連用	atsu: nai	atsuku nai	//
	連用	atsu:te	atsukute	//

	1 世	2 世	3 世
寒い 終止・連体	samui	//	//
		samui-	//
連用	samu: naru	samuku naru	//
連用	samu: nai	samuku nai	//
連用	samukute	//	//
	samu:te		
よい 終止・連体	joi	//	i:
	je:	i:	
		joi kimotji	i: kimotji
		i: kimotji	
連用	joku natta	joku naru	//
連用	joku nai	//	//
連用	jote	jokute	ikute
推量	je:daro	joidaro:	
	je ^e daro	joibe:	
過去	jokatta	//	//
仮定	jokereba	jokattara	jokereba
		jokereba	
順接	jer kara	joikara	//
			i: kara
逆接	jekendo	joikeredo	joikedo
ていねい	je:desu	joidesu	joi (joidesuとはいわな)
無い 終止・連体		nai	//
		nai-	
連用		nakunaru	//
連用		aru	//
連用		nakute	//
推量		naidaro:	naibe:
		naibe:	
過去		nakatta	//
仮定		nakattara	//
		nakereba	
順接		naikara	//
逆接		naikeredo	naikedo
ていねい		naidesu	// (普通はnaiだけ)
		arimasen	
珍しい 終止・連体	mezuraji:	//	//
連用	mezurafu:	mezurajikunaru	//
連用	mezurafu: nai	mezurajiku nai	mezuraji nai

	1 世	2 世	3 世
連用	mezurafu tˆ	mezurafikute	//
推量	mezurafiđaro:	mezurafi:daro:	mezurafi:dabe:
		mezurafi:dabe:	
過去	mezurafikatta	mezurafikatta	//
仮定	mezurafikereba	mezurafikattara	//
順接	mezurafi:keN	mezurafi:kara	//
逆接	mezurafi:kendo	mezurafi:keredo	mezurafikedo
ていねい		mezurafi:desu	// (普通desuは使わない)
静かだ 終止・連体	fizukaža	fizukada	//
		fizukana	//
連用	fizukani natta	fizukani naru	//
連用	fizukade nai	//	//
連用	fizukade je:	fizukade joi	fizukade i:
		fizukade e:	
推量	fizukadaro:	//	fizukadabe:
	fizukažaro:	fizukadabe:	
過去	fizukadatta	//	//
	fizukažatta		
仮定		fizukadattara	//
順接	fizukadakara	//	//
	fizukažakeN		
逆接	fizukažakeredo	fizukadakeredo	fizukadakedo
	fizukažakendo		
ていねい	fizukadesu	//	fizukada(普通fizukade- suとはいわない)
立派だ 終止・連体		rippada	//
		rippana	//
連用		rippani naru	//
連用		rippade nai	//
連用		rippade joi	rippade i:
		rippade e:	
推量		rippadaro:	rippadabe:
		rippadabe:	
過去		rippadatta	//
仮定		rippadattara	//
			rippanara も使う
順接		rippadakara	//
逆接		rippadakeredo	rippadakedo

	1 世	2 世	3 世
ていねい		rippadesu	rippada (rippadesuと はいわない)
まっすぐだ 終止・連体		massuguda	//
		massuguna	//
連用		massuguni naru	//
連用		maszugude nai	//
連用		massugude joi	massugude i:
		massugude e:	
推量		massugudaro:	massugudabe:
		massugudabe:	
過去		massugudatta	//
仮定		massugudattara	//
			massugunara も使う
順接		massugudakara	//
逆接		massugudakere- do	massugudakedo
ていねい		massugudesu	massuguda (desuは普 通使わない)
あれは学校だ	~ga	~da	//
~だろう	~daro:	~daro	//
	~garo:	~dabe	//
~だね		~dana	//
~か	~ka	//	//
~かね		~kane	//
(先生)が	ga	(gaをつけずにいう)	//
(学校)に	pi	へ	//
	je		
(魚を)を	o	(oをつけずにいう)	//

3. 倶知安町・上野家

(3) アクセント

1 (4)	1 世	2 世	3 世		1 世	2 世	3 世
日の丸	○●●●●	●●●●● ●●○○○	●●●●●	東京	○●●●●	○●●●● ●●●●●	●●●●●
友達	○●●●● ○●●●○	○●●●○ ○●●●● ●●○○○	●●●●●	鉛筆	○●●●● ○●●●○	○●●●● ●●○○○	●●●●○
くちばし	○●●●○	●●●●○ ●●○○○	●●●●●	福引き	○●●●○	●●●●●	●●●●●
函館	○●●●●	●●●●● ●●○○○	○●●●●	かまぼこ	○●●●● ○●●●○	○●●●●	●●●●●
				夕焼	○●●●●	○●●●○	●●●●●

	1 世	2 世	3 世
魚屋 (四)	○●●●●	●●●●●	●●●●●
金持	○●●●○	●●●●● ●○●●○	○●●●○
腰掛	●●●●○	○●●●○ ○●●●○	●●●●●
日帰り	○●●●○	○●●●● ●●●○●	●●●●●
耳搔き	●●●●○	○●●●● ○●●●● ●●●○●	○●●●○
妹	○●●○●	●●●●● ●●●○●	●●●●●
弟	○●●●○	●●●●● ●○●○●	●●●●●
道楽 (イ)	○●●●●	●●●●●	○●●●○ ●○●○●
小刀	○●●●○	●●●●● ○●●○●	●●●○●
化け物	○●●●○	●●●●● ○●●○●	●●●○●
からかさ	●○●○●	○●●○● ○●●○●	●●●○●
先生	●○●○●	●○●○●	●●●○●
争い	○●●●●	○●●●● ●●●●●	●●●●● ●●●○●
長男	○●●○●	○●●○●	●●●○●
考え	●●●●● ●●●○●	●●●●●	●●●●●
ろうそく	●●●●○	●●●●● ●○●○●	●●●●●
さいころ	○●●●●	●●●●● ●○●○●	●●●●●
(ニ)			
朝顔	●○●○●	●○●○●	○●●○●
建物	●●●○●	●●●●●	○●●○● ○●●○●
すずらん	●○●○●	●○●○●	○●●○●
手袋	○●●●●	○●●●● ●●●○●	○●●○●
座蒲団	●○●○●	●○●○●	●●●○●
土曜日	○●●●○	○●●○● ●●●○●	○●●○●

	1 世	2 世	3 世
九つ	●○●○●	●○●○●	●●●○● ○●●○●
生け花	○●●○●	●●●●● ●●●○●	○●●○●
紫	○●●○●	○●●○●	○●●○●
生き物	●●●○● ○●●○●	●●●●●	○●●○●
(ホ)			
あいさつ	●○●○●	●○●○●	○●●○●
全国	●○●○●	●○●○●	○●●○●
羽二重	●○●○●	●○●○●	●●●○●
本人	●●●○● ○●●○●	●○●○●	●○●○●
親切	●○●○●	●○●○●	●●●○●
貧乏	●●○●	○●●○●	○●●○●
2(イ)			
桜	○●●●	●●●●	●●●●
形	○●○●	●○●○	●●●●
いわし	○●●●	●●○● ●●●●	●●●●
煙	●●●●	○●○● ●●●●	●●●●
机	●●●●	●●●●	●●●●
隣	●●●●	●●●●	●●●●
氷	●●●●	●●●●	●●●●
柳	●●●●	●●●●	●●●●
着物	●○●○	●●●●	●●●●
印	●●●●	●●●●	●●●●
車	○●○●	●●●●	●●●●
昔	●○●●	●●●●	●●●●
(ロ)			
あずき	○●○● ●●●●	○●○● ●●●●	○●○●
毛抜き	●●○●	●●○●	●●●●
つるべ	○●○●	○●○● ○●○●	●●●●
二つ	●●○●○	●●●●	○●○●
ふたり	●●○●○	●●●●	●●●●
間	●●●●	●●●●	●●●●
(ハ)			

	1 世	2 世	3 世
頭	●●○	●●○	●●●
表	●●○	●●●	○●●
鏡	●●○	●●○	●●●
刀	●●○	●●○	●●○
ことば	●○○	●○○	●●●
暦	●●○	●●○	●●●
女	●○○	●○○	●●○
男	●●○	●●○	●●●
宝	●●○	●●○	●●●
東	●●○	●●○	○●○
光	●●○	●●○	○●○
袋	●○○	●○○	●●●
(二)			
朝日	●○○	●○○	○●○
五つ	●○○	●○○	○●○
命	●○○	●○○	○●○
心	●○○	●○○	●●●
姿	●○○	●○○	○●○
涙	●○○	●○○	○●○
火箸	●●○	●●○	○●○
油	●○○	●○○	○●○
柱	○●○	●●○	●●○
(四)			
兎	●●●	●●●	●●●
鳥	●●●	●○○	●●○
うなぎ	○●○	●●●	●●●
きつね	○●○	●●●	●●●

	1 世	2 世	3 世
雀	○●○	●●●	○●○
背中	●●○	●●○	●●○
ねずみ	○●○	●●○	●●○
よもぎ	○●○	●●○	●●○
(ハ)			
後ろ	○●○	●●○	●○○
蚕	●●○	○●○	●●○
いちご	○●○	○●○	○●○
鯨	○●○	●●○	●○○
薬	○●○	●●○	●●○
ひとり	●●○	○●○	●●○
3(イ)			
鼻	●●	●●	●●
～が	○●○	●●○	●●○
～は	○●○	●●○	●●○
～の	○●○	●●○	●●○
～に	○●○	●●○	●●○
～も	○●○	●●○	●●○
～を	○●○	●●○	●●○
(四)			
花	●●	●○	●●
～が	○●○	○●○	●●○
～は	○●○	○●○	●●○
～の	○●○	○●○	●●○
～に	○●○	○●○	●●○
～も	○●○	○●○	●●○
～を	○●○	○●○	●●○
4(イ)			

	1 世	2 世	3 世		1 世	2 世	3 世
橋	●○	●○	●●, ●○	～も	○○○	○○○	○○○
～が	●●○ ●○○	●○○	●●● ●●○	～を	○●○	○○○	○○○ ○○○
～は	●○● ●○○	●○○	●●●	釜	●●	●●	●●
～の	●●● ●○○	●○○	●●●	～が	●●●	●●●	●●● ●○○
～に	●●●	●○○	●●●	～は	●●●	●●○ ●●●	●●● ○○●
～も	●●●	●○○	○○●	～の	●●●	●●●	○○●
～を	●○●	●○○	●●● ○○●	～に	●●●	●●●	○○●
箸	○●	○●	○●	～も	●●● ●○○	●○○	○○● ●○○
～が	○○●	○○●	●●○ ○○●	～を	●●●	●●○ ●●●	●●●
～は	○○●	●●● ○○●	○○●	鎌	○●	○●	●●
～の	○○●	●●● ●●○	●●● ●○○	～が	○○○	○○○	●●● ●○○
～に	○○●	○○●	●●○ ●●●	～は	○○○	○○○	○○○
～も	●●○ ○○●	●●○ ○○●	●●○ ●●○	～の	○○○	○○○	○○○
～を	○○○	○○○	●●○	～に	○○○	○○○	○○○ ○○○ ○○○
飴	●●	●●	●●	～も	●●○ ○○○	○○○ ○○○	●●○ ○○○
～が	○○○	●●●	●●●	～を	○○○	○○○	○○○ ○○○
～は	○○○	●●●	●●● ○○○	紙	●○	●○	●●
～の	○○○	●●●	●●● ○○○	～が	●○○	●○○	●●● ○○○
～に	○○○ ●●●	●●●	●●○ ○○○	～は	●○○	●○○	○○○
～も	○○○ ●●●	●●○	●●○ ○○○ ●●○	～の	●○○	●○○	●●○ ○○○
～を	○○○ ●●●	●●●	●●○ ○○○	～に	●○○	●○○	○○○
雨	○●	○●	○●	～も	●○○	●○○	○○○
～が	○○○	○○○	○○○ ○○○ ○○○	～を	●○○	●○○	●●○ ○○○
～は	○○○	○○○	○○○ ○○○	髪	●○	●○	●●
～の	○○○	○○○	○○○ ○○○	～が	●○○	●○○	●●○ ●○○
～に	○○○	○○○	○○○ ○○○	～は	●○○	●○○	●●○ ○○○
				～の	●○○	●○○	●●○ ○○○
				～に	●○○	●○○	○○○
				～も	●○○	●○○	○○○
				～を	●○○	●○○	○○○ ○○○

8(イ) 1 世 2 世 3 世

泡 〇〇 〇〇 〇〇
 ～が 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇
 ～は 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇
 ～の 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇
 ～に 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇
 ～も 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇
 ～を 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇

(ロ) 栗 〇〇 〇〇 〇〇, 〇〇
 ～が 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇
 ～は 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇
 ～の 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇
 ～に 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇
 ～も 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇
 ～を 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇

9(イ) 糸 〇〇 〇〇 〇〇, 〇〇
 ～が 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇
 ～は 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇
 ～の 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇
 ～に 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇
 ～も 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇
 ～を 〇〇〇 〇〇〇(?) 〇〇〇

(ロ) 井戸 〇〇 〇〇 〇〇
 ～が 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇
 ～は 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇

1 世 2 世 3 世

～の 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇
 ～に 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇
 ～も 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇
 ～を 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇

10(イ)

蟻 〇〇 〇〇 〇〇
 ～が 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇
 ～は 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇
 ～の 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇
 ～に 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇
 ～も 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇
 ～を 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇
 針 〇〇 〇〇 〇〇, 〇〇
 ～が 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇
 ～は 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇
 ～の 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇
 ～に 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇
 ～も 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇
 ～を 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇
 足 〇〇 〇〇 〇〇, 〇〇
 ～が 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇
 ～は 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇
 ～の 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇
 ～に 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇
 ～も 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇
 ～を 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇
 汗 〇〇 〇〇 〇〇, 〇〇
 ～が 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇
 ～は 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇

	1 世	2 世	3 世
～の	○●○	○●○	●○●
～に	○●○	○●○	○●○ ●○●
～も	○●○	○●○	○●○ ●○●
～を	○●○	○●○	○●○ ●○●
牛	●●	●●	●●
～が	●●●	●●●	●●●
～は	●●●	●●●	●●● ○●
～の	●●●	●●●	●●● ○●●
～に	●●●	●●●	●●● ○●●
～も	●●○	●●○	○●○ ○●○
～を	●●●	●●●	●●● ○●○
石	●○	●○	●○, ●●
～が	●○○	●○○	○○●
～は	●○○	●○○	●●● ○○●
～の	●○○	●○○	○○●
～に	●○○	●○○	○○●
～も	●○○	●○○	○●● ○○○
～を	●○○	●○○	○○○
昼	●○	●○	●●
～が	●○○	●○○	●●● ○○●
～は	●○○	●○○	●●● ○○●
～の	●○○	●○○	●●● ○○●
～に	●○○	●○○	●●● ○○●
～も	●○○	●○○	●●○ ○○○
～を	●○○	●○○	●●○ ○○○
春	○●	○●	●○
～が	○●○	○●○	●○● ●○○
～は	○●○	○●○	●○○

	1 世	2 世	3 世
～の	○●○	○●○	●○●
～に	○●○	○●○	●○●
～も	○●○	○●○	●○●
～を	○●○	○●○	●○●
14(イ) 箱	●●	●●	●●
梅	●●	●●	●●
枝	●●	●●	●●
柿	●●	●●	●●
風	●●	●●	●●
えび	●●	●●	●●
口	●●	●●	●●
顔	●●	●●	●●
酒	●●	●●	●●
壁	●●	●●	●●
国	●●	●●	●●
首	●●	●●	●●
竹	●●	●●	●●
腰	●●	●●	●●, ○●
霧	●●	●●	●●
杉	●●	●●	●●
鈴	●●	●●	●●
袖	●●	●●	●●
鳥	●●	●●	●●
滝	●●	●●	●●
棚	●●	●●	●●
西	●●	●●	●●
庭	●●	●●	●●
灰	●●	●●	●●
羽	●●	●●	●●
蠅	●●	●●	●●
蜂	●●	●●	●●
紐	●●	●●	●●
(ロ) 川	●○	●○	●●
岩	●○	●○	●●, ●○
歌	●○	●○	●●
音	●○	●○	●●
北		●○	●●

	1 世	2 世	3 世
～も	●●○, ○○●	○●○, ●○	●○
～を	○●●	○●○, ○●	●○
16(イ)			
火	○●(長) ●, ○●(長) ●		
～が	○●●	●●, ○●	○●
～は	○●●	●●, ○●	○●
～の	○●● ●●, ○●, ○●●	○●	○●
～に	○●●	●●, ○●	○●
～も	●●○	○●○	●○, ○●
～を	○●●	○●○, ○●	○●
(ロ)			
日	●●(半長下降的) ●●(半長下降的) ●		
～が	●○	●○	●●, ●○
～は	●○	●○	●●
～の	●○	●○	○●
～に	●○	●○	○●, ●○
～も	●○	●○	○●, ●○
～を	●○	●○	●○
17(イ)			
戸	●●(長) ●	●	●
～が	●●	●●	○●
～は	●●	●●	○●
～の	●●	●●	○●
～に	●●	●●	○●
～も	●●, ●●○●●○, ●○●○●, ●○		
～を	●● ●●○, ●●	○●	
(ロ)			
名	●, ●○(長)	●○(長) ●	
～が	●●, ●○	●○	●●, ○●
～は	●○	●○	○●, ●○
～の	●○	●○	●○
～に	○●, ●○	●○	●○
～も	●●, ●○	●○	●○
～を	●○, ○●	●○	●○
18(イ)			
蚊が	●●	●●	●●
子が	●●	●●	●●
血が	●●	●●	○●, ●●
実が	●●	●●	○●, ●●

	1 世	2 世	3 世
世が	●●	●●	●○
(ロ)			
葉が	●○○	●○	●○, ○●
藻が	●○○	●○, ●●	●○
(ハ)			
木が	○○●	○●	●○
田が	○○●	●●, ○●	●○
手が	○○●	○●	●○
酢が	●●	○●	●○
荷が	○○●	○●	●○
根が	○○●	●●, ○●	●○
目が	○○●	●●, ○●	●○
穂が	○○●	●●, ○●	●○
湯が	○○●	●●, ○●	●○
芽が	○○●	●●, ○●	●○
輪が	○○●	○●	●●, ●○
粉が	○○●	○●	●○
毛が	●●	●●	○●
刃が	●○○	●○	●○
巢が	●●	●●	●●
齒が	●○○	●○	●○
19(イ)			
振る	●●	●●	●○
振らない	●●○○	●●●○	●●●○
(振らん)	●●●	●●○	●●○
振られる	●●●●	●●○○	●●●○
振らせる	●●●●	●●○○	●●●○
振った	●○○	●●○	●○○
振る時	●●●○	●●●●	●●●●
振れば	●○○	●●○	●●○
振れ	●○	●●, ●○	●○
振ろう	●●●	●●○	●●○
振りたい	●●○○	●○○○	●●●○

(ウ)	1 世	2 世	3 世
降る	○●	○●	●○
降らない	●●○○	●●○○	●●●○
降らん	●○○●	●○○●	●●○○
降られる	●○○○	●○○○	●●●○
降らせる	●○○○	●○○○	●●○○
降った	○○●	○○●	●○○
降る時	○○○○	○○○○	●●○○
降れば	●●○	○○○	●○○
降れ	○●	●●, ○●	●○
20(イ)			
鳴る	●●	●●	●●
鳴らない		●●○○	●●●○
(鳴らん)	●●●	●○○	●●○
鳴らせる	●○○○	●○○○	●●●○
鳴った	●○○	●○○	●○○
鳴る時	●●○○	●○○○	●●●○
鳴れば	●○○	○○○	●●○
鳴れ	●○	●○, ○●	●●
(ロ)			
成る	○●	○●	●●, ●○
成らない		●●○○	●●●○
(成らん)	●○○	●○○	●●○
成られる	●○○○	●○○○	●●●○
成らせる	●○○○	●○○○	●●○○
成った	○○●	○○●	●○○
成る時	○○○○	○○○○	●●○○
成れば	●●○	○○○	●●○

	1 世	2 世	3 世
成れ	○●	○●	●●
成ろう	●○○	●○○	●●○
成りたい	○○○○	●○○○	○○●○
21(イ)			
行く時	●●○○	●●○○	●●○○
聞く時	●●○○	●●○○	●●○○
嗅ぐ時		●●○○	●●○○
貸す時	●●○○	●●○○	●●○○
死ぬ時	●●○○	●●○○	●●○○
言う時	●●○○	●●○○	●●○○
買う時	●●○○	●●○○	●●○○
飛ぶ時	●●○○	●●○○	●●○○
売る時	●●○○	●●○○	●●○○
着る時	●●○○	●●○○	●●○○
為る時	●●○○	●●○○	●●○○
居る時	●●○○	●●○○	●●○○
(ロ)			
書く時	○○●○	○○●○	○○○○
漕ぐ時	○○●○	○○●○	○○○○
打つ時	○○●○	○○●○	○○○○
刺す時	○○●○	○○●○	●●○○
勝つ時	○○●○	○○●○	●●○○
食う時	○○●○	○○●○	●●○○
読む時	○○●○	○○●○	●●○○
取る時	○○●○	○○●○	●●○○
切る時	○○●○	○○●○	●●○○
蹴る時	○○●○	○○●○	●●○○
見る時	○○●○	○○●○	●●○○
来る時	○○●○	○○●○	●●○○
居る時	○○●○	●○○○	●●○○
22(イ)			

	1 世	2 世	3 世
磨く時	●○○○●		●●●●●●●●
騒ぐ時	●○○○●	●○○○○○	(●●●●●○)
拾う時	●●●●●○	●●●●●○	●●●●●●●●
遊ぶ時	●●●●●○	●●●●●○	●●●●●●●●
進む時	●●●●●○	●●●●●○	●●●●●●●●
送る時	●●●●●○	●●●●●○	●●●●●●●●
明ける時	●●●●●○	●●●●●○	●●●●●●●●
借りる時	●●●●●○	●●●●●○	●●●●●●●●
捨てる時	●●●●●○	●●●●●○	●●●●●●●●
(ロ)			
歩く時	●●●●●○	●●●●●○	●●●○○○
隠す時	●●●●●○	●●●●●○	●●●○○○
乾く時	●○○○●	●○○○○○	●●●○○○
い入る時	●●●●●○	●●●●●○	●●●○○○
動く時	●○○○●	●○○○○○	●●●○○○
泳ぐ時	●○○○●	●○○○○○	●●●○○○
起こす時	●○○○●	●○○○○○	●●●○○○
思う時	●○○○●	●○○○○○	●●●○○○
頼む時	●○○○●	●○○○○○	●●●○○○
通る時	●○○○●	●○○○○○	●●●○○○
掛ける時	●○○○●	●○○○○○	●●●○○○

	1 世	2 世	3 世
逃げる時	●○○○●	●○○○○○	●●●○○○
見える時	●○○○●	●○○○○○	●●●○○○
23			
濃い	●○	●○	●●
酔い	●○	●○	●●, ●○
無い	○●	○●	●○
良い	○●	○●	●○
24(イ)			
厚い	●○○	●●○	●●○
～板	●○○○●	●○○○○○	●○○○○○
厚くなか	○●○○○○○	○●○○○○○	○●○○○○○
った		○●○○○○○	○●○○○○○
厚くなっ		●○○○○○	●○○○○○
た			
(ロ)			
熱い	●○○	●●○	●●○
熱いお茶	●○○○○○	●○○○○○	●○○○○○
熱くなっ	○●○○○○○	○●○○○○○	○●○○○○○
た		○●○○○○○	○●○○○○○
25(イ)			
赤い	●○○	●○○	●●●
堅い	●○○	●○○	●●●
甘い	●○○	●○○	●●●
眠い	●○○	●○○	●●●
遠い	●○○	●○○	●●●
(ロ)			
青い	●○○	●○○○	●●○
強い	●○○	●○○○	●●○
近い	●○○	●○○○	●●○
古い	●○○	●○○○	●●○
多い	●○○	●○○○	●●○

4. 永山町・近藤家

(1) 語彙

	1 世	2 世	3 世
1. かまきり	kamakiri	//	//
2. 蜘蛛	gumo	kumo	//
3. 蜘蛛の糸	ito	//	//
4. 蜘蛛の巣	kumono su	//	//
5. かたつむり	dendemmu ^{fi}	katatsūmuri dendemmu ^{fi} (幼時)	//
6. なめくじ	namekuzi	NR	//
7. おたまじゃくし	otamazaku ^{fi}	otamazaku ^{fi}	//
8. 蛙	go:ta	kaeru	//
9. ひきがえる	ombiki	gama(見たことなし)	//
10. 蛇	gut ^{fi} inago	hebi	//
11. まむし	hame	NR(居ない)	//
12. とかげ	tokake	tokage(余り見ない)	//
13. かなへび	NR	//	//
14. いくつ(年齢)	nambo	nambo(幼時) ik ^u tsū	ik ^u tsu
15. いくら(値段)	nambo	ikura nambo(幼時)	//
16. いくつ(数)	nambo	ik ^u tsū	//
17. 黄色い	NR	ki:ro	//
18. 赤い	NR(眼が悪いため)	akai	//
19. 「あかい」を「明るい」の意味で	使う	使わない	//
20. 「あおい」の意味	5	8	//
21. 嘘をつく	uso ju:	uso tsu ^u ku	//
22. 灸をすえる	jaito sueru	kju:u sueru	//
23. (時計を)つける	ko ^{fi} iraeru	//	tsū ^u rkuru
24. (酒を)つくる	tsukuru	tsū ^u rkuru	//
25. 「なおす」の意味	修繕の意	//	//
26. 「なおす」を「片づける」の意味で	使わない	//	//
27. 「なおす」を「修繕する」の意味で	使う	//	//

	1 世	2 世	3 世
28. 「おどろく」 を「目が覚め る」の意味で	使う	使わない	//
29. 「おどろく」 を「目をさま す」の意味で	使う	使わない	//
30. 「おどろく」 を「びっくり する」の意味 で	使わない	//	//
31. 頭	atama dotama(卑)	//	//
32. 旋毛	maimai	girigiri	//
33. 禿頭	kijkaōatama	hage(atama) jakag(卑)	// //
34. 目	me	//	//
35. 眉毛	mainoke	majuge	//
36. 麦粒腫	meibo	//	//
37. 鼻	hana	//	//
38. いいにおい	kaza	pioi	//
39. 悪いにおい	kaza	pioi	//
40. きなくさい	šinomegakusai kinakusai	kinakūsai	//
41. こげくさい	kogekusai	kogekūsai	//
42. においを嗅 ぐ	kazamu	kaŕu	//
43. 耳	mimi	//	//
44. 口	kutji	//	//
45. よだれ	jodare	//	//
46. 唾	tsuba	tsūba	//
47. 唇	kutjibiro	kutjibiru	//
48. 舌	ſita bero be:ro	//	//
49. 鹹い	karai	// ſoppai	ſoppai
50. 辛い	karai	//	//
51. 味が薄い	mizukusai amai	mizūkūsai //	// //
52. 砂糖が甘い	amai	//	//
53. すっぱい	sui	suppai	//

	1 世	2 世	3 世
54. いびきをか く	ibikkaku	ibiki kaku	//
55. 咳をする	kozuku	seki suru	//
56. 頬	ho:beta	hoppeta	//
57. 顔	kao	//	//
58. 生まれつきの 痣	kotojake	aza	//
59. 痣ができる	fipi itta	azapi naru	//
60. ほくろ	aza	hokuro	//
61. 少し大きい、ふくら んだほくろ	aza	hokuro	//
62. 「あざ」の意 味			
63. 親指	ojaibi	ojaibi	//
64. 人さし指	çitosafiibi	çitosafiibi	//
65. 中指	takatakaibi	nakaibi	//
66. 薬指	bepisafiibi	kysuriibi	//
67. 小指	kojubi	//	//
68. しもやけ	jimojake	//	//
69. 踵	kiribusai	kagato	//
70. くすぐった い	kosobai	//	//
71. あぐらをか く	çiza kumu	agurao kaku	//
72. 坐る	kafikomaru suwaru	sülwaru kafikomaru(幼時)	//
73. みずおち	mizuotji	mizortji	//
74. 垢	aka	//	//
75. 雲脂	øuke	øuke	//
76. 鱗	uroko	//	//
77. 「こけ」の意 味	木の肌などに生える もの	//	//
78. 「こけ」を茸 の意味で	言わない	//	//
79. 茸	kinoko	//	//
80. 男	otoko	//	//
81. 女	onago	onna	//
	nefo:		
82. 胤	tako	//	//
83. 竹馬	takambo:	takeuma	//
84. お手玉遊び	ozami	ajatori	//

	1 世	2 世	3 世
85. お手玉	ozami	aja	//
86. 肩車	katakuma	katamma	//
			kataguruma
87. 片足飛びをする	kegkej suru	kegkej süru	//
88. 鬼ごっこ	opigoto	//	//
	oaigoto	//	//
89. かくれんぼ	kakurembo	//	//
90. お金	dzeji	(o)kane	okane
		dzeji	
91. おつり	tsuri	tsüri	//
92. お金を数える	jomu	kazoeru	//
93. 鉛筆を数える	jomu	kazoeru	//
		kandzo: süru	//
94. もらう	morau	//	//
95. やる	jaru	//	//
	a ^u geru	ageru	//
96. くれる	kureru	//	//
97. 「あずける」を「子供におもちゃを買って与える」の意味で	使わない	使う	//
98. 「あずける」を「よく働いたから、ほうびにお金を与える」の意味で	使わない	//	//
99. 借りる	kariru	//	//
100. 貸す	kasu	kasüi	//
101. 「かってくる」の意味	借りてくる	買ってくる	//
102. 今日	kjo:	//	//
103. 昨日	kino:	//	//
104. 一昨日	ototoi	//	//
105. 一昨日	sakino ototoi	sakiototoi	//
	sakiototoi		
106. 昨晚	ju:be	//	//
107. 一昨晚	ototoino bag	//	//
108. 明日	af ⁱ ta	//	//
109. 明後日	asatte	//	//

	1 世	2 世	3 世
110. 明々後日	fiasatte	//	//
111. 明々々後日	NR	goasatte	janoasatte (まれに)
112. 今晚	koiia	//	//
113. 明日の晩	asuno bag	asûino bag afî tano bag	//
114. 太陽	oçisama	oçî sama	//
115. まぶしい	mabai:	mabufi: mabai: (まれに)	//
116. 月	otsukî sama	tsûrki	//
117. 雨	ame	//	//
118. 梅雨	nagase	tsûju	//
119. 夕立	sadatfi	judatfi	NR
120. 雷	kaminari	//	//
121. ごろごろ (雷鳴)	gorogoro	//	//
122. 稲光	inabikari	//	//
123. 落雷する	kaminarisagga amatta	kaminariga otji- ru	//
124. 虹	piçi	//	//
125. 雪	juki	//	//
126. 氷	kaçko:ri	ko:ri	//
127. 水が氷る	ko:ru	//	//
128. 手拭が氷る	ko:ru	fibareru ko:ru	// //
129. 氷柱	tsurara	tsûrara	//
130. つむじ風	tsugikaze	makikaze tatsurmaki	// //
131. 目にはいる ごみ	monoga haitta	gomi	//
132. 箒で掃き集 めるごみ	tjiri	gomi	//
	gomi		
133. 畳から出る ほこり	gomi	hokori	//
134. 川の棒ぐい にひっかか ったごみ	gomoku	gomi	//
135. 地震	dçifig	//	//
136. たきぎを拾 いに行く林	jama	hajaçi	//
	hajaçi		
	kiwara		

	1 世	2 世	3 世
137. 平地でも 「ハヤシ」か	ヤマである	ヤマでない	〃
138. 森 (お宮などの)	mori	〃	〃
139. 「はやし」の 意味			
140. 「もり」の意 味			
141. 「家のにわ」 の意味	玄関の土間, 庭園	〃	〃
142. 「家の土間」 を「ニワ」と	言う	〃	〃
143. 「家の 前 の 仕事場」を 「ニワ」と	言う	NR	〃
144. 「かど」の意 味	外庭のこと	NR	〃
145. 「屋 外」を 「カド」と	言う	言わない	〃
146. 「家の 前 の 仕事場」を 「カド」と	言わない	〃	〃
147. 井戸	izumi	ido	〃
148. 飲む	taku	〃	〃
149. 煮る	taku	piru	〃
150. かまどに残 る灰	hai	〃	〃
151. 火鉢の中に 入れる灰	hai	〃	〃
152. お湯から立 つ湯気	juge	〃	〃
153. 御飯から出 る湯気	hoke	juge	〃
154. まな板	manaita	〃	〃
155. すり鉢	suribatji	〃	〃
156. すりこぎ	reggi	surikogi	〃
	surikogi		
157. 瀬戸物	karatsumog	setomono	〃
158. 大きい	o:ke:~o:kei	o:ki:	〃
159. 小さい	komai	tji:sai	〃
		tjittjai	〃
160. 太い	putoi	putoi	〃
161. 細い	hosoi	〃	〃
162. 荒い	okei~o:kei	arai	〃
163. 細かい	komai	komakai	〃

	1 世	2 世	3 世
164. 綿	wata	//	//
165. 真綿	mawata	//	//
166. 糸	itoso ito	ito	//
167. 絹糸	kinuito	//	//
168. 木綿糸	momeiito	//	//
169. 織り糸	NR	NR	NR
170. 「せんたく」 の意味	洗うこと のり張りなど	//	//
171. 「裁縫する」 の 意 味 で 「センタク」	言う。(ただし、着物、ふと んの皮等をほどこし、洗い、つ くり直すこと)	//	//
172. 「くさる」を 「漏れる」の 意味で	使う	使わない	//
173. 米	kome	//	//
174. うるち	kitfigome urumai	urumai	//
175. もち米	motfigome	motfigome	//
176. 飯米	hammai	//	//
177. 米櫃	tobitsu (木製のもの)	tobitsû komebitsû	komebitsû
178. 粃がら	surinuka	// momigara	//
179. 糠	nuka	//	//
180. 田	tambo	//	//
181. 田の一区画	tambo	//	//
182. 畦	aze	//	//
183. 畑	hatake	//	//
184. 鳥おどし	odofji (まれ)	toriodofji (まれ)	NR
185. 案山子	kagaji	//	kakaji
186. じゃがいも	gofoimo bareifo imo	bareifo imo	// //
187. さといも	satoimo	//	//
188. さつまいも	rju:kju:imo	satsûmaimo	//
189. 「いも」とい えは何をさ すか	さといも(昔) じゃがいも(今)	じゃがいも	//

	1 世	2 世	3 世
190.	とうもろこし namba(昔) to:kibi	to:kibi	//
191.	かぼちゃ kabotſa	//	//
192.	堇 sumotorigusa	sūmire	//
193.	たんぽぽ tampoko	tampopo	//
194.	土筆 tsy̥kutsy̥kubo:ſi	ts̥kufi	//
195.	すぎな matna (マツナ)	NR	NR
196.	どくだみ dzu:jaku	dokudami	//
197.	松かさ matsy̥kasa	mats̥kasa	//
198.	竹 take	//	//
199.	指にささったとげ kui(ga tatta)	toge	//
200.	ばらの木な どのとげ bara	toge	//
201.	「おちる」を 「降りる」の 意味で 言わない	//	//
202.	「すてる」を 「紛失する」 の意味で 使う	使わない	//
203.	「こわい」の 意味 疲労の意味(エライ時)	疲労の意味	//
204.	「こわい」を 「疲れた」の 意味で 使う	//	//
205.	「こわい」を 「固い」の意 味で 使う	使わない	//
206.	「こわい」を 「おそろし い」の意味で 使わない	//	使う
207.	「けち」の意 味 吝嗇の意	//	//
208.	「けちだ」を 「けしから ん」の意味で 使わない	//	//
209.	「けちだ」を 「不思議だ」 の意味で 使わない	//	//
210.	「けちだ」を 「物惜しみ する」の意 味で 使う	//	//
211.	「はそん」の 意味 破損の意だが使わず	//	//
212.	「修繕する」 ことを「ハ ソンスル」と 言わない	//	//

	1 世	2 世	3 世
213. 馬	mma	//	//
214. 牡馬	omma	//	//
215. 牝馬	memma	//	//
216. 子馬	tozaigo	toneko	kouma
217. たてがみ	erigami	tategami	//
218. 牛	ufi	//	//
219. 牡牛	gottoiufi	oufi	//
220. 牝牛	onameufi	meufi	//
221. 子牛	ufinoko (新?)	beko koufi	koufi
222. もうもう (牛のなき声)	mo: me: (子牛)	//	//
223. もぐら	oguro oguromotfi	mogura	//
224. 梟	φurutsyku	φukuro:	//
225. ほうほう (梟のなき声)	NR	//	//
226. せきれい	sekireg	sekirei	NR
227. ちっちっ (せきれいのなき声)	NR	//	//
228. 雀	suzume	süzüime	//
229. ちゅんちゅん (雀のなき声)	tʃu:tʃu:	//	//
230. とさか	tosaka	//	//

4. 永山町・福島家

(2) アクセント

1 (イ)	1 世	2 世	3 世		1 世	2 世	3 世
日の丸	●●●○	○●●●	○●●●	腰掛	●●●○	○●●○	○●●●
友達	●●●○	○●●●	○●●●	日帰り	●●●●	○●●○	○●●○
くちばし	●●●○	○●●●	○●●●	耳掻き	●●●○	○●●○	○●●○
函館	●●●○	○●●●	○●●●	妹	○●●●	○●●○	○●●●
東京	●●●○	○●●●	○●●●	弟	○●●●	○●●○	○●●●
鉛筆	●●●○	○●●●	○●●●	道楽	○●●●	○●●●	○●●○
福引き	●●●○	○●●●	○●●●	(イ)			
かまぼこ	●●●○	○●●●	○●●●	小刀	○●●●	○●●○	○●●●
夕焼		○●●●	○●●●	化け物	○●●●	○●●○	○●●○
魚屋	●●●○	○●●●	○●●●	からかさ	●●●○	○●●○	○●●○
(ロ)				先生	●○○○	○●●○	○●●○
金持	●●●○	○●●○	○●●○	争い	○●●●	○●●○	○●●○

	1 世	2 世	3 世
長男	●●●●	●●●○	●●●○
考え	●●●●	●●●●	●●●○
ろうそく	●●●●	●●●●	●●●●
さいころ	●●●○	●●●●	●●●●
(二)			
朝顔		●●●○	●●●●
建物	●●●●	●●●○	●●●○
すずらん	●●○○	●●○○	●●●○
手袋	●●●●	●●●○	●●●●
座蒲団	●●○○	●●○○	●●●○
土曜日	●●●○	●●○○	●●○○
九つ	●●○○	●●○○	●●○○
生け花		●●●●	●●●●
紫	●●○○	●●○○	●●○○
生き物	●●●●	●●●●	●●●●
(四)			
あいさつ	●○○○	●○○○	●○○○
全国	●○○○	●○○○	●○○○
羽二重	●○○○	●○○○	●○○○
本人	●○○○	●○○○	●○○○
親切	●○○○	●○○○	●○○○
貧乏	●○○○	●○○○	●○○○
2(イ)			
桜		●●●	●●●
形	●●○	●●○	●●●
いわし	●●○	●●●	●●●
煙	●●●	●●●	●●●
机	●●●	●●●	●●●
隣	●●○	●●●	●●●
氷	●●●	●●●	●●●
柳	●●●	●●○	●●●
着物	●●○	●●●	●●●
印		●●●	●●●
車	●●●	●●●	●●●
昔	●●●	●●○	●●●
(ロ)			
あずき	●●○	●●○	●●○
毛抜き	●●○	●●○	●●○
つるべ	●●○	●●○	●●●

	1 世	2 世	3 世
二つ	●●○	●●○	●●○
ふたり	●●○	●●○	●●○
間	●●○	●●●	●●●
(ハ)			
頭	●○○	●○○	●○○
表	●●●	●○○	●●●
鏡	●●●	●○○	●○○
刀	●○○	●○○	●○○
ことば	●○○	●○○	●○○
暦	●○○	●●●	●●●
女	●○○	●○○	●●●
男	●○○	●○○	●○○
宝	●●●	●●●	●○○
東	●○○	●○○	●●●
光	●●●	●○○	●○○
袋	●○○	●○○	●○○
(ニ)			
朝日	●○○	●○○	●○○
五つ	●○○	●○○	●○○
命	●○○	●○○	●○○
心	●●●	●○○	●○○
姿	●○○	●○○	●○○
涙	●○○	●○○	●●●
火箸	●○○	●○○	●○○
油	●○○	●○○	●●●
柱	●○○	●○○	○○○
(ホ)			
兎	●●●	●○○	●●●
烏	●●●	●○○	●○○
うなぎ		●○○	●●●
きつね	●●●	●●●	●●●
雀		●●●	●●●
背中		●●●	●●●
ねずみ	●●●	●●●	●●●
よもぎ	●●●	●●●	●●●
(ヘ)			
後ろ	●●○	●○○	●○○
蚕	●●○	●○○	●○○
いちご	○○○	○○○	○○○

	1 世	2 世	3 世
～の	●●●	●○○	●○○
～に	●●●	●○○	●●●
～も	●●●	●○○	●○○
～を	●●●	●○○	●○○

8 (イ)

泡	●●	●○	○○
～が	●●●	●○○	○○●
～は	●●●	●○○	○○●
～の	●●●	●○○	○○●
～に	●●●	●○○	○○●
～も	●●●	●○○	○○●
～を	●●●	●○○	○○●

(ロ)

栗	○○	○○	○○
～が	●●●, ○●●	○○●	○○●
～は	●●●, ○●●	○○●	○○●
～の	●●●, ○●●	○○●	○○○
～に	●●●, ○●●	○○●	○○●
～も	●●●, ○●●	○○●	○○●
～を	●●●, ○●●	○○●	○○●

9 (イ)

糸	○○, ●●	○○	○○
～が	●●●	○○●	
～は	●●●	○○●	○○●
～の	●●●	○○●	○○●
～に	●●●	○○●	○○●
～も	●●○	○○●	○○●
～を	●●●	○○●	○○●

(ロ)

井戸	○○	○○	○○
～が	○○○	○○○	
～は	○○○	○○○	○○●
～の	○○○	○○○	○○●
～に	○○○	○○●	○○●
～も	○○○	○○○	○○●
～を	○○○	○○●	○○●

10 (イ)

蟻	●●	○○	○○
～が	●●○	○○●	○○●

	1 世	2 世	3 世
～は	●●○	○○●	○○●
～の	●●○	○○●	○○●
～に	●●○	○○●	○○●
～も	●●○	○○○	○○●
～を	●●●	○○●	○○●

(ロ)

針	○○	○○	●○
～が	○○●	○○●	○○●
～は	○○●	○○●	○○●
～の	○○●	○○●	○○●
～に	○○●	○○●	○○●
～も	○○●	○○○	○○●
～を	○○●	○○●	○○●

11 (イ)

足	○○	○○	○○
～が	●●●	○○○	○○●
～は	●●●	○○○	○○●
～の	●●●	○○○	○○●
～に	●●●	○○○	○○●
～も	○○○	○○○	○○●
～を	○○○	○○○	○○●

(ロ)

汗	○○	○○	●○
～が	○○○	○○○	○○●
～は	○○○	○○○	○○●
～の	○○○	○○○	○○●
～に	○○○	○○○	○○●
～も	○○○	○○○	○○●
～を	○○○	○○○	○○●

12 (イ)

牛	●●	○○	○○
～が	●●●	○○●	○○●
～は	●●●	○○●	○○●
～の	●●●	○○●	○○●
～に	●●●	○○●	○○●
～も	●●○	○○○	○○●
～を	●●●	○○●	○○●

(ロ)

石	○○	○○	○○
---	----	----	----

	1 世	2 世	3 世
～が	●○○	●○○	○●●●
～は	●○○	●○○	○●●●
～の	●○○	●○○	○●●●
～に	●○○	●○○	○●●●
～も	●○○	●○○	○●●●
～を	●○○	●○○	○●●●

13(イ)

昼	●○	●○	○●
～が	○○●	●○○	●○○●
～は	●○○	●○○	●○○●
～の	●○○	●○○	●○○●
～に	●○○	●○○	●○○●
～も	●○○	●○○	●○○●
～を	●○○	●○○	●○○●
(ロ)			
春	○●	○●	●○
～が	○○●	○○●	●○○●
～は	○○●	○○●	●○○●
～の	○○●	○○●	●○○●
～に	○○●	○○●	●○○●
～も	○○●	○○●	●○○●
～を	○○●	○○●	●○○●

14(イ)

箱(が)	●●	○●(○●●●)	○●
梅		○●	○●
枝		○●	○●
柿		○●	○●
風		○●	○●
えび		○●	○●
口(が)	●●	○●(○●●●)	○●
顔		○●	○●
酒		○●	○●
壁		○●	○●
国		○●	○●
首		○●	○●
竹(が)	●●	○●(○●●●)	○●
腰		○●	○●
霧		○●	○●
杉		○●	○●

	1 世	2 世	3 世
鈴		●○	○●
袖		○●	○●
鳥(が)	●●	○●(○●●●)	○●
滝		○●	○●
棚		○●	○●
西		○●	○●
庭		○●	○●
灰		○●	○●
羽(が)	●●	○●(○●●●)	○●
蠅		○●	○●
蜂		○●	○●
紐		○●	○●
(ロ)			
川(が)	●○	○●(○●●●)	○●
岩	●○	●○	○●
歌		●○	○●
音		●○	○●
北		●○	○●
寺		●○	○●
夏(が)	●○	○●(○●●●)	○●
梨	●○	●○	○●
旗		●○	○●
冬		●○	○●
町		●○	○●
胸		●○	○●
村(が)	●○	○●(○●●●)	○●
雪	●○	●○	○●
蟬		●○	○●
人		●○	○●
(ロ)			
池(が)	●●	○●(○●●●)	○●
網	●○	●○	○●
色		●○	○●
腕		●○	○●
馬		●○	○●
裏		●○	○●
栗(が)	●●	○●(○●●●)	○●
鍵	●●	●○	○●
神		●○	○●

	1 世	2 世	3 世
岸		●○	○●
草		●○	○●
櫛		●○	○●
島(が)	●○	○(●○○)	●○
靴	●●	●○	●○
倉		●○	○●
坂		●○	○●
竿		●○	○●
塩		●○	○●
炭(が)	●○	○(●○○)	●○
谷	●○	●○	○●
月		●○	○●
年		●○	○●
波		●○	○●
縄		●○	○●
皮	●○	○●	●○
貝	●●	●○	●○
雲		●○	○●
(二)			
空(が)	○●	○●(○○●)	○●
跡	○●	○●	○●
稲	○●	○●	○●
海	○●	○●	○●
奥	●○	●○	○●
帯	○●	○●	○●
息(が)	●●	○●(○○●)	○●
肩	○●	○●	○●
絹	○●	○●	○●
種	○●	○●	○●
中	○●	○●	○●
苗	○●	○●	○●
(六)			
窓(が)	○●	○●(○○○)	○●
蔭(が)	○●	○●(○○○)	○●
蜘蛛	●○	○●	○●
鯉	●○	○●	○●
猿	○●	○●	○●
鶴	○●	○●	○●
秋(が)	○●	○●(○○○)	○●

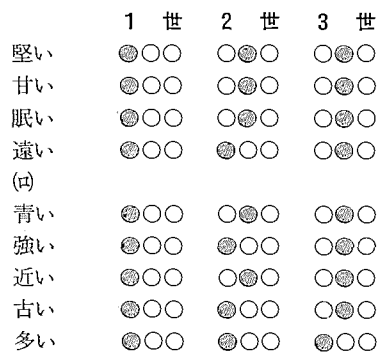
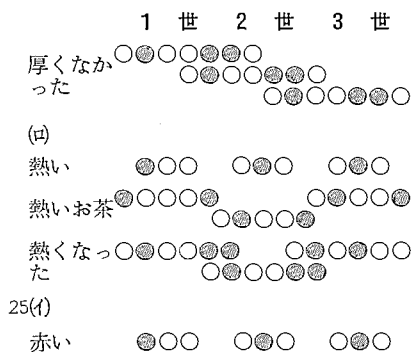
	1 世	2 世	3 世
露	○●	○●	○●
桶	○●	○●	○●
上	●○	●○	●○
下	●○	●○	●○
亀	●●	●○	○●
15(イ)			
柄	●	●(半長)	●
～が	●○	○●(第1音節半長)	○●
～は	●○	○●(同上)	○●(第1音節半長)
～の	●○	○●(同上)	○●
～に	●○	○●(同上)	○●
～も	●○	○●(同上)	○●
～を	●○	○●(同上)	○●
(四)			
絵	○●(長)	●(半長)	●
～が	○●●	○●(第1音節半長)	○●
～は	○●●	○●(同上)	○●
～の	○●●	○●(同上)	○●
～に	○●●	○●(同上)	○●
～も	○●●	○●(同上)	○●
～を	○●●	○●(同上)	○●
16(イ)			
火	●○(長)	●	●
～が	○●●	○●	○●
～は	○●●	○●	○●
～の	○●●	○●	○●
～に	○●●	○●	○●
～も	○●●	○●	○●
～を	○●●	○●	○●
(四)			
日	●	●	●
～が	●○	●○	●○
～は	●○	●○	○●
～の	○●●	○●	○●
～に	○●●	○●	○●
～も	○●●	○●	○●
～を	○●●	○●	○●
17(イ)			
戸	●	●	●

	1 世	2 世	3 世
～が	●○	○●	○●
～は	●○	○●	●○
～の	●○	○●	○●
～に	●○	○●	●○
～も	●○	●○	●○
～を	●○	○●	○●
(ロ)			
名	●	●	●
～が	●○	●○	●○
～は	●○	●○	●○
～の	●○	●○	●○
～に	●○	●○	●○
～も	●○	●○	●○
～を	●○	●○	●○
18(イ)			
蚊が	●○	○●	○●
子が	●○	○●	●○
血が	●○	○●	○●
実が	●○	○●(第1音 節半長)	○●
世が	●○	○●(同上)	○●
(ロ)			
葉が	●○	●○	●○
藻が	●○	○●(第1音 節半長)	○●
(イ)			
木が	●○	○●	●○
田が	●○	○●(第1音 節半長)	○●
手が	○●, ○○●	○●(同上)	○●
酢が	○●, ○○●	○●	●○
荷が	○●	○●	●○
根が	○●	○●	●○
目が	○●	○●	○●
穂が	○●	○●	○●
湯が	○●	○●	●○
芽が	●●	○●	●○
輪が	○●	○●	○●
粉が	○●	○●(第1音 節半長)	○●
毛が	●○	○●	○●
刃が	●○	●○	●○
巢が	●○	○●	○●

	1 世	2 世	3 世
歯が	●○	○●(第1音 節半長)	○●
19(イ)			
振る	●○	○●	○●
振らない		○●●○	○●●○
(振らん)	●●●	○●●	
振られる	●●●●	○●●●	○●●○
振らせる	●●●●	○●●○	○●●○
振った	●●○	●●○	○●●
振る時	●●●○	○●●○	○●●○
振れば	○●○	●○○	○●○
振れ	○●	●○	○●
振ろう	○●●	○●○	○●○
振りたい	●●○○	○●○○	○●●○
(ロ)			
降る	○●	○●	○●
降らない	○●○○	○●●○	○●●○
(降らん)	○●●	○●●	
降られる	○●●●	○●●●	○●●○
降らせる	○●●●	○●●○	○●●○
降った	○●●	●●○	○●●
降る時	○●●○	○●●○	○●●○
降れば	○●○	○●○	○●●
降れ	○●	○●	○●
20(イ)			
鳴る	○●	○●	○●
鳴らない		○●●○	○●●○
(鳴らん)	○●●	○●●	
鳴らせる		○●●●	○●●○
鳴った	●●○	●○○	○●●
鳴る時	○●●○	○●●○	○●●○
鳴れば	○●○	●○○	○●○
鳴れ	●○	●○	○●
(ロ)			
成る	●○	○●	○●
成らない		○●●○	○●●○
(成らん)	○●●	○●○	
成られる	○●●●	○●●○	○●●○
成らせる	○●●●	○●●○	○●●○
成った	○●●	○●●	○●●
成る時	○●●○	○●●○	○●●○

	1 世	2 世	3 世
成れば	○○○	○○○	○○○
成れ	○○	○○	○○
成ろう	○○○	○○○	○○○
成りたい	○○○○	○○○○	○○○○
21(イ)			
行く時	○○○○	○○○○	○○○○
聞く時	○○○○	○○○○	○○○○
唄ぐ時		○○○○	○○○○
貸す時		○○○○	○○○○
死ぬ時		○○○○	○○○○
言う時	○○○○	○○○○	○○○○
買う時	○○○○	○○○○	○○○○
飛ぶ時		○○○○	○○○○
売る時		○○○○	○○○○
着る時		○○○○	○○○○
為る時	○○○○	○○○○	○○○○
居る時	○○○○	○○○○	○○○○
(ロ)			
書く時	○○○○	○○○○	○○○○
漕ぐ時	○○○○	○○○○	○○○○
打つ時		○○○○	○○○○
刺す時		○○○○	○○○○
勝つ時		○○○○	○○○○
食う時	○○○○	○○○○	○○○○
読む時	○○○○	○○○○	○○○○
取る時		○○○○	○○○○
切る時		○○○○	○○○○
蹴る時		○○○○	○○○○
見る時	○○○○	○○○○	○○○○
来る時	○○○○	○○○○	○○○○
居る時	○○○○	○○○○	○○○○
22(イ)			
磨く時	○○○○○○	○○○○○○	○○○○○○
騒ぐ時	○○○○○○	○○○○○○	○○○○○○
拾う時		○○○○○○	○○○○○○
遊ぶ時		○○○○○○	○○○○○○

	1 世	2 世	3 世
進む時		○○○○○○	○○○○○○
送る時	○○○○○○	○○○○○○	○○○○○○
明ける時	○○○○○○	○○○○○○	○○○○○○
借りる時		○○○○○○	○○○○○○
捨てる時		○○○○○○	○○○○○○
(ロ)			
歩く時	○○○○○○	○○○○○○	○○○○○○
隠す時	○○○○○○	○○○○○○	○○○○○○
乾く時		○○○○○○	○○○○○○
入る時		○○○○○○	○○○○○○
動く時		○○○○○○	○○○○○○
泳ぐ時	○○○○○○	○○○○○○	○○○○○○
起こす時	○○○○○○	○○○○○○	○○○○○○
思う時		○○○○○○	○○○○○○
頼む時		○○○○○○	○○○○○○
通る時		○○○○○○	○○○○○○
掛ける時	○○○○○○	○○○○○○	○○○○○○
逃げる時	○○○○○○	○○○○○○	○○○○○○
見える時		○○○○○○	○○○○○○
23			
濃い	○○	○○	○○
酔い	○○	○○	○○
無い	○○	○○	○○
良い	○○	○○	○○
24(イ)			
厚い	○○○○	○○○○	○○○○
厚い板	○○○○○○	○○○○○○	○○○○○○



付表 2 富良野町の社会調査の集計表

1.1 年齢・性別構成

年 齢	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～89	90～	計
男	14.34 591	23.96 987	22.52 928	16.70 688	11.65 480	7.14 294	3.06 126	0.63 26		100.00 4,120
女	14.39 607	26.44 1,115	21.49 906	16.86 711	10.55 445	5.86 247	3.44 145	0.92 39	0.05 2	100.00 4,217
計	14.37 1,198	25.21 2,102	22.00 1,834	16.78 1,399	11.10 925	6.49 541	3.25 271	0.78 65	0.02 2	100.00 8,337

1.2 町村別年齢・性別構成

年 齢	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～89	90～	計
男	14.12 293	23.04 478	25.59 531	16.67 346	10.79 224	6.80 141	2.75 57	0.24 5		100.00 2,075
女	14.04 305	27.81 604	22.69 493	16.76 364	9.71 211	5.11 111	3.18 69	0.65 14	0.05 1	100.00 2,172
計	14.08 598	25.48 1,082	24.11 1,024	16.72 710	10.24 435	5.93 252	2.97 126	0.45 19	0.02 1	100.00 4,247
男	14.57 298	24.89 509	19.41 397	16.73 342	12.52 256	7.48 153	3.38 69	1.02 21		100.00 2,045
女	14.77 302	24.99 511	20.19 413	16.97 347	11.44 234	6.65 136	3.72 76	1.22 25	0.05 1	100.00 2,045

計	14.67	24.94	19.80	16.85	11.98	7.07	3.55	1.12	0.02	100.00
	600	1,020	810	689	490	289	145	46	1	4,090

2.1 本人の出生地構成

年 齢		15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～89	90～	計
出生地	男	1	143	223	196	86	26	1	—	—	675
	2	111	200	263	183	103	42	5	1	—	908
	3	35	53	66	78	91	95	50	4	—	467
	レ	4	2	6	4	4	3	2	—	—	25
	計	293	478	531	346	224	141	57	5	—	2,075
町	女	1	149	222	128	59	23	1	—	—	582
	2	114	287	312	240	103	30	8	—	—	1,094
	3	40	89	50	63	83	75	60	13	—	473
	レ	2	6	3	2	2	5	1	1	1	23
	計	305	604	493	364	211	111	69	14	1	2,172
計	1	292	445	324	145	49	2	—	—	—	1,257
	2	225	487	575	423	206	72	13	1	—	2,002
	3	75	142	116	136	174	170	110	17	—	940
	レ	6	8	9	6	6	8	3	1	1	48
	計	598	1,082	1,024	710	435	252	126	19	1	4,247
男	1	243	383	220	128	42	—	—	—	—	1,016
	2	37	91	120	126	78	17	1	2	—	472
	3	17	31	56	85	133	134	65	19	—	540

村										町									
レ	計	1	4	1	3	3	2	3	—	レ	計	1	4	1	3	3	2	3	—
		298	509	397	342	256	153	69	21										
1		234	282	151	87	34	—	—	—	1		386	606	416	214	68	1	—	—
2		49	170	214	179	71	21	3	—	2		148	291	383	309	181	59	6	3
3		17	53	46	79	125	112	69	25	3		52	84	122	158	224	229	115	23
レ		2	6	2	2	4	3	4	—	レ		5	6	7	7	7	5	5	—
計		302	511	413	347	234	136	76	25	計		591	987	928	688	480	294	126	26
1		477	665	371	215	76	—	—	—	1		386	606	416	214	68	1	—	—
2		86	261	334	305	149	38	4	2	2									
3		34	84	102	164	258	246	134	44	1									
レ		3	10	3	5	7	5	7	—	レ									
計		600	1,020	810	689	490	289	145	46	計									
1										1									
2										2									
3										1									
レ										レ									
計										計									
1										1									
2										2									
3										3									
レ										レ									
計										計									
1										1									
2										2									
3										3									
レ										レ									
計										計									
1										1									
2										2									
3										3									
レ										レ									
計										計									

	25.12	36.26	22.71	11.76	4.08	0.07	100.00
1	769	1,110	695	360	125	2	3,061
2	9.78	23.51	28.58	22.89	11.16	3.46	100.00
3	311	748	909	728	355	110	3,181
計	5.43	11.26	10.86	14.95	21.52	20.73	100.00
レ	109	226	218	300	432	416	2,007
	9	18	12	11	13	13	88
計	14.25	25.33	22.00	16.78	11.10	6.49	100.00
	1,198	2,102	1,834	1,399	925	541	8,337

ただし、出生地の欄のコードは、1 富良野町、2 富良野町以外の北海道、3 北海道以外である。

2.2 本人の出身県別構成

出生地	年 齢											計
	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～89	90～			
1 富 良 野	64.19 769	52.81 1,110	37.90 695	25.73 360	13.51 125	0.37 2	—	—	—			36.72 3,061
2 空知郡(富以外) 北海道(富・空以外) 計	69 242 25.96 311	279 469 35.59 748	439 470 49.56 909	240 488 52.04 728	75 280 38.38 355	10 100 20.33 110	— 17 6.27 17	— 3 4.62 3	—			1,112 2,069 38.16 3,181
樺 太	48	85	41	13	2	—	—	—	—			189
外 地 (樺以外)	26	12	2	1	—	—	—	—	—			41
外 地 計	6.18 74	4.61 97	2.34 43	1.00 14	0.22 2	—	—	—	—			2.76 230
青 森	1	12	13	38	52	30	15	2	—			163
岩 手	2	9	11	20	15	26	10	2	—			95

秋山宮福東	田形城島計	—	19	21	31	28	25	13	1	—	138
		2	3	11	27	27	27	12	5	—	114
		3	19	15	21	41	46	21	1	—	167
		1	12	20	26	27	22	19	6	—	133
		9	74	91	162	190	176	90	17	—	809
北	馬	—	—	1	2	2	2	—	—	—	7
	木	—	—	1	3	7	2	4	—	—	17
	茨	1	1	2	1	1	2	—	—	—	8
	埼	—	—	—	3	2	1	—	—	—	6
	東	12	14	17	6	10	2	—	—	—	61
	千	—	—	—	3	1	—	—	—	—	4
	神	1	3	2	1	1	—	—	—	—	8
	関	14	18	23	19	24	9	4	—	—	111
	計										
秦東	梨	1	3	1	5	2	5	1	—	—	18
	鴻	1	5	7	16	27	21	7	2	—	86
	山	—	4	10	13	40	47	32	11	—	157
	阜	—	4	5	10	25	19	10	2	1	76
	野	—	1	1	5	3	4	1	—	—	15
	岡	—	1	2	1	3	3	—	—	—	10
	知	3	—	1	1	6	1	—	—	—	12
	川	—	—	1	3	11	12	10	5	—	42
	井	—	—	2	4	8	23	17	3	—	57
	計	5	18	30	58	125	135	78	23	1	473
部											
滋三	賀	—	1	1	2	3	—	1	—	—	8
	重	2	—	—	3	4	9	5	1	—	24

京	都	—	1	2	1	—	—	—	—	—	4
奈	良	—	—	6	11	—	13	18	11	1	60
和	山	—	—	—	—	—	1	5	1	—	7
大	阪	3	7	1	1	—	—	1	1	—	14
兵	庫	1	1	4	4	6	10	6	3	—	35
近	畿	6	10	15	21	28	43	25	5	—	153
鳥	取	—	1	1	—	7	7	11	3	—	30
島	根	—	1	—	1	—	1	—	—	—	3
岡	山	—	2	1	5	10	5	5	—	—	28
広	島	—	1	—	1	6	2	6	1	—	17
山	口	—	—	1	—	1	2	3	—	—	7
中	計	—	5	3	7	24	17	25	4	—	85
香	川	—	—	1	6	11	14	11	8	—	51
徳	島	—	1	5	4	10	11	4	1	—	36
高	知	—	—	—	—	2	—	—	—	—	2
愛	媛	—	1	2	2	9	3	4	1	—	22
四	計	—	2	8	12	32	28	19	10	—	111
福	岡	1	—	2	—	3	2	—	—	—	8
佐	賀	—	—	—	2	1	1	1	1	—	6
長	崎	—	1	1	—	—	—	—	—	—	2
熊	本	—	—	1	—	2	2	2	1	—	8
大	分	—	—	1	1	1	2	—	—	—	5
宮	崎	—	—	—	1	1	—	—	—	—	2
鹿	島	—	1	1	1	—	—	—	—	—	3
九	計	1	2	6	5	8	8	3	2	—	35

児州

内 地	計	2.92	6.14	9.54	20.44	46.49	76.89	90.04	93.85	50.00	21.31
		35	129	175	286	430	416	244	61	1	1,777
レ 不	明	0.75	0.86	0.65	0.79	1.41	2.40	3.69	1.54	50.00	1.06
		9	18	12	11	13	13	10	1	1	88
総 計		1,198	2,102	1,834	1,399	925	541	271	65	2	8,337

四国で県の計が四国計と合わないのは、ただ四国としか回答しなかったものを四国計の中に算入したからである。

2.3 父親・母親の出身地(本人が北海道生まれの場合だけ)

本人の年齢		15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～89	90～	計
父親の出身地											
1. 富良野		21.39	9.69	1.81	0.37	0.21					7.13
		231	180	29	4	1					445
2. 富良野以外の北海道		31.30	24.92	12.84	5.42	2.71	3.57	17.6	33.33		17.41
		338	463	206	59	13	4	3	1		1,087
3. 北海道以外		33.32	45.80	65.15	71.60	77.32	72.32	58.82	33.33		56.06
		362	851	1,045	779	370	81	10	1		3,499
外 地			1	2							3
東 北		165	368	403	236	77	15	3			1,267
関 東		13	24	21	15	3	2				78
中 部		101	273	368	290	167	23	7			1,229
近 畿		25	66	78	69	24	9		1		272
中 国		24	44	63	67	32	11				241
四 国		23	58	92	83	54	18				328
九 州		10	10	15	15	13	2				65
不 明		1	7	3	4		1				16
		13.80	19.59	20.20	22.61	20.00	24.11	23.53	33.33		19.40
レ 不 明		149	364	324	246	96	27	4	1		1,211

総計	17.30 1,080	29.76 1,858	25.70 1,604	17.43 1,088	7.69 480	1.80 112	0.27 17	0.05 3	100.00 6,242
本人の年齢 母親の出身地									
1. 富良野	16.39 177	8.56 159	3.18 51	0.92 10	0.63 3				6.41 400
2. 富良野以外の北海道	46.85 506	33.69 626	22.44 360	9.38 102	4.17 20	3.57 4	23.53 4	33.33 1	26.00 1,623
3. 北海道以外	22.69 245	35.63 662	50.12 804	63.60 692	74.38 357	63.39 71	47.06 8		45.48 2,839
外地	2 1		1						4
東北	131	318	348	232	76	15	3		1,123
関東	4	12	23	11	1				51
中部	64	173	239	269	167	19	5		936
近畿	15	54	60	49	18	8			204
中国	9	36	51	48	30	11			185
四国	16	56	66	64	52	17			271
九州	4	12	16	19	13	1			65
不明	14.07 152	22.12 411	24.25 389	26.10 284	20.83 100	33.04 37	29.41 5	66.67 2	22.11 1,380
総計	17.30 1,080	29.76 1,858	25.70 1,604	17.43 1,088	7.69 480	1.80 112	0.27 17	0.05 3	100.00 6,242

これらの表の実数は、本人が親をふたり以上持つことがあるため、実際の数より多い。すなわち、総計の欄の実数は本人の出生地1と2との合計と一致する。

%は、各年代ごとの総計に対するもの。ただし、総計の欄のそれは、右下の総合計に対するもの。

2.4 父方の祖父の出身地(本人と父親が北海道生まれの場合だけ)

本人の年齢 祖父の出身地		15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～89	90～	計
1. 富良野	0.53	3		0.43	1.59						0.33
2. 富良野以外 の北海道	2.81	16	1.40	0.43	3.17	7.14	25.00				5
3. 北海道以外	65.55	373	56.14	50.21	30.16	14.29		100.00			1.96
外地			361	118	19	2			1		30
東北	80		72	37	3	2					57.05
関東	4		5	2					1		874
中部	159		160	45	11						195
近畿	30		32	7	2						11
中国	41		42	12	1						375
四国	49		41	12	2						71
九州	10		9	3							96
不明	31.11	177	42.45	48.94	65.08	78.57	75.00	100.00			104
総計		569	643	235	63	14	4	3	1		22
											40.67
											623
											100.00
											1,532

2.5 北海道第何世か

年	年齢	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～89	90～	計
内地生まれ 1世	2.92	35	6.14	9.54	20.44	46.49	76.89	90.04	93.85	50.00	21.31
	1.97		7.26	9.85	16.09	24.20	23.41	13.73	3.43	0.06	100.00
			129	175	286	430	416	244	61	1	1,777

1 世	權太生まれ 1 世	4.01 25.40 48	4.04 44.97 85	2.24 21.69 41	0.93 6.89 13	0.22 1.06 2	—	—	—	2.27 100.00 189
	權太以外の 外地生まれ 1 世	2.17 63.41 26	0.57 29.27 12	0.11 4.89 2	0.07 2.44 1	—	—	—	—	0.49 100.00 41
	計	9.10 5.43 109	10.75 11.26 226	11.89 10.86 218	21.44 14.95 300	46.70 21.52 432	76.89 20.73 416	90.04 12.16 244	93.85 3.04 61	24.07 100.00 2,007
2 世	富良野生まれ 2 世	23.04 16.67 276	25.78 32.73 542	25.08 27.78 460	19.51 16.49 273	11.14 6.22 103	0.37 0.12 2	—	—	19.86 100.00 1,656
	北海道生まれ 2 世	7.18 4.67 86	14.70 16.77 309	31.90 31.74 585	36.17 27.46 506	28.86 14.49 267	14.60 4.29 79	3.69 0.54 10	1.54 0.05 1	22.11 100.00 1,843
	計	30.22 10.35 362	40.49 24.32 851	56.98 29.87 1,045	55.68 22.26 779	40.00 10.57 370	14.97 2.31 81	3.69 0.29 10	1.54 0.03 1	41.97 100.00 3,499
3 世	富良野生まれ 3 世	23.29 45.74 279	12.27 42.30 258	3.44 10.33 63	0.64 1.48 9	0.11 0.16 1	—	—	—	7.32 100.00 610
	うち、父親 富良野生まれ 純粋3 世	12.44 55.81 149	5.23 41.20 110	0.38 2.62 7	0.07 0.37 1	—	—	—	—	3.20 100.00 267
	北海道生まれ 3 世	7.85 35.61 94	4.90 39.02 103	3.00 20.83 55	0.71 3.79 10	0.11 0.38 1	—	—	1.54 0.38 1	3.17 100.00 264
	計	31.14 42.68 373	17.17 41.30 361	6.43 13.50 118	1.36 2.17 19	0.22 0.23 2	—	—	1.54 0.11 1	10.48 100.00 874

4世以上	富良野生まれ 4世以上	0.25 60.00	0.05 20.00	0.07 20.00	— 1	— 1	— —	— —	— —	0.06 100.00	5
	北海道生まれ 4世以上	1.34 53.33	0.43 30.00	0.14 6.67	0.11 3.33	0.18 3.33	— —	— —	— —	0.36 100.00	30
	計	1.59 54.29	0.43 25.71	0.21 8.57	0.11 2.86	0.18 2.86	— —	— —	— —	0.42 100.00	35
		19	9	3	1	1	—	—	—	—	—
世不明		27.96 17.43	31.16 34.08	21.30 15.50	12.97 6.24	7.95 2.24	6.27 0.88	3.08 0.10	50.00 0.05	23.05 100.00	1,922
総計		1,198	2,102	1,834	1,399	925	541	271	65	2	8,337

%は上段が下の総計に対するもの、下段は右の計に対するものである。

3.1 居住経歴

年令		15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～89	90～	計
男	居住経歴別										
	富良野以外で 2年以上住んだ ことがない	63.11 373	54.31 536	26.40 245	18.02 124	8.33 40	0.68 2	—	—	—	32.04 1,320
	北海道以外に 2年以上住んだ ことがない	25.38 150	32.02 316	34.59 321	33.43 230	35.21 169	14.63 43	2.38 3	7.69 2	—	29.95 1,234
	北海道以外に 2年～9年間 住んだ	7.78 46	5.57 55	24.25 225	27.91 192	18.96 91	14.29 42	7.94 10	—	—	16.04 661
	北海道以外に 10年以上住んだ	0.85 5	7.09 70	12.72 118	17.30 119	32.92 158	65.65 193	84.13 106	76.92 20	—	19.15 789

不	明	2.88	1.01	2.05	3.34	4.58	4.76	5.56	15.38	2.82
		17	10	19	23	22	14	7	4	—
	計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
		591	987	928	688	480	294	126	26	4,120
女	富良野以外で 2年以上住ん だことがない	62.44	42.06	27.48	14.06	9.21	—	—	—	29.36
		379	469	249	100	41	—	—	—	1,238
	北海道以外に 2年以上住ん だことがない	25.86	40.90	54.64	55.56	37.08	17.41	8.97	—	40.88
		157	456	495	395	165	43	13	—	1,724
	北海道以外に 2年～9年間 住んだ	8.24	4.66	6.29	10.13	14.83	12.15	8.97	10.26	8.16
		50	52	57	72	66	30	13	4	344
	北海道以外に 10年以上住ん だ	1.15	10.58	9.82	16.74	32.81	62.75	73.10	69.23	18.21
		7	118	89	119	146	155	106	27	768
	不	2.31	1.79	1.77	3.52	6.07	7.69	8.97	20.51	3.39
	明	14	20	16	25	27	19	13	8	143
	計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
		607	1,115	906	711	445	247	145	39	4,217
男	富良野以外で 2年以上住ん だことがない	62.77	47.81	26.94	16.01	8.76	0.37	—	—	30.68
		752	1,005	494	224	81	2	—	—	2,558
	北海道以外に 2年以上住ん だことがない	25.63	36.73	44.49	44.67	36.11	15.90	5.90	3.08	35.48
		307	772	816	625	334	86	16	2	2,958
	北海道以外に 2年～9年間 住んだ	8.01	5.09	15.38	18.87	16.97	13.31	8.49	6.15	12.05
		96	107	282	264	157	72	23	4	1,005
	北海道以外に 10年以上住ん だ	1.00	8.94	11.29	17.01	32.86	64.33	78.23	72.31	18.68
		12	188	207	238	304	348	212	47	1,557
	計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
		607	1,115	906	711	445	247	145	39	4,217
男	計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
女	計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
計	計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
		1197	2192	1834	1419	749	491	291	75	8397

不	明	2.59	1.43	1.91	3.43	5.30	6.10	7.38	18.46	50.00	3.11
		31	30	35	48	49	33	20	12	1	259
計		100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
		1,198	2,102	1,834	1,399	925	541	271	65	2	8,337

3.2 父親の居住状況

年齢		住居生死										計
		15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～89	90～		
男	富良野にいる	80.19	57.84	36.41	15.28	5.81	0.86	1.05			37.60	
		425	509	296	94	24	2	1	—	—	1,351	
	富良野以外に いる	7.17	14.32	18.45	9.11	3.15	2.99	5.26	7.69		11.02	
		38	126	150	56	13	7	5	1	—	396	
	死 別	12.64	27.84	45.14	75.61	91.04	96.15	93.69	92.31	—	51.38	
	67	245	367	465	376	225	89	12	—	1,846		
不 明	61	107	115	73	67	60	31	13	—	527		
計		100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	—	100.00	
		591	987	928	688	480	294	126	26		4,120	
女	富良野にいる	75.71	44.81	23.75	9.37	5.03	—	—	—	—	31.57	
		399	419	181	53	17					1,069	
	富良野以外に いる	7.40	29.63	29.92	15.72	6.21	6.92	6.25	—	—	19.79	
		39	277	228	89	21	11	5	—	—	670	
	死 別	16.89	25.56	46.33	74.91	88.76	93.08	93.75	100.00	100.00	48.64	
	89	239	353	424	300	148	75	18	1	1,647		
不 明	80	180	144	145	107	88	65	21	1	831		
計		100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	
		607	1,115	906	711	445	247	145	39	2	4,217	

計	富良野にいる	77.96	51.13	30.29	12.45	5.46	0.51	0.57	—	—	34.68
		824	928	477	147	41	2	1	—	—	2,420
	富良野以外に いる	7.28	22.20	24.00	12.28	4.53	4.58	5.72	3.23	—	15.27
死	別	77	403	378	145	34	18	10	1	—	1,066
		14.76	26.67	45.71	75.27	90.01	94.91	93.71	96.77	100.00	50.05
		156	484	720	889	676	373	164	30	1	3,493
不	明	141	287	259	218	174	148	96	34	1	1,358
		100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
	計	1,198	2,102	1,834	1,399	925	541	271	65	2	8,337

3.3 父方の祖父の居住状況

年齢		住居生死										計
		15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～89	90～		
男	富良野にいる	15.90	6.98	3.49	2.78	—	—	—	—	—	6.72	
		59	37	13	6	—	—	—	—	—	115	
	富良野以外に いる	5.39	5.47	5.36	2.78	3.91	10.61	4.17	33.33	—	5.20	
		20	29	20	6	5	7	1	1	—	89	
	死	78.71	87.55	91.15	94.44	96.09	89.39	95.83	66.67	—	88.08	
女	別	292	464	340	204	123	59	23	2	—	1,507	
	不	220	457	555	472	352	228	102	23	—	2,409	
	計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	
		591	987	928	688	480	294	126	26	—	4,120	
	富良野にいる	12.63	5.79	2.81	0.70	3.03	—	—	—	—	6.15	
女		49	27	6	1	2	—	—	—	—	85	
	富良野以外に いる	7.99	9.23	7.27	11.19	4.55	6.90	13.33	—	—	8.46	
		31	43	20	16	3	2	2	—	—	117	
	死	79.38	84.98	90.55	88.11	92.42	93.10	86.67	100.00	—	85.39	
	別	308	396	249	126	61	27	13	1	—	1,181	

不 明	219	649	631	568	379	1,218	130	38	2	2,834
計	100.00 637	100.00 1,115	100.00 906	100.00 711	100.00 445	100.00 247	100.00 145	100.00 39	100.00 2	100.00 4,217
富良野にいる	14.23 108	6.43 64	2.93 19	1.95 7	1.03 2	—	—	—	—	6.46 200
富良野以外に いる	6.72 51	7.23 72	6.17 40	6.13 22	4.12 8	9.47 9	7.69 3	25.00 1	—	6.66 206
死 別	79.05 600	86.34 860	90.90 859	91.92 330	94.85 184	90.53 86	92.31 36	75.00 3	—	86.88 2,688
不 明	439	1,106	1,186	1,040	731	446	232	61	2	5,243
計	100.00 1,198	100.00 2,102	100.00 1,834	100.00 1,399	100.00 925	100.00 541	100.00 271	100.00 65	100.00 2	100.00 8,337

4.1 複雑な相関表 (1)

—— 年齢層×町村×性×学歴×本人の出生地

学歴のコード(縦軸)

0 学歴なし, 1 小学校卒, 2 高小・新中卒, 3 旧中・新高卒, 4 旧高・新大(短大を含む) 卒, 5 旧大卒, 6 その他, 7 不明(中退は一段下げ, 在学中はそのままとする。)

本人の出生地のコード(横軸)

1 富良野町(東山を含む), 2 富良野町以外の北海道, 3 北海道以外, 4 不明

10 代

	町 男			町 女			村 男			村 女			計	男	女	計
	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3				
0	0.9	1		0.4	0.8		0.3	0.3		0.7	2.2		0.3	0.2	0.2	0.2
1					1	0.8	0.3	0.2		2	5		1	1	1	2
2	32.4	45.4	40.0	38.6	36.6	43.4	39.7	39.7	51.5	47.2	29.4	49.7	44.2	55.2	49.7	58.1
3	46	49	14	110	52	49	120	230	123	17	5	145	170	25	326	326
4	64.0	48.1	57.0	57.2	55.6	48.7	52.2	54.7	46.4	50.0	64.7	47.9	52.5	38.9	45.5	53.2
5	89	52	20	2	163	79	154	317	111	18	11	140	49	20	229	229
6	3.6	5.6	3.0	3.9	2.8		1.4	2.6	0.8			0.3	0.2	2.1	0.7	1.4
7	4	6	1	11	4		4	15	1			1	1	12	4	16
8																
9																
計	49.5	38.4	12.1	49.2	37.6	13.2	598	598	81.8	12.5	5.7	78.0	16.3	5.7	591	607
	143	111	35	293	149	114	2	2	243	37	17	1	298	234	49	600

20 代

	町 男			町 女			村 男			村 女			計	男	女	計
	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3				
0	0.3	1		0.2	0.4	0.3	0.7	0.5		0.4	0.3	1.2	0.8	0.3	0.5	0.5
1	7.5	7.0	13.2	8.1	10.2	9.4	10.1	9.2	10.6	15.9	6.9	11.3	16.9	9.7	13.2	11.6
2	16	14	7	38	22	26	59	97	39	14	2	55	81	93	140	233
3	37.9	45.7	41.5	41.7	48.4	50.0	47.3	44.8	61.9	40.9	65.5	58.4	66.4	50.2	55.9	53.2
4	81	91	22	195	104	139	275	470	227	36	19	284	319	479	594	1,073
5	39.3	35.2	35.8	37.0	34.4	33.8	34.9	35.8	20.7	34.1	24.1	23.3	13.3	30.0	25.1	27.4
6	84	70	19	173	74	94	203	376	76	30	7	113	64	286	267	553
7	11.7	9.5	7.5	10.3	1.9	1.1	2.2	5.8	4.9	9.1	3.5	5.6	0.6	7.9	1.5	4.5
8	25	19	4	48	4	3	13	61	18	8	1	27	3	75	16	91
9																
計																

5	3.3 2.6 2.0	2.8 4.7 5.4 3.4	4.8 28	3.9 41	1.4 5	1.0 5	1.9 5 2 2	1.9 4.2 2	1.9 9 5 2 31	1.4 14	1.9 18 33	3.5 37 53	2.7 55 86
6	7 5 1	13 10 15 3											
レ	9 1	10 7 9 2 4	22	32	16 3 2 2	23	15 9 5 2	54					
計	46.8 42.0 11.1 223 200 53	2 478	37.1 48.0 14.9 6 604	1,082	15.8 18.0 6.1 383 91 31	4 509	55.8 33.7 10.5 282 170 53	6 511	1,020	987 1,115	2,102		

30 代

	1	2	3	レ	計	1	2	3	レ	計	1	2	3	レ	計	男	女	計
0	0.5	12.6 13.7 16.1	0.2	0.8 0.8	0.4 2	0.3 3	0.5 1	1.8 1	0.5 2	0.5 1.2	1.3 1.0 2.7	0.9 7	0.3 3	0.8 7	0.6 10			
1	24 35 10	13.5 26.6 25.7 26.5	13.5 69	33 76 13	26.0 122	19.5 191	34.6 25.4 23.6	23.6 13	30.3 118	40.7 51.2 33.3	41.7 331	20.8 187	38.4 335	29.4 522				
2	53.4 50.2 41.9	50.5 41.1 42.0 38.8	50.5 238	51 125 19	41.8 196	46.3 454	57.6 54.3 49.1	49.1 27	55.4 216	32.0 36.4 35.1	34.5 139	44.8 355	52.6 474	45.6 809				
3	102 128 26	28.2 27.8 30.6	20.0 234	28 24 1.3	28.1 132	23.9 234	4.1 15.3 12.7	12.7 7	8.7 34	5.3 10.5 21.4	9.9 40	9.3 74	15.1 136	17.4 308				
4	42 47 13	35 82 15	7.4 24	3 4	1.5 7	4.6 45	1.4 4.2 7.3	7.3 4	3.1 12	0.5 2.7	0.5 1	0.5 1.8	5.5 50	3.3 59				
5	3.7 8.2 14.5	7.4 24 1.3	38 3				3 5 4											
6	4.7 4.7 4.8	4.7 24	4.7 24				0.5 0.8 3.6	3.6 2	1.0 4									
レ	9 12 3	0.8 2.4 4.1	3.7 19	1 7 2	2.1 10	3.0 29	1.4 3	1.8 1	1.0 4	0.7 0.5 4.8	1.0 1 1 2	1.0 4	2.6 23	1.6 14				
計	37.3 50.1 12.6 196 263 66	6 531	26.1 63.7 10.2 128 312 50	3 493	1,024	55.6 30.3 14.1 220 120 56	1 397	36.7 52.1 11.2 151 214 46	2 413	810	928 906	1,834						

40 代

	1	2	3	レ	計	1	2	3	レ	計	1	2	3	レ	計	男	女	計
0	0.6	1.4			0.6	1.8	1.8	9.0		3.0	1.8	1.6	1.6	2.5	1.8	1.2	3.8	2.5
	1	1			2	1	4	5		10	12	2	2	2	6	8	25	33
1	26.5	19.8	16.9		20.7	33.3	37.1	44.6		37.8	29.3	38.4	43.1	40.0	40.4	30.5	52.5	41.5
	22	35	12		69	18	84	25		127	196	48	53	32	133	202	346	548
2	59.0	57.0	60.6		58.1	27.8	35.5	19.8		31.5	44.8	53.6	48.8	47.5	50.2	54.1	26.6	40.4
	49	101	43		1	194	15	80	11	106	300	67	60	38	165	359	175	534
3	13.3	12.4	9.9		12.3	29.6	23.5	25.0		24.7	18.5	5.6	4.9	6.3	5.5	8.9	15.6	12.3
	11	22	7		1	41	16	53	14	83	124	7	6	5	18	59	103	162
4	5.1	4.2			3.6	3.9	0.8	1.8		1.5	2.5	1.6	2.5		1.2	2.4	0.8	1.6
	9	3			12	2	2	1		5	17	2	2		4	16	5	21
5	2.3	5.6			2.4	1.8				0.3	1.3	0.8	1.3		0.6	1.5	0.2	0.8
	4	4			8	1				1	9	1		1	2	10	1	11
6	1.2	2.8	1.4		2.4	1.8	1.3			1.2	1.8				0.3	1.4	0.6	1.0
	1	5	1		1	8	1	3		4	12				1	9	4	13
レ	3	6	2	1	12	5	14	7	2	28	40	3	3	5	2	25	52	77
計	25.1	53.5	21.3		346	16.3	66.3	17.4		364	710	37.8	37.2	25.1	342	688	711	1,399
	86	183	73	4		59	240	63	2			128	126	85	3			

50 代

	1	2	3	レ	計	1	2	3	レ	計	1	2	3	レ	計	男	女	計
0	3.3	4.6			3.3	4.5	6.5	12.7		8.6	5.8	5.6	4.8		4.2	3.8	13.4	8.2
	3	4			7	1	6	9		16	23	4	6		10	17	52	69
1	34.6	36.4	34.5		35.8	54.5	51.1	56.7		53.5	44.0	59.5	55.6	60.9	58.8	47.9	61.9	54.3
	9	36	30	2	77	12	47	40		99	176	25	40	75	140	217	240	457
2	42.3	41.4	39.1		40.5	27.3	22.8	23.0		23.8	32.8	38.1	29.2	28.5	30.3	35.1	16.2	26.4
	11	41	34	1	87	6	21	17		44	131	16	21	35	72	159	63	222
3	7.7	11.1	5.7		8.4	13.7	14.1	4.2		10.3	9.3	2.4	4.1	3.3	3.4	6.0	5.9	5.9
	2	11	5		18	3	13	4		19	37	1	3	4	9	27	23	50
4	7.7	2.2	6.9		4.7					1.1	3.0	2.8	1.6		1.7	3.1	0.5	1.9
	2	2	6		10	1	1	1		2	12	2	2		4	14	2	16

5	3.9 1	1.1 1	6.9 6	3.7 8			2.0 8	1.3 1	0.4 1			0.2 1	2.0 9	1.1 9
6	3.9 1	5.5 5	2.3 2	3.7 8	4.3 4	1.7 1	3.3 13	1.3 1	0.8 2	1.5 1	1.9 2	1.5 3	2.2 10	2.1 8
レ		4	4	1	9	1	11	12	2	26	35	31	27	57
計	11.8 26	46.8 103	41.4 91	4	224	11.0 23	49.3 103	39.7 83	2	211	435	16.6 34	30.8 71	52.6 125
													480	445
														925

60 代

	1	2	3	レ	計	1	2	3	レ	計	1	2	3	レ	計	男	女	計
0	7.9 3	5.6 5			6.3 8	22.2 6	17.0 10			11.2 24	6.7 1	12.0 15			11.3 16	26.7 4	33.3 29	20.0 49
1	26.3 10	51.7 46			43.8 56	44.4 12	66.1 39			59.8 52	53.3 8	68.0 85			66.2 94	60.0 9	60.9 53	64.1 157
2	50.0 19	36.0 32			39.8 51	22.2 6	13.1 8			16.1 14	33.3 5	16.0 20			18.3 26	6.7 1	5.7 5	13.1 32
3	13.2 5	5.6 5			7.8 10	11.1 3	3.8 2			5.7 5	6.7 1	3.2 4			3.5 5	5.6 15	2.6 5	2.0 20
4	100.0 1	2.6 1			2.3 3					1.4 3	0.8 1				0.7 1	1.5 4		0.9 4
5																		
6																		
レ	4	6	3	13		3	16	5	24	37	2	9			11	6	25	44
計	0.7 1	30.4 42	68.8 95	3	141	0.9 1	28.3 30	70.8 75	5	111	11.3 17	88.7 134			15.8 21	84.2 112	3	136
																294	247	541

	1				計	2				計	3				計	4				計	男	女	計	
	1	2	3	レ	計	1	2	3	レ	計	1	2	3	レ	計	1	2	3	レ	計				
0		14.3			12.8		48.9		44.4	29.7		21.2		20.8		50.0	53.5		52.8		33.7	17.0	47.8	31.6
		6			6		23		1	30		11		11		1	18		19		30	17	43	60
1	20.0	47.6			44.7		66.7	40.4	42.6	43.6		61.5		60.4			42.4		38.9		51.7	53.0	41.1	47.4
	1	20			21		4	19	23	44		32		32			14		14		46	53	37	90
2	20.0	28.6			27.7		16.7	6.4	7.4	16.8		13.5		13.1			3.1		5.6		10.1	20.0	6.7	13.7
	1	12			13		1	3	4	17		7		7			1		1		2	20	6	26
3		4.7			4.3		16.7		1.9	3.0		1.9		3.8		50.0			2.8		3.4	4.0	2.2	3.2
	2	2			2		1		1	3		1		2		1			1		3	4	2	6
4	20.0	4.7			6.4					3.0												3.0		1.6
	1	2			3					3												3		3
5																								
6	40.0				4.3		4.3		3.7	4.0		1.9		1.9							1.1	3.0	2.2	2.6
	2				2		2		2	4		1		1						1	3	2		5
レ		8	2	10			2	13	15	25		1	13	2	16	1	36	3	40		56	26	55	81
計	9.1	90.9					11.8	88.2				1.5	98.5			4.2	95.8					126	145	271
	5	50	2	57			8	60	1	69		1	65	3	69	3	69	4	76		145			

[illegible]

——年齡層×町村×性×職業×本人の出生地——

1 俸給生活者・自由公務業, 2 商業的事業主, 3 商業的勞務者, 4 工業的事業主, 5 工業的勞務者・運輸通信勞務者, 6 その他の勞務者, 7 農業従事者, 8 学生, 9 主婦, 0 なし, ^レ 不明

1 富良野町(東山を含む), 2 富良野町以外の北海道, 3 北海道以外, 不明

	町 男				町 女				村 男				村 女				計	男	女	計			
	1	2	3	レ	計	1	2	3	レ	計	1	2	3	レ	計								
1	2.3	6.0	5.9		4.1	8.0	10.5	5.3		8.6	2.6	2.9	5.9		2.9	0.9	15.6	12.5		3.9	3.4	6.2	4.9
	3	6	2		11	11	11	2		24	6	1	1		8	2	7	2		11	19	35	54
2																							
3	3.0	15.0	14.7		9.2	5.1	15.2	13.2		10.0	1.4				1.1	1.8	2.2	6.3		2.1	1.6	5.1	5.6
	4	15	5		1	25	7	5		28	3				3	4	1	1		6	9	28	62
4																							
5	21.8	24.0	20.6		22.5	13.9	19.0	15.1		16.1	8.8	14.3	17.6		10.0	2.7	4.4	12.5		3.5	6.8	16.2	12.9
	29	24	7		1	61	19	20	6	45	20	5	3		28	6	2	2		10	38	89	144
6	0.8	1.0			0.7					0.4			5.9		0.4	0.4	6.3		0.4	0.4	0.4	0.5	0.4
	1	1			2					2			1		1		1			2	1	3	4
7						1.4				0.7	0.4	35.5	20.0		31.4	56.1	20.0	25.0		48.6	40.0	16.0	20.4
						2				2	81	7			88	124	9	4		137	225	88	227
8	68.4	52.0	52.9		60.1	56.2	42.9	55.3		51.1	55.5	47.8	57.1	58.9	49.6	27.6	40.0	25.0		29.4	39.5	54.8	47.4
	91	52	18		2	163	77	45	21	143	109	20	10		139	61	18	4		83	222	302	528
9																2.2				0.4	0.2	0.2	0.1
																	1			1	1	1	1
0	3.7	2.0	5.9		3.3	15.4	12.4	11.1		13.6	3.9	5.7	11.8		4.6	10.9	15.6	12.5		11.7	8.2	4.0	8.4
	5	2	2		9	21	13	4		38	9	2	2		13	24	7	2		33	46	22	93
レ	10	11	1		22	12	9	2	2	25	15	2			18	13	4	1		20	38	40	85

計	49.5 38.4 12.1 143 111 35	49.2 37.6 13.2 149 114 40	598	81.8 12.5 5.8 243 37 17	1	298	78.0 16.3 5.7 234 49 17	2	302	600	591 607	1,198
---	------------------------------	------------------------------	-----	----------------------------	---	-----	----------------------------	---	-----	-----	---------	-------

20 代

	1	2	3	レ	計	1	2	3	レ	計	1	2	3	レ	計	男	女	計
1	28.5	33.6	34.7		31.3	13.9	7.6	11.1		10.4	15.1	3.7	4.8	14.3	5.1	22.9	7.9	14.9
2	59	64	17		140	29	21	9		59	73	10	8	7	25	213	84	297
3	1.0	1.6			1.1	0.9	0.7			0.7	2.7	2.2			1.2	0.5	0.5	0.9
4	2	3			5	2	2			4	13	6			6	5	4	9
5	17.4	8.9	16.3		13.8	3.8	4.7	2.5		4.0	2.7	2.2			1.2	8.1	2.7	5.3
6	36	17	8	1	62	8	13	2		23	13	6			6	75	29	104
7	0.4				0.2					0.1	0.2				0.1	0.2		0.1
8					1					1	14.3	0.4	1.2	2.0	0.8	29.7	5.7	16.9
9	44.0	50.0	40.8		46.2	13.9	7.6	8.6		10.0	69	1	2	1	4	276	61	337
0	91	95	20	1	207	29	21	7	1	57	2.5	1.2			4	2.4	0.4	1.3
レ	1.9	1.6	6.1		2.2	0.4	1.2			0.4	2.5	1.2			0.4	2.2	4	2.6
	4	3	3		10	1	1			2	59.1	72.4	53.0	53.1	63.7	30.8	30.0	30.3
	0.5				0.2	0.9	0.4	2.5		0.9	285	197	89	26	2	286	319	605
	1				1	2	1	2		5	3.1	1.5	2.0		314	3.2	1.3	2.2
	3.9	3.3	2.1		3.3	1.4	0.7	4.9		1.6	15	4			5	30	14	44
	8	6	1		15	3	2	4		9	13.6	32.1	24.5		21.1	40.2		21.5
						46.9	65.9	51.9		56.7	37	54	12	1	104	428		428
						98	182	42	2	324	2.9	6.2	7.7	4.0	6.7	23	11.4	7.1
	2.9	0.5			1.6	18.2	12.0	17.3		15.4	14	17	13	2	1	21	121	142
	6	1			7	38	33	14	3	88	27	10	2	4	2	57	51	108
	16	10	4		30	13	11	8	1	33					18			
計	46.8	42.0	11.1		37.1	48.0	14.9			604	55.8	33.7	10.5		511	987	1,115	2,102
	223	200	53	2	478	222	287	89	6	1,082	509	282	170	53	6			

30 代

	1	2	3	レ	計	1	2	3	レ	計	1	2	3	レ	計	男	女	計					
1	26.3	39.5	44.6	1	35.3	4.9	2.3	2.0		19.8	8.6	22.4	18.1		14.0	0.7	2.8	6.7	2.5	8.1	26.1	2.7	14.6
	50	102	29		182	6	7	1		196	18	26	10		54	1	6	3	10	64	236	24	260
2	25.3	10.9	7.7		15.7	9.8	7.7	6.0		12.0	1.9	1.7	3.6		2.1	0.7	0.9	2.2	1.0	1.5	9.9	4.8	7.3
	48	28	5		81	12	23	3		119	4	2	2		8	1	2	1	4	12	89	42	131
3	1.1	3.5	6.2		2.9	0.8	1.3	2.0		2.1			1.8		0.3					0.1	1.8	0.7	1.2
	2	9	4		15	1	4	1		21			1		1					1	16	6	22
4	5.3	5.0	6.2		5.2					2.8					0.3					0.1	3.1	0.1	1.6
	10	13	4		27					28			0.9		1					1	28	1	29
5	33.7	37.2	30.8		35.3	4.9	3.7	2.0		20.2	8.8	23.8	23.6		15.5	1.3	0.5	4.4	1.2	8.2	26.8	2.6	14.9
	64	96	20	2	182	6	11	1		200	19	28	13		60	2	1	2	5	65	242	23	265
6	4.2	1.9	3.1		2.9	0.8	1.7	2.0		1.5	2.2	1.9	2.6	5.5	2.6	0.7	1.9		1.2	1.9	2.8	1.4	2.1
	8	5	2		15	1	5	1		7	22	4	3	3	10	1	4		5	15	25	12	37
7	0.5	0.4			0.4	0.8	0.3	2.0		0.6	78.7	47.4	45.5		64.6	67.8	59.2	44.4	60.4	62.5	27.9	28.3	28.1
	1	1			2	1	1	1		3	170	55	25		250	101	125	20	246	496	252	249	501
8																							
9						68.9	74.3	81.6		35.2						21.5	30.8	37.8	28.0	14.4		52.5	25.9
						84	223	40	1	348						32	65	17	114	114		462	462
0	3.7	1.6	1.5		2.3	9.0	8.3	2.0		8.0	0.4	0.9	1.8		0.8	7.4	3.8	4.4	5.7	3.3	1.7	6.9	4.3
	7	4	1		12	11	25	1	1	38	1	1	1		3	11	8	2	23	26	15	61	76
レ	6	5	1	3	15	6	12	1	1	20	4	4	1	1	10	2	3	1	6	16	25	26	51
計	37.3	50.1	12.6	6	531	26.1	63.7	10.2	3	493	55.6	30.3	14.1	1	397	36.7	52.1	11.2	2	810	928	906	1,834
	196	263	66			128	312	50			220	120	56			151	214	46	2	413			

40 代

	1					2					3					レ					計	1					2					3					レ					計	男	女	計
1	18.3	33.5	40.8			31.6	5.4	2.5	1.7		16.9	2.9				3.1	15.0	14.8	1	10.6	2.4	1.7							1.5	6.0	21.2	2.2	11.6												
	15	60	29	2		106	3	6	1		116	10				4	18	12		35	2	3							5	40	141	15	156												
2	30.5	24.0	29.6			26.6	14.3	18.5	5.0		20.9	15.5				2.4	4.2	1.2		2.7	2.9	1.3							1.8	2.3	14.7	8.8	11.7												
	25	43	21			89	8	43	3		143	54				3	5	1		9	5	1							6	15	93	60	153												

3	3.6 3	0.6 1	1.4 7.0	1.5 5	3.6 2	1.7 4	1.6 11	1.7 6	0.6 2				0.3 2	1.1 7	0.9 6	1.0 13
4	13.4 11	6.7 12	7.0 5	8.7 29	0.4 1	0.4 1	4.4 30	0.3 1	0.9 3				10.5 3	4.8 32	0.1 1	2.4 33
5	26.8 22	27.3 49	18.3 13	25.1 84	5.4 3	1.7 4	13.5 92	2.3 8	8.5 28	4.8 0.6	1.5 5		4.9 33	16.8 112	1.9 13	9.3 125
6	3.6 3	4.5 8	2.8 2	3.9 13	2.2 5	1.7 5	2.6 18	1.4 5	2.1 7	1.2 1	1.3 2		1.7 11	3.0 20	1.3 9	2.1 29
7	2.4 2	1.1 2		1.2 4	3.6 2	2.2 5	1.6 11	2.0 7	73.6 243	88.2 70	62.5 124	69.2 54	74.3 492	37.1 247	37.4 256	37.3 503
8																
9																
0	1.3 1	2.2 4		1.5 5	10.7 6	6.0 14	4.4 30	7.2 25	0.9 3	7.1 1	17.0 26.9	26.9 21	17.0 57	42.4 290	21.5 290	21.5
レ	4	4	2	1	11	3	8	3	1	12	3	8	1	23	27	50
計	25.1 86	53.5 183	21.3 73	4 346	16.3 59	66.3 240	17.4 63	2 364	3 342	25.2 87	51.9 179	22.6 79	2 347	688	711	1,399

50 代

	レ				計	レ				計	レ				計	レ				計	男	女	計
	1	2	3	レ	計	1	2	3	レ	計	1	2	3	レ	計	1	2	3	レ	計			
1	28.0	27.1	31.4		28.9	1.0	2.6	1.5	15.5	4.8	6.8	3.9		5.3	0.8	0.4	3.0	16.2	0.9	8.8			
2	40.0	26.0	22.1	1	61	1	2	3	64	2	5	5	1	13	1	1	14	74	4	78			
	10	25	19		55	6	14	6	81	2	3			2.0	0.8	0.4	1.3	13.1	6.3	9.8			
3	4.0	1.0	1.1	1	1.4	2.0		1.0	1.2		0.8			0.4	1.4	0.4	0.6	60	27	87			
	1	1	1		3	2		2	5		1			1	1	1	2	4	0.7	0.8			
4	4.0	6.3	5.8		5.7				2.9	2.7	0.8			1.2			0.6	3.3		1.7			
	1	6	5		12				12	2	1			3			3	15		15			
5	12.0	24.0	18.6		20.9	8.7	2.0	7.6	14.9	6.8	4.7			4.5			2.3	12.0	2.3	7.4			
	3	23	16	2	44	2	2	6	10	5	6			11			11	55	10	65			
6		9.4	7.0		7.1		1.3		0.5	2.4	1.4	5.4		3.6	3.4	1.8	2.8	5.2	1.2	3.3			
		9	6		15		1		1	1	7			9	4	4	1.3	24	5	29			

7	4.0	2.1	4.7	3.3	1.0	3.7	2.0	78.9	69.7	71.4	72.3	71.9	44.1	38.7	41.5
8	1	2	4	7	1	3	4	2	195	23	50	86	202	165	367
9															
0	8.0	4.2	9.3	6.6	6.1	12.8	8.4	4.0	24.2	24.3	19.3	21.4	43.9	21.2	
∨	1	7	5	13	4	5	9	9	8	17	23	48	187	187	
計	11.8	46.8	41.4	224	11.0	49.3	39.7	3	14.8	30.9	54.3	4	480	445	925

60 代

	1	2	3	∨	計	1	2	3	∨	計	1	2	3	∨	計	男	女	計
1	100.0	24.3	10.7	15.3	4.5	1.2	1	20	2.1	2.4	2.1	3	7.2	1.2	1.2	8.2	0.5	5.1
2	1	9	9	19	1	1	19.5	7.7	1.6	3	3	1	1	1	3	22	1	23
3	13.5	25.0	21.8	21.8	18.2	15.3	40	1	2	1	2	3	1	1	2	11.2	8.1	10.0
4	5	21	1	27	4	9	13	1.6	1.6	1.4	1.4	2	1	1	0.8	30	15	45
5	1.2	1	1	0.8	1.2	1	1	2	2	2	2	2	1	1	2	1.1	1.1	0.7
6	8.1	10.7	10.5	10.5	6.3	13	13	0.8	0.8	0.7	0.7	1	1	1	0.4	4.9	2.9	2.9
7	3	9	1	13	1.6	1	4.9	15.3	0.8	1	1	1	1.2	0.4	0.4	13	0.5	13
8	5.5	8.3	7.3	7.3	1	1	10	2	1	0.7	0.7	1	1	1	1	3.7	0.5	2.4
9	2	7	9	9	1	1	3.4	15.3	0.8	2.1	2.1	3	1	1	1	10	1	11
0	5.5	6.0	5.6	5.6	4.5	5.1	7	2	1	3	3	1	1	1	1	3.7	0.5	2.4
∨	5.5	7.1	6.5	6.5	1	3	4.9	61.5	82.2	79.7	79.7	79.7	85.7	75.0	76.0	45.7	44.9	45.4
計	2	6	8	8	1	3	4	8	105	1	114	1	12	66	79	122	83	205
1					4.5	3.4	3.7			1.5							1.6	0.7
2					1	2	3			3							3	3
3					68.2	74.6	72.8			48.3							21.3	43.8
4					15	44	59			99						57	81	138

レ	5	11	1	17	1	8	16	5	30	47	4	6	10	7	24	1	32	42	27	62	89		
計	0.7 1	30.4 42	68.8 95	3	141	0.9 1	28.3 30	70.8 75	5	111	252	11.3 17	88.7 134	2	153	15.8 21	84.2 112	3	136	289	294	247	541

70 代

	1	2	3	レ	計	1	2	3	レ	計	1	2	3	レ	計	1	2	3	レ	計	男	女	計
1	20.0 1	7.1 3	8.3 4		3.9 4																3.6 4	0.9 1	2.2 5
2	20.0 1	16.7 7	18.8 9		5.6 3	16.7 1	4.3 2														8.1 9	2.7 3	5.4 12
3		4.8 2	4.2 2		1.9 1	2.1 1															1.8 2	0.9 1	1.3 3
4		4.8 2	4.2 2		2.0 2																2.7 3		1.3 3
5		7.1 3	6.3 3		2.9 3																2.7 3		1.3 3
6																					0.9 1		0.4 1
7	4.8 2		4.2 2		1.9 1	2.1 1															42.3 47	31.0 35	36.6 82
8																							
9																							
0	60.0 3	54.8 23	54.2 26		1.9 1	83.3 5	89.4 42														37.8 42	63.7 72	50.9 114
レ		8	1	9		2	13	15	24												15	32	47
計	9.1 5	90.9 50	2	57		11.8 8	88.2 60	1	69	126											126	145	271

80 代

	1	2	3	レ	計	1	2	3	レ	計	1	2	3	レ	計	男	女	計
1											5.6					4.3		2.0
2		25.0			20					7.1	6.2					1		1
3			1		1					1	1					4.3		2.0
4																1		1
5																		
6																		
7		25.0			20					7.1	100	62.5		63.2	64.9	56.5	42.9	49.0
8			1		1					1	2	10		12	24	13	12	25
9																		
0		100.0	50.0		60					85.7	31.3			36.8	32.4	34.8	57.1	47.1
			1	2	3					12	5			7	12	8	16	24
レ										5	3			6	9	3	11	14
計	20	80			5					19	9.5	90.5		100	25	26	39	65
	1	4								14	2	19		13	46			

90 代

	1	2	3	レ	計	1	2	3	レ	計	1	2	3	レ	計	男	女	計
1																		
2																		

[illegible]

付表 3 各地のアクセント対照表

次の表は、各調査語についての多数反応形を示したものである。示しかたは、()のついているのは、被調査者の $\frac{1}{2}$ 以上 $\frac{3}{4}$ 未満のものがその反応をあらわしたことを示し、()のないのは、 $\frac{3}{4}$ 以上のものの反応形であることを示す。富良野の年齢・世代の欄は、"でその左と同じであることを示す。

なお、本文のアクセント表記と付表3のそれとの関係は次の通り。

○¹○○○=●○○○

○○¹○○=○●○○○, ●●○○○

○○○¹○=○○●○○, ●●●○○

	北 調		Ⅱ		北 富 調 良 野			北		調		Ⅳ
	札	幌	帯	広	釧	路	全	10代 2世	10代 3世	30代 2世	30代 3世	
301 三角が	(¹ ○○○○)	(¹ ○○○○)	(¹ ○○○○)	(¹ ○○○○)	(¹ ○○○○)	(¹ ○○○○)	(¹ ○○○○)	(¹ ○○○○)	(¹ ○○○○)	(¹ ○○○○)	(¹ ○○○○)	(○○○○○)
小使が	(¹ ○○○)	(¹ ○○○)	(¹ ○○○)	(¹ ○○○)	(¹ ○○○)	(¹ ○○○)	(¹ ○○○○)	(¹ ○○○○)	(¹ ○○○○)	(¹ ○○○○)	(¹ ○○○○)	(○○○○○)
あいさ つが	(¹ ○○○○)	(¹ ○○○○)	(¹ ○○○○)	(¹ ○○○○)	(¹ ○○○○)	(¹ ○○○○)	(¹ ○○○○)	(¹ ○○○○)	(¹ ○○○○)	(¹ ○○○○)	(¹ ○○○○)	(○○○○○)
貧乏が	(○○ ¹ ○)	(○○ ¹ ○)	(○○ ¹ ○)	(○○ ¹ ○)	(○○ ¹ ○)	(○○ ¹ ○)	(○○ ¹ ○)	(○○ ¹ ○)	(○○ ¹ ○)	(○○ ¹ ○)	(○○ ¹ ○)	(○○○○○)
すずら んが	——	——	——	——	——	——	(¹ ○○○○)	(¹ ○○○○)	(¹ ○○○○)	(¹ ○○○○)	(¹ ○○○○)	(○○○○○)
302 手袋が	(¹ ○○○)	(¹ ○○○)	(¹ ○○○)	(¹ ○○○)	(¹ ○○○)	(¹ ○○○)	(¹ ○○○○)	(¹ ○○○○)	(¹ ○○○○)	(¹ ○○○○)	(¹ ○○○○)	(○○○○○)
建物が	(○○ ¹ ○)	(○○ ¹ ○)	(○○ ¹ ○)	(○○ ¹ ○)	(○○ ¹ ○)	(○○ ¹ ○)	(○○○○)	(○○○○)	(○○○○)	(○○○○)	(○○○○)	(○○○○○)

[illegible]

311 桜 が	○○	○○	○○	○○○	○○○	○○○	〃	〃	〃	○○○	○○○	○○○	○○○
形 が	○○	○○	○○	○○○	○○○	○○○	〃	〃	〃	○○○	○○○	○○○	○○○
隣 が	○○	○○	○○	○○○	○○○	○○○	〃	〃	〃	○○○	○○○	○○○	○○○
昔 が	○○	○○	○○	○○○	○○○	○○○	〃	〃	〃	○○○	○○○	○○○	○○○
312 二つが	○○	(○○)	○○	(○○○)	(○○○)	(○○○)	〃	(○○○)	(○○○)	(○○○)	(○○○)	(○○○)	(○○○)
二人が	○○	(○○)	○○	(○○○)	(○○○)	(○○○)		(○○○)	(○○○)	(○○○)	(○○○)	(○○○)	(○○○)
毛拔が	○○	(○○)	○○	(○○○)	(○○○)	(○○○)		(○○○)	(○○○)	(○○○)	(○○○)	(○○○)	(○○○)
つるべ が	(○○)	(○○)	○○	(○○○)	(○○○)	(○○○)		(○○○)	(○○○)	(○○○)	(○○○)	(○○○)	(○○○)
313 頭 が	○○	○○	○○	○○○	○○○	○○○	〃	(○○○)	(○○○)	(○○○)	(○○○)	(○○○)	(○○○)
男 が	○○	○○	○○	○○○	○○○	○○○	〃	〃	〃	(○○○)	(○○○)	(○○○)	(○○○)
刀 が	○○	○○	○○	○○○	○○○	○○○		(○○○)	(○○○)	(○○○)	(○○○)	(○○○)	(○○○)
言葉が	(○○)	(○○)	○○	(○○○)	(○○○)	(○○○)	(○○○)			(○○○)	(○○○)	(○○○)	(○○○)
314 朝日が	○○	○○	○○	○○○	○○○	○○○	〃	〃	〃	○○○	○○○	○○○	○○○
心 が	(○○)	○○	○○	○○○	○○○	○○○	〃	(○○○)	(○○○)	○○○	○○○	○○○	○○○
姿 が	○○	○○	○○	○○○	○○○	○○○	〃	(○○○)	(○○○)	○○○	○○○	○○○	○○○
涙 が	(○○)	(○○)	(○○)	(○○○)	(○○○)	(○○○)	〃	〃	〃	(○○○)	(○○○)	(○○○)	(○○○)
315 兎 が	(○○)	(○○)	○○	(○○○)	(○○○)	(○○○)	(○○○)	〃	〃	(○○○)	(○○○)	(○○○)	(○○○)
鳥 が	○○	(○○)	○○	(○○○)	(○○○)	(○○○)	〃	(○○○)	(○○○)	(○○○)	(○○○)	(○○○)	(○○○)
鰻 が	(○○)	○○	(○○)	(○○○)	(○○○)	(○○○)	(○○○)	〃	(○○○)	○○○	○○○	○○○	○○○
背中が	○○	(○○)	○○	(○○○)	(○○○)	(○○○)	〃	〃	〃	○○○	○○○	○○○	○○○

池	〇〇	〇〇	(〇〇)	〇〇	〇〇	〇〇
年	〇〇	〇〇	(〇〇)	〇〇	〇〇	(〇〇)
靴	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	(〇〇)
中	〇〇	〇〇	(〇〇)	〇〇	〇〇	(〇〇)
種	〇〇	〇〇	(〇〇)	〇〇	〇〇	(〇〇)
海	〇〇	〇〇	(〇〇)	〇〇	〇〇	(〇〇)
興	〇〇	〇〇	(〇〇)	〇〇	〇〇	(〇〇)
帶	〇〇	〇〇	(〇〇)	〇〇	〇〇	(〇〇)
下	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
蔭	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
蛇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
猿	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
秋	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
春	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
戸	(〇〇)	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
壁	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
柄	(〇〇)	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
鎌	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
血	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇

付表4 地 域 差

1. 語 彙

	松 前	江 差	函 館	森 金	今 金	長 万 部	寿 都	岩 内	余 市	伊 達	室 蘭	小 樽	豊 平	江 別	栗 山	三 笠	歌 志 内	赤 平	滝 川		
101 gosyoimo	4	2	0	0	4	3	3	0	6	8	2	2	8	0	6	6	0	6	2	10	2
102 kaibetu	2	6	2	3	2	4	2	2	2	8	0	0	6	0	2	3	4	3	0	4	0
103 tookibi系	4	1	2	2	4	7	10	2	10	8	10	10	10	10	10	10	6	9	10	6	10
tookimi系	10	10	8	10	10	4	3	8	2	2							4		4		
to(o)-のない者	8	10	6	10	8		3	10	2												
106 akiazi	4	9			8	10	5	8	6	10	8	2	10	6	6	10	10	6	8	10	4
sake系	6	9	8	10	8	7	10	8	4	10	5	8	6	6	10	10	8	7	4	4	6
107 寒いsibareru	10	9	6	10	10	10	8	10	10		8	4	7	10	10	10	10	10	8	10	8
109 氷るsibareru	4	3		3	4	6	9	6	4	6	5		6	6	6	8	4	4	4	8	4
110 氷るsibareru	8	3	6	10	8	10	8	8	8	6	5	10	10	6	8	10	6	8	6	10	6
110-109	4	0	6	7	4	4	-1	2	4	0	0	10	4	0	2	2	2	4	2	2	2
111 siga系	6	7			4	1	5	8													
koori					2		2		4	2	2	2				2	1		4		
112 ameyuki, amayuki	10	9	2	8	8	6	5	4	2	6			4		2	2	2		2		
113 mabai系						1			2										1	1	
matukoi系	10	4				1															
114 hyakkoi	4	4		2				2		2							4	2	10	4	
hyakkoi,syakko	10	4	10	8	10	10	10	10	10	10	10	8	10	8	10	10	8	7	4	10	4
115 hameru	4	1	2	2				2	2	2		6	2		2	2					
116 sutohu系	6	-1	2	5		1	4		2			4						6	2		
117 derekki, derikki(1)	4	1	4	8	4	4	7	6	6	4	5	10	6	10	6	7	8	3	4	2	10
dereki, deriki(2)	4	1	2	2	4	4		2	4	4	5		4		2	4	2	7	4	8	
(1)+(2)	8	2	6	10	8	9	7	8	10	8	10	10	10	10	8	10	10	10	8	10	10
デレッキを使わ ない	10	8	6	6	2	6	レ	レ	2		レ	レ			2	レ	レ	レ	レ		
118 entoo	4	6		10	8	8	5	4	4	10	4	8	8	2	8	10		8	2	8	2
ento	2						4						2				4				
119 aku	10	10	6	10	8	10	10	10	4	10	8	2	10		10	5	6	4	8	10	2
122 aza	8	8	4		8		7	4	2	4					2			6	2		
124 akuto系	2	1		2	2		2	2													
聞いたことのある 者	4		2	3		2	2	2		4	7								2		
125 kuro-系	4	3	2		6	2	2	4	4	8		4	4	2			4		4		
kurubusi		3	4	6			3	2			3	4	4	6	4		6	6	6		8
126 karai系				2			2				2				4					2	
127 umai系	2	6		2	2		5			4		2					8	1		2	
128 sukai系		1		2		2				4	2	4							2		
129 yodare系	6	6						2		2											
bero系	2	2	10	3	4		2				2										
132 kamu	4	8		2	4	10	7	8	4	6	8	6	2		2	2		2	2	8	
133 ameru使う	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	7	8	8	10	4	5	8	9	8	10	4
知らない										2	2				2					2	
136 ogaru使う	10	10	10	8	10	9	8	10	10	10	10	6	8	10	6	5	8	9	10	6	0
137 nemaru	4	1				1	2	2		2					2			2			
hizao-	4	4		2	10		3	4					2	2						2	
hizamazuku	2								2												

一覽表

(本文 6. 北海道内部の地域差 参照)

[illegible]

	松 前	江 差	函 館	森 金	今 部	長 万 都	寿 都	岩 内	余 市	伊 達	室 蘭	小 樽	豊 平	江 別	栗 山	三 笠	歌 志 内	赤 平	滝 川
140 siasatte系			2			3		2	4			4	4	6	10	4	3	4	8
yanaasatte系	10	10	8	10	10	8	10	8	6	10	10	8	6	6		4	7	10	6
yana-	8	9	8	2	2	7	3		2		8		4				2	2	4
yano-	2	1		8	6	3	5	10	6	6	2	10	8	2	4		4	4	2
yane-					2											4	1	4	2
141 siasatte系	2	2	4	7		4		2	6	2		2		2			1		2
yanaasatte系			2					2			5	2	4	4	8				4
yana-											5		2						2
yano-			2					2				2	2	4	2				2
yane-,yani-																3			
tanaku使う	8	8	10	8	10	7	5	8	10	10	2	4		2					2
tagaku使う					2				2	8	2	6	4		4	8	4	6	4
tanagu使う		2	2				2						2					2	
144 カテル	6	6	10	5	10	7	10	8	8	8	10	8	4	8	10	8	10	6	10
カゼル	2			5								2	6				5		6
カデル		4		3		1		2		2									
147 ヤバチ系	8	9	10	7	10	7	8	6	10	10	4	6	10	10	2	7	10	7	6
ヤバシ系				2			4				2				2				2

地名で、松前・三笠・旭川は、2行とっており、右のほうは2回目の調査の結果で
地点の被調査者が10人と換算したときの数字で示してある。

2. 文 法

	松 前	江 差	函 館	森 金	今 部	長 万 都	寿 都	岩 内	余 市	伊 達	室 蘭	小 樽	豊 平	江 別	栗 山	三 笠	歌 志 内	赤 平	滝 川
201 カカン					1				2			2	4	2		4			
202 kakasara-	8	8	8	10	10	8	8	8	8	8	10	2	10	4	8	8	10	7	6
kakere-		4		2	4		2		4	2			4				7	2	8
203 書くに イイ, エエ	8	6	8	3	2	1	8	8	2	4		2					8	1	2
エエ	4	2	8	2			8	8	2										
kakasaru	8	9		8	4	6	2	4		8	5		6	4	2	5	2	7	2
kakereru	3		3		2		2		2			4			2			6	2
204 kakereru	4		10	10	6	7	2		6		4	8	4	4	4	2	6	5	8
204-203	1		7	10	4	7			4		4	4	4	4	2	2	6	-1	6
205 kakube	8	7	6	7	4	3	8	6	8	6	7	6	6	4	4	3	6	5	2
206 イイ/エエ	3	0.3	0	5	4	0.3	0	1.5	0.7	4	7	×	4	×	4	2	0	9	0.7
207 dara	8	9	2	10		9	7	10		10	5	2	4	6	6	2	10	4	6
503(A) dara	4	1	2	2	2	3	5	4	4	6	5	5	4	2	10		8	4	6
208 okire-	10	10	8	10	10	10	8	10	10	10	8	6	10	8	10	10	10	9	8
505 nagere-	4	8	10	7	10	3	7	4	4	10	7	4	10	6	10	7	6	7	6
209 okire	10	10	10	7	10	6	8	10	10	10	10	6	8	8	8	7	8	7	8
501 okire	2	8	6	5	4	1	7	8	6	6	8	4	6	10	10	5	8	7	8
209 okiro					2						2		2						2
okinasai+okina				3		4	2					2	2	2	2	5		4	2
210 ikube	8	8	2	7	4	4	7	6	8	6	7	4	6	0	6	2	6	5	4
212 sure	2	4	4	2		3	7	4	4	6	3	2	4	4	8	3		8	8
504 sure		1		2	2	4	3	4	6		5	8	6	6	4	2	6	5	8
212 sire	4	7		8	10	4	3	6	6	4	7		2	4	6	3	4	2	4
504 sire	2	4	2	2	4	2	5	4	2	6	5		2	4	4		2	4	2
212 ~re	6	10	4	10	10	8	10	10	10	10	6	2	6	10	10	7	4	10	8

深旭 川川	士名 別寄	増毛 莨	留	羽稚	紋	遠	北	斜	中 標	根	厚	本	清	広	浦	静	苦 小	弘	青	能	八	大	盛
幌内	別	輕	見	里	津	室	岸	別	水	尾	河	内	牧	前	森	代	戸	曲	岡				
10	4	4	4	4	4								5	6	2	10	6						
6	6	6	6	10	6								5	2	8		4	10	10	10	10	10	10
6	3		2	2									2	2		2		10	10	10	8	10	8
		6		10	2								6			2	10			2		2	
			4		2								2			2							
4	2	2	4	2	2								2	2		2	8	4					
2													2	2		6	4						
4	2	2			2											2							
			2										2	2	4	2							
				5									6	2		6	2	2	2	4		8	
	2		2	6	4								7	6			4						
6	6	4	6	10	10	8							4	2		4	10	10	6	8	10	2	
		2	4										5	4	6		4		2	8	4	10	4
													2	2									
6	2	1	6	4	2	6							5	10	10	8	10	4	10	10	10	4	10
2																							

ある。点線より右は東北地方の調査地点である。縦の左欄に書いた項目について、その

深旭 川川	士名 別寄	増毛 莨	留	羽稚	紋	遠	北	斜	中 標	根	厚	本	清	広	浦	静	苦 小	弘	青	能	八	大	盛
幌内	別	輕	見	里	津	室	岸	別	水	尾	河	内	牧	前	森	代	戸	曲	岡				
	2	3											4	4	4								
6	4	10	6	10	7	8							5	2	8	6	4	10	4	8	2		10
	2	1		2									2			2				2			
2	6	3	4	2	5								2		2			2	2	2	4		4
2					3								2		2								2
2	6				2	8							2		6	8	2	10	10	8			
					2								2		6		4						
	10	2			2	4							4	8	6	6	2						2
	10	2			4								4	6		6	-2						2
4	4	2	6	4	7	8							8	10	10	6	8	10	6	10	8	10	10
6	×	11	×	4	2.5	4							×	0.3	0.3	0	4	0.7	0.3	1.5	0.3	4	1
	2	7	4		7	6							2		10	10	6	7	8	6	4	10	2
4	4	4	4		3	6							2	2		6	4	6	2	4	2	4	4
8	10	10	10	6	10	10							10	8	10	8	4	6	10	8	8	6	10
4	8	8	6	6	3	6							10	8	6	10	6	6	2	10	6	4	8
6	8	8	8	10	8	6							6	10	6	8	8	10	6	8	4	10	2
8	10	8	8	8	7	8							8	2	6	10	8	4	10	6	4	2	6
6			4										2		2	2	2	2	2	6	10	6	8
	2	2	2		2	4							4	2	4	2	2	2	4				
2	4	4	4	4	7	4							6	6	4	4	7	8	4	10	4	6	2
4	2	2	2	6	4								4	6		2	2	6	8	4	8		2
4	4	2	2	4		2							3		4	8	6	8			2		
4	8	5	4	6	2	2							4	6	7	6		2	2				2
	2	7	2	6	2	2							2	2	4	3	6	2			2		2
6	10	7	6	10	2	6							8	8	6	8	8	6	8	6	8	6	10

	松 前	江 差	函 館	森 金	今 部	長 万	寿 都	岩 内	余 市	伊 達	室 蘭	小 樽	豊 平	江 別	栗 山	三 笠	歌 志	赤 内	滝 平	川	
504 ~re	2	6	2	3	6	7	8	8	8	6	10	8	8	10	8	2	8	9	10	8	6
213 koiba, koeba	10	10	6	2	2	9	5	8	8	10	7	4	6	8	8	7	10	9	4	6	6
502 koiba, koeba	6	1				2	2				2		2		4		2	4	2		
215 taberaseyoo	8	3	6	5	2	3	7	2		4	5		2		4		2	4			
tabesaseyoo	4	1	2	3	6	3	3	6	6	2	2	4	8		6	5	8	5	8	6	4
taberasoo			2		2	1			2	2	2		4		2		3		2	2	2
tabesasoo			1	2		4	3		2	4		6	6		3	2	3	2	2	2	2
217 -be	6	9	6	7	4	6	7	8	6	6	7	0	6	8	6	5	6	6	2	6	0
218 スケ		2	6	<u>5</u>			<u>2</u>	4	<u>2</u>		3										
ハンデ	8	9		<u>2</u>																	
219 サムイドモ	8	9	2	2	2		2	6		2			<u>2</u>								
				<u>4</u>	<u>4</u>		<u>2</u>														
220 サ使う	8	9	4	8	8	4	5	8	6	2	2		6					2	4	8	
	<u>1</u>	<u>2</u>		<u>2</u>		<u>3</u>				<u>5</u>	<u>4</u>				<u>2</u>	<u>2</u>	<u>1</u>	<u>2</u>	<u>2</u>		
212 see	2			2		2	2	2		2		4	2		6	2	1				2

3. 音 声

	松 前	江 差	函 館	森 金	今 部	長 万 都	寿 内	岩 市	余 達	伊 蘭	室 樽	小 平	豊	江 別	栗 山	三 笠	歌 志	赤 内	滝 平	川
401 /i/と/e/との区別	0.7	0.4	0.4	0.5	0.9	1	10.9	1	1	1	1	1	1	0.7	1	1	1	10.9	1	
402 /si/と/su/との区別	0.5	0.2	0.5	0.9		10.8	0.5	0.5	0.8	0.7	0.5	1	1	0.7	0.7	0.5	0.9	0.5	0.6	1
403 /ci/と/cu/との区別	0.6	0.2	0.5	0.8		10.8	0.5	0.4	0.9	0.7	0.5	1	10.9		10.7	0.5	0.8	0.5	0.6	1
404 /zi/と/zu/との区別	0.7	0.2	0.5	1		10.8	0.5	0.5	10.8	0.5	1		1	0.8	10.5	0.8	0.5	0.9	1	
405 語中の/k/と/g/との区別	1	10.9	0.6	1	1	10.9	1	1	1	1	10.6	1		1	1	10.8	1	1	1	1
406 語中の/t/と/d/との区別	10.9	10.9	0.6	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0.8	1	1	1	1	1	1
407 母音の無声化	1	1	1	10.9	0	1	10.8	0	10.8	0	10.8	10.7		1	00.7	10.8	0.8	0.8		
408 語中の/g/と/ŋ/との区別	0.8	0.7	10.9	10.2	1	10.8	0	10.8	0.9	0.7				0.1	00.4	0.6	0.4	0	0	
409 /hi/と/si/との区別	0.8	0.3	0.2	0.7	0.8	0.9	0.5	0.6	0.6	0.6	10.9	0.8	1	1	1	10.9	0.7	0.9	1	
410 /sju/と/si/との区別	0.7	0.9	0.4	10.8	0.9	0.5	0.5	0.6	0.8	0.9	0.9	0.9	0.9	0.7	0.8	0.5	0.9	0.5	0.9	1
400合計	7.8	5.8	6.4	8.1	9.0	7.4	7.5	7.3	8.5	6.6	8.4	9.4	9.2	7.2	7.8	7.2	7.1	8.7	6.9	8.8

4. アクセント

	松 前	江 差	函 館	森 金	今 部	長 万	寿 都	岩 内	余 市	伊 達	室 蘭	小 樽	豊 平	江 別	栗 山	三 笠	歌 志	赤 内	滝 平	川
301 イ ずらんが	6	9	8	2	6		7	7	10			7	2	6	2	2	6	8	7	6
〇〇〇〇〇〇																				
301 ロ 貧乏が							5								6	10	1			
〇〇〇〇〇〇																				
302 ロ 建物が	4		2			2	2	1	5					2	8	6	1	3	4	
〇〇〇〇〇〇	2	7	8	8		3	3	10	8			10	2	2		2	5	2	4	
〇〇〇〇〇〇		4		10	7	5			9	5		8	8		2	2		5	6	2
〇〇〇〇〇〇				2	1	2		2	2						8	6	1	4		
351 ロ 建物が	6	4	8	8		2	8	8	8	2		10	8			2	2	2	2	9
〇〇〇〇〇〇																				

深旭 川川	士名 別寄	増留 毛蒨	羽稚紋遠北斜 幌内別輕見里	中根厚本清 標津室岸別	廣浦靜 水尾河内牧	弘青能八大盛 前森代戸曲岡
4 6 9 4 10 2 4 8 8 8 10 4 7 4 2 3 2 3 4			8 8 2 8 8 8 4 2 4 7 6 6 8 8 8 6 4 8 10 4 10 10 2 10 10 8 8 6 10 4 2 6 6 4 4 4 2 8 6 2			4 2 10 10 2 2
4 5 2 4 7 4 2 6 1 2 8 6 5 6 2 2 6 2 3 6 4 10 4 [2]			6 2 2 6 2 4 6 2 2 4 4 8 6 6 4 8 2 4 6 2 6 2 4 6 4 4 4 8 6 6 4 8 4 2 6 4 6 2 2 2 4 4 4 8 10 8 10 4 6 8 4 6 4 8 6 6 4 8 8 10 8 10 4 6			2 2 4 4 6 8 4 4 2 4 4 0 4 6
2 3 8 [2]			2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 [2] [6] 2			10 10 2 2 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10
6 [2] 4 2 7 [4]			2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 [2] [6] 2			8 6 8 6 2 8

深旭 川川	士名 別寄	増留 毛蒨	羽稚紋遠北斜 幌内別輕見里	中根厚本清 標津室岸別	廣浦靜 水尾河内牧	弘青能八大盛 前森代戸曲岡
1 1 1 1 1 10.8 1 1 1 1 10.5 0.7 1 1 1 1 10.5 0.9 1 1 1 1 10.5 1 1 1 1 1 1 1 1 1 10.9 1 1 10.9 10.9 1 1 10.9 1 0 0 0.2 0 0 10.9 1 1 10.9 10.5 1 0.6 10.7 0.9 0.9 0.5 0.9 8.6 8.9 8.8 8.8 9.7 4 9.1			10.6 1 1 10.8 0.8 0.5 10.9 1 1 10.9 1 10.7 1 1 1 10.8 1 1 1 10.5 1 1 1 1 1 10.9 1 1 1 1 10.5 1 1 1 1 1 10.9 10.9 1 1 1 1 10.7 1 1 1 1 1 10.9 10.8 1 10.6 10.8 1 1 1 1 1 1 1 1 10.8 1 1 10.8 0.8 1 1 0.8 10.8 0.8 0.8 10.9 0.9 10.7 1 1 1 0 1 10.6 0.5 0.2 0.7 0.7 0.9 1 10.9 0.7 0.8 1 0 1 0.9 0.8 0.8 0.9 0.9 0.4 0.6 0.4 0.8 10.9 0.9 0.9 0.9 0.9 0.7 0.7 0.8 0.6 0.7 0.9 0.8 0.9 0.9 10.8 0.7 0.7 0.8 1 9.4 8.4 8.9 8.5 9.1 8.5 9.0 7.8 9.7 9.5 9.0 9.2 9.2 6.3 9.9			0.3 0.4 0.1 0.6 0.2 0.7 0.7 0.7 0.6 0.8 0.2 0.5 0.5 0.7 0.8 0.9 0.6 0.5 0.7 0.9 0.5 10.6 0.5 0.8 0.8 10.9 0.7 1 10.6 0.8 0.4 0 0.7 10.8 0.6 0.9 1 1 1 1 1 10.8 1 10.9 0.9 10.8 0.9 0.8 0.9 10.8 0.7 0.5 7.8 7.7 7.3 8.3 5.6 7.3

深旭 川川	士名 別寄	増留 毛蒨	羽稚紋遠北斜 幌内別輕見里	中根厚本清 標津室岸別	廣浦靜 水尾河内牧	弘青能八大盛 前森代戸曲岡
2 9 3 2 8 8 2 4 3 4 4 2 8 2 4 2 5 2 6 6 3 2 10 2 6 2 8 2 2 1 1 2 2 4			4 4 2 2 4 2 2 2 8 3 2 6 2 2 6 4 2 4 8 8 3 10 2 2 2 4 2 2 3 2 4 2 8 6 4 4 4 2 3 4 4 4 1 4 2 2 2 10 8 4 2 2 2 2 2			2 2 2 4 10 10 4 8 6 10 2 2 10 10 10

	松 前	江 差	函 館	森 金	今 部	長 万	寿 都	岩 内	余 市	伊 達	室 蘭	小 樽	豊 平	江 別	栗 山	三 笠	歌 志	赤 内	滝 平	川
302ニ生け花が	○○○○○	2 6		8 6			6 8	2 10						2 2 2 1 4 8						
302ホ九つが	○○○○○	4	10 5 2		10 8 6			6						8 10 2 7 2 10 4					2	
303イ小刀が	○○○○○	2 10	2 8 10		2 2 10 7 6 4 9									4 10 8 3 2		10 10 6		2 6 4 1		
303ロ化物が	○○○○○	4 10	8 3 2		10 10 6		2 6 4 1							8 10 8 6 2 8						
303ハ唐傘が	○○○○○	2	2 5 2 3		4 2 3 3 4									2						
351ハ唐傘が	○○○○○	2	4 3 2 3		4 2		4 2 3													2
304ハ耳掻きが	○○○○○	6 2 10	7 2 3 7 10 6 6		8 6 4									2						
304ホ妹が	○○○○○	10 3 4 2		1 3 6		6	4 4 2							2						
305ハ福引きが	○○○○○	6 3 2 2		2 5 4			5 4 2										2			3
311ホあくびが	○○○○○	4 4 10	2 4		6 4 3 4 2									2		2 9 2 2 3				
312イ二つが	○○○○○	8 10 10 10	6 10 3 10 8 6		10 10 5									4 7 2 10				8 4		
312ニつるべが	○○○○○	4 6 8 10	2 4 2 2 6 4				4							2		2				
313イ頭が	○○○○○	2 1		2			5 1 2 3							2		4		2 2 7		
313ハ刀が	○○○○○		1	2		3		2						2 2 6 4		5				
313ニ言葉が	○○○○○	10 6 10 8 2	2 10 10 10	2 5 10 4 3										1		6 4 4		10		
314ロ心が	○○○○○	8 8 10 7 4	6 10 10 6 6 3 6 10 8											2 4 6 2 4 2 9						
314ニ涙が	○○○○○	2 1	2 2 2		2 4 5		2							6 8 4 10 2 8 1						
315イ兎が	○○○○○	6 2 10 7 2	1 10 10 6 4 2 4 6 2											4		6 2 4				
315ハ鰻が	○○○○○	4 1		4		5 10 4 5								3				2 3		
315ホねずみが	○○○○○	2 2		4 1		7 3 4 1													1	
316イ後ろが	○○○○○	6 6 4 5 2	4 10 10 2 6 3 3 2											2 5 10 5 10 6 2						
321ロ鼻と	○○○	2 4 2	6		7 6 5 5									4 5			2 2 7			
316ロ苺が	○○○○○	7		8		10 2								4 3 6 9 2 5						
321ロ鼻と	○○○	8	10 10 10		10 10 10		10 8 10							6			5 10			
316ロ苺が	○○○○○	4		9		4 10 2 1								4 3 6 9			10			
321ロ鼻と	○○○	8	10 10 8		10 10 6		9 9 10							6		1 8		10		
316ロ苺が	○○○○○	8	8 10 10		10 10 10		2 5 8 8							4		4 5 9		10		
321ロ鼻と	○○○						2 2 8 10 2							2			2			

深旭 川川	士名增留 別寄毛萌	羽稚紋遠北斜 幌内別輕見里	中標 津室	根厚本清 岸別水	広浦静 尾河内	苦小 牧	弘青能八大盛 前森代戸曲岡
6 9 1 2 5	10 2 4 2	2 6 4 8 4	2 10 10				
2 2 2 3	4 2 2	4 6 8 2 2	2 2				6 8 8
8 8 5 4 10 2	10 6 4 8 8 6	5 6 8 6 10	2 10 4 10 2				
2 6 8 4	4 2	2 8 8 7 2	2 4				10 8 8
8 1 10 4 10 2 4	6 4 10 8 10 6	2 10 8 10 8 10 6	2				2
2 1 4 2	1 2 4 4	2 6 2 2	4				4 8
2 1 8 4 2	4 8 6	2 2 8 8 3 4 2 4 4	6 10 6				
2 2 3	4 4	2 2 2 2	2				10
1 3	1 4	2	10				10
1 8 8 2 6	4 4 4	10 10 2 4 3 10 6 8 2 6	2 8 8				
2 8 9 6 8	4 2 8 5	10 10 10 10 8 10 6 8 6 8	2 10 10 6				
3 4 4	4 4 4	4 8 10 10 5 2	10 10 8				
4 2 2 6 3	4	2 6 4 2	4 4 8 2				6 2 10
2 3 5 2 8	2 4 4 2	5 6 6 8	2				
2 4 2 2 2	4 3 2 2	2 2 2	2 8 10				
4 10 4 8 8	10 8 2 4 6 8 2 10 10	2 6 6 4 8 6	2 8 6 6 8 6				
6 2 6 2 2	1 2 2 2 4 2	2 4 8 8	2				
4 1 6 2	2 2 6 2	4 2 2 6 4	4				
2 6 4 10 10	5 8 4 4 2 8 8	6 6 4 4 10	6 10 10 8 8 4				
6 4 4 10	5 2 8 8 2 4 8 2 2 8 2 4 4		2 2 8				
4 3 2	1 2 2 4 2 6	2 2 4 6 4					
4 7 1 2	2 4 4	3 2 4 4 2					
10 2 8 4	8 6 2 2 4 10 9 4 2 2 2 2	2 4 10 4	2 4 10 4				
5 2 10 4	7 6 6 1 6 10 10 3	4 2 2	2 8 2 10 6				
10 6 10 8 4	2 6 4 10 6 8	10 2 6 8 6 10	2 2 2				
4 10 6	5 4 4 2 2 2 10 8	4 2	8 8				
4 2 7 6	2 4 4 4 6 6	8 8 2 6 2	10 4 4 10 2				
10 2 7 6 4	1 2 5 4 10 6 2	8 8 8 10 2 4	8 4 2 10 4				
4 2 2 4 10 2	8 3 2 2 6 6 1	4 8	4 8 10				
6 6 8 6 4	8 6 6 8 10 2 1	5 4 8 8 3	10 6 4 10 4				
6 5 10 2	4 6 4 2	1 2 6 2 8 6 2	4				
10 10 8	4 8 4 4 2 6 10 9	2 6 8	6 10 6				
8 3 6 2	2 4 5 4 1	2 2 8 2 4 7	2 4				
10 1 10 8	8 4 3 3 8 10 8	8 2 10	8 10 8				
8 2 2 10 8	1 8 4 4 4 6 10 6 2 4 6	10	2 8 10 4 10 8				
2 3 2 4	4 1 2 4 4 4 4	4 2 4 2 4 2 2	4				

		松 前	江 差	函 館	森 金	今 万	長 部	寿 都	岩 市	余 達	伊 蘭	室 樽	小 平	豊	江 別	栗 山	三 笠	歌 志	赤 内	滝 平	川
321ホ花と	〇〇〇	10	8	10	8	4	10	10	8	4	10	7	4	5		6	3	10	10	10	10
322口飴と	〇〇〇	2	7		2	6	1	2			6	10	4	2		6		2	6	7	
322ホ雨と	〇〇〇	10	10	10	5	6	7	10	10	8	8	8	4	7		4	6	6	10	10	10
322へ露	〇〇				5		3				2	2				2	2	2	1		
324口紙と	〇〇〇		1					2		2	2	7	5	7		4	2	2	1	2	8
324ホ髪と	〇〇〇	6	8	8	8	4	6	10	10	6	8	3	4	8		8	3	8	7	10	8
326へ窓	〇〇					1				2	2	5	1	1		2	4		1		
353ホ窓	〇〇		2		2	1				2		5		2		4	2				2
331ハ柿	〇〇	2	4		2					2	5	5	2	2		2		1		2	
331ニ鈴	〇〇		7	1		4	2				4	5	7	10		4	5	8	10	7	10
333ハ年	〇〇					4					2	8		2	2	3	6				
334ハ種	〇〇					2				2	2	7				2	5				
353ニ種	〇〇		1							2	2	5				2	2			1	
335ハ蔭	〇〇									2	2	5		2		6	3	2			
341ハ柄と	〇〇	2	10		3		4		6	2	5	10	10	5	10	2	7	10	6	10	4
341ホ血と	〇〇		8		2		3	2	4		2	8	3	6	8	2	7	2	5	2	2
354イ血と	〇〇		3		2	4	1			2		7	10	3		7		5			8
342ハ名と	〇〇	6	9		5	4	10	5		2	8	10	8	1	10	4	8	2	6	8	6
342ホ葉と	〇〇	6	9	2	8	4	8	3		2	8	10	10	6	10	8	10	2	6	4	9
354ハ葉と	〇〇		7		2	4	4		2	2	4	8	10	2	10	6	10		7	3	10

深旭 川川	士名增留 別寄毛萌	羽稚紋遠北斜 幌内別輕見里	中 標	根厚本 津室岸別	清広浦 水尾河	静 内	苦 小牧	弘青能八大盛 前森代戸曲岡
4	8 6 6 8 8	3 7 8 6 6 6 6 2 8	6 6 2 8	6 6 2 4 7 4	2 2 8	10 10		
2	4 2 8	4 10 4 6 6 6		5 8 8 6 4 8	2 4 6			
2	7 4 4 8 10	2 8 8 6 8 8 6 6 5	2 8 8 6 8	2 8 8 6 8	2 2 8	10 10		
8	7 6 6	4 6 8	8 4 3	10 4 2 2 2 4	2 6			
2 2 4 2 2 2		4 5 4	4	7 2 4 2 8	2			
7 3 2 2 10 8		3 6 6 4 4 2 8 4 5	7 4 6	4 2	2 4 8	8 10		
8	2 6 8	2	6 8 6	7 4 2 6 3	4	2 6 10		
6	1 7 4	2 4 6 8 6 4		6 6 2 4 2 4	2	8 10		
4	2 3 4	2 6 4 2 6		4 2 2 4 3 4	4			
4 10 8 4 10 4 4		7 4 6 8 4 6 6 10 4	8 8 8 6 6 6	2 2	4 2			
6 1	5 4	8 9 6 6	5 6 4 10 3 2	2				
2 2 2 6 2		2 6 4 4 2	3 6 4 2		2 10			
4 3 2 8 8		6 2 4 2	6 6 2		4 10			
6 2 2 8 4		2 4 4 4 4 2	8 8 4 6 2		10 4 10 10			
6 10 9 6 10 4		10 2 10 10 6 9 5 5 3 10 4 10 10 4 4		6 6				
6 3 1	6	6	2 6 8 2 4 2	3 4 10 10 6 4	6			
3	2	2	2 4 2	2 2 6 8 10 2				
10 10 8 8 10 3		10 2 8 9 10 8 6 5 8 5 4 8 10 10 6		2 2 2				
10 10 9 8 10 6 2		10 2 6 8 10 10 10 3 6 10 8 10 8 10 8		2 4 8				
4 10 9 8 8 5		8 2 8 8 8 8 6 2 4 8 8 10 10 2 8		2 2 8				

昭和40年3月 ©

国立国語研究所

東京都北区稲付西山町
電話東京(900)3111(代表)

UDC 408.7=956

NDC 818

国立国語研究所刊行書

国立国語研究所年報

1～15 (昭和24年度～昭和38年度)

国立国語研究所報告

- 1 八丈島の言語調査
- 2 言語生活の実態 (秀英出版刊)
 - 白河市および付近の農村における—
 ¥300.00
- 3 現代語の助詞・助動詞
 - 用法と実例—
- 4 婦人雑誌の用語
 - 現代語の語彙調査—
- 5 地域社会の言語生活 (秀英出版刊)
 - 鶴岡における実態調査—
 ¥600.00
- 6 少年と新聞
 - 小学生・中学生の新聞への接近と理解—
- 7 入門期の言語能力
- 8 談話語の実態
- 9 読みの実験的研究
 - 音読にあらわれた読みあやまりの分析—
- 10 低学年の読み書き能力
- 11 敬語と敬語意識
- 12 総合雑誌の用語 (前編)
 - 現代語の語彙調査—
- 13 総合雑誌の用語 (後編)
 - 現代語の語彙調査—
- 14 中学年の読み書き能力
- 15 明治初期の新聞の用語
- 16 日本方言の記述的研究 (明治書院刊)
 -
 ¥900.00
- 17 高学年の読み書き能力
- 18 話しことばの文型(1)
 - 対話資料による研究—
- 19 総合雑誌の用字
- 20 同音語の研究
- 21 現代雑誌九十種の用語用字
 - 総記および語彙表—
- 22 現代雑誌九十種の用語用字
 - 漢字表—
- 23 話しことばの文型(2)
- 24 横組みの字形に関する研究
- 25 現代雑誌九十種の用語用字
 - 分析—
- 26 小学生の言語能力の発達 (明治図書刊)
 -
 ¥2,100.00
- 27 共通語化の過程
- 28 類義語の研究

国立国語研究所資料集

- 1 国語関係刊行書目 (昭和17年~24年)
- 2 語彙調査
—現代新聞用語の一例—
- 3 送り仮名法資料集
- 4 明治以降国語関係刊行書目 (秀英出版刊
¥300.00)
- 5 沖縄語辞典 (大蔵省印刷局刊
¥2,500.00)
- 6 分類語彙表 (秀英出版刊
¥900.00)

国立国語研究所論集

- 1 ことばの研究
- 国語年鑑

- (昭和29年版) (秀英出版刊
¥450.00)
- (昭和30年版) (秀英出版刊
¥600.00)
- (昭和31年版) (秀英出版刊
¥450.00)
- (昭和32年版) (秀英出版刊
¥480.00)
- (昭和33年版) (秀英出版刊
¥480.00)
- (昭和34年版) (秀英出版刊
¥500.00)
- (昭和35年版) (秀英出版刊
¥550.00)
- (昭和36年版) (秀英出版刊
¥800.00)
- (昭和37年版) (秀英出版刊
¥950.00)
- (昭和38年版) (秀英出版刊
¥950.00)
- (昭和39年版) (秀英出版刊
¥980.00)

-
- 高校生と新聞 国立国語研究所 共著 (秀英出版刊
¥280.00)
- 青年とマスコミュニケーション 日本新聞協会 共著 (金沢書店刊
¥280.00)
- 国立国語研究所

TOWARDS THE UNIFORMIZATION OF

STANDARD LANGUAGE USE

A SURVEY OF THREE GENERATIONS IN HOKKAIDÔ

CONTENTS

Foreword

1. Outline of the Survey
2. The Changes between First and Third Generation
3. The Birth of a Common Hokkaidô Language
4. Disparity between Age-groups and Generations
5. Characteristics of Mass Immigration Settlements
6. Hokkaidô's Dialectal Distribution
7. Personal Differences between the Investigators

Tables:

1. First, Second and Third Generation Vocabulary
2. Social Survey of Hurano Town
3. Tone Patterns in the Dialects of Hokkaidô
4. Sources of Dialectal Distribution

THE NATIONAL LANGUAGE RESEARCH INSTITUTE
INATUKE-NISIYAMA, KITA, TOKYO

1965